

## (1) 維管束植物

維管束植物では県内で絶滅のおそれのある 908 の候補種について、環境省の定義を踏まえながら埼玉県独自のいくつかの基準で総合的に評価し、かつそれらを点数化し定量的でより客観的なランク付けが行われた。

その結果得られたのが表1である。絶滅と野生絶滅を合わせると 52 種に増加した。各カテゴリーは見直しのためかなりの変動が見られたが、本書掲載種は 2005 年版とほぼ同数の 764 種となっている。これは埼玉県在来の自生種数の 33.2% となり、依然 3 種に 1 種が絶滅の危険にさらされていることになる。

表1 維管束植物掲載種数

EX・EW・CR・EN・VU・NT・DD・LP 合計種数	シダ植物	種子植物				合計
		裸子植物	被子植物			
			離弁花類	合弁花類	単子葉類	
2005 版合計種数 (参考)	106	10	230	213	210	769
2011 版合計種数 (A)	113	7	215	200	229	764
在来自生種数 (B)	269	26	879	536	590	2,300
在来自生種数に対する 2011 合計数の割合 (A/B*100)	42.0%	26.9%	24.5%	37.3%	38.8%	33.2%

各植物分類群別での絶滅危惧種数の割合では、シダ植物が他の植物群に比べてかなり高い。これはシダ植物が何億年も前に陸上に進出し、適応分散して今日に至っているが、水と縁が切れないので、より乾燥に強い種子植物に比べると絶滅の危険が高いのはやむを得ないと思われる。

絶滅あるいは野生絶滅は埼玉レッドデータブック 1998 年版に 23 種が挙げられている。2005 年版では 3 種が追加されたが、この間の調査で 5 種の生育が確認され 21 種となった。今回の評価見直しにより、新たに 31 種が追加され次の 52 種が今回絶滅あるいは野生絶滅とされた。

### ○絶滅あるいは野生絶滅とされた 52 種

ヤチスギラン (ヒカゲノカズラ科)、ヤツガタケシノブ (ホウライシダ科)、イナデンダ (オシダ科)、アオガネシダ (チャセンシダ科)、オオアカウキクサ (アカウキクサ科)、ナガバノウナギツカミ (タデ科)、キクザキイチリンソウ (キンポウゲ科)、ヒツジグサ、ジュンサイ (以上スイレン科)、ムジナモ (モウセンゴケ科)、ハナハタザオ (アブラナ科)、モメンヅル (マメ科)、マツバニンジン (アマ科)、コガンピ (ジンチョウゲ科)、タチモ (アリノトウグサ科)、スギナモ (スギナモ科)、ミシマサイコ (セリ科)、イヌセンブリ、ムラサキセンブリ (以上リンドウ科)、ムラサキ、ルリソウ (以上ムラサキ科)、ツルカコソウ、ミズネコノオ、ミズトラノオ (以上シソ科)、マルバノサワトウガラシ (ゴマノハグサ科)、ノタヌキモ、ミミカキグサ、コタヌキモ、ホザキノミミカキグサ、ムラサキミミカキグサ (以上タヌキモ科)、アズマギク、ミズギク、クサノオウバノギク (以上キク科)、マルバオモダカ (オモダカ科)、スプタ、ヤナギスプタ (以上トチカガミ科)、スズラン、ヒメアマナ (以上ユリ科)、ヒンジモ (ウキクサ科)、ヤチカワズスゲ (カヤツリグサ科)、クロイヌノヒゲ、コシガヤホシクサ (ホシクサ科)、サルメンエビネ、アツモリソウ、カキラン、テガタチドリ、スズムシソウ、サカネラン、ヨウラクラン、オオバナオオヤマサギソウ、ヤマトキソウ、イイヌママカゴ (以上ラン科)

### ○この 10 年間に再発見された種

オクタマシダ (チャセンシダ科)、ミヤコイヌワラビ (イワデンダ科)、クリハラン (ウラボシ科)、バイカモ (キンポウゲ科)、ミヤマシャジン (キキョウ科)、コアツモリソウ、コ克蘭 (以上ラン科) など

表1で示した絶滅危惧種を生育地別に分類したのが表2である。

表2 生育地別分類（重複あり）

生育地 カテゴリー	草原	湿地	海岸	河原	農耕地	森林	路傍	水中	着生	岩礫地	合計
2011EX	15	16	1	5		15		11		3	66
2011EW	2							1			3
2011CR	14	41	1	1		25		3	1	49	135
2011EN	30	50	2	4	2	80		6	4	38	216
2011VU	19	29	2	8	1	68	1	6		34	168
2011NT	6	31			4	100	6	9	1	17	174
2011DD	4	7				20		4		2	37
<b>2011版合計(A)</b>	<b>90</b>	<b>174</b>	<b>6</b>	<b>18</b>	<b>7</b>	<b>308</b>	<b>7</b>	<b>40</b>	<b>6</b>	<b>143</b>	<b>799</b>
参考2005版合計	186	139	6	40	16	342	31	42	22	105	929
<b>在来自生種数(B)</b>	<b>615</b>	<b>354</b>	<b>47</b>	<b>151</b>	<b>151</b>	<b>1,153</b>	<b>325</b>	<b>52</b>	<b>38</b>	<b>206</b>	<b>3,092</b>
在来自生種数に対する2011合計数の割合(A/B*100)	14.6%	49.2%	12.8%	11.9%	4.6%	26.7%	2.2%	76.9%	15.8%	69.4%	

絶滅（EX）と野生絶滅（EW）を見ると低地（湿地や水中）のものが4割強と多い。この中には十数年報告のなかった種が含まれているので、今後さらに綿密な調査がなされると新たに見つかる種があるかも知れない。

表2に示した生育地別の絶滅危惧種数の最も多いところは森林で、次いで湿地、岩礫地の順になっている。しかし在来の自生種数に対する割合では、水中生活している絶滅危惧種が8割に近く、岩礫地のものでも7割近くが危険な状態にある。また湿生植物もその半数が絶滅の危険にさらされている。

池沼では水質の汚染も考えられるが、湿地での植物群落の減少、まして元々水の少ない岩礫地で絶滅危惧種が多いということは、やはり地球温暖化に伴う地表の乾燥化が考えられる。ただ2005版と比較して2011版の合計値に大きな差が出たところは、評価基準の見直しの影響だとと思われる。

次の表3は県内を9地域に区分し、各地域で見られた絶滅危惧種数を上段に示している。下段には内数として、その地域にのみ見られる種数を示す。

表3 地帯別分類（重複あり）

	亜高山	山地	低山西	低山東	丘陵北	丘陵南	荒川西 台地	大台	宮地	加須・ 中川低地	合計
EX・EW・CR・EN・ VU・NT・DD・LP 合計種数	185	244	178	142	71	146	86	99	121		1,272
上記地帯別特有 種数 (内数)	(82)	(41)	(12)	(9)	(9)	(24)	(4)	(7)	(28)		(216)

維管束植物  
蕨類  
藻類  
地衣類  
菌類

各地域で報告された絶滅危惧 I A 類 (CR) を挙げると次のようである。

① 亜高山帯 (標高 1600m 以上の山地)

ヒメハナワラビ、ハイマツ、ホソバトリカブト、サンリンソウ、ヤツガタケナズナ、ヘラハタザオ、ウメウツギ、ハクロバイ、イワオウギ、ゲンナイフウロ、カイフウロ、チョウセンナニワズ、ウラジロウコギ、ガンコウラン、チチブリンドウ、イボタヒョウタンボク、ミヤマシャジン、トダイハハコ、タカネヒゴタイ、コウリンカ、タカネコウリンカ、ミヤマラッキョウ、ホテイラン、フガクスズムシソウ、ヒメムヨウラン、ニョホウチドリ、ウチョウラン

② 山地帯 (標高 800m ~ 1600m の山地)

ヒメハナワラビ、イワウラジロ、タチヒメワラビ、キレハオオクボシダ、ビランジ、オオヤマレンゲ、ホソバトリカブト、ミスミソウ、モミジカラマツ、ベニバナヤマシャクヤク、ウメウツギ、ブコウマメザクラ、ハクロバイ、イワオウギ、シナノタイゲキ、チョウセンナニワズ、ウラジロヒカゲツツジ、チチブリンドウ、サワリソウ、ムシトリスミレ、イワツクバネウツギ、アカイシコウゾリナ、コウシュウヒゴタイ、タカオヒゴタイ、キバナコウリンカ、ミヤマスカシユリ、ムギラン、キンセイラン、ユウシュンラン、コアツモリソウ、ハコネラン、ウチョウラン

③ 低山帯西部 (標高 200m ~ 800m、東は上武山地の稜線まで)

マツバラン、イワウラジロ、ミョウギシダ、ベニバナヤマシャクヤク、ウメウツギ、シナノタイゲキ、ヤマアイ、ヒナノキンチャク、チョウセンナニワズ、チチブリンドウ、フナバラソウ、ムシトリスミレ、ハヤザキヒョウタンボク、コウシュウヒゴタイ、アキノハハコグサ、キバナコウリンカ、ムギラン、ユウシュンラン、ムカデラン、ウチョウラン

④ 低山帯東部 (標高 200m ~ 800m、東は外秩父山地のほぼ稜線)

オオキジノオ、ホソバカナワラビ、ナチクジャク、クリハラン、アオネカズラ、ホソバトリカブト、ベニバナヤマシャクヤク、ウメウツギ、ツルギキョウ、ムギラン、ユウシュンラン、クマガイソウ

⑤ 丘陵帯北部 (標高 50m ~ 200m、都幾川以北で主に上武山地の東)

オキナグサ、タヌキマメ

⑥ 丘陵帯南部 (標高 50m ~ 200m、都幾川以南で主に外秩父山地の東)

オオキジノオ、ホソバカナワラビ、ナチクジャク、クリハラン、モウセンゴケ、ミスミソウ、ミズユキノシタ、ツルギキョウ、サワギキョウ、トンボソウ、シュスラン

⑦ 荒川西台地 (標高 50m 以下で荒川以西の台地)

マツバラン、ヘラシダ、デンジソウ、タマノカンアオイ、エキサイゼリ、トダスゲ、ヌマアゼスゲ、ハタケテンツキ

⑧ 大宮台地

ヒキノカサ、オニバス、エキサイゼリ、サワトラノオ、サクラソウ、ヒメナエ、サワトウガラシ、ミズアオイ、トダスゲ、ジョウロウスゲ、コツブヌマハリイ、ハタケテンツキ、クマガイソウ

⑨ 加須・中川低地

トネハナヤスリ、デンジソウ、イトハコベ、オニバス、アゼオトギリ、タチスミレ、クサレダマ、ヒメナエ、ガガバタ、タヌキモ、カキツバタ、マイヅルテンナンショウ、ヌマアゼスゲ、コツブヌマハリイ、タタラカンガレイ、トキシウ

なお、この数年間に次の植物が埼玉県新知見種として報告されている。

ホソバノアマクサシダ、マツザカシダ（以上イノモトソウ科）、ミヤマノコギリシダ（イワデンダ科）、エンシュウベニシダ、ナガバノイタチシダ（以上オシダ科）、ミズキンバイ（アカバナ科）、オオヤマレンゲ（モクレン科）、タチゲヒカゲミズ、ホソバイラクサ（以上イラクサ科）、タチスミレ（スミレ科）、カイジンドウ（シソ科）、イトトリゲモ（イバラモ科）、ハタケテンツキ（カヤツリグサ科）、ベニシユスラン（ラン科）

4年余りに及ぶレッドデータブック見直しの調査により、膨大な資料が得られた。それらを通して気づくことは、埼玉の自然環境が徐々に変わりつつあるということである。

秩父山地ではシカなどの動物による食害が顕著になってきた。前白岩ではウメウツギやタカネイバラが、雁峠や和名倉山ではテバコワラビが危険な状態になっている。股の沢のチチブシラスゲは2007年頃から消えた。その頃から三国尾根のヤマナシウマノミツバはほとんどの花茎が食われ開花個体が見られなくなり、近くのアツモリソウも絶滅した。中津川林道や小鹿野町のオオビランジの自生地も危険になり、両神山の白井差からの登山道わき林床は、ハシリドコロやバイケイソウなどの毒草しか残っていない状態である。

外来植物は一部秩父盆地にも侵入しているが、八王子構造線の東の平野部ではいたるところで群落を形成し、県の東南部では在来種を圧倒している路傍や遊休地がある。越生町の黒山や坂戸市の多和目、寄居町の釜伏や秩父山地など貴重な在来種が数多く自生しているところへの侵入は防がねばならない。

丘陵地帯では大型の土地開発により景観が変わったところが多々ある。寄居町の三ヶ山ではモウセンゴケ、ミミカキグサ、ムラサキミミカキグサ、ホザキノミミカキグサ、カキランなどの自生地が消えた。近くは排水路の改修でオオニガナも絶滅した。多くの谷津や丘陵に囲まれた湿地では植物群落が衰退あるいは消滅寸前にあるという報告が多い。

荒川西台地では富士見市内の湧水池や川越市の小仙波沼でも周囲の開発により湿性植物が危険になっている。朝霞市下内間木のサクラソウ群落は消えて久しい。

東部の低地では、加須市志多見のアカマツ群落は、植被率が55%まで下がりながらも辛うじて維持されている。加須市のトキソウやオニバス、羽生市のムジナモ、久喜市（旧鷲宮町）のデンジソウのように保護下にあるものは現状維持かあるいは増加傾向にある。しかし、加須市（旧北川辺町）の渡良瀬川河川敷にみられるノウルシ・ノカラマツ群落は危険な状態となり、久喜市青毛のタヌキモ群落は消滅した。また、中川や江戸川の河川敷の湿生植物群落の多くは衰退の傾向にある。

冒頭で挙げたように、今回の調査では確認されずに絶滅とされた種や消滅寸前の植物群落が多い。これは生物多様性すなわち自然界のバランスが崩れる前兆であろうか。野生植物の「種の消滅」は、野生動物の減少につながっている。直接人間の生活とは無関係のように見えるが、野生生物の研究から人類に有効な新薬が開発された例は多々ある。埼玉県の変化はその可能性を摘んでしまうように思える。

#### 【参考文献】

- NPO 法人埼玉県絶滅危惧植物種調査団（さいたま植物資料研究会会報）さいたま植物通信合本（第一巻および第二巻）
- NPO 法人埼玉県絶滅危惧植物種調査団（2009）平成20年度埼玉県レッドデータブック植物編再改訂調査報告書
- NPO 法人埼玉県絶滅危惧植物種調査団（2010）平成21年度埼玉県レッドデータブック植物編再改訂調査報告書
- NPO 法人埼玉県絶滅危惧植物種調査団（2011）平成22年度埼玉県レッドデータブック植物編再改訂調査業務報告書－調査－
- NPO 法人埼玉県絶滅危惧植物種調査団（2011）平成22年度埼玉県レッドデータブック植物編再改訂版編集業務報告書－編集－

- NPO 法人埼玉県絶滅危惧植物種調査団 (2011) 平成 22 年度指定希少野生動植物種選定調査 (植物) 報告書.
- 荒川下流誌編纂委員会 (2005) 荒川下流の植物相. 荒川下流誌 本編. 276-279. (財) リバーフロント整備センター
- 荒川の自然を守る会 (NPO 法人) (2006) 昔の荒川・三ツ又を語る会. NPO 法人荒川の自然を守る会
- 五十嵐勇治・岩田豊太郎 (2005) 東京大学秩父演習林の植物相. 演習林. 44: 73-120
- 磯田洋二 (2005) 特別天然記念物田島ヶ原サクラソウ自生地の植物相について. 荒川調節池工事に伴う特別天然記念物田島ヶ原サクラソウ自生地影響調査概報 (平成 16 年度): 37-46. 国土交通省関東地方整備局荒川上流河川事務所
- 磯田洋二 (2006) さいたま市域に分布する野生植物. さいたま市博物館紀要 No.51-14
- 磯田洋二 (2006) 特別天然記念物田島ヶ原サクラソウ自生地の植物相について. 荒川調節池工事に伴う特別天然記念物田島ヶ原サクラソウ自生地影響調査概報 (平成 17 年度): 39-42. 埼玉県生態系保護協会
- 磯田洋二 (2007) 特別天然記念物田島ヶ原サクラソウ自生地の植物相について. 荒川調節池工事に伴う特別天然記念物田島ヶ原サクラソウ自生地影響調査概報 (平成 18 年度): 39-48. 埼玉県生態系保護協会
- 磯田洋二 (2008) 特別天然記念物田島ヶ原サクラソウ自生地の植物相について. 荒川調節池工事に伴う特別天然記念物田島ヶ原サクラソウ自生地影響調査概報 (平成 19 年度): 39-55. 埼玉県生態系保護協会
- 岩田豊太郎 (2005) 奥秩父山地の森林生態系保護活動調査報告. 秩父山地の回廊 (コリドー) の植物. 秩父の環境を考える会
- 岩槻市 (2005) 自然をのこそう生き生き調査
- 尾形一法・田中 実・木口博史・平 誠・山下 裕・原 由泰・木村和喜夫・矢 島民夫・三上忠仁 (2008) 平成 19 年度春期現地調査会植物調査報告. 埼玉生物 (48): 11-12
- 尾形一法・山下 裕・田中 実・平 誠・三上忠仁 (2005) 秋期現地調査会植物調査報告. 埼玉生物. (45): 23
- 尾形一法・山下 裕・原 由泰・石川好夫・管野治虫・三上忠仁 (2008) 平成 19 年度秋季現地調査会植物調査報告. 埼玉生物. (48): 17-18
- 越生町教育委員会 (2008) 越生の植物. 越生町史 自然編. 越生の自然. 313-438. 越生町
- 越生町教育委員会 (2008) 越生町種子植物目録. 越生町史 自然編. 越生の自然. 514-542. 越生町
- 越生町教育委員会 (2008) 越生町シダ植物目録. 越生町史 自然編. 越生の自然. 543-546. 越生町
- 国土交通省荒川上流河川事務所 (2005) 平成 16 年度荒川生態系モニタリング調査 業務報告書
- 国土交通省荒川上流河川事務所 (2006) 平成 17 年度荒川生態系モニタリング調査 業務報告書
- 小荷田行男 (2006) 埼玉県南部における湿原と湖沼の自然史. さいたま市博物館紀要. No.5. 15-30
- 小荷田行男 (2008) ハンノキの自然史. 秋ヶ瀬公園ピクニックの森の自然. 日本野鳥の会埼玉県支部
- 埼玉県教育委員会 (1998) 1998 年版 埼玉県植物誌
- 埼玉県環境生活部自然保護課 (1998) さいたまレッドデータブック - 埼玉県希少野生生物調査報告書 植物編 -
- 埼玉県環境防災部みどり自然課 (2005) 改訂・埼玉県レッドデータブック 2005 植物編
- 埼玉県高等学校生物研究会植物誌活用部会 (2008) 埼玉県植物ハンドブック. 244pp
- 清水孝資・岩田豊太郎 (2005) 秩父でみられる山野の花 330 種. 清水企画
- 関口善行 (2007) 深谷市の水田に発生した稀少植物 2 種 (イチヨウウキゴケ、サンショウモ) について. 埼玉生物. (47): 2-4

- 平 誠・矢島民夫・田中 実・山下 裕 (2007) 武甲山におけるミスミソウ (*Hepatica nobilis* var. *japonica* Nakai) の再発見. 埼玉生物 (47) : 8
- 平 誠・矢島民夫・田中 実・山下 裕・三上忠仁 (2005) 城峰山 (春季現地調査会) の植物. 埼玉生物 (45) : 13-14
- 高橋孝子・廣田昌子・時田雅子 (2006) 荒川大麻生公園野鳥の森 植物編. 熊谷の環境を考える連絡協議会
- 長島留美子・山下 裕・原 由泰・三上忠仁 (2007) 平成 18 年度春期現地調査会植物調査報告. 埼玉生物 (47) : 14-15
- 長島留美子・山下 裕・原 由泰・三上忠仁 (2007) 平成 18 年度秋期現地調査会植物調査報告. 埼玉生物 (47) : 22-23
- 鳩山町史編集委員会 (2005) 植物目録. 鳩山町史 別巻 3. 鳩山の自然 [植物]. 189-193
- 牧野彰吾・尾形一法・田中 実・山下 裕・木村和喜夫・木口博史・平 誠・原 由泰・石川好夫・矢島民夫・三上忠仁 (2008) 平成 19 年度夏季現地調査会植物調査報告. 埼玉生物 (48) : 12-172
- 牧野彰吾・尾形一法・矢島民夫・山下 裕・木村和喜夫・田中実・平 誠・三上 忠仁 (2005) 平成 16 年度夏期現地調査会植物調査報告. 埼玉生物 (45) : 17-21
- 牧野彰吾・矢島民夫・山下 裕・木村和喜夫・田中 実・平 誠・原由泰・三上 忠仁 (2007) 平成 18 年度夏期現地調査会植物調査報告. 埼玉生物 (47) : 17-22
- 牧野彰吾・矢島民夫・山下 裕・田中 実・平 誠・原由泰・三上忠仁 (2006) 平成 17 年度夏季現地調査会植物調査報告. 埼玉生物 (46) : 16-23
- 牧野彰吾・三上忠仁・木村和喜夫 (2005) 平成 15 年度春季現地調査会成果報告 (平成 15 年 5 月 13 日) (追加報告) さいたま市秋ヶ瀬植物リスト. 埼玉生物 (45) : 23-24
- 矢島民夫 (編) (2007) さいたま植物通信 第 1 巻. さいたま植物資料研究会・埼玉県絶滅危惧植物種調査団
- 矢島民夫 (編) (2010) さいたま植物通信 第 2 巻. さいたま植物資料研究会・埼玉県絶滅危惧植物種調査団
- 山下裕・長島留美子・三上忠仁・木村和喜夫・田中実 (2006) 平成 17 年度春季現地調査会植物調査報告. 埼玉生物 (46) : 15-16
- 横瀬町教育委員会 (2008) 武甲山特殊植物園報告書. 63pp. 横瀬町教育委員会

1001 (マツバラ科)

〔和名〕 マツバラ

〔学名〕 *Psilotum nudum* (L.) P. Beauv.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類 (CR)

全国カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)

- 【評価所見】 今回の調査では2地点から報告があるが、荒川西台地の個体は逸出または、他所からの植栽に伴い出現した可能性がある。低山西の産地は、採取や生育する岩場が崩落すると絶滅する危険性が高い。
- 【県内分布状況】 低山西に極めて希。荒川西台地からも記録された。
- 【県内生育状況】 個体数の把握は難しいが個体数は極少ない。低山西の生育地は、砂岩岩隙。ここでの生育面積は数年間で2倍程度になった。
- 【特記事項】 孢子で比較的簡単に増殖する。栽培個体から逸出が起りやすい。

1002 (ヒカゲノカズラ科)

〔和名〕 スギラン

〔学名〕 *Huperzia cryptomerina* (Maxim.) Dixit

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)

- 【評価所見】 今回の調査では確認されていない。前回の調査では2件報告があり、減少している。以前は両神山 (1973)、熊倉山 (1994)、滝川溪谷 (2004) などで採集されている。
- 【県内分布状況】 秩父地方の山地帯に分布する。
- 【県内生育状況】 溪谷の湿った岩上、大木の樹幹にコケ類に根を埋めて着生、生育している。
- 【特記事項】 入川では以前イヌブナ (*Fagus japonica*) の樹幹に着生していた。

1003 (ヒカゲノカズラ科)

〔和名〕 アスヒカズラ

〔学名〕 *Lycopodium complanatum* L.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN)

全国カテゴリ ランクなし

- 【評価所見】 今回の調査では2地点で確認された。前回の調査では5件報告がある。10以下しか確認されず、減少している。以前は雁坂 (1998)、東仙波 (1992) などで採集されている。
- 【県内分布状況】 奥秩父の亜高山帯に分布する。
- 【県内生育状況】 シラビソなどの針葉樹林の林床、登山道脇。日当たりの良いガレ場にも生える。
- 【特記事項】

1004 (ヒカゲノカズラ科)

〔和名〕 マンネンスギ

〔学名〕 *Lycopodium dendroideum* Michx.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN)

全国カテゴリ ランクなし

- 【評価所見】 今回の調査では5地点で確認された。前回の調査でも6件報告されている。個体数は多くない。以前は黒岩尾根 (1998)、雁峠 (2004)、木賊山 (1998) などで採集されている。
- 【県内分布状況】 奥秩父の亜高山帯に分布する。
- 【県内生育状況】 シラビソ、コメツガなどの針葉樹林の林床や日当たりの良い草原などに生育している。
- 【特記事項】

1005 (ヒカゲノカズラ科)

〔和名〕 ヤチスギラン

〔学名〕 *Lycopodium inundatum* L.

埼玉カテゴリ 絶滅 (EX)

全国カテゴリ ランクなし

- 【評価所見】 近年報告がない。絶滅していると思われる。
- 【県内分布状況】 亜高山に分布した。
- 【県内生育状況】 1地点のみの標本があるだけで、生育地を説明できるほど情報がない。
- 【特記事項】 埼玉県立自然の博物館に標本がある。

1006 (イワヒバ科)

〔和名〕 **カタヒバ**〔学名〕 *Selaginella involvens* (Sw.) Spring

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 個体数は比較的多い。生育地周辺の乾燥や園芸目的の採集が減少の要因となりうる。

【県内分布状況】 丘陵南、低山東、低山西、山地

【県内生育状況】 川沿いなど湿度が高い場所の岩壁に着生する。

【特記事項】

1007 (イワヒバ科)

〔和名〕 **タチク라마ゴケ**〔学名〕 *Selaginella nipponica* Franch. et Sav.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 今回の調査では3地点で記録された。いずれも人家の近くであり、移入個体の可能性もあるが、さらに調査することで新たな生育地発見が期待できる。

【県内分布状況】 丘陵南と荒川西台地に極めて希

【県内生育状況】 人家周辺の陰地に生育する。生育面積は1㎡～25㎡でいずれも狭い。地表をはうため、正確な個体数の把握は難しい。

【特記事項】 根茎をはうため、短期的には好む環境に移動することができるが、自然遷移による被圧などの影響を受ける。

1008 (イワヒバ科)

〔和名〕 **ヒモカズラ**〔学名〕 *Selaginella shakotanensis* (Franch. ex Takeda) Miyabe et Kudô

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 今回の調査では武信白岩、両神山で確認された。前回の調査では1件報告がある。群落は乾燥した岩上にあり、減少傾向にある。

【県内分布状況】 山地帯～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 林下または日当たりの良いチャート、石灰岩上等にマット状に群落を作る。

【特記事項】 両神山では以前、今より広く多数見られたが乾燥により減少した。

1009 (イワヒバ科)

〔和名〕 **ヤマク라마ゴケ**〔学名〕 *Selaginella tamamontana* Seriz.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 今回の調査では10か所確認。前回の調査では7件の報告があるが、増加してはいない。分布が関東地方の石灰岩地域に偏っているが秩父山地では希ではない。

【県内分布状況】 低山帯～亜高山帯の石灰岩地域に分布しているが、非石灰岩地域にも分布している。

【県内生育状況】 溪谷や北斜面の石灰岩上または木の根元、湿ったチャート、砂岩にも生育する。

【特記事項】 1978年以前はタチク라마ゴケ、エゾノヒメク라마ゴケなどと誤認されていた。

1010 (イワヒバ科)

〔和名〕 **イワヒバ**〔学名〕 *Selaginella tamariscina* (P. Beauv.) Spring

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 特に減少が著しいわけではないが、大型の個体を目にするのは希になった。園芸採取が主な減少要因である。

【県内分布状況】 丘陵北、丘陵南、低山東、低山西、山地、亜高山

【県内生育状況】 岩上、岩隙などに着生する。

【特記事項】



1011 (ミズニラ科)

〔和名〕 ミズニラ

〔学名〕 *Isoetes japonica* A. Braun

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 今回の調査では7地点から報告された。池沼の改修と富栄養化の影響を受けて、急速に生育場所を失っている種である。

【県内分布状況】 丘陵南、大宮台地、低地にやや希

【県内生育状況】 谷津田や休耕田、冬期も山水が流れている場所に生育している。県内では休耕田が多くなってきているので、少しずつ個体数は増えているが、急速な水田改修や池沼開発で生育場所が失われ、個体数が激減する可能性もある。

【特記事項】 水を張った水盤などで、栽培は容易である。

1012 (トクサ科)

〔和名〕 イヌスギナ

〔学名〕 *Equisetum palustre* L.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 現状では広範囲に生育しているが、乾燥や宅地造成などにより生育環境が失われることが減少の要因となりうる。

【県内分布状況】 丘陵北、丘陵南、荒川西台地、大宮台地、加須・中川低地

【県内生育状況】 水田、休耕田、湿地などに生育している。

【特記事項】 加須・中川低地には個体数が多い。

1013 (ハナヤスリ科)

〔和名〕 ヒメハナワラビ

〔学名〕 *Botrychium lunaria* (L.) Sw.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠA類(CR)

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【評価所見】 今回の調査では2か所確認。前回の調査では未確認。自然遷移で減少の可能性もある。高さ5cm以下で小さいので見落としやすい。個体数は2か所合わせても10以下。

【県内分布状況】 亜高山帯の石灰岩上に分布している。

【県内生育状況】 日当たりの良い石灰岩上やイワシモツケ (*Spiraea nipponica*) 群落の下に生育している。

【特記事項】

1014 (ハナヤスリ科)

〔和名〕 アカハナワラビ

〔学名〕 *Botrychium nipponicum* Makino

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 今回10地点で記録されたが、実際には山地から丘陵にかけて広く点在している。遊歩道や登山道付近に多く、踏みつけによる個体数減が懸念される。

【県内分布状況】 山地帯、低山西、丘陵南に希

【県内生育状況】 落葉樹林下など比較的明るい林内に点在する。ほとんどの地点で生育面積は狭く、生育個体数も10未満である。

【特記事項】 本種は生育期が秋から冬に限られるため見落としがちである。

1015 (ハナヤスリ科)

〔和名〕 ナツノハナワラビ

〔学名〕 *Botrychium virginianum* (L.) Sw.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 広範囲に生育するが、各生育地で数個体程度であり、数年間で生育が確認できなくなった場所がある。踏みつけや遷移による環境変化などが個体数減少の要因となりうる。

【県内分布状況】 低山東、山地

【県内生育状況】 落葉広葉樹林下に生育する。県内では群生することは少ない。

【特記事項】 夏季に孢子囊穂をつけるのは、本種とナガホノナツノハナワラビである。

1016 (ハナヤスリ科)

〔和名〕 トネハナヤスリ

〔学名〕 *Ophioglossum namegatae* M. Nishida et Kurita

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

【評価所見】 今回の調査で新たに2地点で確認されている。遷移や踏みつけ、河川敷開発により絶滅する危険性が高い。

【県内分布状況】 加須・中川低地に極めて希

【県内生育状況】 河川敷に生育しており、生育場所での個体数は比較的多い。近年の個体数増減はなし。

【特記事項】 春の一時期的のみ地上部が見られるため見つかりにくい。本属は孢子体の形態だけでは同定が不十分で孢子の観察が必要とされる。

1017 (ハナヤスリ科)

〔和名〕 コヒロハハナヤスリ (フジハナヤスリ)

〔学名〕 *Ophioglossum petiolatum* Hook.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 今回の調査では2地点から記録された。報告に漏れた生育地もある。土地造成や道路拡張により個体数が減少する危険性がある

【県内分布状況】 丘陵北、低山西、大宮台地に希

【県内生育状況】 日当たりの良い道路わきの草地などに群生している。

【特記事項】 本属は孢子体の形態だけでは同定が不十分で孢子の観察が必要とされる。自然の博物館敷地内に客土した場所にも現れたため移入している可能性がある。

1018 (ハナヤスリ科)

〔和名〕 コハナヤスリ

〔学名〕 *Ophioglossum thermale* Kom. var. *nipponicum* (Miyabe et Kudô) M. Nishida

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 今回の調査では3地点の報告があるが、生育地はより多い。しかし他所から移入した可能性もある。さらに根茎がはい正確な個体数の把握は難しい。いずれにせよ各種開発により衰退する危険性が高い。

【県内分布状況】 丘陵南、大宮大地、加須・中川低地に分布

【県内生育状況】 芝生内や河川の堤防上の向陽地に群生する。

【特記事項】 本属は孢子体の形態だけでは同定が不十分で孢子の観察が必要とされる。

1019 (ハナヤスリ科)

〔和名〕 ヒロハハナヤスリ

〔学名〕 *Ophioglossum vulgatum* L.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 今回の調査では4地点から報告がある。そのうちの1地点は十分保護されていて個体数も多いが、その他では遷移や土地利用の放棄などにより個体数が減少する危険性がある。

【県内分布状況】 丘陵南、加須・中川低地に希

【県内生育状況】 田島ヶ原さくら草公園内にはかなりの個体が生育する。

【特記事項】 春の一時期的のみ地上部が見られるため見つかりにくい。本属は孢子体の形態だけでは同定が不十分で孢子の観察が必要とされる。行田市で採集された標本が自然の博物館にある。

1020 (ゼンマイ科)

〔和名〕 ヤマドリゼンマイ

〔学名〕 *Osmunda cinnamomea* L. var. *fokiensis* Copel.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 今回の調査では7地点から報告された。しかしどの地点でも自然遷移が進んだり、生育地周辺の森林が管理放棄されることで日照が不足すると、衰退する危険がある。また、シカによる食害が目立つ種である。食害が継続し絶滅する危険性が増大している。

【県内分布状況】 亜高山、山地、低山西に希

【県内生育状況】 落葉樹林下や明るく開けた草地に群生する。

【特記事項】

1021 (ゼンマイ科)

〔和名〕 ヤシャゼンマイ

〔学名〕 *Osmunda lancea* Thunb.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 今回の調査では1地点から報告された。典型的な溪流沿いの植物であり、増水など環境が変化すると減少する危険性はある。

【県内分布状況】 丘陵南にやや希

【県内生育状況】 道路沿いの川岸(石垣)や、山地の水辺近くの岩上や岩壁に生育している。

【特記事項】 観賞用として栽培することがある。

1022 (キジノオシダ科)

〔和名〕 オオキジノオ

〔学名〕 *Plagiogyria euphlebia* (Kunze) Mett.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧ⅠA類(CR)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 今回は4地点から報告がある。伐採による土壌の乾燥や人工林管理放棄による日照不足が原因で衰退する危険性がある。

【県内分布状況】 低山西、丘陵南に希

【県内生育状況】 スギ植栽適地の沢沿いに生育する。県内で100程度の生育が確認されている。群生地では胞子が大量に供給されており、幼植物が認められる。

【特記事項】 2011年1月現在、丘陵南の群生地周辺が伐採されており影響が懸念される。

1023 (キジノオシダ科)

〔和名〕 キジノオシダ

〔学名〕 *Plagiogyria japonica* Nakai

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 今回3地点から報告があった。伐採による土壌の乾燥や人工林の管理放棄による日照不足が原因で衰退する危険性がある。

【県内分布状況】 低山西に希

【県内生育状況】 沢沿いのスギ人工林内が主な生育環境。少なくとも県内には200程度は生育している。群生地では胞子により生殖しており、幼植物が見られる。

【特記事項】

1024 (ウラジロ科)

〔和名〕 コシダ

〔学名〕 *Dicranopteris linearis* (Burm. fil.) Underw.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 今回の調査では8地点から報告された。暖かい地方の海岸などには普通に見られる種である。内陸地では少ない。海岸線や崖地、植林地に群落をつくるので、林道の整備や商業採取などにより個体数が減少する危険性はある。

【県内分布状況】 低山東、丘陵南に希

【県内生育状況】 八高線沿いに点々と分布している。日当たりの良い乾燥した山道沿いの崖地や植林地に群生する。本県では希に見られる。

【特記事項】 茎は細工物の材料にされる。

1025 (ウラジロ科)

〔和名〕 ウラジロ

〔学名〕 *Gleichenia japonica* Spreng.

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 今回の調査では17地点から報告された。暖地の乾燥した明るい場所に群生する大形のシダである。暖かい地方では普通に見られる。

【県内分布状況】 低山東、丘陵北、丘陵南に分布

【県内生育状況】 県西部の丘陵や山地の乾燥した沢を登りつめた所に小規模に群生している。

【特記事項】 正月の飾りや生花として使用されている。コシダと同じような所に群落をつくる。

1026 (コケシノブ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕ハイホラゴケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕*Crepidomanes birmanicum* (Bedd.) K. Iwats.

【評価所見】 今回の調査では8地点から報告があった。伐採による乾燥や森林管理放棄による日照不足で衰退する危険がある。

【県内分布状況】 低山西、低山東、丘陵南に希

【県内生育状況】 主に沢沿いの湿った岩に着生する。根茎がはうため個体数の把握は難しい。

【特記事項】 ハイホラゴケとされるものの中に雑種性のものが含まれているという。胞子の形状も観察すべきである。

1027 (コケシノブ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕アオホラゴケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕*Crepidomanes latealatum* (Bosch) Copel.

【評価所見】 今回の調査で4地点から報告があった。伐採による乾燥や森林管理放棄による日照不足で衰退する危険がある。

【県内分布状況】 山地、低山東、丘陵南に希

【県内生育状況】 沢沿いの湿った岩に着生するが、根茎がはうため個体数の把握は難しい。

【特記事項】 偽脈があるコケシノブ科は本種だけである。アオホラゴケの変種とされるコケホラゴケも本県から採集されている。

1028 (コケシノブ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕チチブホラゴケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕*Crepidomanes schmidtianum* (Zenker ex Taschner) K. Iwats.

【評価所見】 今回の調査では8か所確認。前回は12件報告されている。総計で5メッシュの記録がある。個体数増減変化はない。秩父市の浦山川、安谷川、大血川などの上流ではやや普通に見られる。

【県内分布状況】 低山帯～山地帯の渓谷に分布している。

【県内生育状況】 渓谷の湿岩上や木の根元などに生育している。石灰岩上には今のところ見られない。

【特記事項】 秩父市大滝入川で1949年8月20日伊藤洋博士が発見、新種として記載された。

1029 (コケシノブ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類(EN)

〔和名〕キヨスミコケシノブ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕*Hymenophyllum oligosorum* Makino

【評価所見】 今回の調査では報告がない。正確な産地情報や証拠標本がない。

【県内分布状況】 不明

【県内生育状況】 本種は樹木に着生することが多い。

【特記事項】

1030 (コバノイシカグマ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕コバノイシカグマ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕*Dennstaedtia scabra* (Wall. ex Hook.) T. Moore

【評価所見】 今回の調査では10地点から報告された。現状では絶滅のおそれはあまりないが、自然遷移による被圧や道路整備などによる整地で衰退するおそれはある。

【県内分布状況】 低山東、丘陵南にやや希

【県内生育状況】 登山道や林道の脇など比較的明るいスギ人工林など常緑樹林の林縁に群生する。

【特記事項】

1031 (コバノイシカグマ科)

〔和名〕 オオフジシダ

〔学名〕 *Monachosorum flagellare* (Maxim. ex Makino) Hayata

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 今回の調査では2か所で確認された。前回は1件報告がある。増減はほとんどない。本県では秩父市荒川安谷川流域に2か所、総株数1000未満見られるだけである。

【県内分布状況】 低山帯～山地帯の溪谷に分布している。

【県内生育状況】 ややうす暗い溪谷の湿ったチャート岩上に群生して生育している。

【特記事項】 関東では本県と栃木県(石裂山)だけに分布する暖地性の美しいシダである。

1032 (コバノイシカグマ科)

〔和名〕 フジシダ

〔学名〕 *Monachosorum maximowiczii* (Baker) Hayata

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 今回の調査では12地点から報告された。深山のやや湿っている崖地や転石地に群生している。森林伐採・整地による生育場所の乾燥化や自然乾燥、またシカの食害などにより、個体数が減少する危険性はある。

【県内分布状況】 山地、低山西、低山東にやや希

【県内生育状況】 秩父市、小鹿野町、飯能市名栗地域に分布

【特記事項】 葉は濃緑色であるが、乾燥標本では黒くなる。

1033 (ホングウシダ科)

〔和名〕 ホラシノブ

〔学名〕 *Sphenomeris chinensis* (L.) Maxon

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 今回の調査では4地点から報告された。実際の生育地はもっと多い。普通は海岸に近い山間部に多い。現状では絶滅の危険性はないが、森林伐採や整地、また自然遷移などで個体数は減少する危険性がある。

【県内分布状況】 低山東、丘陵南に分布。

【県内生育状況】 林道法面や川沿いの崖地に群生している。

【特記事項】 内陸地では比較的珍しい。

1034 (ホウライシダ科)

〔和名〕 ミズワラビ

〔学名〕 *Ceratopteris thalictroides* (L.) Brongn.

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 今回の調査では20地点以上から報告された。新たな生育地が発見されつつある。主な生育地の水田への農薬使用が少なくなってきた為、個体数の増加が見られる。しかしながら、水田や湿地の開発や再び農薬使用が増加すれば、減少の危険性は再び増加する。

【県内分布状況】 丘陵南、大宮台地、加須・中川低地に分布

【県内生育状況】 水田や休耕田、河川敷の水田などに群生

【特記事項】 一年生の水生植物であるが、無霜地帯では、冬にも葉がみられる。食用に供されることがある。

1035 (ホウライシダ科)

〔和名〕 ヒメウラジロ

〔学名〕 *Cheilanthes argentea* (S. G. Gmel.) Kunze

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【評価所見】 今回の調査では13地点から報告された。その多くは、日当たりの良い道路脇の岩上や人家の石垣である。見た目がきれいなので、園芸採取的になるが、栽培は難しい。それ以上に、道路新設・拡張や土地改修などによる生育地の破壊が、個体数の減少につながっている。

【県内分布状況】 山地、低山西、低山東、丘陵北、丘陵南にやや希

【県内生育状況】 日当たりの良い山地の岩上や路傍の石垣などに、やや希に見られる。

【特記事項】 東北地方(岩手県)から沖縄まで分布しているが、その分布域でも、比較的限られた場所に生育している。

1036 (ホウライシダ科)

〔和名〕 **ミヤマウラジロ**〔学名〕 *Cheilanthes brandtii* Franch. et Sav.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 今回の調査では18か所確認。前回は27件の報告ある。道端のものは道路拡幅で石垣や岩上に生育している個体が減少している。

【県内分布状況】 丘陵帯～山地帯に分布する。秩父地方に多いが他では飯能市に分布している。

【県内生育状況】 石灰岩地を好むが砂岩チャートにも生育する。道路わきの石垣にもよく生育している。

【特記事項】

1037 (ホウライシダ科)

〔和名〕 **イワウラジロ**〔学名〕 *Cheilanthes krameri* Franch. et Sav.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

【評価所見】 今回の調査では前回と同じ二子山・白石山から報告され個体数はほとんど変わらない。個体数は2か所合わせても50以下。武甲山の群落は石灰岩採掘で絶滅した。

【県内分布状況】 山地帯（小鹿野町）の石灰岩地域に分布する。以前は武甲山（1982）で採集されている。

【県内生育状況】 北斜面のオーバーハングした湿った石灰岩上に生育している。

【特記事項】 以前は二子山ローソク岩にも多数あったが、ロッククライミングの影響ではぎとられほとんどない。

1038 (ホウライシダ科)

〔和名〕 **ヤツガタケシノブ**〔学名〕 *Cryptogramma stelleri* (S. G. Gmel.) Prantl

埼玉カテゴリ 絶滅(EX)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 今回の調査で報告がなく、近年確認されていない。生育環境は亜高山帯の石灰岩地に限られるとみられる。

【県内分布状況】 亜高山帯に極めて希に分布した。

【県内生育状況】 石灰岩地に生育した。

【特記事項】 十文字峠付近の石灰岩から採集された標本が自然の博物館に収蔵されている。

1039 (ホウライシダ科)

〔和名〕 **カラクサシダ**〔学名〕 *Pleurosoriopsis makinoi* (Maxim. ex Makino) Fomin

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II 類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 冬緑性であり、夏季の調査では、見つからないことがある。根茎がはうため個体数の把握が難しい。乾燥による生育環境の悪化や園芸目的の採集が減少の要因となりうる。

【県内分布状況】 山地

【県内生育状況】 沢沿いの岸壁や大きな転石に着生することが多い。

【特記事項】

1040 (シシラン科)

〔和名〕 **シシラン**〔学名〕 *Haplopteris flexuosa* (Fée) E. H. Crane

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 今回の調査では8地点から報告があった。現状では絶滅のおそれはあまりないが、伐採による環境変化、特に乾燥化が衰退の原因となりうる。

【県内分布状況】 低山西、低山東、丘陵南にやや希

【県内生育状況】 沢沿いの岩壁に着生する。希に樹木にも着生する。多くの生育地で幼植物も数多くみられ、胞子により増殖している。

【特記事項】 低山東には通常より幅の広い葉を付ける個体群がある。

1041 (イノモトソウ科)

〔和名〕 **アマクサシダ**〔学名〕 *Pteris dispar* Kunze

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 県内3地点から生育が確認されている。以前から知られていた丘陵南の1地点では衰退が著しい。丘陵南の別の1地点も伐採の影響を受けやすい。

【県内分布状況】 丘陵南、加須・中川低地に極めて希

【県内生育状況】 明るく乾燥した石垣の間やスギ人工林内の急傾斜の斜面に生育する。県内生育個体数は100未満。スギ人工林内の生育個体は大型でよく胞子を散布していた。

【特記事項】

1042 (イノモトソウ科)

〔和名〕 **オオバノハチジョウシダ**〔学名〕 *Pteris excelsa* Gaudich.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 今までに2地点から記録されている。両地点共に林道整備のための伐採や整地により絶滅する危険が高い。

【県内分布状況】 丘陵南に極めて希

【県内生育状況】 谷沿いの明るく湿潤な環境に群生する。以前から知られていた生育地は数年前の林道工事で大幅に個体数が減少したが絶滅を免れた。

【特記事項】 本種と変種の関係にあるオオバノアマクサシダの標本も県内から得られている。

1043 (イノモトソウ科)

〔和名〕 **オオバノアマクサシダ**〔学名〕 *Pteris excelsa* Gaudich. var. *inaequalis* (Baker) S. H. Wu

埼玉カテゴリ 情報不足(DD)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 県内1地点から1個体が確認されている。

【県内分布状況】 丘陵南

【県内生育状況】 人工林内の急斜面に生育していたが生育環境を示すには情報不足である。

【特記事項】 本種と変種の関係にあるオオバノハチジョウシダは、県内では本変種より多い。

1044 (イノモトソウ科)

〔和名〕 **マツザカシダ**〔学名〕 *Pteris nipponica* W. C. Shieh

埼玉カテゴリ 情報不足(DD)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 県内1地点から1個体が確認されている。

【県内分布状況】 丘陵南

【県内生育状況】 人工林内の平坦な場所に生育するが生育環境を示すには情報不足である。

【特記事項】 オオバノイノモトソウの斑入りに似るが、本種は葉が革質である。

1045 (チャセンシダ科)

〔和名〕 **ヒメイワトラノオ**〔学名〕 *Asplenium capillipes* Makino

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II 類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 今回の調査では7地点から報告があった。着生環境の消滅や乾燥により衰退するおそれはある。これ以外に石灰岩の岩場などの人跡未踏の地に生育している可能性は高い。

【県内分布状況】 亜高山、山地、低山西に希

【県内生育状況】 陰湿な石灰岩地に限らず溪谷ではチャート、砂岩上や木の根元にも生育する。生育個体数は1000以上。

【特記事項】 不定芽がない葉ではイワトラノオとの判別が難しい。さらにイワトラノオとの雑種アイヒメイワトラノオも生育している。

1046 (チャセンシダ科)

〔和名〕 トキワトラノオ

〔学名〕 *Asplenium pekinense* Hance

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 今回4地点から報告があった。調査報告後に新たな生育地も発見された。石垣などの人工的な環境に多いため、常に道路拡幅整備により生育地が失われる危険がある。

【県内分布状況】 低山西、丘陵北に希

【県内生育状況】 コバノヒノキシダが生育する明るく比較的乾燥した石垣に多い。本県に生育するのは1000程度と思われる。

【特記事項】 本県でもコバノヒノキシダとの雑種であるアイトキワトラノオが採集されている。この雑種は比較的個体数が多く注意が必要である。

1047 (チャセンシダ科)

〔和名〕 オクタマシダ

〔学名〕 *Asplenium pseudowilfordii* Tagawa

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【評価所見】 今回の調査では1地点から報告された。沢沿いの大きな岩壁に着生する。個体数が非常に少なく、また、県内の確認されている生育地も少ない。

【県内分布状況】 低山西、低山東に極めて希

【県内生育状況】 今回の生育地は植林地で、現在はあまり手入れがされていない場所である。沢筋の岩壁(3×2m)で、12～15. 点々と小さな株が存在。個体数は極めて少ない。林道は荒れている状態で、植林伐採が行われても急激に絶滅する心配はないが、いつ絶滅してもおかしくない状態である。

【特記事項】 本種は、東京奥多摩で採集された標本に基づいて記載発表された種で、県内では大野正男氏により1957年発見され、1961年12月20日(昭和36年)飯能文化財時報第20号に報告されている。

1048 (チャセンシダ科)

〔和名〕 クモノスシダ

〔学名〕 *Asplenium ruprechtii* Sa. Kurata

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 今回の調査では30地点あまりの報告があった。現状では絶滅のおそれはないが、道路沿いの個体は道路拡幅の影響で衰退する危険性が高い。

【県内分布状況】 亜高山、山地、低山西、低山東、丘陵北にやや希

【県内生育状況】 石灰岩地に多く、路傍の石垣にも生育する。

【特記事項】 本種とコバノヒノキシダとの雑種をイセザキトラノオ、本種とイワトラノオとの雑種をクモイワトラノオといい、県内で採集されている。

1049 (チャセンシダ科)

〔和名〕 イチョウシダ

〔学名〕 *Asplenium ruta-muraria* L.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 今回の調査では8か所確認された。前回の調査では9件の報告がある。個体数の減少はほとんどないが全部合わせても1000以下。分布は石灰岩上に限られ、採掘による減少が危惧される。

【県内分布状況】 山地帯～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 石灰岩の岩隙に生育している。10cm以下の小さなシダで動物による食害はない。

【特記事項】 秩父地域以外では飯能市名栗地域で確認されている。

1050 (チャセンシダ科)

〔和名〕 アオチャセンシダ

〔学名〕 *Asplenium viride* Huds.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 今回の調査では前回同様秩父市中津川三国尾根で1か所確認された。個体数は自然遷移で100以下にまで減少している。

【県内分布状況】 奥秩父亜高山帯石灰岩地域に分布する。

【県内生育状況】 北斜面の石灰岩隙にコケ類などと共に生育している小さなシダ。

【特記事項】



1051 (チャセンシダ科)

〔和名〕 **アオガネシダ**〔学名〕 *Asplenium wilfordii* Mett. ex Kuhn

埼玉カテゴリー 絶滅(EX)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 今回の調査では報告がなく、近年確認されていない。本県の分布は北限にあたる。温暖で空中湿度が高い岩に着生する。重点的な調査で生育が確認できる可能性がある。

【県内分布状況】 不明

【県内生育状況】 山林中の岩上や樹幹に着生した。

【特記事項】 過去に越生町や毛呂山町の複数の地点で採集された記録がある（日本のシダ植物図鑑）。

1052 (シシガシラ科)

〔和名〕 **コモチシダ**〔学名〕 *Woodwardia orientalis* Sw.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 今回の調査では2地点から記録された。道路拡幅や岩壁の崩落により衰退するおそれがある。また、以前記録があった地点の消息が不明である。

【県内分布状況】 丘陵南に希

【県内生育状況】 道路沿いの岩壁に僅かに着生するほか、南向きの斜面に生育する。県内で現在確認できるのは100程度である。

【特記事項】 個体数が多い地点の個体は、葉長が1.5mにも達し無性芽も発達している。

1053 (オシダ科)

〔和名〕 **ホソバカナワラビ**〔学名〕 *Arachniodes aristata* (G. Forst.) Tindale

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 今回の調査では5地点から報告された。一見、群生しているように見えるが根茎がはうためであって、個体数は多いとは言えない。森林伐採や整地により衰退するおそれがある。

【県内分布状況】 丘陵南に希

【県内生育状況】 スギ人工林内の岩場付近に生育している。胞子により新たに胞子体が作られているとは感じにくい。本種は根茎が長くはうため群生する。しかし実際の個体数を把握するのは難しい。

【特記事項】

1054 (オシダ科)

〔和名〕 **オニカナワラビ**〔学名〕 *Arachniodes caudata* Ching

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 今回の調査では5地点から報告された。最大の生育地でも20程度で、他の地点ではごく少数が生育する。周囲が伐採されると絶滅するおそれがある。

【県内分布状況】 低山東、丘陵南に希

【県内生育状況】 主に明るいスギ人工林内に生育する。確認できている個体数は100未満である。

【特記事項】 オニカナワラビと変種の関係にあるとされるハカタシダは本県ではより広く分布する。

1055 (オシダ科)

〔和名〕 **シノブカグマ**〔学名〕 *Arachniodes mutica* (Franch. et Sav.) Ohwi

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 今回の調査では11か所確認された。前回は21件報告があり減少傾向。シカの食害を受けて弱った個体が多く、減少傾向にある。

【県内分布状況】 低山帯～亜高山帯に分布するが、低山帯では希にしか見られない。

【県内生育状況】 針葉樹林の林床の腐植土上に生育する。コメツガ、ツガ、ヒノキなどの林床に生える。

【特記事項】

1056 (オシダ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕 オオカナワラビ (カナワラビ)

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Arachniodes rhomboidea* (Wall. ex C. Presl) Ching

【評価所見】 今回の調査では15地点から報告があり、かなり個体が多いことが判明した。現状では絶滅のおそれはあまりない。しかし生育地が整地されたり、周囲が伐採され乾燥すれば衰退する危険は高い。

【県内分布状況】 低山西、低山東、丘陵北、丘陵南にやや希

【県内生育状況】 谷沿いのスギ人工林下などに生育する。県内には1000以上生育するとみられる。

【特記事項】

1057 (オシダ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕 メヤブソテツ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Cyrtomium caryotideum* (Wall. ex Hook. et Grev.) C. Presl

【評価所見】 今回の調査では5地点から記録された。山地の石灰岩や結晶片岩地に生育している種で、産地の森林伐採や整地、土地改修、石灰採掘などで減少する危険性は大きい。

【県内分布状況】 山地、低山東に希

【県内生育状況】 児玉、比企、入間地域まで、八高線に沿った山地の石灰岩地や石灰岩質の岩壁に生育している。

【特記事項】 石灰岩地などの特殊な環境に生育している。

1058 (オシダ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕 キヨスミヒメワラビ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Dryopsis maximowicziana* (Miq.) Holttum et Edwards

【評価所見】 今回の調査では10地点から報告された。森林伐採などにより減少する危険性はある。大型のシダで、葉柄の鱗片が白色透明なので容易に区別ができ、詳しく調査すれば、新しい生育地が見つかる可能性は大いにある。

【県内分布状況】 低山西、低山東、丘陵南にやや希

【県内生育状況】 暖地のやや陰湿な林床に生育している。

【特記事項】 本州(関東地方以西)・四国・九州の各地に分布し、宮城県南部に記録がある。

1059 (オシダ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 サイゴクベニシダ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Dryopteris championii* (Benth.) C. Chr. ex Ching

【評価所見】 今回の調査では7地点から報告され、数十個体の群生地が1地点ある。周辺の伐採や踏みつけにより衰退するおそれがある。

【県内分布状況】 低山東、丘陵北、丘陵南に希

【県内生育状況】 スギ人工林下などに生育し、登山道脇にもみられる。

【特記事項】 大規模な群生地は1地点知られるのみである。分布域に少数が点在する傾向が強い。また、本種とマルバベニシダの中間的なエンシュウベニシダが本県からも採集されている。ギフベニシダにも似ているが本種は葉が厚い。

1060 (オシダ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕 イワヘゴ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Dryopteris cycadina* (Franch. et Sav.) C. Chr.

【評価所見】 今回の調査では4地点から報告された。暖地ほど多く、寒地では少ない。低山帯の林下や沢沿いに生育している。生育地での個体数はいずれも少なく、河川敷開発や道路新設などにより、減少するおそれがある。

【県内分布状況】 低山東、丘陵北、丘陵南にやや希

【県内生育状況】 主に入間地区を中心に分布している。河川の石垣、沢筋、谷間の杉林に生育している。

【特記事項】 生育地での個体数は、いずれも10以下である。

1061 (オシダ科)

〔和名〕 ナチクジャク

〔学名〕 *Dryopteris decipiens* (Hook.) Kuntze

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I A類 (CR)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 今回の調査で新たに1地点から報告され、合計2地点で生育が確認されている。しかし、個体数は少なく、周辺が伐採されれば絶滅する危険が高い。

【県内分布状況】 低山東、丘陵南にごく希

【県内生育状況】 最大の群生地はスギ人工林内の緩やかな水流がある場所である。県内では50程度が確認されているだけである。群生地では孢子により増殖し、幼植物もみられる。

【特記事項】

1062 (オシダ科)

〔和名〕 シラネワラビ

〔学名〕 *Dryopteris expansa* (C. Presl) Fraser-Jenk. et Jermy

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 今回の調査では6か所確認された。実際はもっと広く分布している。シカの食害は少ないので北斜面などで大きな群落をみる事が出来る。

【県内分布状況】 山地帯から亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 北斜面のジゾウカンバ、イヌブナ、コメツガ、シラビソなどの林床に群生して生育する。

【特記事項】 亜高山帯ではメシダ属 (*Athyrium* 属)、シケチシダ属 (*Cornopteris* 属)、イノデ属 (*Polystichum* 属) よりもシカの食害を受けていない。秩父の沢筋では標高700m位でも希に見られる。

1063 (オシダ科)

〔和名〕 マルバベニシダ

〔学名〕 *Dryopteris fuscipes* C. Chr.

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 今回の調査では7地点から報告されたが、実際にはもっと生育地がある。減少要因は周辺の伐採や踏みつけが主である。

【県内分布状況】 低山東、丘陵北、丘陵南にやや希

【県内生育状況】 常緑樹林下に生育する。複数の群生地があるが、実際には少数の個体が広い範囲に点在する。県内生育個体数は500未満。

【特記事項】 典型的なものは判別しやすいが、ベニシダと誤認されることがある。また、本県には本種、サイゴクベニシダ、中間的なエンシュウベニシダが生育する。

1064 (オシダ科)

〔和名〕 サクライカグマ

〔学名〕 *Dryopteris gymnophylla* (Baker) C. Chr.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 II 類 (VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 今回の調査では6地点から報告があった。各生育地ではもともと個体数が少なく、減少傾向も強い。県内絶滅が心配される。

【県内分布状況】 低山西、丘陵北にごく希

【県内生育状況】 ほとんどの生育地では数個体が生育するに過ぎない。古くから知られている生育地でも生育が確認できなくなったり減少が著しい種である。現在確認されているのは100未満である。

【特記事項】

1065 (オシダ科)

〔和名〕 ヌカイタチシダ

〔学名〕 *Dryopteris gymnosora* (Makino) C. Chr.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 今回の調査では古くから知られていた1地点から報告があった。県内では他の産地は知られていない。自然遷移やそれに伴う乾燥化などにより衰退する危険は高い。

【県内分布状況】 低山東にごく希

【県内生育状況】 生育地は1か所だけであり、岩場の下斜面に群生している。

【特記事項】 県内に産するベニシダ属で包膜を持たないのは本種のみである。

1066 (オシダ科)

〔和名〕 **ギフベニシダ**〔学名〕 *Dryopteris kinkiensis* Koidz. ex Tagawa

埼玉カテゴリ 情報不足(DD)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 現時点で確認できている県内の個体数は5である。いずれも登山道近くに生育しているため、伐採や踏みつけによる絶滅が心配される。

【県内分布状況】 荒川西台地、丘陵北にごく希

【県内生育状況】 人工林内の林縁近くや山道周辺の比較的明るい場所に生育している。

【特記事項】 サイゴクベニシダに比べ葉質は薄い。標本は自然の博物館に収蔵されている。また、文献としては江南町誌(2002)に記録がある。

1067 (オシダ科)

〔和名〕 **エンシュウベニシダ**〔学名〕 *Dryopteris medioxima* Koidz.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 現時点で確認できたのは10程度である。伐採や踏みつけなどが減少の要因となりうる。

【県内分布状況】 丘陵南

【県内生育状況】 常緑樹林下に生育する。複数の生育地があり、少数の個体が点在している。

【特記事項】 マルバベニシダとサイゴクベニシダの中間型である。

1068 (オシダ科)

〔和名〕 **ナガバノイタチシダ**〔学名〕 *Dryopteris sparsa* (Buch.-Ham. ex D. Don) Kuntze

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 県内には複数の群生地があるが、伐採や踏みつけが減少の要因となりうる。

【県内分布状況】 丘陵南、低山東

【県内生育状況】 人工林、常緑樹林下に生育する。ほとんどの産地は、比較的湿潤な場所である。

【特記事項】 国内の個体でも染色体数が異なるものがあり、複合種と考えられている。

1069 (オシダ科)

〔和名〕 **タニヘゴ**〔学名〕 *Dryopteris tokyoensis* (Makino) C. Chr.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 生育地は2か所のみであるがいずれも群生している。本種は生育環境が湿地に限定されるため生育環境の維持が存続に不可欠である。

【県内分布状況】 低山西、丘陵西にごく希

【県内生育状況】 休耕田や谷戸の湿地に生育する。確認された個体数は200程度

【特記事項】 同属のクマワラビやオクマワラビと混生しているが、本種は夏緑性であり、区別は比較的容易である。

1070 (オシダ科)

〔和名〕 **チャボイノデ**〔学名〕 *Polystichum igaense* Tagawa

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 今回の調査では2地点から報告があったが、調査に漏れた生育地もある。大規模な群生地がありすぐに絶滅するとは思えないが、生育地が伐採され乾燥すれば衰退するとみられる。

【県内分布状況】 低山東に希

【県内生育状況】 低山東の群生地は、谷沿いのスギ人工林内の斜面で大規模に生育している。

【特記事項】 イノデモドキに似た比較的小型のイノデである。群生地にはイノデ属の他種も生育しており雑種が見つかる可能性がある。

1071 (オシダ科)

〔和名〕 **イナデンダ**〔学名〕 *Polystichum inaense* (Tagawa) Tagawa

埼玉カテゴリー 絶滅(EX)

全国カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 今回の調査では確認されなかった。本県では30年以上分布が確認されない。1972年7月10日に武信白岩で採集した標本が自然の博物館に収蔵されている。

【県内分布状況】 亜高山帯の石灰岩地域に分布した。

【県内生育状況】 石灰岩の岩隙に生育した小さなシダ植物。

【特記事項】 1925年7月28日長野県伊那地方(豊口山)で杉本順一氏が発見した。

1072 (オシダ科)

〔和名〕 **カタイノデ**〔学名〕 *Polystichum makinoi* (Tagawa) Tagawa

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 主な生育地は3地点であるが、まとまった数が生育している。その他は調査に漏れた地点も含め、ごく少数が生育している。3地点の群生地は伐採や低木層の被圧がなく現時点で絶滅のおそれはあまりない。

【県内分布状況】 低山西、低山東、丘陵北に希

【県内生育状況】 谷沿いのスギ人工林の比較的明るい林縁付近に生育する。

【特記事項】 イノデ属は雑種を作りやすく、県内にも本種を片親とするとみられる個体が生育している。

1073 (オシダ科)

〔和名〕 **サイゴクイノデ**〔学名〕 *Polystichum pseudomakinoi* Tagawa

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 群生地は2か所知られるのみで個体数は多くないが、胞子が十分に供給されているためか、それ以外の場所でも点々と見つかる。

【県内分布状況】 低山西、低山東、丘陵北、丘陵南に希

【県内生育状況】 沢沿いの斜面に生育する。

【特記事項】 イノデ属は雑種を作りやすく、県内にも本種を片親とするとみられる個体が生育している。

1074 (オシダ科)

〔和名〕 **ヒメカナワラビ**〔学名〕 *Polystichum tsus-simense* (Hook.) J. Sm.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 今回の調査で大規模な生育地が報告された。この生育地が維持されれば胞子が供給され、絶滅の危険は少ない。しかし、周囲が伐採されれば、ここも衰退するおそれがある。

【県内分布状況】 低山東、丘陵南のごく希

【県内生育状況】 主にスギ谷沿いの人工林で岩場がある急斜面に生育する。

【特記事項】 無融合生殖を行う。オオキヨズミシダとは変種の関係にある。石灰岩地にもよく見られる種であるが、現在は県内の石灰岩地には生育していない。

1075 (オシダ科)

〔和名〕 **オオキヨズミシダ**〔学名〕 *Polystichum tsus-simense* (Hook.) J. Sm. var. *mayebarae* (Tagawa) Sa. Kurata

埼玉カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 今回の調査では2地点だけから報告された。周囲の伐採による環境の変化や道路整備や整地により絶滅する危険性が高い。

【県内分布状況】 低山東、丘陵南のごく希

【県内生育状況】 石灰岩の露頭付近に最大の生育地がある。他には道路沿いの斜面に数個体が生育するに過ぎない。ヒメカナワラビと共存していることがある。

【特記事項】 無融合生殖を行う。ヒメカナワラビとは変種の関係にあるが、本種は県内ではより希である。

1076 (ヒメシダ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

〔和名〕コハシゴシダ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕*Thelypteris angustifrons* (Miq.) Ching

【評価所見】 今回の調査では5地点から報告された。各地点とも生育面積、個体数は少ない。植林地の放棄や自然遷移による被圧により絶滅する危険が高い。

【県内分布状況】 丘陵南にごく希

【県内生育状況】 日当たりの良い林道の斜面や、山道沿いの林床に生育する。根茎がはい、個体数の把握は難しい。

【特記事項】 ハシゴシダとの区別は微妙である。特にハシゴシダの小型の個体は本種に似る。本種は概して羽片先端は丸く、ハシゴシダはやや伸びる。過去に加須・中川低地に記録がある(日本のシダ植物図鑑)。

1077 (ヒメシダ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

〔和名〕タチヒメワラビ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕*Thelypteris bukoensis* (Tagawa) Ching

【評価所見】 今回の調査では秩父市で1か所確認された。前回は2件の報告がある。タイプ標本の産地武甲山ではシカの食害が甚だしく、個体数も著しく減少している。

【県内分布状況】 山地帯に分布する。武甲山以外では父不見山(1986)で採集している。

【県内生育状況】 ミズナラなどの疎林下や草原などに生育している。

【特記事項】 日本では牧野富太郎博士が1888年7月21日、武甲山で最初に採集している。

1078 (ヒメシダ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

〔和名〕ニッコウシダ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕*Thelypteris nipponica* (Franch. et Sav.) Ching

【評価所見】 前回及び今回の調査で未確認。旧版植物誌に秩父市大滝(旧大滝村)の記録がある。シカの食害が危惧される。

【県内分布状況】 亜高山帯の林下に分布する。

【県内生育状況】 コメツガ林の林床に希に生育している。

【特記事項】 以前秩父市大滝の突出岬で採集(2004年6月22日)している。

1079 (ヒメシダ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

〔和名〕メニッコウシダ(ケヒメシダ)

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕*Thelypteris nipponica* (Franch. et Sav.) Ching var. *borealis* (H. Hara) H. Hara

【評価所見】 今回の調査では1か所確認。前回の調査では5件報告がある。シカの食害で減少している。

【県内分布状況】 山地帯～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 草原や林縁に生育している。まとまった群落ではなく草原に点々と分布している。

【特記事項】 以前は牛王院平(1992)、白泰山(1998)、三国峠付近(2000)等で採集されている。

1080 (ヒメシダ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

〔和名〕オオバショリマ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕*Thelypteris quelpaertensis* (H. Christ) Ching

【評価所見】 今回の調査では確認されなかった。前回の調査では1か所確認されている。シカの食害がある。東北地方、北海道では普通に見られるが本県ではごく希にしか見られない。

【県内分布状況】 亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 コメツガ林の明るい林床や草原に点々と生育しているが、まとまった群落ではない。

【特記事項】 以前は雲取山(1971)、東仙波(1992)で採集されている。

1081 (イワデンダ科)

〔和名〕 **ウスヒメワラビ**〔学名〕 *Acystopteris japonica* (Luerss.) Nakai

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 今回の調査では9地点から報告された。谷間の湿った林下や湿岩上に生育している。減少の要因は、森林伐採などが主要因ではあるが、シカの食害や踏付け、また園芸採取なども報告されている。

【県内分布状況】 山地、低山西、低山東にやや希

【県内生育状況】 渓谷側湿岩上または谷間林下に群生している。こまめに調査すれば新しい生育地が確認できると思われる。

【特記事項】 東北地方南部から屋久島まで分布し、比較的暖地に多い。

1082 (イワデンダ科)

〔和名〕 **テバコワラビ**〔学名〕 *Athyrium atkinsonii* Bedd.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 今回の調査では亜高山帯の1地点から報告された。夏緑性のシダで、山地の林下に希に生育している。採取圧で減少する危険性は少ないが、シカの食害による個体数の減少が顕著な種である。

【県内分布状況】 奥秩父地域の高所にごく希

【県内生育状況】 秩父山地雁峠付近の草地に生育しているが、胞子が付いている個体はほとんどない。シカにより大型の個体は食べられている。

【特記事項】 和名倉山域リンノ峰での自生が確認された。

1083 (イワデンダ科)

〔和名〕 **ミヤコイヌワラビ**〔学名〕 *Athyrium frangulum* Tagawa

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 今回の調査では1地点から2集団が得られた。不安定な立地であり、シカによる食害が目立つため絶滅する危険性が高い。確認個体数は100未満

【県内分布状況】 低山西に極めて希

【県内生育状況】 沢沿いで土壌に水分を多く含む溪畔林に生育する。

【特記事項】 生育地には同属のヤマイヌワラビ、ホソバイヌワラビなどみられる。有馬ダム近辺に生育していた記録（日本シダ植物図鑑）があるがこの生育地は失われたと思われる。

1084 (イワデンダ科)

〔和名〕 **ミヤマメシダ**〔学名〕 *Athyrium melanolepis* (Franch. et Sav.) H. Christ

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 今回の調査では1か所確認。前回の調査は2件報告あり。以前はかなり見られたがシカの食害で絶滅が危惧される。

【県内分布状況】 山地帯から亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 渓谷沿いの林下や尾根の北斜面に生育する。

【特記事項】 若い茎葉は山菜として採取される。以前は十文字小屋（1970）、豆焼沢（1998）、三国峠付近（1997）等で採集されている。

1085 (イワデンダ科)

〔和名〕 **イワイヌワラビ**〔学名〕 *Athyrium nikkoense* Makino

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 今回の調査では5か所確認。前回の調査では4件報告がある。個体数の増減変動はほとんどない。全体の株数は1000以下である。

【県内分布状況】 主に山地帯に分布する。

【県内生育状況】 渓谷沿いや北斜面のチャート、砂岩などの岩壁の岩隙に着生し、垂下して生育している。

【特記事項】 秩父地域以外では飯能市名栗地域に分布が確認されている。生育地環境や葉の形状がフクロシダ（*Woodsia manchuriensis*）に似ているので紛らわしい。

1086 (イワデンダ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

〔和名〕カラフトミヤマシダ (ミヤマイヌワラビ)

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Athyrium spinulosum* (Maxim.) Milde

【評価所見】 今回の調査では1か所三国尾根で確認。前は2件報告がある。シカの食害でソーラス(胞子囊群)を付けた個体はほとんどなく、株が弱っており絶滅が危惧される。

【県内分布状況】 亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 根茎が地下をはい、草原や疎林下に株を作らずに葉を1つ1つ出す。

【特記事項】 以前は牛王院平(1992)、両神山(1993)等で採集されている。

1087 (イワデンダ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

〔和名〕ナヨシダ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Cystopteris fragilis* (L.) Bernh.

【評価所見】 今回の調査では前回と同じ1か所三国尾根梓白岩で確認された。石灰岩壁に生え、小さいのでシカの食害はないが個体数は100以下と少ないので希少。

【県内分布状況】 亜高山帯の石灰岩地域に分布する。

【県内生育状況】 林下の湿った石灰岩の岩隙に生育している夏緑性の柔らかい小型のシダである。

【特記事項】

1088 (イワデンダ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

〔和名〕ヘラシダ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Deparia lancea* (Thunb.) Fraser-Jenk.

【評価所見】 今回の調査では1地点から得られたが、10未満と個体数は少ない。この斜面が崩落すると絶滅する危険性が高い。

【県内分布状況】 荒川西台地に極めて希

【県内生育状況】 湧水の近くの斜面にごく少数が生育する。

【特記事項】 本県は分布の北限にあたりとみられる。過去には黒山三滝で採集された記録がある(日本シダ植物図鑑)。

1089 (イワデンダ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕オオヒメワラビ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Deparia okuboana* (Makino) M. Kato

【評価所見】 今回の調査では21地点から記録された。林道の沢沿いや谷間の林下などに生育している。大型のシダで目に付きやすい。林道拡張などで個体数が減少する危険性がある。

【県内分布状況】 山地、低山西、低山東、丘陵南に分布

【県内生育状況】 溪谷、谷間、林道沿いのスギ林に多く見られる。新しい生育地が見つかる可能性は大きい。

【特記事項】 3倍体無融合生殖で、ややかく乱された人工的な環境に生じるところから、人類の進化に伴って形成された雑草的なシダの可能性はある。

1090 (イワデンダ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

〔和名〕ミドリワラビ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Deparia viridifrons* (Makino) M. Kato

【評価所見】 今回の調査では1地点から報告された。本州(太平洋側)、四国、九州では、人里近くの低地斜面などに生育している。

【県内分布状況】 低山東にごく希

【県内生育状況】 県西部の溪流沿い、杉林の下に生育している大型のシダである。同じ大型のオオヒメワラビと間違えられる場合があると思われる。こまめに調査すれば、新しい生育地が確認できる期待がある。

【特記事項】



1091 (イワデンダ科)

〔和名〕 **ミヤマノコギリシダ**〔学名〕 *Diplazium mettenianum* (Miq.) C. Chr.

埼玉カテゴリー 情報不足(DD)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 今回の調査では1地点から報告された。栄養生殖が盛んで生い茂っている。胞子による生殖も行われている。

【県内分布状況】 丘陵南

【県内生育状況】 情報不足であるが、緩やかな傾斜のスギ人工林下に群生していた。

【特記事項】 国内に生育する本種とされるものに変異がある。

1092 (イワデンダ科)

〔和名〕 **ノコギリシダ**〔学名〕 *Diplazium wichurae* (Mett.) Diels

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 今回の調査では1地点から報告されたが、他にも確実な生育地がある。どちらの生育地も群生している。しかし周辺の似たような環境に生育している様子がない。とりあえず現在の生育環境が維持されれば絶滅の危険は少ない。

【県内分布状況】 丘陵南に極めて希

【県内生育状況】 滝や沢沿いの陰湿な岩上または斜面に群生する。根茎がはうため正確な個体数の把握は難しい。

【特記事項】 同属のミヤマノコギリシダが丘陵南に1集団生育する。

1093 (イワデンダ科)

〔和名〕 **ウサギシダ**〔学名〕 *Gymnocarpium dryopteris* (L.) Newman

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 今回の調査で確実な産地が得られなかった。山地の1地点から報告があったが、イワウサギシダを誤認した可能性が高い。

【県内分布状況】 亜高山帯に極めて希であるが現状不明

【県内生育状況】 秩父の山地帯～亜高山帯のコメツガ林下などの腐食土またはチャート上に生育していた。

【特記事項】 県内からの古い標本は自然の博物館が収蔵している。20年以上前には秩父市大滝の荒沢谷、南天山北斜面、芋ノ木ドッケなどで採集されている。

1094 (イワデンダ科)

〔和名〕 **イワウサギシダ**〔学名〕 *Gymnocarpium jessoense* (Koidz.) Koidz.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 II類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 現状で絶滅のおそれはあまりないが、石灰岩の露頭や岸壁が維持されることと、シカによる食害が抑えられることが本種の維持に不可欠である。

【県内分布状況】 亜高山帯、山地帯、低山西、低山東に希

【県内生育状況】 標高が高い石灰岩地の明るい場所にはやや普通に生育する。蛇紋岩地にもごく希に生育する。

【特記事項】

1095 (イワデンダ科)

〔和名〕 **エビラシダ**〔学名〕 *Gymnocarpium oyamense* (Baker) Ching

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 今回の調査では2地点から報告された。関東以西の深山の陰湿な岩上や林下の岩壁に生育している。個体数も生育地も少ないうえ採取の危険性が大いにある。また、自然遷移による減少の危険性もある。

【県内分布状況】 低山西に希

【県内生育状況】 秩父、比企、入間地域に分布

【特記事項】 葉柄と葉軸とのさかいに関節があり折れ曲がっているため、ジクオレシダという異名がある。九州では未発見

1096 (イワデンダ科)

〔和名〕 キンモウワラビ

〔学名〕 *Hypodematium crenatum* (Forssk.) Kuhn subsp. *fauriei* (Kodama) K. Iwats.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【評価所見】 今回の調査では13地点から報告された。くまなく調査した結果、生育地が増加した。しかしながら、生育地が主に石灰岩地に限られているために、採掘による減少が大いにある。

【県内分布状況】 山地、低山西、低山東、丘陵北にやや希

【県内生育状況】 秩父市、長瀨町、飯能市名栗地域の石灰岩等の岩壁に生育している。

【特記事項】 赤褐色の鱗片のかたまりが特徴的なシダである。

1097 (イワデンダ科)

〔和名〕 トガクシデンダ

〔学名〕 *Woodsia glabella* R. Br. ex Richards.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 6地点の生育地が知られている。それらは石灰岩地である。石灰岩の採掘や崩落による生育環境の消滅が懸念される減少要因であるが、ほとんどの生育地は標高が高く、人為的な影響はあまりないと思われる。また、小型なためシカによる食害もあまりない。

【県内分布状況】 山地帯、亜高山帯に極めて希

【県内生育状況】 日当たりの良い石灰岩の岸壁や岩隙に生育する。県内に生育する個体数は1000以上とみられる。

【特記事項】

1098 (イワデンダ科)

〔和名〕 コガネシダ

〔学名〕 *Woodsia macrochlaena* Mett. ex Kuhn

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 今回の調査では3地点から報告されたが、報告に漏れた産地がある。いずれも道路拡幅や法面整備により生育地が破壊される危険性が高い。

【県内分布状況】 山地帯、低山東、低山西、丘陵北に希

【県内生育状況】 日当たりの良い岩壁や斜面、石垣に生育する。多くの生育地で同属のイワデンダと共に生育する。

【特記事項】 本種は毛の量に変異が大きく羽片の裏面が無毛のものをジョウシュウコガネシダとして区別することがある。

1099 (イワデンダ科)

〔和名〕 イヌイワデンダ

〔学名〕 *Woodsia subintermedia* Tzvelev

埼玉カテゴリ 情報不足(DD)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 1地点から報告された。道路拡幅や法面整備により生育地が破壊される危険性が高い。

【県内分布状況】 山地帯

【県内生育状況】 情報不足。日当たりの良い斜面に生育する。同属のイワデンダやコガネシダと共に生育していた。

【特記事項】 日本シダ植物図鑑には、長瀨町の記録がある。滝沢ダム報告書にも記載されている。

1100 (ウラボシ科)

〔和名〕 ホテイシダ

〔学名〕 *Lepisorus annuifrons* (Makino) Ching

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 今回の調査では5地点から報告された。温帯上部から冷温帯の明るい森林の樹幹や大岩、尾根の岩上に着生している。採取の危険は少ないが、自然遷移や生育地の自然乾燥化などにより減少する危険性はある。

【県内分布状況】 山地、低山西に分布

【県内生育状況】 秩父、児玉地域の山間部、樹幹や岩上に着生している。

【特記事項】 ノキシノブ属では葉の幅が最も広く、ふっくらとしている。

1101 (ウラボシ科)

〔和名〕 サジラン

〔学名〕 *Loxogramme duclouxii* H. Christ

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 今回の調査では3か所で確認。前回は2件報告がある。谷間の岩上や樹幹に着生するのでシカの食害の危惧はないが、個体数は多くはない。

【県内分布状況】 秩父地方の低山帯～山地帯に分布する。

【県内生育状況】 溪谷の湿った岩や大木の樹幹などに着生して生育する。

【特記事項】 秩父以外では奥武蔵や比企郡に分布する。秩父市大滝三峰山の表参道ではトチノキ(*Aesculus turbinata*)の樹幹に着生している。

1102 (ウラボシ科)

〔和名〕 ヒメサジラン

〔学名〕 *Loxogramme grammitoides* (Baker) C. Chr.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 今回の調査では2か所確認された。前回は1件報告されている。今回、安谷川で新たに確認されたが個体数は数株にすぎない。自然遷移で絶滅が危惧される。

【県内分布状況】 秩父地方の低山帯から山地帯に分布する。

【県内生育状況】 溪谷の湿った岩上や木の株元にコケ類と共に生育している小型のシダ植物。

【特記事項】 大血川西谷では1972年採集した時よりも今回の調査では自然遷移で個体数が80%以上減少している。

1103 (ウラボシ科)

〔和名〕 クリハラン

〔学名〕 *Neocheiropteris ensata* (Thunb.) Ching

埼玉カテゴリー 絶滅危惧ⅠA類(CR)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 1地点のみで確認されている。この生育地は登山道沿いであり、採取や登山道保守のための刈り払いにより絶滅するおそれがある。

【県内分布状況】 低山東にごく希

【県内生育状況】 山道沿いの斜面に僅かに生育する。根茎がはい生育面積は拡大傾向にあるが、胞子で増殖している兆候が見られない。

【特記事項】 県内生育の古い記録があるが、そこは今回の調査で確認されている地点ではないようである。

1104 (ウラボシ科)

〔和名〕 オシャグジデンダ

〔学名〕 *Polypodium fauriei* H. Christ

埼玉カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 今回の調査では1地点から報告があった。実際には少数ながら他にも生育地がある。しかし群生地と呼べるような地点はない。いずれも周囲の伐採による乾燥化で絶滅する危険が高い。

【県内分布状況】 山地帯にごく希

【県内生育状況】 湿った樹幹や岩に着生する。根茎がはうので正確な個体数の把握は難しいが、減少傾向が強い。

【特記事項】 本種はさく葉にすると葉がぜんまいのように巻く特徴があり、近縁の種と区別できる。

1105 (ウラボシ科)

〔和名〕 アオネカズラ

〔学名〕 *Polypodium niponicum* Mett.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧ⅠA類(CR)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 現在見ることができる個体は、天然記念物として保護されており、かつ生育する岩壁に人の手は届かない。周囲の伐採などによる乾燥や樹木の生長による被圧が減少要因となりうる。

【県内分布状況】 低山東にごく希

【県内生育状況】 黒山三滝の男滝の岸壁にわずかに生育する。

【特記事項】 かつては手の届く場所にも生育していたが、採集されたのか見ることができなくなった。

県希少野生動物植物種保護条例指定種

1106 (ウラボシ科)

〔和名〕 ミヨウギシダ

〔学名〕 *Polypodium someyae* Yatabe

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

【評価所見】 1地点から報告された。ここは県道拡幅により一部の生育環境が消失した。それにより個体数がかなり減ってしまった。一方で周囲には幼植物が目立つ。現在の生育環境が維持されれば絶滅のおそれは高いとはいえない。

【県内分布状況】 低山西に極めて希

【県内生育状況】 根茎がはい正確な個体数の把握は難しいが、主に渓谷沿いのチャートの岸壁に群生している。その対岸の車道沿いにも生育が見られる。本種の幼植物がこの渓谷内の離れた場所でも見られる。

【特記事項】

1107 (ウラボシ科)

〔和名〕 イワオモダカ

〔学名〕 *Pyrrhosia hastata* (Houtt.) Ching

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 今回の調査では確認されなかったが、深山の岩上や樹幹上部に着生しているため、注意して調査しないと見落とす可能性がある。古くから園芸用に多量に採取されたため、最近では非常に少なくなってきた種である。野生絶滅する危険性は大きいにある。

【県内分布状況】 秩父地域に希

【県内生育状況】 奥秩父の樹幹上部に着生

【特記事項】 栽培品として古来から珍重されてきた。

1108 (ヒメウラボシ科)

〔和名〕 キレハオオクボシダ

〔学名〕 *Tomophyllum akaguchianum* (Koidz.) B. S. Parris

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

【評価所見】 今回の調査では1地点から記録された。秩父地域、山梨・長野両県、紀伊半島、九州の数か所に分布。生育場所は限られている。自然乾燥や個人採集などで減少する危険性は大きい。

【県内分布状況】 秩父地域にごく希

【県内生育状況】 秩父地域の岩上に、コケなどに混じって生育している。

【特記事項】 日本固有種、県希少野生動植物種保護条例指定種

1109 (ヒメウラボシ科)

〔和名〕 オオクボシダ

〔学名〕 *Micropolypodium okuboi* (Yatabe) Hayata

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 今回の調査では確認されなかった。本州（関東地方以西）、四国、九州の暖地で、山地の樹幹や岩上に生育している。個体数も少なく、道路新設、自然乾燥、園芸採取などで減少するおそれがある。

【県内分布状況】 入間地域にごく希

【県内生育状況】 飯能市名栗の溪流の岩上にカラクサシダやコケ植物に混じって生育している。

【特記事項】 明治時代の植物学者、大久保三郎にちなんで命名された。ヒメウラボシ科で、最も北に分布している。

1110 (デンジソウ科)

〔和名〕 デンジソウ

〔学名〕 *Marsilea quadrifolia* L.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

【評価所見】 今回の調査では2地点から報告されている。古くから知られる1地点1集団は保護されているが、管理放棄されれば自然遷移により絶滅する危険が高い。

【県内分布状況】 加須・中川低地に極めて希

【県内生育状況】 休耕田に生育する。根茎がはうため正確な個体数は不明である。

【特記事項】 既知の産地から持ち出された個体がさいたま市で生育したことがある。

県希少野生動植物種保護条例指定種

1111 (サンショウモ科)

〔和名〕 **サンショウモ**〔学名〕 *Salvinia natans* (L.) All.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 今回の調査では複数地点から報告された。しかし本種は栽培用に販売されており、それらが逸出し採集された可能性もある。浮葉性の一年草であるため、胞子が形成されれば、水がなくなっても存続する可能性はあるが、湿田のように一年通して水がある環境が維持されることにより本種が存続できる。

【県内分布状況】 丘陵南、加須・中川低地に極めて希

【県内生育状況】 水田に生育する。

【特記事項】 本種に加え、外来で耐寒性が低いサンショウモの仲間が販売されている。

1112 (アカウキクサ科)

〔和名〕 **アカウキクサ**〔学名〕 *Azolla imbricata* (Roxb. ex Griff.) Nakai

埼玉カテゴリ 情報不足(DD)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II 類(VU)

【評価所見】 近年報告がなく、今回の調査でも記録はない。県内で定着しなかったと思われる。

【県内分布状況】 大宮台地の記録がある。

【県内生育状況】 水田に生育

【特記事項】

1113 (アカウキクサ科)

〔和名〕 **オオアカウキクサ**〔学名〕 *Azolla japonica* (Franch. et Sav.) Franch. et Sav. ex Nakai

埼玉カテゴリ 絶滅(EX)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II 類(VU)

【評価所見】 今回の調査では報告が得られなかった浮葉性の植物で、近年確実な記録がない。絶滅した可能性が高い。

【県内分布状況】 不明

【県内生育状況】 池沼や水田の水面に生育した。

【特記事項】 逸出と思われる個体を除く確実な標本は、近年採集されていない。

1114 (マツ科)

〔和名〕 **ミツミネモミ**〔学名〕 *Abies × umbellata* Mayr

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 県指定の天然記念物に指定されている。生育地は三峰神社の境内およびその周辺に限定されている。今回の調査では報告がない。

【県内分布状況】 三峰山系に分布している。

【県内生育状況】 落葉広葉樹林やスギの植林地内に生育している。

【特記事項】 ウラジロモミの一型またはモミとの雑種と考えられる。

1115 (マツ科)

〔和名〕 **イラモミ** (マツハダ)〔学名〕 *Picea alcoquiana* (Veitch ex Lindl.) Carrière

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II 類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 秩父市の亜高山帯林にまとまった集団があり、小鹿野町にも少数が生育している。しかし、全体の個体数は少ない。開発等の影響のない地域ではあるが、一部でシカやウサギの樹皮剥ぎによって枯死したのが見られる。

【県内分布状況】 県西部亜高山帯林に点在している。

【県内生育状況】 大木がある一方で幼苗も存在する。シカやウサギの食害がなければ、少なくとも現状は維持されると考えられる。

【特記事項】

1116 (マツ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 **チョウセンゴヨウ**

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Pinus koraiensis* Siebold et Zucc.

【評価所見】 秩父市の亜高山帯林内に点在する。分布は広いが、密度は非常に低く、個体数は多くないと思われる。減少要因は今のところ見あたらないが、繁殖するまでに時間がかかる種ではないかと思われる。西破風山の岩塊地にも点在するが、低木の状態では繁殖しないようだ。

【県内分布状況】 県西部の亜高山帯林内に点在している。

【県内生育状況】 亜高山帯林内に点々と林冠木が見られる。繁殖の詳細は不明だが、岩場などに低木の状態で生育している個体には、繁殖した形跡がない。

【特記事項】

1117 (マツ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕 **ゴヨウマツ (ヒメコマツ)**

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Pinus parviflora* Siebold et Zucc.

【評価所見】 秩父市の亜高山帯林内に広く見られるが生育密度は低く、個体数は多くないと思われる。幼樹もしばしば見られるが、密度は低い。岩場や岩塊地では、密度が高いこともある。大きな個体はないが、低木の状態で繁殖しているものが見られる。

【県内分布状況】 県西部の亜高山帯林内に点在、または岩場・岩塊地には高密度で生育している。

【県内生育状況】 亜高山帯林内には林冠木および稚樹がみられ、岩場には低木が見られる。

【特記事項】

1118 (マツ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠA類(CR)

〔和名〕 **ハイマツ**

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Pinus pumila* (Pall.) Regel

【評価所見】 県内では西破風山の岩塊地が唯一の分布地である。個体数は数百程度と推定され、一部では成長してきたコマツガやクロバ等に被陰されて弱っている個体も見られるが、若齢と思われる小型個体もあって、集団は維持されているように見える。種子生産は活発であるが、生育地が極限されており、県内の他の場所に広がる可能性はない。

【県内分布状況】 西破風山山頂付近にのみ生育している。

【県内生育状況】 標高では亜高山帯林になる場所だが、他の本木が高木に育たない岩塊斜面という特殊な環境のため、生育が可能になっている。このような場所は、少なくとも県内にはほかにない。

【特記事項】

1119 (ヒノキ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠA類(CR)

〔和名〕 **ミヤマビャクシン (カイツカイブキ)**

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Juniperus chinensis* L. var. *sargentii* A. Henry

【評価所見】 1998年に生育が確認されたが、確認個体数は数株である。園芸採取の危険性が考えられる。

【県内分布状況】 秩父地域の山地帯に分布している。

【県内生育状況】 海岸や高山の岩場に生育するが、埼玉県では石灰岩の岩場に生育している。

【特記事項】 過去には武甲山に生育した記録があるが、近年報告はない。

1120 (ヒノキ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕 **ネズミサシ (ネス)**

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Juniperus rigida* Siebold et Zucc.

【評価所見】 低山地の尾根・岩場を中心に点在するが、個体数は多くなく、確認された集団の数も少ない。旧版植物誌の記録に比べて産地が縮小して県西部に偏ってきている。

【県内分布状況】 亜高山帯、山地帯、低山西、丘陵南にやや希に分布する。

【県内生育状況】 尾根上または岩場に生育する。

【特記事項】

1121 (ヤナギ科)

〔和名〕 シライヤナギ

〔学名〕 *Salix shiraii* Seemen

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を越えない。二次メッシュで6区画の記録がある。2005年調査で9件報告がある、今回の調査では4件であるが、極端な減少は見られない。

【県内分布状況】 亜高山帯～山地帯に分布する。

【県内生育状況】 一般の岩場にも生育する。県内では石灰岩の尾根上に多く見られる。

【特記事項】 葉の裏面に長毛が生じる個体はチチブヤナギとされる。

1122 (カバノキ科)

〔和名〕 チチブミネバリ

〔学名〕 *Betula chichibuensis* H. Hara

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

【評価所見】 確認個体数は1000を越えない。二次メッシュは8区画の記録がある。2005年調査では16件の報告がある。今回は30件(6地点)の報告がある。石灰岩の採掘に伴い減少している。

【県内分布状況】 秩父地方の亜高山帯～山地帯に分布する。

【県内生育状況】 石灰岩の岩場や尾根上に生育する。

【特記事項】 本種は秩父山地(東京・群馬)と岩手県太平洋岸に分布する。

1123 (カバノキ科)

〔和名〕 ヤエガワカンバ(コオノオレ)

〔学名〕 *Betula davurica* Pall.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 II 類(VU)

全国カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 確認個体数は1000を越えない。二次メッシュは5区画記録されている。2005年調査では7件報告されている。今回は6件(2地点)であるが極端な減少は見られない。シカによる食害か、生育地に幼樹が見られないので、減少が危惧される。

【県内分布状況】 山地帯～亜高山帯に生育

【県内生育状況】 山地の尾根上で、日の当たる乾燥した場所に自生する。

【特記事項】 全国的には希な植物で、本州中部(山梨・長野・群馬)以北、北海道に分布する。

1124 (カバノキ科)

〔和名〕 アカカンバ

〔学名〕 *Betula ermanii* Cham. var. *subcordata* (Regel) Koidz.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は100を越えない。2005年までの報告は1件あるが、今回は調査報告がない。二次メッシュは1区画のみ記録されている。

【県内分布状況】 山地帯～亜高山帯で、ダケカンバの分布と重なる。

【県内生育状況】 日当たりの良い崩壊地に生育する。

【特記事項】 ダケカンバの変種で幹の赤みが強い個体とされ、差は微妙である。

1125 (ブナ科)

〔和名〕 アカガシ

〔学名〕 *Quercus acuta* Thunb.

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000未満。2005年までの調査では8件の報告がある。今回の調査では5件の報告がある。二次メッシュによる分布では総計で9区画が記録されている。近年、植林や環境維持のため高木の伐採が目立ち減少傾向にある。

【県内分布状況】 丘陵帯～低山帯に分布する。

【県内生育状況】 スギの植林内や社寺林の中に生育する。

【特記事項】

1126 (イラクサ科)

〔和名〕 トキホコリ

〔学名〕 *Elatostema densiflorum* Franch. et Sav. ex Maxim.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【評価所見】 確認個体数は1000を越えない。2005年調査では7件の報告がある。今回の調査では6件(5地点)から記録されている。二次メッシュは8区画記録されている。人家近くの道路脇や畑近くに生育するため、除草剤などの影響を受けていると考えられる。

【県内分布状況】 加須・中川低地、大宮台地、低山西に分布する。

【県内生育状況】 人家近くの空き地や道路脇に生育する。

【特記事項】

1127 (イラクサ科)

〔和名〕 タチゲヒカゲミズ

〔学名〕 *Parietaria micrantha* Ledeb. var. *coreana* (Nakai) H. Hara

埼玉カテゴリ 情報不足(DD)

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【評価所見】 埼玉RDB2005ではヒカゲミズとされていたが、再同定の結果タチゲヒカゲミズとされた。生育地は1メッシュで、個体数は100未満。

【県内分布状況】 小鹿野町

【県内生育状況】 石灰岩地の浅い洞穴内の湿った場所に生育する。

【特記事項】 標本は小鹿野町1993年(岩田)がある。ヒカゲミズとは茎の毛が開出する点で区別できる。

1128 (イラクサ科)

〔和名〕 コケミズ

〔学名〕 *Pilea peploides* (Gaudich.) Hook. et Arn. var. *peploides*

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を越えない。2005年までの報告3件から今回の報告7件に増加している。二次メッシュは6区画記録されている。小型の植物で群生するが、見過ごされることも多い。乾燥化により数を減少するおそれがある。

【県内分布状況】 丘陵北、山地帯に分布する。

【県内生育状況】 路傍の石垣や湿った岩上に生育する。

【特記事項】

1129 (イラクサ科)

〔和名〕 ホソバイラクサ

〔学名〕 *Urtica angustifolia* Fisch. ex Hornem.

埼玉カテゴリ 情報不足(DD)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000未満。2005年までの調査では1件の報告がある。今回の調査で3件(1地点)の報告がある。二次メッシュによる分布では総計で2区画が記録されている。本種は線引き都市計画区域に生育し、近年生育環境が悪化傾向にある。

【県内分布状況】 加須・中川低地に分布している。

【県内生育状況】 河川敷内のオギ群落内など低湿地に生育する。

【特記事項】 2005年に報告されたものは山地帯からで、今回報告された種と同じものか検討が必要である。

1130 (ヤドリギ科)

〔和名〕 マツグミ

〔学名〕 *Taxillus kaempferi* (DC.) Danser

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は1000を越えない。2005年、2009年の調査で3件報告されている。二次メッシュは5区画記録されている。半寄生の常緑小低木で、開発による樹木の伐採により個体数減少が予想される。

【県内分布状況】 大宮台地～低山帯に分布する。

【県内生育状況】 社寺林や屋敷林のモミヤツガなどの大木に寄生しているところが発見される。

【特記事項】



1131 (ツチトリモチ科)

〔和名〕 **ミヤマツチトリモチ**〔学名〕 *Balanophora nipponica* Makino

埼玉カテゴリー 情報不足(DD)

全国カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【評価所見】 旧版植物誌には秩父・比企郡市に報告がある。その後の調査では生育の記録がない。1998年版植物誌でも記録されなかったが、1998年に1件生育が確認された。寄生植物で生育場所が特定できない。

【県内分布状況】 秩父市三峰

【県内生育状況】 山地帯の溪流の近くの斜面に多く見られる。主にカエデ類の根に寄生する。

【特記事項】 標本は秩父市大血川1998年(平)がある。

1132 (タデ科)

〔和名〕 **イブキトラノオ**〔学名〕 *Bistorta officinalis* Delarbre subsp. *japonica* (H. Hara) Yonek.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は1000を越えない。2005年までの報告3件から今回は2件に減少している。二次メッシュは3区画記録されている。現在雁坂峠に生育が確認されているが、成熟個体は見られない。シカなどの食害が減少の要因と考えられる。

【県内分布状況】 雁坂峠のような亜高山帯の風衝草原に分布する。

【県内生育状況】 亜高山帯の日当たりの良い山地草原に生育する。

【特記事項】

1133 (タデ科)

〔和名〕 **クリンユキフデ**〔学名〕 *Bistorta suffulta* (Maxim.) H. Gross

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は1000を越えない。2005年までの報告7件から今回は12件(7地点)に増加している。二次メッシュは5区画記録されている。シカなどの動物食害の影響があると考えられ、成熟個体が少ない。

【県内分布状況】 秩父山地の亜高山帯～山地帯に分布する。

【県内生育状況】 ブナやコメツガの林中、沢や山道の縁などのやや湿った日陰に生育する。

【特記事項】

1134 (タデ科)

〔和名〕 **ヒメタデ**〔学名〕 *Persicaria erectominor* (Makino) Nakai

埼玉カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【評価所見】 確認個体数は1000を越えない。二次メッシュは4区画記録されている。2005年までの報告3件から今回は7件に増加している。河川改修や湿地開発などの影響を受け減少している。

【県内分布状況】 加須・中川低地に分布する。

【県内生育状況】 河川敷内の自然湿地に生育する。

【特記事項】 県内に見られる多くは花穂が白いアオヒメタデである。

1135 (タデ科)

〔和名〕 **ホソバイヌタデ**〔学名〕 *Persicaria erectominor* (Makino) Nakai var. *trigonocarpa* (Makino) H. Hara

埼玉カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 確認個体数は1000を越えない。二次メッシュは4区画記録されている。2005年までの報告4件から今回は6件に増加している。河川改修や湿地開発などの影響を受け減少している。

【県内分布状況】 加須・中川低地に分布する。

【県内生育状況】 河川敷内の自然湿地に生育する。

【特記事項】 イヌタデに似て混同されている。花穂は淡桃色でやや疎らに花がつく。葉裏に盤上の腺点がある。

1136 (タデ科)

埼玉カテゴリ 絶滅(EX)

〔和名〕 ナガバノウナギツカミ

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔学名〕 *Persicaria hastatosagittata* (Makino) Nakai

【評価所見】 旧版植物誌では全都市に記録されている。その後の調査で多くの文献記録があるが、1998年版植物誌での標本を再同定すると全てアキノウナギツカミであった。以後の調査でも生育が確認できず、絶滅したものと思われる。

【県内分布状況】 川口市に分布した。

【県内生育状況】 低地帯の水田や湿地に生育した。

【特記事項】 標本は川口市荒川畔 1954年(新井輝一)がある。アキノウナギツカミなどの誤同定が多い。花時は花柄に腺毛がある点で区別できる。

1137 (タデ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕 シロバナサクラタデ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Persicaria japonica* (Meisn.) Nakai ex Ohki

【評価所見】 確認個体数は10000未満。2005年までの調査では46件の報告がある。今回の調査で15件の報告がある。二次メッシュによる分布では総計で19区画が記録されている。県内に広く生育するが水田わきや休耕田などの低湿地に多く、近年生育環境が悪化傾向にある。

【県内分布状況】 加須・中川低地～台地・丘陵帯に分布する。

【県内生育状況】 用水脇や休耕田など低湿地に生育する。

【特記事項】

1138 (タデ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

〔和名〕 ヌカボタデ

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

〔学名〕 *Persicaria taquetii* (H. Lévl.) Koidz.

【評価所見】 確認個体数は1000を越えない。2005年までの報告4件から今回は3件に減少している。二次メッシュは4区画記録されている。旧版植物誌では全都市に記録があるが、湿地開発などの影響を受けて減少している。

【県内分布状況】 加須・中川低地、大宮台地に分布する。

【県内生育状況】 水田付近の湿地や河川敷内の湿地に生育する。

【特記事項】

1139 (タデ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

〔和名〕 コギシギシ

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

〔学名〕 *Rumex dentatus* L. subsp. *klotzschianus* (Meisn.) Rech. f.

【評価所見】 確認個体数は1000を越えない。二次メッシュは24区画も記録されている。2005年には県東部の低地の報告を中心に65件報告されているが、今回は7件と大幅に減少し、東部の低地のみ報告となっている。河川敷の開発や農薬の使用により減少している。

【県内分布状況】 加須・中川低地、大宮台地に分布する。

【県内生育状況】 河川敷内の湿地や水田の用水路脇などに生育する。

【特記事項】 2005年までの報告はエゾノギシギシの小型のものが混同されており、本種の県内分布は報告数よりはるかに少ないと思われる。

1140 (タデ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

〔和名〕 ノダイオウ

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔学名〕 *Rumex longifolius* DC.

【評価所見】 確認個体数は100を越えない。二次メッシュは1区画記録されている。2005年には1件報告があるが、今回は報告がない。河川改修や湿地開発など人為的側面と帰化種エゾノギシギシとの競合も減少の要因と考えられる。

【県内分布状況】 大宮台地荒川河川敷に分布する。

【県内生育状況】 荒川の河川敷内や休耕田に生育する。

【特記事項】 旧版植物誌では全都市に記録されているが、現在確実な生育記録はさいたま市田島ヶ原さくらそう公園内の保護区だけである。

1141 (ヤマゴボウ科)

〔和名〕 マルミノヤマゴボウ

〔学名〕 *Phytolacca japonica* Makino

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は1000を越えない。二次メッシュは6区画記録されている。2005年までの調査報告は10件で、今回は16件に増加している。シカなどの動物食害がないため、目立つようになったことが一因と考えられる。

【県内分布状況】 山地帯～低山帯に分布する。

【県内生育状況】 スギ植林地内や林縁、溪流沿いの斜面などに生育する。

【特記事項】 帰化種のヨウシュヤマゴボウが侵入しており、混同されている可能性もある。

1142 (ナデシコ科)

〔和名〕 カワラナデシコ (ナデシコ)

〔学名〕 *Dianthus superbus* L. var. *longicalycinus* (Maxim.) F. N. Williams

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000以上。二次メッシュは14区画記録されている。2005年までの21件の報告から今回は19件に減少している。河原・砂礫地の減少や園芸採取の影響が考えられる。山地ではシカなどの動物食害が目立つ。

【県内分布状況】 亜高山帯～加須・中川低地まで全県に広く分布する。

【県内生育状況】 山地草原や林道脇、河原・砂礫地などに生育する。

【特記事項】

1143 (ナデシコ科)

〔和名〕 オオヤマフスマ (ヒメタガソデソウ)

〔学名〕 *Moehringia lateriflora* (L.) Fenzl

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は1000を越えない。2005年までの5件の報告から今回は4件に減少している。二次メッシュは3区画記録されている。シカなどの動物食害や踏みつけの影響が大きくなっていると考えられる。

【県内分布状況】 亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 林道や登山道脇の林縁や明るい林床に生育する。

【特記事項】

1144 (ナデシコ科)

〔和名〕 ワチガイソウ

〔学名〕 *Pseudostellaria heterantha* (Maxim.) Pax

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を越えない。2005年までの16件の報告から今回は14件に減少している。二次メッシュは9区画記録されている。シカなどの動物食害の直接の影響は少ないが、林床の乾燥化が減少の一因と考えられる。

【県内分布状況】 低山帯～亜高山帯に広く分布する。

【県内生育状況】 自然林内の林床に生育する。

【特記事項】

1145 (ナデシコ科)

〔和名〕 ワダソウ

〔学名〕 *Pseudostellaria heterophylla* (Miq.) Pax

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を越えない。2005年までの9件の報告から今回は4件に減少している。二次メッシュは8区画記録されている。動物食害や園芸採取の影響はほとんどないが、丘陵帯では土地開発などでほとんど見られなくなった。

【県内分布状況】 低山帯～山地帯に広く分布する。

【県内生育状況】 常緑広葉樹林や二次林内の林床に生育

【特記事項】

1146 (ナデシコ科)

〔和名〕ヒゲネワチガイソウ

〔学名〕*Pseudostellaria palibiniana* (Takeda) Ohwi

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を越えない。2005年までの12件の報告から今回は21件に増加しているが、これは調査が進んだためと考えられる。二次メッシュは11区画記録されている。シカなどの動物食害の直接の影響は少ないが、林床の乾燥化が減少の一因と考えられる。

【県内分布状況】 低山帯～亜高山帯に広く分布する。

【県内生育状況】 自然林内の湿り気のある林床に生育する。

【特記事項】

1147 (ナデシコ科)

〔和名〕ナンバンハコベ

〔学名〕*Silene baccifera* (L.) Roth var. *japonica* (Miq.) H. Ohashi et H. Nakai

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000未満。2005年までの調査では37件の報告がある。今回の調査では6件の報告となっている。二次メッシュによる分布では総計で17区画が記録されている。県内に広く生育していたが減少傾向にある。特に台地・丘陵から低地帯では見られなくなっている。

【県内分布状況】 山地帯～加須・中川低地まで広く分布する。

【県内生育状況】 林縁や草原などに生育し、つる状に伸びて他の植物に絡む。

【特記事項】

1148 (ナデシコ科)

〔和名〕センジュガンピ(シラネガンピ)

〔学名〕*Silene gracillima* Rohrb.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を越えない。2005年までの報告は3件、今回の報告も3件である。二次メッシュは3区画記録されている。シカなどの動物食害が目立ち急激に減少している。園芸採取も一因と考えられる。

【県内分布状況】 山地帯上部～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 自然林内の林縁に生育する。

【特記事項】

1149 (ナデシコ科)

〔和名〕オオビランジ

〔学名〕*Silene keiskei* Miq.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 確認個体数は1000を越えない。2005年までの2件報告から今回は25件(6地点)に増加しているが、これは調査が進んだためと考えられる。二次メッシュは4区画記録されている。今後、シカなどの動物食害の影響が心配される。フォッサマグナ要素とされ、関東西部と東海地方に分布する。

【県内分布状況】 秩父地方の山地帯に分布する。

【県内生育状況】 岩塊地に生育する。県内では石灰岩地に多く見られる。

【特記事項】 ビランジに似るが花柄やガク片にほとんど毛がない。

1150 (ナデシコ科)

〔和名〕ビランジ

〔学名〕*Silene keiskei* Miq. var. *minor* (Takeda) Ohwi et H. Ohashi

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠA類(CR)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は100を越えない。2005年までの報告は1件、今回は3件(2地点)である。二次メッシュは2区画記録されている。シカなどの動物食害の影響があると考えられる。県外の分布は神奈川、山梨、群馬の各県に分布し、オオビランジより狭い。

【県内分布状況】 秩父地方の山地帯に分布する。

【県内生育状況】 岩塊地に生育する。県内では石灰岩地に多く見られる。

【特記事項】 フォッサマグナ要素の植物とされ分布が限られている。

1151 (ナデシコ科)

〔和名〕 フシグロセンノウ

〔学名〕 *Silene miqueliana* (Rohrb.) H. Ohashi et H. Nakai

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を越えない。2005年までの報告は22件、今回は25件になっている。二次メッシュは12区画記録されている。シカなどの動物食害や園芸採取の影響が大きくなっていると考えられる。

【県内分布状況】 低山帯～山地帯に分布する。

【県内生育状況】 自然林や二次林の林床に生育する。

【特記事項】

1152 (ナデシコ科)

〔和名〕 イトハコベ

〔学名〕 *Stellaria filicalis* Makino

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類 (CR)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II 類 (VU)

【評価所見】 確認個体数は100を越えない。2005年までの報告は2件、今回は1件と非常に少ない。二次メッシュは1区画のみ記録されている。開発圧の影響が大きいと考えられる。保護の手がなくなると絶滅する危険性が高い。

【県内分布状況】 加須・中川低地に分布する。

【県内生育状況】 平地の自然湿地に生育する。

【特記事項】 現在生育地は保護されており安定している。県希少野生動植物種保護条例の指定種

1153 (アカザ科)

〔和名〕 カワラアカザ

〔学名〕 *Chenopodium acuminatum* Willd. var. *vachelii* (Hook. et Arn.) Moq.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は1000を越えない。2005年までの報告はなかったが、今回は1件報告された。二次メッシュは1区画のみ記録されている。開発圧の影響が大きいと考えられる。旧版植物誌では秩父を除く全郡市に記録されているが、生育環境に適する河川数が減少したためと考えられる。

【県内分布状況】 低山西に生育する。

【県内生育状況】 河原・砂礫地に生育する。

【特記事項】 荒川や利根川の河川敷で採集された標本が自然の博物館に収蔵されている。

1154 (アカザ科)

〔和名〕 ミドリアカザ

〔学名〕 *Chenopodium bryoniifolium* Bunge

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN)

全国カテゴリ 絶滅危惧 I A類 (CR)

【評価所見】 確認個体数は1000未満。2005年までの調査で1件の報告があり、今回の調査でも1件の報告があった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で2区画記録されている。本種の生育地はシカによる食害の激しい地域にあり、直接の食害や林床の乾燥化による生育環境の悪化が見られ絶滅が心配される。

【県内分布状況】 丘陵北と山地帯に分布している。

【県内生育状況】 河原やその付近の斜面に生育する。

【特記事項】

1155 (モクレン科)

〔和名〕 オオヤマレンゲ

〔学名〕 *Magnolia sieboldii* K. Koch subsp. *japonica* K. Ueda

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類 (CR)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は数株である。2005年までは報告がなかったが、今回の調査で初めて1件の報告があった。関東地方以西に分布し、埼玉県・群馬県が分布限界となっている。モクレン科で花が目立つため園芸採取が心配される。

【県内分布状況】 山地帯に分布する。

【県内生育状況】 山地の落葉広葉樹林内に生育する。

【特記事項】 落葉低木で開花期でないと目立たないため、今後新たな生育地の発見が期待される。

1156 (マツブサ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

〔和名〕 **チョウセンゴミシ**

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Schisandra chinensis* (Turcz.) Baill.

【評価所見】 確認個体数は1000を越えない。2005年までの報告は1件、今回は報告がなかった。二次メッシュは1区画のみ記録されている。開発の影響があると考えられる。県外の分布は本州中部地方以北と北海道とされている。

【県内分布状況】 丘陵北に分布する。

【県内生育状況】 山地の林縁に生育する。

【特記事項】

1157 (キンポウゲ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

〔和名〕 **レイジンソウ**

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Aconitum loczyanum* Rapaics

【評価所見】 二次メッシュ5区画から2005年7件、今回は3件の報告となっており、個体数も100未満でランクはENとなった。シカなどによる食害も目立ち急激に減少している。

【県内分布状況】 秩父地方の山地帯～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 林道の脇や登山道の林縁に生育する。

【特記事項】 アズマレイジンソウに似るが花柄や花の外面に開出毛がある。

1158 (キンポウゲ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

〔和名〕 **アズマレイジンソウ**

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Aconitum pterocaule* Koidz.

【評価所見】 二次メッシュ7区画から2005年6件、今回は9件あり、動物の食害は考えられるが個体数の大きな変化はあまりないと考えられる。

【県内分布状況】 秩父地方の山地帯～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 樹林の林縁や林床に生育する。

【特記事項】 レイジンソウに似るが、本種は花柄や花の外面に、ねた毛がある。

1159 (キンポウゲ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

〔和名〕 **トウカイブシ (サンヨウブシ)**

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Aconitum sanyoense* Nakai

【評価所見】 2005年より今回の方が報告件数は増えてはいるが、個体数、集団数、食害などを総合的に判断すると評価に変化はない。

【県内分布状況】 秩父地方の山地帯～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 林道沿いのやや湿り気のある林縁に生育する。

【特記事項】

1160 (キンポウゲ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

〔和名〕 **ホソバトリカブト**

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Aconitum senanense* Nakai subsp. *senanense* var. *senanense*

【評価所見】 二次メッシュで10区画から報告されているが、個体数も100未満で、限られた場所にしか生育しない。埼玉県内のランクはENからCRとなった。

【県内分布状況】 秩父地方の山地帯～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 県内の生育地は石灰岩地に限られる。

【特記事項】

1161 (キンポウゲ科)

〔和名〕 **ルイヨウショウマ**〔学名〕 *Actaea asiatica* H. Hara

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000未満。2005年までの調査では8件の報告がある。二次メッシュによる分布では総計で6区画が記録されている。都市計画区域外に生育しており、開発による減少は考えられないが、シカなどの食害が目立ち減少している。

【県内分布状況】 山地帯～亜高山帯に広く分布する。

【県内生育状況】 山地の落葉広葉樹林内に生育する。

【特記事項】

1162 (キンポウゲ科)

〔和名〕 **フクジュソウ**〔学名〕 *Adonis ramosa* Franch.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年より今回の方が報告件数が増えている。保護されている地域も多く、個体数も少ないので、絶滅の危険性はやや下がった。保護地以外では園芸採取の心配がある。

【県内分布状況】 丘陵地～山地帯まで県内に広く分布する。

【県内生育状況】 二次林の林床内に生育する。

【特記事項】 一部では園芸品種の植栽があり、野生種との区別が難しい。

1163 (キンポウゲ科)

〔和名〕 **ヒメイチゲ**〔学名〕 *Anemone debilis* Fisch. ex Turcz.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 今回の調査では2005年より報告件数が増えた。個体数は1000未満。シカなどの食害や採取の危険性もあまり高くないので埼玉県ランクはNTとなった。

【県内分布状況】 秩父地方の山地帯～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 コメツガ林の林床や草原に生育する。

【特記事項】

1164 (キンポウゲ科)

〔和名〕 **イチリンソウ**〔学名〕 *Anemone nikoensis* Maxim.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 報告件数が多く個体数は10000以上。二次メッシュで17区画報告されている。所々で園芸採取の跡が見られるが、今のところ絶滅の危険性は少ないと考えられる。

【県内分布状況】 台地～低山帯まで広く分布する。

【県内生育状況】 丘陵地の林内や林縁に群生していることが多い。

【特記事項】

1165 (キンポウゲ科)

〔和名〕 **キクザキイチリンソウ (キクザキイチゲ)**〔学名〕 *Anemone pseudoaltaica* H. Hara

埼玉カテゴリ 絶滅(EX)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 旧版植物誌では児玉郡市に記録されている。その後の調査では生育が確認できず、絶滅したものと思われる。

【県内分布状況】 秩父市三峰、横瀬町妻坂峠に分布した。

【県内生育状況】 山地帯の落葉広葉樹の林床に生育する。

【特記事項】 文献は武蔵野の植物 1965年(桧山)、植物研究雑誌(21)1947年秩父市三峰(奥山)などがある。また、寺崎日本植物図譜 1977年(奥山編)に用いられた標本は横瀬町妻坂峠 1937年産のものである。

1166 (キンポウゲ科)

〔和名〕 **アズマイチゲ**〔学名〕 *Anemone raddeana* Regel

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 今回の報告件数が多く、個体数も 10000 以上。二次メッシュで 18 区画記録されている。所々に園芸採取の跡が見られるが、今のところ絶滅の危険性は少ないと考えられる。

【県内分布状況】 丘陵地～山地帯まで広く分布する。

【県内生育状況】 日当たりの良い林縁に群生する。

【特記事項】

1167 (キンポウゲ科)

〔和名〕 **サンリンソウ**〔学名〕 *Anemone stolonifera* Maxim.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類 (CR)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 今回の調査では亜高山帯で 2 件報告されたただけであり、個体数も 100 未満である。動物の食害を考えると絶滅の危険性が極めて高い。

【県内分布状況】 亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 開けた草地に生育する。

【特記事項】

1168 (キンポウゲ科)

〔和名〕 **レンゲショウマ**〔学名〕 *Anemonopsis macrophylla* Siebold et Zucc.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 二次メッシュで 9 区画から記録がある。2005 年に 15 件の報告が、今回の調査では 6 件に減少している。個体数も 10000 未満。シカなどの動物による食害が著しく個体数も減少している。

【県内分布状況】 山地帯～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 山地の樹林下に希に群生する。

【特記事項】

1169 (キンポウゲ科)

〔和名〕 **ヤマオダマキ**〔学名〕 *Aquilegia buergeriana* Siebold et Zucc.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 二次メッシュ 8 区画の広い範囲から報告されており、個体数も 10000 未満なので 2005 年より危険度が下がった。

【県内分布状況】 山地帯～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 林道脇や日当たりの良い山地の草原に生育する。

【特記事項】

1170 (キンポウゲ科)

〔和名〕 **ミヤマハンショウヅル**〔学名〕 *Clematis alpina* (L.) Mill. subsp. *ochotensis* (Pall.) Kuntze var. *fusijamana* Kuntze

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005 年に 7 件の報告が今回の調査では 3 件となり、個体数も 1000 未満と考えられ減少傾向にあると推測される。

【県内分布状況】 亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 山地の樹林下や林縁に生育する。

【特記事項】



1171 (キンポウゲ科)

〔和名〕 **カザグルマ**〔学名〕 *Clematis patens* C. Morren et Decne.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 今回の調査では8地点から35件報告されている。それぞれの生育地で個体数が少なく、その内1か所は開発により他所に移植されている。花が大形で美しいため、愛好者が多く園芸採取による絶滅の危険性は依然高い。

【県内分布状況】 丘陵帯～低山帯に分布する。

【県内生育状況】 二次林の日当たりの良い林縁に生育する。

【特記事項】

1172 (キンポウゲ科)

〔和名〕 **トリガタハンショウヅル**〔学名〕 *Clematis tosaensis* Makino

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年も今回の調査でもそれぞれ1件の報告しかなく、個体数も少ないので危険性の高い種といえる。シカなど動物による食害が心配される。

【県内分布状況】 秩父地方の山地帯に分布する。

【県内生育状況】 山地帯の森林の林縁に生育する。

【特記事項】

1173 (キンポウゲ科)

〔和名〕 **ウスギオウレン**〔学名〕 *Coptis lutescens* Tamura

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 今回の調査で山地帯、亜高山帯から10件の報告があるが、個体数が少なく動物の食害もあるので依然絶滅の危険性が高いと考えられる。

【県内分布状況】 秩父地方の山地帯に分布する。

【県内生育状況】 針葉樹林の林床に生育する。

【特記事項】 本種は秩父市三峰山系が基準産地となっている。亜高山帯の報告はコセリバオウレンと思われる。

1174 (キンポウゲ科)

〔和名〕 **ミツバオウレン**〔学名〕 *Coptis trifolia* (L.) Salisb.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年に0件の報告が、今回の調査で10件となり、個体数も10000未満と思われ危険性のランクが下がった。

【県内分布状況】 亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 県境尾根沿いの針葉樹林下に生育する。

【特記事項】

1175 (キンポウゲ科)

〔和名〕 **トウゴクサバノオ**〔学名〕 *Dichocarpum trachyspermum* (Maxim.) W. T. Wang et P. K. Hsiao

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年より今回の調査では報告が増えており、個体数も10000未満なので危険性のランクが下がった。

【県内分布状況】 低山帯～山地帯に広く分布する。

【県内生育状況】 二次林やスギ植林地内の湿った林床に生育する。

【特記事項】

1176 (キンポウゲ科)

〔和名〕 **チチブシロカネソウ** (オオシロカネソウ)〔学名〕 *Enemion raddeanum* Regel

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年には報告がなかったが、今回の調査では3件の報告がある。個体数は100未満とごく少ないので危険性のランクが上がった。シカなど動物による食害や林床の乾燥化が減少の一因と考えられる。

【県内分布状況】 山地帯～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 自然林内のやや湿り気のある林床に生育する。

【特記事項】

1177 (キンポウゲ科)

〔和名〕 **ミスミソウ**〔学名〕 *Hepatica nobilis* Schreb. var. *japonica* Nakai

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 2005年には報告がないが、今回の調査では5件(1地点)の報告がある。個体数は1000未満で、生育地は石灰岩採掘場所に近く、絶滅の可能性が高い。また販売目的の採取の可能性もある。

【県内分布状況】 秩父地方の山地帯に分布する。

【県内生育状況】 石灰岩地のごく限られた所に生育する。

【特記事項】 過去に文献記録はあったが、2006年に再発見された。

1178 (キンポウゲ科)

〔和名〕 **オキナグサ**〔学名〕 *Pulsatilla cernua* (Thunb.) Bercht. et C.Presl

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II 類(VU)

【評価所見】 2005年には6件の報告があった。今回の調査では3件(1地点)の報告となっており、個体数も極めて少ないので絶滅の危険性は極めて高い。以前は管理された草地に多く見られたが、管理放棄や植林によりこれらは絶滅している。

【県内分布状況】 丘陵帯に分布する。

【県内生育状況】 日当たりの良い河川の砂礫地に生育する。

【特記事項】

1179 (キンポウゲ科)

〔和名〕 **コキツネノボタン**〔学名〕 *Ranunculus chinensis* Bunge

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II 類(VU)

【評価所見】 2005年は報告がなくDDとされていたが、今回の調査では3件の報告がなされた。個体数も1000未満と多くないので、埼玉県ランクはENとなった。

【県内分布状況】 加須・中川低地に分布する。

【県内生育状況】 河川敷内の日当たりの良い湿地に生育する。

【特記事項】

1180 (キンポウゲ科)

〔和名〕 **アカギキンポウゲ**〔学名〕 *Ranunculus japonicus* Thunb. var. *akagiensis* Hiyama

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年は1件の報告があったが、今回の調査では報告がなかった。シカなどの食害が進み、絶滅の可能性も考えられる。本種は本州中部の亜高山帯にのみ分布する。

【県内分布状況】 亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 日当たりの良い山地草原に生育する。

【特記事項】 ウマノアシガタに比べ、本種は茎や葉柄の毛がねる。

1181 (キンポウゲ科)

〔和名〕 **バイカモ**〔学名〕 *Ranunculus nipponicus* Nakai var. *submersus* H. Hara

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年は報告がなくDDとされていたが、今回の調査では3件(1地点)の報告がなされた。個体数も1000未満で多くないので、埼玉県ランクはENとなった。

【県内分布状況】 加須・中川低地に分布する。

【県内生育状況】 平野部の比較的きれいな河川の流水中に群生する。

【特記事項】 荒川西の標本は誤同定であった。

1182 (キンポウゲ科)

〔和名〕 **オトコゼリ**〔学名〕 *Ranunculus tachiroei* Franch. et Sav.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年は2件の報告があったが、今回の調査では報告がなかった。絶滅の可能性も考えられる。

【県内分布状況】 丘陵北に分布する。

【県内生育状況】 日当たりの良い湿地に生育する。

【特記事項】 自然の博物館に収蔵されているオトコゼリの標本は誤同定の可能性が高い。埼玉県内の分布は検討を要する。

1183 (キンポウゲ科)

〔和名〕 **ヒキノカサ**〔学名〕 *Ranunculus ternatus* Thunb.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

【評価所見】 環境省の評価に比べ、埼玉県では生育地が限定的で個体数が少ないので、保護区以外では絶滅の危険度が高い。加須・中川低地では絶滅の可能性が高い。

【県内分布状況】 大宮台地の荒川河川敷内に分布する。

【県内生育状況】 日当たりの良い湿地に生育する。

【特記事項】 田島ヶ原さくら草公園内では保護されている。

1184 (キンポウゲ科)

〔和名〕 **ヒメウス**〔学名〕 *Semiaquilegia adoxoides* (DC.) Makino

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年は1件であったが、今回の調査では6件と広い地域で報告されている。個体数も10000未満なので危険性のランクが下がった。

【県内分布状況】 丘陵帯～加須・中川低地に分布する。

【県内生育状況】 丘陵地や人里の路傍に生育する。

【特記事項】 南関東の近県ではごく普通に生育しており、分布を拡大している可能性がある。

1185 (キンポウゲ科)

〔和名〕 **セツブンソウ**〔学名〕 *Shibateranthis pinnatifida* (Maxim.) Satake et Okuyama

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 二次メッシュ9区画から今年度の調査で46件(12地点)の報告があり、個体数も多いので、2005年よりランクが下がった。

【県内分布状況】 秩父地方の低山帯を中心に、一部山地帯や丘陵北にも分布する。

【県内生育状況】 二次林の林床に生育する。

【特記事項】 保護される場所も増えており、個体数も増えている。

1186 (キンポウゲ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕 シギンカラマツ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Thalictrum actaeifolium* Siebold et Zucc.

【評価所見】 2005年2件の報告があったが、今回の調査では報告がなかった。関東地方以西に分布するとされ、県内ではそれほど多く生育するとは思われない。

【県内分布状況】 低山帯～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 日当たりの良い礫地や草原に生育する。

【特記事項】 この仲間の分類は難しいため調査で見過ごされていると思われる。

1187 (キンポウゲ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

〔和名〕 カラマツソウ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Thalictrum aquilegifolium* L. var. *intermedium* Nakai

【評価所見】 2005年は4件の報告があったが、今回の報告は1件のみであり、個体数も多くないので絶滅の危険性は高いと考えられる。シカなどの動物による食害が目立つ。

【県内分布状況】 亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 笠取山、雁峠、雁坂峠などの山地草原に生育する。

【特記事項】 丘陵帯からの報告は誤同定の可能性が高い。

1188 (キンポウゲ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕 オオカラマツ (コカラマツ)

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Thalictrum minus* L. var. *kemense* (Fr.) Trelease

【評価所見】 2005年に比べ今回の報告件数は増えており、個体数も多いので絶滅の危険性は少し下がった。

【県内分布状況】 秩父地方の山地帯と亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 石灰岩地の岩壁から垂れ下がるように生育する。

【特記事項】 アキカラマツの変種とされ、花がまばらにつき花柄が長く1~5cmとなる。

1189 (キンポウゲ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

〔和名〕 ノカラマツ

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔学名〕 *Thalictrum simplex* L. var. *brevipes* H. Hara

【評価所見】 二次メッシュ10区画と県内平野部を中心に広く報告があり、個体数も多いので危険性が少し下がった。

【県内分布状況】 加須・中川低地や大宮台地を中心に分布する。

【県内生育状況】 多くは河川敷内の氾濫原に集団で生育する。

【特記事項】

1190 (キンポウゲ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

〔和名〕 モミジカラマツ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Trautvetteria carolinensis* (Walter) Vail var. *japonica* (Siebold et Zucc.) T. Shimizu

【評価所見】 生育地は二次メッシュで1区画であり報告件数も少ないので、絶滅の危険性は高いと考えられる。シカなどによる食害も心配される。

【県内分布状況】 秩父地方の山地帯に分布する。

【県内生育状況】 溪流沿いのやや湿った岩上に生育する。

【特記事項】

1191 (メギ科)

〔和名〕 ヒロハヘビノボラス

〔学名〕 *Berberis amurensis* Rupr.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 今回の調査は8件で報告件数は多くないが、個体数が10000未満と比較的多いので絶滅の危険性は少し下がった。県内では石灰岩地に多い。

【県内分布状況】 秩父地方の山地帯と亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 石灰岩地の樹林下に生育する。

【特記事項】

1192 (メギ科)

〔和名〕 イカリソウ

〔学名〕 *Epimedium grandiflorum* C. Morren var. *thunbergianum* (Miq.) Nakai

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 二次メッシュで19区画から多くの報告があり、県内の広い地域に分布し個体数も多いので今のところ絶滅の危険性は低いと考えられる。

【県内分布状況】 台地～山地帯にかけて広く分布する。

【県内生育状況】 二次林、植林地の林床や日当たりの良い草地などに生育する。

【特記事項】 県内でも保護されている場所が増えている。また植栽された個体も多く注意が必要である。

1193 (ツヅラフジ科)

〔和名〕 コウモリカズラ

〔学名〕 *Menispermum dauricum* DC.

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 2005年に比べ今回の報告件数は減っているが、個体数は10000未満と少なくはないと思われるので、危険性は2005年より下がった。

【県内分布状況】 台地～山地帯にかけて広く分布する。

【県内生育状況】 つる性の植物で他に巻きついて生育する。

【特記事項】

1194 (ツヅラフジ科)

〔和名〕 ツヅラフジ (オオツヅラフジ)

〔学名〕 *Sinomenium acutum* (Thunb.) Rehder et E. H. Wilson

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 今回の調査では報告件数は5件で個体数も多くはないが、採取圧が低いので2005年より危険性のランクが下がった。

【県内分布状況】 低山帯～丘陵帯に分布する。

【県内生育状況】 つる性の植物で林縁や林内の他植物などに巻きついて生育する。

【特記事項】 国内では関東南部以西に分布する。

1195 (スイレン科)

〔和名〕 ジュンサイ

〔学名〕 *Brasenia schreberi* J. F. Gmel.

埼玉カテゴリー 絶滅(EX)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 旧版植物誌では5郡市内に記録がある。その後もいくつかの報告がなされているが、1998年版植物誌では生育の記録がなく、絶滅したものと考えられる。

【県内分布状況】 日高市、桶川市に分布した。

【県内生育状況】 低地帯から丘陵帯の池沼に生育した水生植物で、農薬の使用や都市化による水質の汚濁が、絶滅の第一原因と考えられる。

【特記事項】 文献は日高町史(植物とくらし)1991年、桶川市史(植物)1987年、さいたま植物通信6号2000年などある。

1196 (スイレン科)

〔和名〕 オニバス

〔学名〕 *Euryale ferox* Salisb.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠA類(CR)

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【評価所見】 2005年は報告がなかったが、今回の調査では1件の報告がある。個体数も1000未満。埼玉県条例で保護されている植物の一つである。

【県内分布状況】 加須・中川低地の水域に分布する。

【県内生育状況】 水田わきの用水中や池沼に集団で生育する。

【特記事項】 現在生育地は保護されており増加している。県希少野生動植物種保護条例指定種

1197 (スイレン科)

〔和名〕 コウホネ

〔学名〕 *Nuphar japonica* DC.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年に比べ今回の調査では報告件数が増えており、個体数も10000未満と多いと思われ、絶滅の危険性は2005年より少し下がった。

【県内分布状況】 加須・中川低地～台地帯の水域に分布する。

【県内生育状況】 平野部の池沼や河川、用水路に生育する。

【特記事項】

1198 (スイレン科)

〔和名〕 ヒツジグサ

〔学名〕 *Nymphaea tetragona* Georgi

埼玉カテゴリ 絶滅(EX)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 旧版植物誌では秩父郡市を除く8郡市内に記録がある。その後もいくつかの報告がなされている。1998年版植物誌では確実な生育記録がなく、絶滅したものと考えられる。農薬の使用や都市化による水質の汚濁が、絶滅の原因と考えられる。

【県内分布状況】 秩父市、さいたま市岩槻区に分布した。

【県内生育状況】 低地帯～丘陵帯の池沼に生育した。

【特記事項】 文献は日高町史(植物とくらし)1991年、増修戸田市の植物1982年などがある。1998年版植物誌では2件の報告がある。その後、記録された自生地の調査では確認できない。

1199 (マツモ科)

〔和名〕 マツモ

〔学名〕 *Ceratophyllum demersum* L.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年に比べ今回の調査では報告件数が増えており、個体数も10000以上と多いので、絶滅の危険性は2005年より少し下がった。

【県内分布状況】 加須・中川低地～台地帯の水域に分布する。

【県内生育状況】 比較的水のきれいな川や池沼に生育する。

【特記事項】 水草として販売されており、逸出したものもあり注意が必要である。

1200 (ドクダミ科)

〔和名〕 ハンゲショウ

〔学名〕 *Saururus chinensis* (Lour.) Baill.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 個体数は10000以上と多いが、2005年に比べ今回の調査では報告件数が減っており、生育環境の減少がうかがえる。

【県内分布状況】 加須・中川低地と台地帯に広く分布する。

【県内生育状況】 平野部の湿地に生育する。特に河川敷内の湿地では大群落を形成する。

【特記事項】

1201 (ウマノスズクサ科)

〔和名〕 **カンアオイ**〔学名〕 *Asarum nipponicum* F. Maek. var. *nipponicum*

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 2005年に比べ今回の調査では報告件数が増えており、個体数も10000以上と多いので、絶滅の危険性は2005年より下がった。

【県内分布状況】 丘陵帯と低山帯に広く分布する。

【県内生育状況】 常緑広葉樹林や二次林のやや湿った林床に生育する。

【特記事項】

1202 (ウマノスズクサ科)

〔和名〕 **ウスバサイシン (サイシン)**〔学名〕 *Asarum sieboldii* Miq.

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 2005年に比べ今回の調査では報告件数が増えており、個体数も10000未満と比較的多いので、絶滅の危険性は2005年より下がった。シカなどによる食害が目立ち始めている。

【県内分布状況】 丘陵地帯～亜高山地帯に広く分布する。

【県内生育状況】 落葉樹林帯のやや湿った林床に生育する。

【特記事項】

1203 (ウマノスズクサ科)

〔和名〕 **タマノカンアオイ**〔学名〕 *Asarum tamaense* Makino

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリー 絶滅危惧 II類(VU)

【評価所見】 個体数は100未満。自生地が開発されつつある状況の中でかろうじて命脈を保っている。花も見栄えがあり、園芸採取も予断を許さない。とりあえず保護されているが絶滅の危険は大きい。

【県内分布状況】 低地帯の谷津または斜面に自生する。

【県内生育状況】 二次林の林床に生育する。

【特記事項】 県希少野生動植物種保護条例指定種

1204 (ボタン科)

〔和名〕 **ヤマシャクヤク**〔学名〕 *Paeonia japonica* (Makino) Miyabe et Takeda

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 II類(VU)

全国カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 二次メッシュ10区画から今回の調査で10件(5地点)の報告があるが、個体数は1000未満と少ない。シカなど動物の食害と、大形の花なので園芸採取の危険がある。

【県内分布状況】 低山帯と山地帯に分布する。

【県内生育状況】 落葉広葉樹内に生育する。石灰岩地を好む傾向がある。

【特記事項】

1205 (ボタン科)

〔和名〕 **ベニバナヤマシャクヤク**〔学名〕 *Paeonia obovata* Maxim.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリー 絶滅危惧 II類(VU)

【評価所見】 今回の調査では二次メッシュ3区画から5件(3地点)の報告がある。個体数は100未満で極めて少ない。絶滅の危険性は最も高い。

【県内分布状況】 低山帯～山地帯に生育する。

【県内生育状況】 県内では石灰岩地にのみ生育する。

【特記事項】

1206 (オトギリソウ科)

〔和名〕 トモエソウ

〔学名〕 *Hypericum ascyron* L. subsp. *ascyron* var. *ascyron*

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年は16件の報告があったが、今回の調査では6件となっている。個体数は10000未満と少なくない。山地ではシカの食害により、低地では園芸採取圧があり、減少傾向にあると考えられる。

【県内分布状況】 台地～山地帯に広く分布する。

【県内生育状況】 低地帯の河川敷内や林道わきの草地に生育する。

【特記事項】

1207 (オトギリソウ科)

〔和名〕 コオトギリ

〔学名〕 *Hypericum hakonense* Franch. et Sav.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年は3件の報告があったが、今回の調査では7件となり、個体数も少なくないので危険性のランクが下がった。

【県内分布状況】 秩父地方の低山帯～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 林道脇の岩場や草原に生育する。

【特記事項】

1208 (オトギリソウ科)

〔和名〕 ミヤコオトギリ

〔学名〕 *Hypericum kinashianum* Koidz.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 二次メッシュ1区画から2005年は1件の報告があったが、今回の調査では報告がなく絶滅に近いと考えられる。

【県内分布状況】 秩父地方の山地帯

【県内生育状況】 溪流沿いのやや湿り気のある樹林下に生育する。

【特記事項】 オトギリソウ属の分類は難しいため、調査報告が不十分の可能性はある。

1209 (オトギリソウ科)

〔和名〕 アゼオトギリ

〔学名〕 *Hypericum oliganthum* Franch. et Sav.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠA類(CR)

全国カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類(EN)

【評価所見】 2005年は1件、今回の調査では4件(1地点)と報告件数が少ない。採取圧は低いですが河川敷内の開発や自然遷移により減少傾向にあると考えられる。

【県内分布状況】 加須・中川低地に分布する。

【県内生育状況】 平野部の河川敷内で日当たりの良い湿地などに生育する。

【特記事項】

1210 (オトギリソウ科)

〔和名〕 イワオトギリ

〔学名〕 *Hypericum senanense* Maxim. subsp. *mutiloides* (R. Keller) N. Robson

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年は5件、今回の調査では1件の報告しかなく絶滅に近いと考えられる。

【県内分布状況】 亜高山帯に生育する。

【県内生育状況】 日当たりの良い岩場に生育する。

【特記事項】 オトギリソウ属の分類は難しく、オトギリソウの山地型の可能性がある。



1211 (オトギリソウ科)

〔和名〕 シナノオトギリ

〔学名〕 *Hypericum senanense* Maxim. subsp. *senanense*

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 二次メッシュ2区画から2005年は4件の報告があったが、今回の調査では報告がなく絶滅に近いと考えられる。

【県内分布状況】 亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 県境尾根の登山道沿いや日当たりの良い草地に生育する。

【特記事項】

1212 (オトギリソウ科)

〔和名〕 ミズオトギリ

〔学名〕 *Triadenum japonicum* (Blume) Makino

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年は4件の報告があったが、今回の調査では報告はない。個体数も少なく、自然湿地の埋め立てや遷移の進行により、近年著しく減少している。絶滅の危険度は高くなったと考えられる。

【県内分布状況】 加須・中川低地～丘陵帯に分布する。

【県内生育状況】 谷津田の縁や平野部の池沼の脇や自然湿地に生育する。

【特記事項】

1213 (モウセンゴケ科)

〔和名〕 ムジナモ

〔学名〕 *Aldrovanda vesiculosa* L.

埼玉カテゴリ 野生絶滅(EW)

全国カテゴリ 絶滅危惧ⅠA類(CR)

【評価所見】 1921年羽生市三田ヶ谷の宝蔵寺沼付近で県内初発見された。その後、東部低湿地の利根川水系に多くの生育地が報告された。しかし、旧版植物誌では北埼玉郡市のみの生育とされ、その後絶滅したとされた。現在は、宝蔵寺沼に自生していた栽培状態の個体を増殖し、放流保護している。

【県内分布状況】 羽生市三田ヶ谷

【県内生育状況】 低地帯の池沼や用水堀の水中に浮遊して生育する。

【特記事項】 文献はムジナモとその生育環境1982年(安田)、羽生市のムジナモ1963年(羽生市むじなも保存会)、埼玉生物(3)1961年(小野田勝次)などがある。

1214 (モウセンゴケ科)

〔和名〕 モウセンゴケ

〔学名〕 *Drosera rotundifolia* L.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠA類(CR)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 二次メッシュ1区画からの報告のみで、個体数も少なく採取圧が高いため、絶滅の危険性が高い。旧版植物誌には4郡市に記録がある。その後、愛川は県内に8か所の生育記録を報告している。1998年版植物誌の調査では二次メッシュで1区画のみの自生となり、絶滅が心配される。

【県内分布状況】 台地～丘陵帯に分布する。

【県内生育状況】 低地帯～丘陵帯の谷津地形の奥で、湧水を伴う湿地に生育する。

【特記事項】 標本は寄居町1994年(高橋)、1989年(落合)、鳩山町1983年(安田/他)がある。文献はさいたま植物通信17号2003年(愛川)、埼玉生物(7)1967年(愛川)、埼玉生物(5)1965年(愛川)などがある。

1215 (ケシ科)

〔和名〕 ツルケマン (ツルケマン)

〔学名〕 *Corydalis ochotensis* Turcz.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類(EN)

【評価所見】 二次メッシュ6区画からの報告がある。個体数は少ないので、絶滅の危険性が高い。本州(関東・中部)に分布が限られている。

【県内分布状況】 秩父地方の山地帯に分布する。

【県内生育状況】 林道脇や沢沿いの日当たりの良い草地に生育する。

【特記事項】 ケケマン属で8～10月に開花するのは本種のみである。

1216 (ケシ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕 ヤマブキソウ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Hylomecon japonica* (Thunb.) Prantl et Kündig

【評価所見】 2005年は26件、今回の調査では29件と報告件数は多いが個体数は1000未満と少ない。園芸採取の危険もあり、絶滅の危険性が低いとは言えない。

【県内分布状況】 台地と山地帯に広く分布する。

【県内生育状況】 落葉樹林の林床に生育する。

【特記事項】

1217 (ケシ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

〔和名〕 オサバグサ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Pteridophyllum racemosum* Siebold et Zucc.

【評価所見】 今回の調査で二次メッシュ3区画から14件(7地点)の報告があったが、個体数は100未満と少ない。シカなどの食害は少ないが、林床の乾燥化が影響し、絶滅の危険性は高い。

【県内分布状況】 亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 コメツガ林などのやや暗い林床に生育する。

【特記事項】

1218 (アブラナ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

〔和名〕 ヘラハタザオ

全国カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

〔学名〕 *Arabis ligulifolia* Nakai

【評価所見】 確認個体数は100未満。2005年までの調査では報告がなかったが、今回の調査で3件(1地点)報告された。都市計画区域外に生育している。開発による個体数減少は考えられないが、カモシカなどの食害や踏みつけが懸念される。

【県内分布状況】 亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 県内では石灰岩の岩場に生育する。

【特記事項】 フジハタザオの変種とされ変異が多く、以前はシコクハタザオとして報告されていた。

1219 (アブラナ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

〔和名〕 ヤマガラシ (ミヤマガラシ)

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Barbarea orthoceras* Ledeb.

【評価所見】 確認個体数は100未満。2005年には2件の報告があるが、今回の調査では報告がない。もともと個体数も少ないが、調査不足も考えられる。動物の食害や植生遷移によって減少していると思われる。

【県内分布状況】 山地帯～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 溪流わきや山間の比較的開けた礫地に生育する。

【特記事項】 丘陵帯や低山帯の報告は検討が必要である。

1220 (アブラナ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

〔和名〕 ミズタガラシ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Cardamine lyrata* Bunge

【評価所見】 旧版植物誌では全郡市に記録があった。2005年では5件の報告があり、今回の調査では報告がない。生育地である湿地環境は、開発で急速に失われており、それに伴って激減したと考えられる。

【県内分布状況】 丘陵帯～低山帯に広く分布する。

【県内生育状況】 水田地帯の低湿地に生育する。

【特記事項】

1221 (アブラナ科)

〔和名〕 **ハナハタザオ**〔学名〕 *Dontostemon dentatus* (Bunge) Ledeb.

埼玉カテゴリ 絶滅(EX)

全国カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

【評価所見】 旧版植物誌では記録されていない。しかし、文献を調べると羽生市(旧千代田村)の記録がある。その後の調査では生育の確認はできず、絶滅したものと思われる。

【県内分布状況】 羽生市(村君)に分布した。

【県内生育状況】 日当たりの良い草地や砂礫地を好む。利根川河川敷内の砂地に生育していたと思われる。

【特記事項】 文献は埼玉縣植物誌1954年(新井輝一)、本種は埼玉県の特記すべき植物として上げられている。環境省レッドENにランクされており、近隣の群馬県D D、栃木県・千葉県・神奈川県EXとされている。

1222 (アブラナ科)

〔和名〕 **ヤツガタケナスナ**〔学名〕 *Draba oiana* Honda

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

【評価所見】 亜高山帯の岩場に産地が限られており、県内では石灰岩地でしか見つかっていない。2005年以降に確認できたのはわずか1か所、株数は500に満たない。

【県内分布状況】 奥秩父の亜高山帯のみに生育する。

【県内生育状況】 石灰岩地の割れ目等に生育する。

【特記事項】 産地が限られ、個体数も少ないことから、僅かな環境変化で失われる可能性が高い。

1223 (アブラナ科)

〔和名〕 **コイヌガラシ**〔学名〕 *Rorippa cantoniensis* (Lour.) Ohwi

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 旧版植物誌では全郡市に記録があった。2005年では78件の報告があるが、今回の調査では8件に減少した。調査不足もあるが生育地の水田が減少し、残った水田も管理手法が変わって、安定した生育地が減少した。

【県内分布状況】 加須・中川低地～低山帯にかけて広く分布する。

【県内生育状況】 河川敷内の水湿地や水田わきに生育する。

【特記事項】

1224 (アブラナ科)

〔和名〕 **キバナハタザオ**〔学名〕 *Sisymbrium luteum* (Maxim.) O. E. Schulz

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II 類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000未満。2005年までの調査では7件の報告がある。今回の調査も7件の報告がある。二次メッシュによる分布では総計で4区画が記録されている。いずれも都市計画区域外に生育している。開発による減少は考えられないが、シカなどの食害が目立ち減少している。

【県内分布状況】 秩父地方の低山帯～山地帯に分布する。

【県内生育状況】 落葉樹林内の林縁や林床に生育する。

【特記事項】 国内では本州と九州に希に見られる。県内では石灰岩地に多い。

1225 (アブラナ科)

〔和名〕 **ハタザオ**〔学名〕 *Turritis glabra* L.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II 類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年には11件の報告があったが、今回の調査では2件であった。元々少ない植物ではなかったが、生育場所が開発されやすく、また放置すればより大型の植物が生長してしまうため、近年減少傾向が著しい。

【県内分布状況】 加須・中川低地～山地帯にかけて分布する。

【県内生育状況】 河川敷などの草地に生育する。

【特記事項】

1226 (ベンケイソウ科)

〔和名〕 ミツバベンケイソウ

〔学名〕 *Hylotelephium verticillatum* (L.) H. Ohba

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000未満。生育地が小規模なため、植生遷移によって失われやすく、またシカの食害も無視できない。

【県内分布状況】 低山帯～山地帯に分布する。

【県内生育状況】 山地の岩場、溪流沿いの岩上、石垣などに生育する。

【特記事項】

1227 (ベンケイソウ科)

〔和名〕 ツメレンゲ

〔学名〕 *Orostachys japonica* (Maxim.) A. Berger

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 2005年には1件の報告であったが、今回の調査では14件に増えている。これは調査が進んだためと考えられる。県内では石灰岩の採掘によって消滅したところもある。しかし、石灰岩の採掘した跡に新たに生じた場所もある。園芸採取や特定の蝶の食草であることなどから移植される危険があり、人為的な影響を無視できない。

【県内分布状況】 丘陵帯～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 河岸の岩場や山地の岩塊上に生育する。

【特記事項】

1228 (ベンケイソウ科)

〔和名〕 イワベンケイ

〔学名〕 *Rhodiola rosea* L.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠA類(CR)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年以後の生育記録はない。生育可能な環境は県内では限られており、秩父地方の亜高山帯の岩場に生育している可能性は否定できない。

【県内分布状況】 奥秩父に分布していた。

【県内生育状況】 高山帯の岩礫地に生育する。

【特記事項】 1998年版埼玉県植物誌に記録があるが、標本は山梨県(金峰山)である。

1229 (ベンケイソウ科)

〔和名〕 マツノハマソウ

〔学名〕 *Sedum hakonense* Makino

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠA類(CR)

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【評価所見】 確認個体数は100未満。樹上などに着生するため発見が難しい。森林伐採に伴い林内の乾燥化が進むと生育が悪化する。

【県内分布状況】 山地帯～亜高山帯にかけて分布する。

【県内生育状況】 ブナやイタヤカエデなどの大径木の樹上コケ内に着生する。

【特記事項】 フォッサマグナ要素の植物とされ、その分布は限られている。

1230 (ベンケイソウ科)

〔和名〕 アズマツメクサ

〔学名〕 *Tillaea aquatica* L.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠA類(CR)

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 2005年調査では2件の報告があるが、今回の調査では報告がなかった。その主な原因として生育地の開発により水田・湿地環境が減少したことやその管理方法が変わったことなどがあげられる。

【県内分布状況】 加須・中川低地と丘陵北に分布する。

【県内生育状況】 水位が絶えず変動するような不安定な環境の池沼や河川際に生育する。

【特記事項】

1231 (ユキノシタ科)

〔和名〕ネコノメソウ

〔学名〕*Chrysosplenium grayanum* Maxim.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000未満。二次メッシュ数も16区画と多い。開発対象になりやすい場所やその周辺が主な生育地であるため、荒川西台地を中心に急激に減少している。

【県内分布状況】 荒川西台地～低山帯にかけて広く分布する。

【県内生育状況】 谷戸や川の周辺などの湿り気のある林縁などに生育する。

【特記事項】

1232 (ユキノシタ科)

〔和名〕チシマネコノメソウ

〔学名〕*Chrysosplenium kamtschaticum* Fisch. ex Ser.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は100未満。2005年調査では確認されなかったが、今回は1件の報告がある。シカなど動物の食害は少ないが、踏みつけや林床の乾燥化などの影響が見られる。

【県内分布状況】 奥秩父地方の山地帯に分布する。

【県内生育状況】 渓谷沿いのやや湿り気のある斜面に生育する。

【特記事項】

1233 (ユキノシタ科)

〔和名〕ウメウツギ

〔学名〕*Deutzia uniflora* Shirai

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類 (CR)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)

【評価所見】 確認個体数は100未満。2005年調査で11件の報告がある。今回の調査では22件と増えているが、これは調査が進んだためと考えられる。減少要因として動物の食害、園芸採取などの影響が大きいと思われる。また、道路工事などの影響を受けやすい場所もある。

【県内分布状況】 低山帯～亜高山帯にかけて分布する。

【県内生育状況】 林道脇の岩壁などに生育する。県内では石灰岩地によく見られる。

【特記事項】 典型的なフォッサマグナ要素の植物とされ、埼玉、神奈川、山梨、静岡に分布が限られる。

1234 (ユキノシタ科)

〔和名〕シラヒゲソウ

〔学名〕*Parnassia foliosa* Hook.f. et Thomson var. *foliosa*

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は1000未満。2005年調査で7件の報告がある。今回の調査では26件と増えているが、これは調査が進んだためと考えられる。減少要因は石灰岩の採掘以外にも、動物による踏みつけ等が見られ、個体数の減少につながっている。

【県内分布状況】 低山帯～亜高山帯にかけて分布する。

【県内生育状況】 石灰岩地帯に生育する。

【特記事項】

1235 (ユキノシタ科)

〔和名〕ウメバチソウ

〔学名〕*Parnassia palustris* L. var. *palustris*

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類 (CR)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 以前は県内の標高の低い湿地にも生育が確認されていたが、現在では亜高山帯の草原にのみ分布していると思われる。動物による食害、踏みつけによるかく乱のため、個体数は減少していると考えられる。

【県内分布状況】 丘陵帯～亜高山帯にかけて分布する。

【県内生育状況】 日当たりの良い谷戸湿原や山地草原に生育する。

【特記事項】 旧版植物誌には6郡市に記録がある。寄居町(三ヶ山)の生育地は開発により消滅した。

1236 (ユキノシタ科)

〔和名〕 ヤワタソウ (ヤハタソウ)

〔学名〕 *Peltoboykinia tellimoides* (Maxim.) H. Hara

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年では8件の報告があるが、今回の調査では1件だけである。現状でもシカなどの動物による食害が見られ、また園芸採取の危険性もある。今後も安定して生育する保証はない。

【県内分布状況】 低山帯～亜高山帯にかけて広く分布している。

【県内生育状況】 谷沿いの陰湿地斜面に生育する。

【特記事項】 本種は本州中部以北に分布する。

1237 (ユキノシタ科)

〔和名〕 タコノアシ

〔学名〕 *Penthorum chinense* Pursh

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 2005年の報告は43件で、今回の調査でも39件と比較的多い。県内の湿地に点々と分布するが、開発や河川整備によって失われたところもある。生育地の多くが休耕田で、こうした集団は再度耕作が始まれば消滅する。生育地がもともと不安定な場所であることに加え、開発の対象になりやすく、減少要因が多い。

【県内分布状況】 加須・中川低地～低山帯の水田地帯にかけて広く分布する。

【県内生育状況】 遊水池、河川敷、水田わきなどの低湿地に生育する。

【特記事項】

1238 (ユキノシタ科)

〔和名〕 ヤシャビシャク

〔学名〕 *Ribes ambiguum* Maxim.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 確認個体数は100未満。2005年には2件の報告があるが、今回の調査では報告がなかった。高木の樹上に着生することが多く、発見するのが難しい。もともと個体数が少ない種であるが、森林伐採などにより着生に適する大木が減少している。

【県内分布状況】 山地帯～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 ブナなどの老木に着生する。

【特記事項】 今回の調査終了後、生育が確認された自生地がある。

1239 (ユキノシタ科)

〔和名〕 ヤブサンザシ

〔学名〕 *Ribes fasciculatum* Siebold et Zucc.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は1000未満。2005年と今回の調査で、それぞれ6件の報告がある。生育場所が開発の対象になりやすく、開発や土地の整備事業で失われやすい。

【県内分布状況】 丘陵北と低山西に分布する。

【県内生育状況】 人里近くの落葉広葉樹林の林内や林縁に希に生育する。

【特記事項】 旧版植物誌では東部に広く記録されていたが、再調査では見いだされなかった。

1240 (ユキノシタ科)

〔和名〕 コマガタケスグリ

〔学名〕 *Ribes japonicum* Maxim.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は100未満。2005年には4件の報告があるが、今回の調査では報告がなかった。シカなどの動物による食害が減少の主要因と考えられる。

【県内分布状況】 山地帯上部～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 溪流沿いのやや湿り気のある林内に生育する。

【特記事項】 標本は秩父市豆焼沢(2000)と雁坂(1993)がある。

1241 (ユキノシタ科)

〔和名〕 ザリコミ

〔学名〕 *Ribes maximowiczianum* Kom.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は1000未満。2005年までの調査では7件の報告がある。今回の調査では4件報告されている。二次メッシュによる分布では総計で6区画が記録されている。都市計画区域外に生育している。開発による個体数減少は考えられないが、石灰岩の採掘やシカなどの動物による食害が見られる。

【県内分布状況】 秩父地方の山地帯と亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 県内では石灰岩の岩場に生育する。

【特記事項】 秩父市大血川西谷の生育地はすでに絶滅している。

1242 (ユキノシタ科)

〔和名〕 ジンジソウ

〔学名〕 *Saxifraga cortusifolia* Siebold et Zucc.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 II類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は1000未満。2005年は13件の報告がある。今回の調査は25件と増えているが、これは調査が進んだためと思われる。動物による食害も見られるが、森林伐採などによって乾燥化が進むと消滅する危険性がある。

【県内分布状況】 低山帯～山地帯に分布する。

【県内生育状況】 山地の湿った岩上に生育する。

【特記事項】 ダイモンジソウと似る、開花期以外では注意が必要である。

1243 (ユキノシタ科)

〔和名〕 ダイモンジソウ

〔学名〕 *Saxifraga fortunei* Hook. f. var. *alpina* (Matsum. et Nakai) Nakai

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 II類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は1000未満。2005年には14件の報告がある。今回の調査では47件と増えているが、これは調査が進んだためと思われる。動物による食害も見られるが、森林伐採などによって乾燥化が進むと消滅する危険性がある。

【県内分布状況】 低山帯～亜高山帯にかけて分布する。

【県内生育状況】 山地の湿った岩上に生育する。

【特記事項】 ジンジソウよりも標高の高いところを中心に分布する。標高の低い生育地は石灰岩地に多く、場所も少ないことから、貴重な集団である。

1244 (ユキノシタ科)

〔和名〕 ズダヤクシュ

〔学名〕 *Tiarella polyphylla* D. Don

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は1000未満。2005年は6件の報告がある。今回の調査は11件と増えているが、これは調査が進んだためと考えられる。危険要因は少ないが、シカなどの動物による食害や、周囲の樹木の枯死による林床の乾燥化が消滅を加速する。

【県内分布状況】 秩父地方の亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 針葉樹林帯のやや湿り気のある林床に生育する。

【特記事項】

1245 (バラ科)

〔和名〕 チョウセンキンミズヒキ

〔学名〕 *Agrimonia coreana* Nakai

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリー 絶滅危惧 II類(VU)

【評価所見】 確認個体数は100未満である。2005年までに2件の報告があったが、今回別の場所での報告が唯一であった。都市計画区域外に分布し、採取の危険は低いがシカなどの動物による食害が危惧されている。

【県内分布状況】 武甲山の山地帯に分布

【県内生育状況】 山地の草地や林縁部に生育

【特記事項】

1246 (バラ科)

〔和名〕 ブコウマメザクラ

〔学名〕 *Cerasus incisa* (Thunb.) Loisel. var. *bukosanensis* (Honda) H. Ohba

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

【評価所見】 確認個体数は100を超えない。2005年までの報告と同じ場所で生育が確認されている。個体数の増減はあまりないと考えられる。本種は地域固有性が高い。今のところ開発による減少は少ないと考えられるが、岩場に生育するため崩壊による株の損傷や人による採取が心配される。

【県内分布状況】 武甲山や小鹿野町二子山の山地帯に分布

【県内生育状況】 石灰岩地の尾根上や露頭の基部の限られた立地に生育

【特記事項】

1247 (バラ科)

〔和名〕 タカネザクラ (ミネザクラ)

〔学名〕 *Cerasus nipponica* (Matsum.) Ohle ex H. Ohba

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年までは報告がなくDDとして扱われてきたが、今回6件の報告がされた。生育地が奥地なので開発等による減少は少ないと考えられるが、シカなどの踏み荒らしによって土壌のかく乱が生じ、根が浮いて弱ったりする可能性がある。

【県内分布状況】 山地帯と亜高山帯に分布

【県内生育状況】 コメツガ林内などに混じって生育

【特記事項】

1248 (バラ科)

〔和名〕 ハクロバイ

〔学名〕 *Dasiphora mandshurica* (Maxim.) Juz.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は100を超えない。今のところ分布も2か所に限られている。開発等による減少は少ないと考えられるが、岩場に生育するため崩壊による株の損傷や人による採取が心配される。

【県内分布状況】 秩父市大滝の石灰岩地にわずかに分布

【県内生育状況】 石灰岩の岩場に生育

【特記事項】

1249 (バラ科)

〔和名〕 シロバナノヘビイチゴ

〔学名〕 *Fragaria nipponica* Makino

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は1000を超えている。2005年までに8件の報告があったが、今回は16件とやや増えており、あまり増減はないと思われる。開発による減少は少ないがシカなどの動物による食害が心配される。

【県内分布状況】 亜高山帯～山地帯にかけて分布

【県内生育状況】 主に天然林の林縁や草原に走出枝を出して生育

【特記事項】

1250 (バラ科)

〔和名〕 リンボク

〔学名〕 *Laurocerasus spinulosa* (Siebold et Zucc.) C. K. Schneid.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年までは6件の報告があったが、今回は2件にとどまり減少傾向にあると考えられる。本種は線引き都市計画区域に分布し、開発による森林伐採やシカなどの動物による食害の影響が心配される。

【県内分布状況】 丘陵帯～低山帯にかけて分布

【県内生育状況】 谷間の照葉樹林内に生育

【特記事項】



1251 (バラ科)

埼玉カテゴリ 情報不足(DD)

〔和名〕 オオズミ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Malus toringo* (Siebold) Siebold ex de Vriese var. *zumi* (Matsum.) H. Hara

- 【評価所見】 今回の調査で1か所報告されている。類似種との区別が難しく再同定の必要がある。
- 【県内分布状況】 秩父市牛王院平
- 【県内生育状況】 草原状の疎林に生育
- 【特記事項】 本種は関東や中部地方の山地帯に分布するとされ、丘陵帯や低山帯の生育は疑問が残る。

1252 (バラ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 カワラサイコ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Potentilla chinensis* Ser.

- 【評価所見】 確認個体数は1000程度である。2005年までにのべ21件の報告があったが、今回は8件のみであり減少傾向がみられる。二次メッシュによる分布では今回3区画から記録されている。線引き都市計画区域に分布するが、採取の危険性は低い。河川敷の人為によるかく乱が減少の危険要因となっている可能性が高い。
- 【県内分布状況】 高麗川(坂戸市)、荒川(熊谷市、深谷市)、利根川の中流域の氾濫原に分布
- 【県内生育状況】 河川敷の氾濫原に生育
- 【特記事項】

1253 (バラ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 イワキンバイ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Potentilla dickinsii* Franch. et Sav.

- 【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。今回、2005年までの報告とほぼ同数の報告があったことから、以前との増減はあまりないものと考えられる。開発による減少は少ないが、人による採取やシカなどの動物による食害が心配される。
- 【県内分布状況】 奥秩父周辺の山地帯～亜高山帯にかけて分布
- 【県内生育状況】 石灰岩やチャートの岩場に生育
- 【特記事項】

1254 (バラ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類(EN)

〔和名〕 タカネバラ(タカネイバラ)

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Rosa nipponensis* Crép.

- 【評価所見】 確認個体数は100を超えない。2005年までの報告数と今回の報告数はほぼ同じであるが、石灰岩の露頭上などに分布が限定されており、シカなどの動物の食害の影響が大であると考えられる。
- 【県内分布状況】 亜高山帯の岩壁に分布
- 【県内生育状況】 石灰岩の崖上などに生育
- 【特記事項】

1255 (バラ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 ゴヨウイチゴ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Rubus ikenoensis* H. Lév. et Van't

- 【評価所見】 確認個体数は1000未満。2005年までの調査では3件の報告があり、二次メッシュによる分布では総計で1区画が記録されている。今回の調査では報告がなかった。本種はいずれも都市計画区域外に生育しており、開発による減少は考えられないが、森林伐採やシカなどの動物による食害が心配される。
- 【県内分布状況】 亜高山帯に分布する。
- 【県内生育状況】 県境尾根沿い針葉樹林帯の林縁に生育する。
- 【特記事項】 草本状のつる性木本で国内では本州中北部に分布する。

1256 (バラ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

〔和名〕 サナギイチゴ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Rubus pungens* Camb. var. *oldhamii* (Miq.) Maxim.

【評価所見】 確認個体数は100未満。2005年までの調査では2件の報告があり、二次メッシュによる分布では総計で1区画が記録されている。今回の調査では報告がなかった。本種はいずれも都市計画区域外に生育しており、開発による減少は考えられないが、森林伐採やシカなどの動物による食害が心配される。

【県内分布状況】 山地帯～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 落葉小低木でブナ帯山地に生育する。

【特記事項】

1257 (バラ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕 ナガボノシロワレモコウ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Sanguisorba tenuifolia* Fisch. ex Link var. *alba* Trautv. et Mey.

【評価所見】 確認個体数は10000を超える。2005年までの報告数30件と比べて今回は16件と減っており減少が予想される。本種は線引き都市計画区域に分布しており、開発により生育地が減少することが心配される。

【県内分布状況】 県の南部・東部の荒川西台地、大宮台地、加須・中川低地に広く分布

【県内生育状況】 湿地の縁や湿った土手などに生育

【特記事項】

1258 (バラ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

〔和名〕 ナガボノアカワレモコウ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Sanguisorba tenuifolia* Fisch. ex Link var. *purpurea* Trautv. et Mey.

【評価所見】 ナガボノシロワレモコウに比べて確認個体数は少なく1000を超えない。2005年までの報告数3件と比べて今回は7件と増えているが、これは調査が進んだためと考えられる。本種は線引き都市計画区域に分布しており、湿地の開発により生育地が減少することが心配される。

【県内分布状況】 県の南部・東部の荒川西台地、大宮台地、加須・中川低地に広く分布

【県内生育状況】 湿地の縁や湿った土手などに生育

【特記事項】

1259 (バラ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕 ナンキンナナカマド

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Sorbus gracilis* (Siebold et Zucc.) K. Koch

【評価所見】 確認個体数は100程度で、2005年までの報告数9件と比べ今回は3件と減っており減少が予想される。本種は開発による減少とともにシカなどの動物による食害が心配される。

【県内分布状況】 秩父地方の低山帯～山地帯に分布

【県内生育状況】 尾根のチャートや石灰岩の上に生育

【特記事項】

1260 (バラ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

〔和名〕 イワシモツケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Spiraea nipponica* Maxim. var. *nipponica*

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年までの報告数3件と比べ今回は8件と増えているが、これは調査が進み新たな分布地が発見されたためと考えられる。本種は石灰岩の採掘による減少とともにシカなどの動物による食害が心配される。

【県内分布状況】 秩父市、小鹿野町の低山帯～亜高山帯下部まで広く分布

【県内生育状況】 尾根筋の石灰岩上に生育

【特記事項】 報告のいくつかは本種の品種であるマルバイワシモツケである。

1261 (バラ科)

〔和名〕 コキンバイ

〔学名〕 *Waldsteinia ternata* (Stephan) Fritsch

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年までの報告数4件と比べ今回は1件に減り、個体数の減少が予想される。本種は分布から見て開発による減少ではなく、シカなどの動物による食害で減少した可能性が高い。

【県内分布状況】 秩父市の亜高山帯に分布

【県内生育状況】 コメツガ林の林床のコケの間に生育

【特記事項】

1262 (マメ科)

〔和名〕 モメンヅル

〔学名〕 *Astragalus reflexistipulus* Miq.

埼玉カテゴリー 絶滅(EX)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 旧版植物誌には記録がない。守屋(1970,1987年)の武甲山での記録があるものの、それ以降の調査記録はないことから絶滅したものと思われる。

【県内分布状況】 武甲山に分布した。

【県内生育状況】 山麓の草地に生育した。

【特記事項】 文献は武甲山の植物1987年(守屋)がある。

1263 (マメ科)

〔和名〕 タヌキマメ

〔学名〕 *Crotalaria sessiliflora* L.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は100を超えない。2005年までに報告された生育地1か所と今回の報告は同一地点である。本種は人家の間の空き地に生育しており、保護は全くされていない状態で個体数の減少が心配される。

【県内分布状況】 ときがわ町の丘陵帯に分布

【県内生育状況】 日当たりの良いやや湿った空き地に生育

【特記事項】 飯能市宮沢湖付近の生育地は1998年頃に絶滅している。

1264 (マメ科)

〔和名〕 イワオウギ

〔学名〕 *Hedysarum vicioides* Turcz. subsp. *japonicum* (B.Fedtsch.) B.H.Choi et H.Ohashi var. *japonicum* (B.Fedtsch.) B.H.Choi et H.Ohashi

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は100を超えない。2005年までに報告された6件と比べ今回は4件(実質は2か所)と減っていることから減少が予想される。本種は、石灰岩の岩壁にかろうじて生育しており、状況からみてシカなどの動物による食害により分布を減少させている可能性が大きい。

【県内分布状況】 秩父市の亜高山帯に分布

【県内生育状況】 石灰岩の岩壁に生育

【特記事項】

1265 (マメ科)

〔和名〕 レンリソウ

〔学名〕 *Lathyrus quinquenervius* (Miq.) Litv.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 旧版植物誌では9郡市に記録されており、埼玉県植物誌(1998)に3件の報告があったが、今回報告がなく減少傾向にあると思われる。

【県内分布状況】 県南部、県西部、県北部の低地や丘陵帯に分布

【県内生育状況】 河原の湿った草地に生育

【特記事項】

1266 (マメ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 イヌハギ

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔学名〕 *Lespedeza tomentosa* (Thunb.) Siebold ex Maxim.

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までの報告数17件と比べ今回は5件(実質は1か所)となり分布地の減少が予想される。本種の主な減少要因は河川開発、植生の遷移などが考えられるが、ニセアカシアなど導入帰化種との競合も考えられる。

【県内分布状況】 県北部の利根川中流や荒川中流域に分布

【県内生育状況】 河川敷の砂礫地に生育

【特記事項】 河川敷や林縁の道路管理、特に拡張時に破壊される危険性が高いので注意が必要である。

1267 (カタバミ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 コミヤマカタバミ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Oxalis acetosella* L.

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までの報告数12件と比べ今回は52件と増加しているが、以前より調査が進んだためと考えられる。本種は分布から見て開発による減少の心配は少ないものの、シカなどの動物による直接の食害や上層の枯死に伴う林床の乾燥化による減少が心配される。

【県内分布状況】 秩父市の主に亜高山帯～山地帯にかけて分布

【県内生育状況】 針葉樹林のコケ林床に生育

【特記事項】

1268 (カタバミ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類(EN)

〔和名〕 カントウミヤマカタバミ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Oxalis griffithii* Edgew. et Hook. f. var. *kantoensis* (Terao) T. Shimizu

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年まではミヤマカタバミとして報告されていた。今回カントウミヤマカタバミとして4件の報告があった。本種は線引き都市計画区域に分布しており、開発による個体数の減少が心配される。

【県内分布状況】 入間市、越生町等の丘陵帯に分布

【県内生育状況】 溪流沿いの林の林床に群落を作って生育

【特記事項】

1269 (カタバミ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類(EN)

〔和名〕 オオヤマカタバミ

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔学名〕 *Oxalis obtriangulata* Maxim.

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までの報告数12件と比べ今回は8件と減少している。本種は非線引き都市計画区域に分布しており、開発や栽培目的の採取による個体数の減少が心配される。

【県内分布状況】 秩父市、寄居町の低山帯に分布

【県内生育状況】 沢沿いの杉林や落葉樹林の湿った林床に生育

【特記事項】

1270 (フウロソウ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠA類(CR)

〔和名〕 グンナイフウロ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Geranium onoei* Franch. et Sav. var. *onoei* f. *onoei*

【評価所見】 確認個体数は100を超えない。2005年までの報告は2件で、今回は5件であったが増加とは考えられない。本種は開発による減少の心配は少ないが、シカなどの動物の食害がひどく極端に減少している。

【県内分布状況】 秩父市の亜高山帯に分布

【県内生育状況】 亜高山帯の草原に生育。ただし、現在は食害の及ばない岩上等に限られる。

【特記事項】

1271 (フウロソウ科)

〔和名〕 **カイフウロ**〔学名〕 *Geranium shikokianum* Matsum. var. *kaimontanum* (Honda) Honda et H.Hara

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

【評価所見】 確認個体数は100を超えない。2005年までの報告と今回の報告は同一地点。開発による減少の心配は少ないが、シカなどの動物の食害がひどく極端に減少している。

【県内分布状況】 秩父市の亜高山帯に分布

【県内生育状況】 亜高山帯の草原に生育

【特記事項】

1272 (フウロソウ科)

〔和名〕 **コフウロ**〔学名〕 *Geranium tripartitum* R.Knuth

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年までの報告数7件と比べ今回は11件とやや増加しているが、これは調査が進んだためと考えられる。本種は森林伐採や栽培目的の採取、そしてシカなどの動物の食害による個体数の減少が心配される。

【県内分布状況】 飯能市の低山帯～秩父市、小鹿野町の低山帯・山地帯まで広く分布

【県内生育状況】 溪流沿いの林の湿った林床や草地に生育

【特記事項】

1273 (アマ科)

〔和名〕 **マツバニンジン**〔学名〕 *Linum stelleroides* Planch.

埼玉カテゴリ 絶滅(EX)

全国カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

【評価所見】 旧版植物誌では2郡市で記録がある。新版植物誌以降、県内では生育は確認されておらず絶滅したものと思われる。

【県内分布状況】 北足立郡、南埼玉郡に分布した。

【県内生育状況】 日当たりの良い草地や河原の砂礫地に生育した。

【特記事項】 近隣の県では長野県・群馬県D D、栃木県・神奈川県E Xとされている。最近、帰化種のキバナノマツバニンジンや園芸品の逸出があり注意が必要である。

1274 (トウダイグサ科)

〔和名〕 **ノウルシ**〔学名〕 *Euphorbia adenochlora* C.Morren et Decne.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 確認個体数は10000以上。2005年までの報告数34件と比べ今回は63件と増加しているが、これは調査が進んだためと考えられる。本種は線引き都市計画区域の河川敷等の湿地に多く分布しているため、開発による減少が心配される。

【県内分布状況】 荒川西台地、大宮台地、加須・中川低地に広く分布

【県内生育状況】 河川敷内の湿地や湿った所に群生して生育

【特記事項】

1275 (トウダイグサ科)

〔和名〕 **マルミノウルシ (ベニタイゲキ)**〔学名〕 *Euphorbia ebracteolata* Hayata

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年までの報告数7件と比べ今回1件と減っており、減少傾向にあると思われる。開発により生育地が破壊される心配がある。

【県内分布状況】 低山帯～山地帯に分布

【県内生育状況】 林縁の開けた場所に生育

【特記事項】

1276 (トウダイグサ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

〔和名〕 シナノタイゲキ (ハヤザキタカトウダイ)

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Euphorbia sinanensis* (Hurus.) T. Kuros. et H. Ohashi

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年までの報告数2件と比べ今回は8件と増えているが、これは調査が進んだためと考えられる。本種は著しい隔離分布をしている貴重な種である。石灰岩上に生育するため石灰岩の採掘で生育地が奪われることが心配される。

【県内分布状況】 秩父市の低山帯や小鹿野町の山地帯に分布

【県内生育状況】 石灰岩上の草地に生育

【特記事項】

1277 (トウダイグサ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

〔和名〕 ヤマアイ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Mercurialis leiocarpa* Siebold et Zucc.

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年までの報告数1件と比べ今回5件と増えた。本県では2か所の限られた生育地にだけ分布しているため、開発や人による採取により個体数が減少する心配がある。

【県内分布状況】 秩父市と小鹿野町の低山帯に分布

【県内生育状況】 河畔、溪谷沿いなどのやや湿潤な林縁に生育

【特記事項】

1278 (ミカン科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕 フユザンショウ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Zanthoxylum armatum* DC. var. *subtrifoliatum* (Franch.) Kitam.

【評価所見】 確認個体数は10000未満。2005年までの調査では7件の報告がある。今回の調査も8件の報告がある。二次メッシュによる分布では総計で9区画が記録されている。本種はおもに線引き都市計画区域に生育しており、土地の開発や森林伐採による減少が考えられる。

【県内分布状況】 丘陵帯～低山帯に分布する。

【県内生育状況】 常緑広葉樹林や二次林の林内に生育する。

【特記事項】 暖地生の植物で関東以西に分布する。

1279 (ヒメハギ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

〔和名〕 ヒナノキンチャク

全国カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

〔学名〕 *Polygala tatarinowii* Regel

【評価所見】 確認個体数は100を超えない。2005年までに報告された場所で今回も確認されている。本県では今まで1か所でしか見つかっていない。人による採取の心配は少ないが、石灰岩採掘跡地の開発による減少が心配される。

【県内分布状況】 小鹿野町の低山帯上部に分布

【県内生育状況】 石灰岩の採掘跡地の草原に生育

【特記事項】

1280 (ドクウツギ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

〔和名〕 ドクウツギ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Coriaria japonica* A. Gray

【評価所見】 確認個体数は100を超えない。2005年までの報告数7件と比べ今回は1件と減った。本種は種子が有毒であるため除去されることが多く、分布と個体数が減少している可能性が高い。本県でも限られた場所にしか生育せず減少が心配される。

【県内分布状況】 長瀨町の丘陵帯に分布

【県内生育状況】 川沿いの岩の割れ目に生育

【特記事項】

1281 (ツリフネソウ科)

〔和名〕 **ワタラセツリフネソウ**〔学名〕 *Impatiens ohwadae* M. Watanabe et Seriz.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は1000未満。今回の調査で2件の報告がある。二次メッシュによる分布では総計で2区画が記録されている。本種は線引き都市計画区域に生育し、生育環境である湿地が減少傾向にある。

【県内分布状況】 加須・中川低地～大宮台地に分布する。

【県内生育状況】 河川敷内の低湿地や台地縁のやや湿り気のある林縁に生育する。

【特記事項】 以前はツリフネソウと混同されていた。近年分類が確立し低地に生育するツリフネソウを見直す必要がある。

1282 (クロウメモドキ科)

〔和名〕 **ミヤマクマヤナギ**〔学名〕 *Berchemia pauciflora* Maxim.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は100を超えない。2005年までの報告数12件と比べ今回3件と減少した。本種は今のところ2か所しか確認できていない。分布から見て開発による減少の心配は少ないが、シカなどの動物による食害が目立ってきており、減少が心配である。

【県内分布状況】 秩父市と小鹿野町の山地帯に分布

【県内生育状況】 石灰岩上に生育

【特記事項】

1283 (クロウメモドキ科)

〔和名〕 **クロカンバ**〔学名〕 *Rhamnus costata* Maxim.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年までの報告数8件と比べ今回6件と減少した。本種は分布から見て開発による減少はあまり心配ないが、シカなどの動物の食害による減少が心配である。

【県内分布状況】 秩父市の山地帯～亜高山帯下部にかけて分布

【県内生育状況】 石灰岩上や岩礫地の林内に生育

【特記事項】

1284 (クロウメモドキ科)

〔和名〕 **クロツバラ**〔学名〕 *Rhamnus davurica* Pall. var. *nipponica* Makino

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年までの報告数は4件記録されているが、それ以降記録がなく減少傾向にあると思われる。

【県内分布状況】 低山帯～山地帯に分布

【県内生育状況】 開けた明るい林に生育

【特記事項】

1285 (ジンチョウゲ科)

〔和名〕 **チョウセンナニワズ**〔学名〕 *Daphne koreana* Nakai

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年までの報告数6件と比べ今回32件(13地点)と増加したが、調査が進んだためと考えられる。分布から見て開発による減少はあまり心配ない。シカの食害を受けないため、生育地を広げているという報告もある。

【県内分布状況】 秩父地方の低山帯～亜高山帯に分布

【県内生育状況】 石灰岩地の林床に生育

【特記事項】

1286 (ジンチョウゲ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

〔和名〕 オニシバリ (ナツボウス)

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Daphne pseudomezereum* A. Gray

【評価所見】 確認個体数は100を超えない。2005年までの報告数2件と比べ今回1件と減少した。本種は線引き都市計画区域に分布しており、開発や下草刈りによって個体数が減少する心配がある。

【県内分布状況】 丘陵南と低山東に分布

【県内生育状況】 落葉樹林内に生育

【特記事項】

1287 (ジンチョウゲ科)

埼玉カテゴリ 絶滅(EX)

〔和名〕 コガンピ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Diplomorpha ganpi* (Siebold et Zucc.) Nakai

【評価所見】 旧版植物誌には比企・入間郡市に記録がある。その後もいくつかの生育記録があるが、1998年版植物誌以後の調査で報告がなく、絶滅したものと思われる。

【県内分布状況】 不明

【県内生育状況】 関東以南の暖地に分布し、日当たりの良い山野に生育した。

【特記事項】 標本は滑川町1970年(堀江)がある。文献は立正大学熊谷校舎付近産植物目録1982年、飯能市史(飯能の自然-植物)1977年、狭山丘陵の植物1977年などがある。

1288 (スミレ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

〔和名〕 エゾノタチツボスミレ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Viola acuminata* Ledeb.

【評価所見】 確認個体は10000を越える。集団数も多い。2005年までに3件の報告があったが、今回は6件(1か所)の報告があった。シカなどの動物の食害による個体数の減少、植生の乾燥化に伴い生育環境の悪化が懸念される。

【県内分布状況】 丘陵南・低山東・低山西～亜高山帯に分布している。

【県内生育状況】 自然林や自然湿地に生育する。

【特記事項】 距は短く丸い。萼片は細長い。柱頭の先は膨らみ突起毛がある。

1289 (スミレ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

〔和名〕 キバナノコマノツメ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Viola biflora* L.

【評価所見】 確認個体数は100未満。2005年までに5件の報告があるが、その後今回の調査では17件の報告がある。二次メッシュによる分布では今回までの総計で6区画から記録されている。都市計画区域外に分布する。観賞目的の採取により個体数の減少が考えられる。

【県内分布状況】 山地帯～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 山地草原・石灰岩の岩場に生育する。

【特記事項】 葉は腎形～円形、黄色の花をつける。

1290 (スミレ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

〔和名〕 ウスバスミレ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Viola blandaeformis* Nakai

【評価所見】 確認個体数は1000未満。2005年までに5件の報告があるが、その後今回の調査では10件の報告がある。二次メッシュによる分布では今回までの総計で4区画から記録されている。都市計画区域外に分布する。観賞目的の採取により個体数の減少が考えられる。

【県内分布状況】 亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 自然林の林内に生育する。

【特記事項】 関東地方が分布の南限。葉は腎形～円形、白色の花をつける。



1291 (スミレ科)

〔和名〕 ヒメミヤマスミレ

〔学名〕 *Viola boissieuana* Makino

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は1000未満。2005年までの調査で1件報告があったが見直しが必要である。今回の調査で新たに4件(1か所)の報告があった。個人的な栽培はなく、採取による個体数の減少は考えられない。

【県内分布状況】 丘陵南、荒川西台地に分布する。

【県内生育状況】 自然林内に生育する。

【特記事項】 フモトスミレより各花卉が長く、葉の裏が短緑色(フモトスミレは帯紫色)

1292 (スミレ科)

〔和名〕 ヒゴスミレ

〔学名〕 *Viola chaerophylloides* (Regel) W. Becker var. *sieboldiana* (Maxim.) Makino

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000未満。2005年までの報告は9件あったが、今回の調査では8件の報告があった。販売目的の採取が見られ個体数の減少に影響している。また、栽培個体からの逸出と思われる個体も見つかり、報告されている。

【県内分布状況】 低地～山地にかけて分布しており、逸出個体が都市部でも報告されている。

【県内生育状況】 自然林の林内に生育する。

【特記事項】 葉は付け根の部分から5つに分かれる。

1293 (スミレ科)

〔和名〕 サクラスミレ

〔学名〕 *Viola hirtipes* S. Moore

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 II類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は1000未満。2005年まで報告数は1件のみであったが、今回の調査では3件の報告があった。花卉が大きく美しいため栽培目的の採集が見られ個体数の減少につながっている。また、生育地ではシカの食害により生育環境が極端に悪化している。

【県内分布状況】 低山西～山地帯にかけて分布する。

【県内生育状況】 自然林の林内に生育する。

【特記事項】 日本のスミレ属の中で最大の花をつける。

1294 (スミレ科)

〔和名〕 コミヤマスミレ

〔学名〕 *Viola maximowicziana* Makino

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000未満。2005年までの報告は2件であったが、今回の調査では9件の報告がある。線引き都市計画区域にあり、開発圧の高い地域に分布している。また、販売目的の採取が見られ、県内においては絶滅の危機に瀕している。

【県内分布状況】 丘陵南～低地東に分布する。

【県内生育状況】 自然林の林内に生育する。

【特記事項】 葉は長卵形でまばらに長毛が散生する。花期が他のスミレ類に比べて遅い。

1295 (スミレ科)

〔和名〕 タチスミレ

〔学名〕 *Viola raddeana* Regel

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリー 絶滅危惧 II類(VU)

【評価所見】 確認個体数は100未満。県内において過去に報告があったが、今回の調査において再発見された。本種は線引き都市計画区域に生育しており、開発圧が高い。観賞目的の採取があり、個体数を減少させる要因になっている。

【県内分布状況】 加須・中川低地に分布する。

【県内生育状況】 河川敷内の氾濫原や低湿地に生育する。利根川水系の河川敷内のヨシ群落内に生育する。

【特記事項】 花はツボスミレに似ており、葉は長披針形、托葉は大きい。文献は北川辺の植物1985年がある。

1296 (スミレ科)

〔和名〕 **アケボノスミレ**〔学名〕 *Viola rossii* Hemsl.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を越え、県内に広く分布している。販売目的の採取が見られ、シカによる食害の激しい地域に分布し、今後極端な個体数の減少が予想される。

【県内分布状況】 県内全域に分布する。

【県内生育状況】 二次林の林内に生育する。

【特記事項】 花弁は紅紫色、距は太く短い。葉は花期には開いていないことが多い。

1297 (スミレ科)

〔和名〕 **ミヤマスミレ**〔学名〕 *Viola selkirkii* Pursh ex Goldie

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000未満。都市計画区域外に生育しており、開発による個体数の減少は考えられない。販売目的の採取があり、個体数を減少させる要因になっている。また、本種の生育地はシカによる食害の激しい地域にあり、直接の食害のみならず、乾燥化により絶滅が危惧される。

【県内分布状況】 山地帯～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 自然林の林内に生育する。

【特記事項】 花弁は紫色。距は長く、萼片の先端とは反対側の付属体に短い歯牙がある。

1298 (スミレ科)

〔和名〕 **シコクスミレ**〔学名〕 *Viola shikokiana* Makino

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000未満、低山帯から亜高山帯にかけて広く分布している。都市計画区域外に生育しており、開発による個体数減少は考えられない。販売目的の採取があり個体数を減少させる要因になっている。また、本種の生育地はシカによる食害の激しい地域にあり、直接の食害のみならず、乾燥化により絶滅が危惧される。

【県内分布状況】 低山帯～亜高山帯にかけて分布する。

【県内生育状況】 二次林の林内に生育する。

【特記事項】 花弁は白色、距は短く、萼片の先端とは反対側の付属体に尾状の歯牙がある。

1299 (スミレ科)

〔和名〕 **エゾアオイスミレ (マルバケスミレ)**〔学名〕 *Viola teshioensis* Miyabe et Tatew.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は100未満。亜高山帯に分布する。大宮台地のものは栽培していたものが逸出したものと考えられる。都市計画区域外に生育しており、開発による個体数減少は考えられない。

【県内分布状況】 亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 県内では石灰岩の岩場に生育する。

【特記事項】 アオイスミレと違い花期に開いた葉がない。また、花期も早い。

1300 (スミレ科)

〔和名〕 **ゲンジスミレ**〔学名〕 *Viola variegata* Fisch. ex Ging. var. *nipponica* Makino

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は100未満、二次メッシュによる分布では今回までの総計で3区画から記録されている。2005年までに1件の報告があり、今回の調査では2件の報告があった。観賞目的の採取があり、個体数の減少につながっていると考えられる。また、本種の生育地はシカによる食害の激しい地域にあり、直接の食害のみならず、乾燥化により絶滅が危惧される。

【県内分布状況】 低山西～亜高山帯にかけて分布している。

【県内生育状況】 自然林の林内に生育している。

【特記事項】 葉は円形～楕円形である。葉裏は濃紫色

1301 (スミレ科)

〔和名〕 マキノスミレ

〔学名〕 *Viola violacea* Makino var. *makinoi* (H. Boissieu) Hiyama ex F. Maek.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000未満。2005年までに9件の報告があり、今回の調査で16件の報告があった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で6区画から記録されている。販売目的の採取があり個体数を減少させる要因になっている。また、本種の生育地はシカによる食害の激しい地域にあり、直接の食害のみならず、乾燥化により絶滅が危惧される。

【県内分布状況】 丘陵帯～低山帯にかけて分布している

【県内生育状況】 二次林の林内に生育している。

【特記事項】 葉裏は、はじめ紫色を帯びるがその後緑色に変わる。

1302 (スミレ科)

〔和名〕 ヒメスミレサイシン

〔学名〕 *Viola yazawana* Makino

埼玉カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は100未満。2005年までは6件の報告があり、今回の調査では10件の報告があった。観賞目的の採取があり、個体数の減少につながっていると考えられる。また、本種の生育地はシカによる食害の激しい地域にあり、直接の食害のみならず、乾燥化により絶滅が危惧される。

【県内分布状況】 山地帯～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 自然林の林内に生育する。

【特記事項】 分布は中部地方や関東地方北部に限定されており、フォッサマグナ要素といわれる植物のひとつである。

1303 (ウリ科)

〔和名〕 ゴキヅル

〔学名〕 *Actinostemma tenerum* Griff.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までの報告数14件と比べ今回5件と減少した。本種は線引き都市計画区域に分布するため、開発による減少とアレチウリなどの外来種との競争による減少が心配される。

【県内分布状況】 加須・中川低地に分布

【県内生育状況】 河川敷・池沼の岸など水辺の草地に生育

【特記事項】 2005年以前の山地帯など9件の分布は疑問

1304 (ミソハギ科)

〔和名〕 ヒメミソハギ

〔学名〕 *Ammannia multiflora* Roxb.

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までの報告数31件と比べ今回8件と減った。本種の生育地の多くが線引き都市計画区域にあり、開発による水田の減少によって個体数が減る心配がある。

【県内分布状況】 加須・中川低地～丘陵南、秩父市の低山帯の水田地帯に分布

【県内生育状況】 水田やその周囲の畦や水路に生育

【特記事項】 最近帰化種のホソバヒメミソハギが増えている、ヒメミソハギとの競合が考えられる。

1305 (ミソハギ科)

〔和名〕 エゾミソハギ

〔学名〕 *Lythrum salicaria* L.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年までの報告数2件と比べ今回8件と増えたのは、調査が進んだためと考えられる。本種の生育地の多くが線引き都市計画区域にあるため、開発による減少と花を目的とした採取が心配される。

【県内分布状況】 加須・中川低地や長瀨町の池沼に分布

【県内生育状況】 湿地や用水・池沼わきの湿った草原等に生育

【特記事項】 ミソハギに混じり栽培される例がある。分布には注意が必要

1306 (ミソハギ科)

〔和名〕 **ミズマツバ**〔学名〕 *Rotala mexicana* Cham. et Schldl.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までの報告数23件と比べ今回8件と減った。生育地が線引き都市計画区域にあるため、開発による水田の減少によって個体数が減る心配がある。

【県内分布状況】 加須・中川低地～台地・丘陵帯までの水田地帯に分布

【県内生育状況】 水田や畦、休耕田等に生育

【特記事項】

1307 (ヒシ科)

〔和名〕 **ヒメビシ**〔学名〕 *Trapa incisa* Siebold et Zucc.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年までの報告数9件と比べ今回も9件と同じであるが、今回は県東部で新たな生育地が多く見つかった。生育地が線引き都市計画区域にあるため、池沼の埋め立てや水質悪化によって個体数が減る心配がある。

【県内分布状況】 加須・中川低地～丘陵帯まで分布

【県内生育状況】 池沼、用水に生育

【特記事項】

1308 (ヒシ科)

〔和名〕 **ヒシ**〔学名〕 *Trapa japonica* Flerow

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を超える。2005年までの報告数12件と比べ今回16件と増えたのは、調査が進んだためと考えられる。本種は生育地の多くが線引き都市計画区域にあるため、池沼の埋め立てや水質悪化によって個体数が減る心配がある。

【県内分布状況】 加須・中川低地～丘陵帯まで分布

【県内生育状況】 池沼、用水に生育

【特記事項】

1309 (ヒシ科)

〔和名〕 **オニビシ**〔学名〕 *Trapa natans* L. var. *quadrispinosa* (Roxb.) Makino

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。今回、メビシを本種に含めて扱った。今回の報告は3件であった。本種は生育地が線引き都市計画区域にあるため、池沼の埋め立てや水質悪化によって個体数が減る心配がある。

【県内分布状況】 加須・中川低地に分布

【県内生育状況】 池沼に生育

【特記事項】

1310 (アカバナ科)

〔和名〕 **ヤナギラン**〔学名〕 *Chamerion angustifolium* (L.) Holub

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までの報告数7件と比べ今回3件と激減した。本種は亜高山帯の草原に生育するため、シカなどの動物による激しい食害を受けており、個体数を激減させている。今回の報告された2件も柵等で保護されたものである。

【県内分布状況】 秩父市の亜高山帯に分布

【県内生育状況】 亜高山帯の草原や林縁に生育

【特記事項】

1311 (アカバナ科)

〔和名〕 ウシタキシソウ

〔学名〕 *Circaea cordata* Royle

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までは9件の報告があった。今回報告がなく減少傾向にあると思われるが、調査不足の面も否めない。

【県内分布状況】 秩父市の低山帯～山地帯にかけて分布

【県内生育状況】 林縁に生育

【特記事項】

1312 (アカバナ科)

〔和名〕 ホソバアカバナ (ヤナギアカバナ)

〔学名〕 *Epilobium palustre* L.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年までに1件の報告があったが今回報告がなく、減少傾向にあると思われる。本種は河原に生育するため、河川改修や洪水によって生育地が奪われる心配がある。

【県内分布状況】 秩父市の低山帯に分布

【県内生育状況】 河原の砂礫地に生育

【特記事項】

1313 (アカバナ科)

〔和名〕 トダイアカバナ

〔学名〕 *Epilobium platystigmatosum* C. B. Rob.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリー 絶滅危惧 II 類(VU)

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年までの報告数3件と比べ今回8件と増えたのは、調査が進んだためと考えられる。林道脇に多く生育するため、道路整備や崖の崩壊、さらにはシカによる食害によって個体数が減少する心配がある。

【県内分布状況】 秩父市の山地帯に多く、低山東にも分布している。

【県内生育状況】 林道脇の開けた場所や岩壁に生育

【特記事項】

1314 (アカバナ科)

〔和名〕 ウスゲチョウジタデ

〔学名〕 *Ludwigia epilobioides* Maxim. subsp. *greatrexi* (H. Hara) Raven

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 II 類(VU)

全国カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 確認個体数は1000未満。2005年までの調査では3件の報告がある。今回の調査で17件と増加しているのは、調査が進んだためと考えられる。二次メッシュによる分布では総計で12区画が記録されている。本種は線引き都市計画区域に生育する。主な生育環境の低湿地は減少傾向にある。

【県内分布状況】 加須・中川低地～台地帯に分布している。

【県内生育状況】 休耕田や池沼わきの低湿地に生育する。

【特記事項】

1315 (アカバナ科)

〔和名〕 ミズユキノシタ

〔学名〕 *Ludwigia ovalis* Miq.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は100を超えない。2005年までの報告数1件で今回も1件であったが前回とは異なる場所であった。本種は生育地が線引き都市計画区域にあるため、埋め立て等の開発や水質悪化によって個体数が減る心配がある。

【県内分布状況】 丘陵帯に分布

【県内生育状況】 谷地田や池沼に生育

【特記事項】

1316 (アカバナ科)

〔和名〕 **ミズキンバイ**〔学名〕 *Ludwigia peploides* (Kunth) Raven subsp. *stipulacea* (Ohwi) Raven

埼玉カテゴリ 情報不足(DD)

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【評価所見】 旧版植物誌には記録されなかった。その後、入間市の記録があったが、1998 版植物誌では生育が確認できなかった。2007 年の調査で発見されたが、個体数も少なく生育環境が不安定である。

【県内分布状況】 大宮台地（さいたま市）

【県内生育状況】 池沼や水田の畔や溝にはうようにひろがっている。

【特記事項】 文献は入間市の植物 1974 年がある。本種は見沼田んぼに生育するとの情報があったが、確認できなかった。水草として売買されており、外来種もあり注意が必要である。

1317 (アリノトウグサ科)

〔和名〕 **ホザキノフサモ**〔学名〕 *Myriophyllum spicatum* L.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は 10000 を超えない。2005 年までの報告数は本庄市の 3 件であるが、今回は 4 件である。本種は生育地が線引き都市計画区域にあり、開発や水質悪化による減少が心配される。

【県内分布状況】 加須・中川低地に分布

【県内生育状況】 水田わきの用水や小河川に生育

【特記事項】 開花個体以外ではフサモと混同している可能性がある。

1318 (アリノトウグサ科)

〔和名〕 **タチモ**〔学名〕 *Myriophyllum ussuriense* (Regel) Maxim.

埼玉カテゴリ 絶滅(EX)

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 旧版植物誌では 5 郡市で記録されているが、それ以降の報告は記録されておらず絶滅したと思われる。

【県内分布状況】 加須・中川低地～丘陵帯に分布した。

【県内生育状況】 池沼、ため池に生育した。

【特記事項】 標本は牧野標本館の収蔵標本に上尾市 1904 年、寄居町 1904 年の 2 点がある。文献は狭山丘陵の植物 1977 年がある。

1319 (アリノトウグサ科)

〔和名〕 **フサモ**〔学名〕 *Myriophyllum verticillatum* L.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は 10000 を超えない。2005 年までの報告数 18 件と比べ今回は 4 件と減っている。本種は生育地が線引き都市計画区域にあり、開発や水質悪化による減少が心配される。

【県内分布状況】 加須・中川低地～台地まで分布

【県内生育状況】 水田わきの用水や小河川に生育

【特記事項】 開花個体以外ではホザキノフサモと混同している可能性がある。

1320 (スギナモ科)

〔和名〕 **スギナモ**〔学名〕 *Hippuris vulgaris* L.

埼玉カテゴリ 絶滅(EX)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 旧版植物誌では秩父郡での報告が記録されているが、それ以降の報告は記録されておらず絶滅したと思われる。

【県内分布状況】 加須・中川低地および秩父郡に分布した。

【県内生育状況】 池沼に生育した。

【特記事項】 文献は宝蔵寺沼およびその周辺の湿地植物 1982 年(安田)、羽生のムジナモ(羽生地区水生植物について) 1963 年(大滝末男)がある。なお、日本野外植物図譜 1984 年(奥山)に用いられた標本は羽生市三田ヶ谷産である。

1321 (ウコギ科)

〔和名〕 **ミヤマウド**〔学名〕 *Aralia glabra* Matsum.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 個体数は10000を超えない。2005年までの報告数7件で、今回は1件の報告がある。シカなどの動物による食害により減少傾向にあると考えられる。

【県内分布状況】 亜高山帯に分布

【県内生育状況】 自然林の林縁に生育

【特記事項】

1322 (ウコギ科)

〔和名〕 **ウラジロウコギ**〔学名〕 *Eleutherococcus hypoleucus* (Makino) Nakai

埼玉カテゴリー 絶滅危惧ⅠA類(CR)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は100を超えない。2005年までの報告数4件に比べ今回2件と減った。本種は生育地から考えて開発による影響は少ないと思われるが、シカによる食害がひどく個体数の減少が心配される。

【県内分布状況】 秩父市の山地帯～亜高山帯に分布

【県内生育状況】 石灰岩の岩壁に生育

【特記事項】

1323 (セリ科)

〔和名〕 **ハナビゼリ**〔学名〕 *Angelica inaequalis* Maxim.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年までの報告数4件と比べ今回3件であった。本種は生育地から考えて開発による影響は少ないと予想されるが、シカによる食害で個体数の減少が心配される。

【県内分布状況】 小鹿野町の低山帯に分布

【県内生育状況】 沢沿いの湿った林床に生育

【特記事項】

1324 (セリ科)

〔和名〕 **エキサイゼリ**〔学名〕 *Apodicarpum ikenoi* Makino

埼玉カテゴリー 絶滅危惧ⅠA類(CR)

全国カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年までの報告数1件と比べ今回5件と増えたのは、調査が進んだためと考えられる。生育地が練引き都市計画区域にあり開発による減少が心配されるものの、一部を除き保護対象になっている。

【県内分布状況】 加須・中川低地と大宮台地の荒川沿いに分布

【県内生育状況】 河川敷内の湿地やアシ原の下に生育

【特記事項】

1325 (セリ科)

〔和名〕 **ホタルサイコ**〔学名〕 *Bupleurum longiradiatum* Turcz. var. *elatus* (Koso-Pol.) Kitag.

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までの報告数11件と比べ今回14件であった。本種はシカによる食害が顕著で個体数の減少が心配される。また、石灰岩地に生育することから一部生育地では採掘による減少も心配される。

【県内分布状況】 秩父地方の山地帯～亜高山帯にかけて分布

【県内生育状況】 県内では石灰岩の岩壁上に生育するものが多い。

【特記事項】

1326 (セリ科)

〔和名〕 ミシマサイコ

〔学名〕 *Bupleurum scorzonerifolium* Willd.

埼玉カテゴリ 絶滅(EX)

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【評価所見】 旧版植物誌では3件の報告が記録されているが、それ以降の報告はなく絶滅したものと思われる。

【県内分布状況】 丘陵帯～低山帯に分布した。

【県内生育状況】 草原に生育した。

【特記事項】 標本は国立科学博物館に収蔵されているが詳細なデータは不明。文献は武甲山の植物 1987年(守屋)、寄居町史(植物) 1986年、入間市の植物 1973年などがある。

1327 (セリ科)

〔和名〕 オオバチドメ

〔学名〕 *Hydrocotyle javanica* Thunb.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000未満。2005年までの調査では2件の報告がある。今回の調査も3件の報告がある。二次メッシュによる分布では総計で3区画が記録されている。本種は主に非線引き都市計画区域に生育している。シカなどによる踏みつけや森林伐採による減少が考えられる。

【県内分布状況】 丘陵帯～低山帯に分布する。

【県内生育状況】 スギの植林地や二次林のやや湿り気のある林床に生育する。

【特記事項】 暖地生の植物で国内では関東以西に分布する。

1328 (セリ科)

〔和名〕 イブキボウフウ

〔学名〕 *Libanotis coreana* (H. Wolff) Kitag.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000未満。2005年までの調査では17件の報告がある。今回の調査では18件の報告があった。二次メッシュによる分布では総計で11区画が記録されている。いずれも都市計画区域外に生育しており、開発による減少は考えられないが、シカなど動物の食害が目立ち減少している。

【県内分布状況】 低山帯～亜高山帯まで広く分布する。

【県内生育状況】 山地草原や石灰岩地の岩場に生育する。

【特記事項】

1329 (セリ科)

〔和名〕 タニミツバ

〔学名〕 *Pimpinella serra* Franch. et Sav.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は100を超えない。2005年までは2件(いずれも城峰山)の報告が記録されているが、それ以降の報告はなく減少傾向にあると考えられる。生育地は開発による破壊の心配はないものの、シカによる食害が心配されている。

【県内分布状況】 城峰山に分布

【県内生育状況】 林床に生育

【特記事項】

1330 (セリ科)

〔和名〕 シムラニンジン

〔学名〕 *Pterygopleurum neurophyllum* (Maxim.) Kitag.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠA類(CR)

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【評価所見】 確認個体数は100を超えない。2005年まではさいたま市秋ヶ瀬で1件報告が記録されているが、それ以降報告がないので、減少傾向にあると考えられる。本種は生育地からみて開発による減少の危険性は少ないと考えられる。

【県内分布状況】 大宮台地の荒川沿いに分布

【県内生育状況】 河川の氾濫原の湿地に生育

【特記事項】



1331 (セリ科)

〔和名〕 ヤマナシウマノミツバ

〔学名〕 *Sanicula kaiensis* Makino et Hisauti

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年までは3件の報告が記録されているが、いずれもほぼ同一場所と考えられる。それ以降の報告は記録されておらず、減少傾向にあると考えられる。本種は生育地が開発により破壊される心配はないものの、シカによる食害が心配される。

【県内分布状況】 秩父市の亜高山帯に分布

【県内生育状況】 落葉広葉樹林の林床に生育

【特記事項】

1332 (セリ科)

〔和名〕 ムカゴニンジン

〔学名〕 *Sium sisarum* L.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は100を超えない。今のところ確実な生育地は1か所だけで、保護されているが個体数の減少が心配である。

【県内分布状況】 丘陵南に分布

【県内生育状況】 丘陵の縁の湿地に生育

【特記事項】 調査終了後、日高市で生育が確認された。

1333 (セリ科)

〔和名〕 ヌマゼリ (サワゼリ)

〔学名〕 *Sium suave* Walter var. *nipponicum* (Maxim.) H. Hara

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリー 絶滅危惧 II類(VU)

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年までは1件の報告が記録されているがその後報告がないので、減少傾向にあると考えられる。本種は生育地の分布からみて湿地の埋め立て等による開発による減少が心配される。

【県内分布状況】 丘陵北に分布

【県内生育状況】 池沼わきの湿地などに生育

【特記事項】 旧版植物誌には入間・北埼玉郡に記録がある。その後の文献では伊奈町、日高市など7件の報告があり広く分布していたと思われる。

1334 (セリ科)

〔和名〕 ヒロハヌマゼリ

〔学名〕 *Sium suave* Walter var. *ovatum* (Yatabe) H. Hara

埼玉カテゴリー 情報不足(DD)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 旧版植物誌では北足立郡市での報告が記録されているが、それ以降の報告がないので絶滅の可能性も含めてDDと判断した。

【県内分布状況】 大宮台地の荒川沿いに分布

【県内生育状況】 湿地に生育

【特記事項】 国立科学博物館の収蔵標本に白子村(現和光市)1894年(牧野富太郎)がある。ヌマゼリと比べ、本種は葉が卵形または卵円形、基部がときに心形となる点で区別される。

1335 (セリ科)

〔和名〕 ミヤマウイキョウ (イワウイキョウ)

〔学名〕 *Tilingia tachiroei* (Franch. et Sav.) Kitag.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までの報告数6件と比べ今回9件であった。本種はシカによる食害や踏みつけが顕著で個体数の減少が心配される。

【県内分布状況】 秩父市の山地帯上部～亜高山帯にかけて分布

【県内生育状況】 石灰岩の岩壁上に生育

【特記事項】

1336 (イワウメ科)

〔和名〕 ヒメイワカガミ

〔学名〕 *Schizocodon ilicifolius* Maxim.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000以上。2005年までの報告は11件、今回の報告が34件に増加しているのは、調査が進んだためと思われる。二次メッシュによる分布では今回までの総計で6区画から記録されている。本種は都市計画区域外に多く分布しており開発の危険はない。販売目的による採取、踏みつけや食害の危険性はあると考えられる。

【県内分布状況】 山地帯及び亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 プナ帯～シラビソ帯の自然林の林床に生育する。

【特記事項】 本州中部・北部に分布する。

1337 (イチヤクソウ科)

〔和名〕 ウメガサソウ

〔学名〕 *Chimaphila japonica* Miq.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年までの報告は2件、今回の報告が25件に増加しているのは、調査が進んだためと思われる。二次メッシュによる分布では今回までの総計で8区画から記録されている。本種は都市計画区域外に多く分布しており開発の危険はない。販売目的などによる採取、踏みつけや食害の危険性はあると考えられる。

【県内分布状況】 低山帯～山地帯に分布する。

【県内生育状況】 コナラ林などの二次林の林床に生育する。

【特記事項】

1338 (イチヤクソウ科)

〔和名〕 シャクジョウソウ

〔学名〕 *Monotropa hypopithys* L.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までの報告は4件、今回の報告は7件とわずかに増加している。二次メッシュによる分布では今回までの総計で6区画から記録されている。都市計画区域外に分布するため開発の危険や採取を受ける危険性は少ないが、踏みつけや食害の危険性はあると考えられる。

【県内分布状況】 丘陵北部～山地帯にかけて分布する。

【県内生育状況】 自然林の林床に生育する。

【特記事項】

1339 (イチヤクソウ科)

〔和名〕 アキノギンリョウソウ

〔学名〕 *Monotropa uniflora* L.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年までの報告はなかったが、今回は2件報告がある。二次メッシュによる分布では今回までの総計で1区画から記録されているだけである。都市計画区域外に分布するため、開発の危険及び採取を受ける危険性は少ないが、動物による食害の危険性はあると考えられる。

【県内分布状況】 山地帯に分布する。

【県内生育状況】 自然林の林床に生育する。

【特記事項】

1340 (イチヤクソウ科)

〔和名〕 ベニバナイチヤクソウ

〔学名〕 *Pyrola asarifolia* Michx. subsp. *incarnata* (DC.) E. Murray

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年までの報告は6件、今回の報告は2件に減少している。二次メッシュによる分布では今回までの総計で2区画から記録されている。本種は都市計画区域外に分布するため、開発による危険性は少ないが、シカによる食害を受けかなり減少したとの報告があり、食害の危険性は大きいと考えられる。

【県内分布状況】 山地帯～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 コメツガ林など自然林の林床に生育する。

【特記事項】

1341 (イチヤクソウ科)

〔和名〕 ジンヨウイチヤクソウ

〔学名〕 *Pyrola renifolia* Maxim.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年までの報告は1件、今回の報告も1件のみである。二次メッシュによる分布では今回までの総計で2区画から記録されている。本種は都市計画区域外に分布するため、開発による危険性は少ないが、踏みつけや動物による食害の危険性は考えられる。

【県内分布状況】 山地帯～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 コメツガなど針葉樹林帯の林床に生育する。

【特記事項】

1342 (ツツジ科)

〔和名〕 サラサドウダン

〔学名〕 *Enkianthus campanulatus* (Miq.) G. Nicholson

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までの報告は25件、今回の報告は28件ある。二次メッシュによる分布では今回までの総計で12区画から記録されている。本種は都市計画区域外に分布するため、開発による危険性は少ないが、販売目的などの採取、踏みつけ、森林伐採、動物による食害の危険性は考えられる。

【県内分布状況】 山地帯～亜高山帯に広く分布する。

【県内生育状況】 自然林の林床に生育する。

【特記事項】

1343 (ツツジ科)

〔和名〕 チチブドウダン (ペニドウダン)

〔学名〕 *Enkianthus cernuus* (Siebold et Zucc.) Makino f. *rubens* (Maxim.) Ohwi

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までの報告は29件、今回の報告は13件に減少している。二次メッシュによる分布では今回までの総計で11区画から記録されている。本種は都市計画区域外に分布するため、開発による危険性は少ないが、販売目的などの採取や動物による食害の危険性は考えられる。

【県内分布状況】 低山帯～亜高山帯に広く分布する。

【県内生育状況】 岩礫地上の自然林内に生育する。

【特記事項】

1344 (ツツジ科)

〔和名〕 ウラジロハナヒリノキ

〔学名〕 *Leucothoe grayana* Maxim. var. *hypoleuca* Nakai

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 II 類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までの報告は3件、今回の報告も3件である。二次メッシュによる分布では今回までの総計で3区画から記録されている。本種は都市計画区域外に分布するため、開発による危険性は少ないが、販売目的などの採取や自然遷移による減少の危険性は考えられる。

【県内分布状況】 山地帯～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 石灰岩地以外の岩場に生育する。

【特記事項】

1345 (ツツジ科)

〔和名〕 イワナンテン

〔学名〕 *Leucothoe keiskei* Miq.

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000以上。2005年までの報告は14件、今回の報告は16件である。二次メッシュによる分布では今回までの総計で8区画から記録されている。本種は都市計画区域外に分布するため、開発による危険性は少ないが、園芸採取や森林伐採、自然乾燥の影響を受ける危険性は考えられる。

【県内分布状況】 低山帯～亜高山帯まで分布する。

【県内生育状況】 溪谷などの湿った岩上の自然林内に生育する。

【特記事項】

1346 (ツツジ科)

〔和名〕 **ウラジロヨウラク**〔学名〕 *Menziesia multiflora* Maxim.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までの報告は4件、今回の報告は9件である。二次メッシュによる分布では今回までの総計で5区画から記録されている。本種は都市計画区域外に分布するため、開発による危険性は少ないが、踏みつけによる危険性はあると考えられる。

【県内分布状況】 山地帯～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 表土の浅い湿潤な自然林内に生育する。

【特記事項】

1347 (ツツジ科)

〔和名〕 **ハクサンシャクナゲ**〔学名〕 *Rhododendron brachycarpum* D. Don ex G. Don

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000未満。2005年までの調査では4件の報告がある。今回の調査では10件の報告があった。二次メッシュによる分布では総計で3区画が記録されている。本種はいずれも都市計画区域外に生育しており、開発による減少は考えられないが、森林伐採や販売目的の採取が心配される。

【県内分布状況】 亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 県境尾根沿いの岩場等に多く生育する。

【特記事項】 本県ではアズマシャクナゲより少なく、高地に生育する。

1348 (ツツジ科)

〔和名〕 **アズマシャクナゲ (シャクナゲ)**〔学名〕 *Rhododendron degronianum* Carrière

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000以上。2005年までの報告は13件、今回の報告は34件であるが、調査が進んだためと考えられる。二次メッシュによる分布では今回までの総計で7区画から記録されている。本種は都市計画区域外に分布するため、開発による危険性は少ないが、森林伐採や販売を目的とする採取を受ける危険性はある。

【県内分布状況】 山地帯～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 自然林内に生育する。

【特記事項】

1349 (ツツジ科)

〔和名〕 **ヒカゲツツジ**〔学名〕 *Rhododendron keiskei* Miq.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までの報告は15件、今回の報告は20件である。二次メッシュによる分布では今回までの総計で13区画から記録されている。本種は都市計画区域外に分布するため開発による危険性は少なく、森林伐採や自然乾燥化、販売を目的とする採取の危険性はあると考えられる。

【県内分布状況】 低山帯～亜高山帯にかけて分布する。

【県内生育状況】 沢筋や尾根の岩上の自然林内に生育する。

【特記事項】

1350 (ツツジ科)

〔和名〕 **ウラジロヒカゲツツジ**〔学名〕 *Rhododendron keiskei* Miq. var. *hypoglaucum* Sutô et T. Suzuki

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠA類(CR)

全国カテゴリ 絶滅危惧ⅠA類(CR)

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年までの報告は3件、今回の報告は4件である。二次メッシュによる分布では今回までの総計で2区画から記録されている。都市計画区域外に分布するため開発による危険性は少ないものの、販売目的の採取や食害を受ける危険性はあると考えられる。

【県内分布状況】 山地帯に分布する。

【県内生育状況】 尾根筋の岩上に生育する。

【特記事項】 分布が埼玉県と栃木県に局限されている。

1351 (ツツジ科)

〔和名〕 **レンゲツツジ**〔学名〕 *Rhododendron molle* (Blume) G. Don subsp. *japonicum* (A. Gray) K. Kron

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までの報告は7件、今回は2件と減少している。二次メッシュによる分布では今回までの総計で5区画から記録されている。本種は都市計画区域外に分布し開発による危険性は少ないが、販売を目的とする採取や自然乾燥化の危険性はあると考えられる。

【県内分布状況】 台地～亜高山帯まで広く分布する。

【県内生育状況】 二次林～自然林まで林内や草原に生育する。

【特記事項】

1352 (ツツジ科)

〔和名〕 **アカヤシオ**〔学名〕 *Rhododendron pentaphyllum* Maxim. var. *nikoense* Komatsu

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までの報告は16件、今回の報告は34件である。二次メッシュによる分布では今回までの総計で15区画から記録されている。本種は都市計画区域外に分布し開発による危険性は少ないが、森林伐採や販売を目的とする採取の危険性はあると考えられる。

【県内分布状況】 低山帯～亜高山帯まで分布する。

【県内生育状況】 自然林内や尾根筋の岩場に生育する。

【特記事項】

1353 (ツツジ科)

〔和名〕 **シロヤシオ (ゴヨウツツジ)**〔学名〕 *Rhododendron quinquefolium* Bisset et S. Moore

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までの報告は6件、今回の報告は9件である。二次メッシュによる分布では今回までの総計で8区画から記録されている。本種は都市計画区域外に分布し開発による危険性は少ないが、森林伐採や販売を目的とする採取、自然遷移の影響の危険性はあると考えられる。

【県内分布状況】 低山帯～山地帯に分布する。

【県内生育状況】 自然林内の岩場に生育する。

【特記事項】

1354 (ツツジ科)

〔和名〕 **オオヤマツツジ**〔学名〕 *Rhododendron transiens* Nakai

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は100を超えない。2005年までの報告は2件、二次メッシュによる分布は今回までの総計で1区画。本種は都市計画区域外に分布し開発による危険性は少ないが、販売を目的とする採取の危険性はあると考えられる。

【県内分布状況】 丘陵南 (寄居町)

【県内生育状況】 日当たりの良い斜面に生育する。

【特記事項】

1355 (ツツジ科)

〔和名〕 **コメツツジ**〔学名〕 *Rhododendron tschonoskii* Maxim.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年までの報告は4件、今回の報告は7件である。二次メッシュによる分布では今回までの総計で3区画から記録されている。本種は都市計画区域外に分布し開発による危険性は少ないが、踏みつけや動物による食害、販売を目的とする採取の危険性はあると考えられる。

【県内分布状況】 山地帯～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 尾根筋のチャート岩壁に生育する。

【特記事項】

1356 (ツツジ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

〔和名〕 ハコネコメツツジ

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

〔学名〕 *Rhododendron tsusioophyllum* Sugim.

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までの報告は5件、今回の報告は20件である。二次メッシュによる分布では今回までの総計で5区画から記録されている。都市計画区域外に分布するが、踏みつけや動物による食害、販売を目的とする採取の危険性はあると考えられる。

【県内分布状況】 山地帯～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 尾根筋のチャート岩壁や岩棚などに生育する。

【特記事項】 フォッサマグナ要素の植物とされ秩父山地に多い。

1357 (ツツジ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

〔和名〕 クロウスゴ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Vaccinium ovalifolium* Sm.

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までの報告は1件、今回の報告も1件のみである。二次メッシュによる分布では今回までの総計で1区画だけである。本種は都市計画区域外に分布し開発による危険性は少ないが、踏みつけの危険性はあるものと考えられる。

【県内分布状況】 亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 県境尾根沿いの岩場や林縁に生育する。

【特記事項】

1358 (ツツジ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

〔和名〕 コケモモ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Vaccinium vitis-idaea* L.

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までの報告は1件、今回の報告は9件である。二次メッシュによる分布では今回までの総計で3区画から記録されている。本種は都市計画区域外に分布し開発による危険性はないが、踏みつけや個人的栽培による採取を受ける危険性はあると考えられる。

【県内分布状況】 亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 県境尾根沿いの岩場や林縁に生育する。

【特記事項】

1359 (ガンコウラン科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

〔和名〕 ガンコウラン

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Empetrum nigrum* L. var. *japonicum* K. Koch

【評価所見】 確認個体数は100を超えない。2005年までの報告はなかったが、今回の報告では2件ある。二次メッシュによる分布では今回までの総計で1区画から記録されているだけである。本種は都市計画区域外に分布し開発による危険性や採取を受ける危険性は少ないものと考えられる。

【県内分布状況】 亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 西破風山の北側岩塊地に生育する。

【特記事項】

1360 (サクランボ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

〔和名〕 ノジトラノオ

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

〔学名〕 *Lysimachia barystachys* Bunge

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までの報告は13件、今回の報告では6件に減少している。二次メッシュによる分布では今回までの総計で10区画から記録されている。線引き都市計画区域に分布する状況にあることから開発による危険性や自然乾燥化、園芸採取の危険性があるものと考えられる。

【県内分布状況】 低地帯～低山帯まで分布する。

【県内生育状況】 草地や山地草原に生育する。

【特記事項】

1361 (サクラソウ科)

〔和名〕ヌマトラノオ

〔学名〕*Lysimachia fortunei* Maxim.

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を超える。2005年までの報告は63件、今回の報告では23件に減少している。二次メッシュによる分布では今回までの総計で25区画から記録されている。本種は線引き都市計画区域に分布し、開発による危険性と自然遷移や自然乾燥化による危険性があると考えられる。

【県内分布状況】 低地帯～丘陵帯に広く分布する。

【県内生育状況】 河川敷や休耕田など湿性の草地に生育する。

【特記事項】

1362 (サクラソウ科)

〔和名〕サワトラノオ

〔学名〕*Lysimachia leucantha* Miq.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

【評価所見】 確認個体数は100未満と少ない。2005年までの報告はなく、今回の報告はわずか1件である。二次メッシュによる分布でも今回まで1区画のみ記録されているだけである。本種は、販売目的や園芸採取の危険性は少ないものの、道路建設のために生育地消滅の危機に瀕している。

【県内分布状況】 荒川沿いの大宮台地に分布する。

【県内生育状況】 河川敷内の自然湿地や休耕田に生育する。県希少野生動植物種保護条例指定種

【特記事項】

1363 (サクラソウ科)

〔和名〕クサレダマ

〔学名〕*Lysimachia vulgaris* L. var. *davurica* (Ledeb.) R. Knuth

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年までの報告は3件、今回の報告もわずか1件のみである。二次メッシュによる分布でも今回まで3区画から記録されているだけである。本種は線引き都市計画区域に分布するため開発による危険や自然遷移、販売を目的とする採取の危険性があると考えられる。

【県内分布状況】 加須・中川低地、荒川西台地、丘陵帯南部に分布する。

【県内生育状況】 自然湿地及び草地・草原に生育する。

【特記事項】

1364 (サクラソウ科)

〔和名〕クリンソウ

〔学名〕*Primula japonica* A. Gray

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は100未満と少ない。2005年までの報告はわずか1件のみで、今回の報告は2件だけである。二次メッシュによる分布でも今回まで3区画から記録されているだけである。本種は、都市計画区域外に分布し開発による危険性はない。自然遷移や販売を目的とする採取の危険性はあると考えられる。

【県内分布状況】 丘陵南及び山地帯～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 自然湿地に生育する。

【特記事項】 園芸用に植栽された個体があり、丘陵地の記録は疑問。

1365 (サクラソウ科)

〔和名〕コイワザクラ

〔学名〕*Primula reinii* Franch. et Sav.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリー 絶滅危惧 II類(VU)

【評価所見】 確認個体数は10000を超える。2005年までの報告はないが、今回の報告は4件である。二次メッシュによる分布でも今回まで1区画から記録されている。本種は、都市計画区域外に分布し開発による危険性はないものの、園芸採取の危険性がある。

【県内分布状況】 山地帯に分布する。

【県内生育状況】 落葉広葉樹林のやや湿り気のある岩場に生育する。

【特記事項】

1366 (サクラソウ科)

〔和名〕クモイコザクラ

〔学名〕*Primula reinii* Franch. et Sav. var. *kitadakensis* (H. Hara) Ohwi

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までの報告は2件のみで、今回の報告は4件である。二次メッシュによる分布でも今回まで4区画から記録されている。本種は、都市計画区域外に分布し開発による危険性はないものの、園芸採取や自然遷移の影響を受ける危険性がある。

【県内分布状況】 山地帯～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 針葉樹林帯のやや湿り気のある岩場に生育する。

【特記事項】

1367 (サクラソウ科)

〔和名〕チチブイワザクラ

〔学名〕*Primula reinii* Franch. et Sav. var. *rhodotricha* (Nakai et F. Maek.) T. Yamaz.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリ 情報不足(DD)

【評価所見】 確認個体数は100未満である。2005年までの報告は1件のみで、今回の報告はない。二次メッシュによる分布でも今回まで1区画から記録されているだけである。本種は、生育地が武甲山の石灰岩壁に限られた固有種であるため、石灰岩の採掘によりかつての生育地は失われている。

【県内分布状況】 山地帯に分布する。

【県内生育状況】 石灰岩の岩壁の割れ目や岩棚に生育する。県希少野生動植物種保護条例指定種

【特記事項】

1368 (サクラソウ科)

〔和名〕サクラソウ

〔学名〕*Primula sieboldii* E. Morren

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までの報告は1件であるが、今回の報告は5件(1地点)である。二次メッシュによる分布でも今回まで1区画から記録されているだけである。線引き都市計画区域に分布するため開発や販売目的の採取、自然遷移及び自然乾燥化による減少の危険性がある。

【県内分布状況】 荒川沿いの大宮台地に分布する。

【県内生育状況】 自然湿地に生育する。

【特記事項】 さいたま市田島ヶ原は国指定の特別天然記念物として保護されている。県希少野生動植物種保護条例指定種

1369 (サクラソウ科)

〔和名〕ツマトリソウ

〔学名〕*Trientalis europaea* L.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年までの報告は1件のみである、今回は11件の報告があるが、調査が進んだためと考えられる。二次メッシュによる分布でも今回まで4区画から記録されている。本種は、都市計画区域外に分布し開発による危険性はないが、森林伐採や動物の食害、園芸採取の危険性はあると考えられる。

【県内分布状況】 亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 登山道わきの草地や明るい林縁に生育する。

【特記事項】

1370 (モクセイ科)

〔和名〕ハシドイ

〔学名〕*Syringa reticulata* (Blume) H. Hara

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は100を超えない。2005年までは1件報告されている。今回新たな報告はない。都市計画区域外に分布する。石灰岩の採掘や園芸採取により減少している。

【県内分布状況】 山地帯～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 県内ではおもに石灰岩地に生育する。

【特記事項】 旧版植物誌には秩父郡市に記録がある。過去の標本は自然の博物館に収蔵されている。



1371 (マチン科)

〔和名〕 ヒメナエ

〔学名〕 *Mitrasacme indica* Wight

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリー 絶滅危惧 II類(VU)

【評価所見】 確認個体数は100を超えない。2005年では報告がなくDDとされたが、今回は3件(1地点)の報告がされている。二次メッシュによる分布では今回までの総計で1区画から記録されている。線引き都市計画区域に分布する状況にあるが、目立たない小型の植物で採取の危険性は低い。除草剤の使用により絶滅が心配される。

【県内分布状況】 丘陵帯～加須・中川低地に分布する。

【県内生育状況】 農道わきなど、やや湿り気のある、日当たりの良い草地に生育する。

【特記事項】 旧版植物誌には秩父・児玉郡市を除く県内各地に記録がある。

1372 (マチン科)

〔和名〕 アイナエ

〔学名〕 *Mitrasacme pygmaea* R. Br.

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までは8件報告されている。今回5件の報告がある。二次メッシュによる分布では今回までの総計で9区画から記録されている。線引き都市計画区域に分布する。採集価値は低く絶滅の危険性は低い。

【県内分布状況】 加須・中川低地～低山帯まで広く分布する。

【県内生育状況】 日当たりの良い原野や湿地に生育する。

【特記事項】

1373 (リンドウ科)

〔和名〕 コケリンドウ

〔学名〕 *Gentiana squarrosa* Ledeb.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は100を超えない。2005年までに報告はなかったが今回1件報告された。二次メッシュによる分布では1区画の記録である。都市計画区域外に分布する。園芸目的による採取の危険性が高い。

【県内分布状況】 丘陵北に分布する。

【県内生育状況】 日当たりの良い草地に生育する。

【特記事項】 標本は長瀨町2010年(平)がある。文献は寄居町史(植物)1986年、大井町史1986年がある。

1374 (リンドウ科)

〔和名〕 チチブリンドウ (ヒロハヒゲリンドウ)

〔学名〕 *Gentianopsis contorta* (Royle) Ma

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

【評価所見】 確認個体数は100を超えない。2005年までに報告はなかったが今回は5件ある。二次メッシュによる分布では今回までの総計で3区画から記録されている。都市計画区域外に分布するものの、園芸採取の危険性は大きい。シカなどの動物による食害や踏みつけが目立つ。

【県内分布状況】 山地帯～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 石灰岩地に生育する。

【特記事項】 過去の標本は自然の博物館に収蔵されている。県希少野生動植物種保護条例指定種

1375 (リンドウ科)

〔和名〕 ハナイカリ

〔学名〕 *Halenia corniculata* (L.) Cornaz

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 II類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までに14件報告されており、今回は11件報告がある。二次メッシュによる分布では今回までの総計で5区画から記録されている。都市計画区域外に分布するものの、動物の食害や踏みつけによる減少が懸念される。

【県内分布状況】 山地帯～亜高山帯に分布する

【県内生育状況】 日当たりの良い山地草原や林道わきに生育する。

【特記事項】

1376 (リンドウ科)

〔和名〕 **ホソバノツルリンドウ** (ホソバツルリンドウ)〔学名〕 *Pterygocalyx volubilis* Maxim.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

【評価所見】 確認個体数は100を超えない。2005年までに4件報告されており、今回は3件報告がある。二次メッシュによる分布では今回までの総計で3区画から記録されている。都市計画区域外に分布するが、シカなど動物による食害や林床の乾燥化により減少する危険性が高い。

【県内分布状況】 山地帯～亜高山帯に分布する

【県内生育状況】 石灰岩地の草原に生育する。

【特記事項】

1377 (リンドウ科)

〔和名〕 **アケボノソウ**〔学名〕 *Swertia bimaculata* (Siebold et Zucc.) Hook. f. et Thomson ex C. B. Clarke

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は100を超えない。2005年までに1件報告されており、今回は2件報告がある。二次メッシュによる分布では今回までの総計で3区画から記録されている。都市計画区域外に分布する。園芸採取の危険性が高く依然絶滅の危機にあると考えられる。

【県内分布状況】 低山帯～山地帯に分布する。

【県内生育状況】 湿り気のある草地に生育する。

【特記事項】 亜高山帯の生育記録は誤認の可能性が高い。

1378 (リンドウ科)

〔和名〕 **センブリ**〔学名〕 *Swertia japonica* (Schult.) Makino

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000以上である。2005年までに33件報告されており、今回は19件報告がある。二次メッシュによる分布では今回までの総計で19区画から記録されている。非線引き都市計画区域に分布する。自然遷移の進行による林床の暗化や販売目的の採取による減少が懸念される。

【県内分布状況】 山地帯～丘陵帯にかけて広く分布する。

【県内生育状況】 山地の日当たりの良い草地や道路わき斜面に生育する。

【特記事項】

1379 (リンドウ科)

〔和名〕 **ムラサキセンブリ**〔学名〕 *Swertia pseudochinensis* H. Hara

埼玉カテゴリ 絶滅(EX)

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 旧版植物誌には3郡市に記録がある。その後も各地に記録が残っている。しかし、1998年版植物誌では記録されず、生育が確認されていない。絶滅したものと思われる。

【県内分布状況】 低地帯～丘陵帯に分布した。

【県内生育状況】 日当たりの良い草地に生育した。

【特記事項】 標本は国立科学博物館に収蔵されているが、データの詳細は不明である。文献は武蔵野の植物1965年(桧山)があるが、県内の記録と断定できない。

1380 (リンドウ科)

〔和名〕 **イヌセンブリ**〔学名〕 *Swertia tosaensis* Makino

埼玉カテゴリ 絶滅(EX)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

【評価所見】 旧版植物誌には3郡市に記録がある。その後も各地に記録が残っている。しかし、1998年版植物誌では記録されず、生育が確認されていない。絶滅したものと思われる。

【県内分布状況】 低地帯～丘陵帯に分布した。

【県内生育状況】 低湿地に生育した。

【特記事項】 標本は東京大学の収蔵標本に和光市1914年(S.Shimazu)がある。文献は朝霞市史1989年、桶川市史1987年、北本の植物1976年がある。

1381 (ミツガシワ科)

〔和名〕 ヒメシロアサザ

〔学名〕 *Nymphoides coreana* (H. Lévl.) H. Hara

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までに12件の報告がされており、今回は9件報告がある。二次メッシュによる分布では今回までの総計で8区画から記録されている。線引き都市計画区域に分布し、園芸目的での採取が見られる。ガガブタ同様に水質の悪化、埋め立て、除草剤使用などのため減少している。

【県内分布状況】 加須・中川低地に分布する。

【県内生育状況】 休耕田や水田などに生育する。

【特記事項】

1382 (ミツガシワ科)

〔和名〕 ガガブタ

〔学名〕 *Nymphoides indica* (L.) Kuntze

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年では3件報告されており、今回は新たに1件報告されている。二次メッシュによる分布では今回までの総計で3区画から記録されている。線引き都市計画区域に分布し、水質の悪化や埋め立てなどにより減少している。旧版植物誌では広く7郡市で記録されており、急激に減少している。

【県内分布状況】 加須・中川低地に分布する。

【県内生育状況】 池沼や用水路内に生育する。

【特記事項】

1383 (ミツガシワ科)

〔和名〕 アサザ

〔学名〕 *Nymphoides peltata* (S. G. Gmel.) Kuntze

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 確認個体数は10000以上である。2005年までは4件の報告があった。今回は13件報告されている。二次メッシュによる分布では今回までの総計で6区画から記録されている。線引き都市計画区域に分布し、除草剤の使用などによる水質の悪化が減少の要因と考えられる。

【県内分布状況】 加須・中川低地～大宮台地に分布する。

【県内生育状況】 池沼や河川内に生育する。

【特記事項】 観賞用に栽培品の移植が見られ、これらは分布が拡大している。

1384 (キョウチクトウ科)

〔和名〕 チョウジソウ

〔学名〕 *Amsonia elliptica* (Thunb.) Roem. et Schult.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 確認個体数は10000以上である。2005年までは10件の報告があった。今回は23件(8地点)報告されているが、調査が進んだためと考えられる。二次メッシュによる分布では今回までの総計で6区画から記録されている。線引き都市計画区域に分布し、園芸目的での採取が見られる。生育地の環境変化に伴って希少になっている。

【県内分布状況】 加須・中川低地～荒川沿いの大宮台地に分布する。

【県内生育状況】 河川敷内の湿った場所に生育する。

【特記事項】

1385 (ガガイモ科)

〔和名〕 コカモメヅル

〔学名〕 *Tylophora floribunda* Miq.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000未満。2005年までの調査では15件の報告がある。今回の調査で4件の報告がある。二次メッシュによる分布では総計で11区画が記録されている。本種は線引き都市計画区域に生育し、近年本種の生育環境である湿地が減少傾向にある。

【県内分布状況】 加須・中川低地～大宮台地や丘陵帯に分布している。

【県内生育状況】 河川敷内の低湿地に生育するオギ群落の中に絡まる。

【特記事項】 2005年までの15件の標本は花をつけた個体が少なく同定が難しい。

1386 (ガガイモ科)

〔和名〕クサタチバナ

〔学名〕*Vincetoxicum acuminatum* Decne.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までは2件の報告があった。今回は2件報告されている。二次メッシュによる分布では今回までの総計で2区画から記録されている。都市計画区域外に分布し、シカなど動物の食害は見られないが、踏みつけによる被害がある。

【県内分布状況】 秩父地方の山地帯に分布する。

【県内生育状況】 山地草原や明るい広葉樹林のやや乾いた林床に生育する。県内では石灰岩地に生育することが多い。

【特記事項】

1387 (ガガイモ科)

〔和名〕フナバラソウ

〔学名〕*Vincetoxicum atratum* (Bunge) C. Morren et Decne.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

【評価所見】 確認個体数は100を超えない。2005年までに2件報告があった。今回は1件報告されている。二次メッシュによる分布では今回までの総計で2区画から記録されている。非線引き都市計画区域に分布し、土地の開発や自然遷移による減少が見られる。

【県内分布状況】 低山西に分布する。

【県内生育状況】 明るい林の縁や中の草地にごく希に生育する。

【特記事項】

1388 (ガガイモ科)

〔和名〕ツルガシワ

〔学名〕*Vincetoxicum macrophyllum* Siebold et Zucc. var. *nikoense* Maxim.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年までに2件の報告があった。今回は1件報告されている。二次メッシュによる分布では今回まで1区画から記録されている。都市計画区域外に分布し、シカなど動物の食害は見られないが、踏みつけによる被害がある。

【県内分布状況】 秩父地方の山地帯に分布する。

【県内生育状況】 谷間の山道や林縁にごく希に生育する。

【特記事項】

1389 (ガガイモ科)

〔和名〕タチガシワ

〔学名〕*Vincetoxicum magnificum* (Nakai) Kitag.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までに11件の報告があった。今回は2件報告されている。二次メッシュによる分布では今回までの総計で9区画から記録されている。非線引き都市計画区域に分布し、土地の開発や自然遷移による減少が見られる。

【県内分布状況】 丘陵帯～山地帯にかけて広く分布する。

【県内生育状況】 落葉広葉樹林の林床に生育する。

【特記事項】

1390 (ガガイモ科)

〔和名〕スズサイコ

〔学名〕*Vincetoxicum pycnostelma* Kitag.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年までに6件の報告があり今回7件報告があった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で5区画から記録されている。非線引き都市計画区域にあり、採取の危険性は高くないが河川改修などによる減少が心配される。

【県内分布状況】 丘陵帯～低山帯に分布する。

【県内生育状況】 やや乾いた草地や河岸・河川敷の砂礫地に見られる。

【特記事項】

1391 (アカネ科)

〔和名〕 アリドオシ

〔学名〕 *Damnacanthus indicus* C. F Gaertn.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までに3件の報告があり今回3件新たに報告があった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で3区画から記録されている。非線引き都市計画区域に分布し、園芸採取の危険性がある。また森林伐採や土地の造成などによる減少が見られる。

【県内分布状況】 丘陵南と低山東に分布する。

【県内生育状況】 アラカシ・スダジイなどの常緑樹林の林床に生育する。

【特記事項】

1392 (アカネ科)

〔和名〕 キクムグラ

〔学名〕 *Galium kikumugura* Ohwi

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までに6件の報告があり、今回2件新たに報告されている。二次メッシュによる分布では今回までの総計で7区画から記録されている。非線引き都市計画区域に分布し採取の危険性は低い。近年減少が見られる。

【県内分布状況】 低山帯～山地帯に分布する。

【県内生育状況】 樹林帯の林床や草地に生育する。

【特記事項】

1393 (アカネ科)

〔和名〕 ハナムグラ

〔学名〕 *Galium tokyoense* Makino

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までに3件の報告があり、今回7件(4地点)新たに報告されている。二次メッシュによる分布では今回までの総計で6区画から記録されている。線引き都市計画区域に分布し、人為による採取の危険性は低い。河川敷の開発によって減少している。

【県内分布状況】 加須・中川低地～台地に分布する。

【県内生育状況】 河川敷内の湿地や休耕田に生育する。

【特記事項】

1394 (アカネ科)

〔和名〕 ホソバノヨツバムグラ

〔学名〕 *Galium trifidum* L. subsp. *columbianum* (Rydb.) Hultén

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000以上である。2005年までに13件報告されている。今回は1件の報告に留まるが、これは調査不足によると思われる。二次メッシュによる分布では今回までの総計11区画から記録されている。県内に広く分布するが湿地の開発などにより、減少傾向にある。

【県内分布状況】 低地帯～亜高山帯まで広く分布する。

【県内生育状況】 自然湿地に生育する。

【特記事項】

1395 (アカネ科)

〔和名〕 カワラマツバ

〔学名〕 *Galium verum* L. subsp. *asiaticum* (Nakai) T.Yamaz. var. *asiaticum* Nakai f. *lacteum* (Maxim.) Nakai

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までに5件報告されている。二次メッシュによる分布では今回までの総計で2区画から記録されている。河川の砂礫地や土手に生育、河川改修による影響が大きい。旧版植物誌では全県で記録されており、急激に減少している。

【県内分布状況】 丘陵北と山地帯に分布する。

【県内生育状況】 河川敷内の砂礫地、やや乾いた土手や草地に生育する。

【特記事項】

1396 (アカネ科)

〔和名〕 オオキヌタソウ

〔学名〕 *Rubia chinensis* Regel et Maack f. *mitis* (Miq.) Kitag.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年までに3件報告されている。今回は1件の報告に留まる。二次メッシュによる分布では今回までの総計で3区画から記録されている。都市計画区域外に生育し、人為による採取の危険性は低い。シカなど動物による食害や踏みつけが見られる。

【県内分布状況】 秩父地方の低山西～山地帯に分布する。

【県内生育状況】 自然林の林床に生育する。

【特記事項】

1397 (ヒルガオ科)

〔和名〕 マメダオシ

〔学名〕 *Cuscuta australis* R. Br.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリ 絶滅危惧ⅠA類(CR)

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年までに3件報告されている。今回は新たな報告はない。二次メッシュによる分布では今回までの総計で3区画から記録されている。県内に広く分布が見られたが、近年報告がなく減少していると思われる。

【県内分布状況】 丘陵帯～低山帯に分布する。

【県内生育状況】 日当たりの良い草地や畑に生育する。

【特記事項】 一年生の寄生植物でマメ科植物以外にも寄生する。

1398 (ムラサキ科)

〔和名〕 サワルリソウ

〔学名〕 *Ancistrocarya japonica* Maxim.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠA類(CR)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は100を超えない。2005年までに2件報告されている。今回は2件の報告がある。二次メッシュによる分布では今回までの総計で2区画から記録されている。関東が分布限界とされている。都市計画区域外に生育する。動物による食害により減少している。

【県内分布状況】 秩父地方の山地帯に分布する。

【県内生育状況】 沢沿いの湿った樹林内に生育する。

【特記事項】

1399 (ムラサキ科)

〔和名〕 オオルリソウ

〔学名〕 *Cynoglossum furcatum* Wall. var. *villosulum* (Nakai) Riedl

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までに4件報告されている。今回は15件の報告があるが、調査が進んだためと考えられる。二次メッシュによる分布では今回までの総計で6区画から記録されている。都市計画区域外に生育する。動物による食害によって減少している。

【県内分布状況】 秩父地方の低山帯～山地帯に分布する。

【県内生育状況】 沢沿いの斜面やスギ植林地の林縁に生育する。

【特記事項】

1400 (ムラサキ科)

〔和名〕 ムラサキ

〔学名〕 *Lithospermum erythrorhizon* Siebold et Zucc.

埼玉カテゴリ 野生絶滅(EW)

全国カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類(EN)

【評価所見】 旧版植物誌には秩父・入間郡市に記録がある。その後もいくつかの生育記録があるが、栽培品の可能性は否定できない。自生品の確実な記録は武甲山のものであるが、生育場所は石灰岩の採掘により消滅した。その一部が移植され栽培されている。

【県内分布状況】 秩父市武甲山

【県内生育状況】 山地の乾燥した草原に生育する。

【特記事項】 標本は国立科学博物館の収蔵標本に武甲山1956年(守屋)がある。文献は武甲山の植物1987年(守屋)がある。他にもいくつかの生育記録があるが、移植栽培品と思われる。

1401 (ムラサキ科)

〔和名〕 **ホタルカズラ**〔学名〕 *Lithospermum zollingeri* A. DC.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は100を超えない。2005年までに10件報告されている。今回11件の報告がある。二次メッシュによる分布では今回までの総計で7区画から記録されている。非線引き都市計画区域に分布している。土地開発や愛好家による園芸採取が多く、急激に減少している。

【県内分布状況】 丘陵帯～低山帯に分布する。

【県内生育状況】 崖の崩れた跡や斜面、林縁の乾いた草地、人手の入った二次林に生育する。

【特記事項】

1402 (ムラサキ科)

〔和名〕 **ヤマルリソウ**〔学名〕 *Omphalodes japonica* (Thunb.) Maxim.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までに9件報告されている。今回20件と増加したが、これは調査が進んだためと考えられる。二次メッシュによる分布では今回までの総計で6区画から記録されている。非線引き都市計画区域に分布している。土地開発や愛好家による園芸採取が見られる。

【県内分布状況】 丘陵帯～低山帯に分布する。

【県内生育状況】 二次林の林縁や沢沿いの草地に生育する。

【特記事項】

1403 (ムラサキ科)

〔和名〕 **ルリソウ**〔学名〕 *Omphalodes krameri* Franch. et Sav.

埼玉カテゴリ 絶滅(EX)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 旧版植物誌には比企郡市に記録がある。その後、小川町での採集記録がある。しかし、1998年版植物誌以後では生育確認の報告がなく、絶滅したものと思われる。

【県内分布状況】 小川町に分布した。

【県内生育状況】 二次林のやや湿った明るい林内に生育した。

【特記事項】 標本は小川町1981年(安田/他)、1982年(安田/他)、荒川村1956年(伊藤洋)などがある。文献は荒川本流の陸上植物相(埼玉県)1987年、入間の植物1973年、植物研究雑誌(21)片山村(現新座市)1947年(奥山)がある。

1404 (ムラサキ科)

〔和名〕 **タチカメバソウ**〔学名〕 *Trigonotis guilielmii* (A. Gray) A. Gray ex Gürke

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までに4件報告されている。今回7件(3地点)の報告がある。二次メッシュによる分布では今回までの総計で5区画から記録されている。都市計画区域外に分布している。シカなどの動物による食害や林床の乾燥化により減少している。

【県内分布状況】 山地帯～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 溪流沿いの湿地に生育する。

【特記事項】

1405 (ムラサキ科)

〔和名〕 **ツルカメバソウ**〔学名〕 *Trigonotis iinumae* (Maxim.) Makino

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠA類(CR)

全国カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類(EN)

【評価所見】 確認個体数は100を超えない。2005年までに1件報告されている。今回新たな報告はない。二次メッシュによる分布では今回まで1区画から記録されている。都市計画区域外に分布している。本州(中部・地方以北)に分布し希な植物である。

【県内分布状況】 低山帯～山地帯に分布する。

【県内生育状況】 やや湿った林内に生育する。

【特記事項】

1406 (クマツヅラ科)

〔和名〕 **カリガネソウ**〔学名〕 *Caryopteris divaricata* Maxim.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は100を超えない。2005年までに1件報告されている。今回新たな報告はない。二次メッシュによる分布では今回まで1区画から記録されている。近年生育の報告がなく希な植物となっている。

【県内分布状況】 台地～丘陵帯に分布する。

【県内生育状況】 谷津や麓の草地や林縁に生育する。

【特記事項】

1407 (クマツヅラ科)

〔和名〕 **クマツヅラ**〔学名〕 *Verbena officinalis* L.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までに10件報告されている。今回新たな報告はない。二次メッシュによる分布では今回までの総計で5区画から記録されている。線引き都市計画区域に分布している。河川開発や土地造成などにより減少傾向にある。

【県内分布状況】 加須・中川低地～丘陵帯に分布する。

【県内生育状況】 河川敷内の砂礫地、荒地や道端に生育する。

【特記事項】

1408 (シソ科)

〔和名〕 **カイジンドウ**〔学名〕 *Ajuga ciliata* Bunge var. *villosior* A. Gray ex Nakai

埼玉カテゴリ 情報不足(DD)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

【評価所見】 旧版植物誌や1998年版植物誌には生育記録がない。2003年都幾川村(現ときがわ町)で生育が確認された。しかし、その後の調査では同所で生育が確認できない。

【県内分布状況】 低山東(ときがわ町)

【県内生育状況】 東京都や千葉県の分布では関東ロームの開けたススキ草原に生育していたようである。

【特記事項】 文献はさいたま植物通信40号2009年がある。武蔵野の植物1965年(桧山)は埼玉県内の記録と断定できない。近県では東京都・千葉県・栃木県・神奈川県がEXにランクしている。

1409 (シソ科)

〔和名〕 **ヒイラギソウ**〔学名〕 *Ajuga incisa* Maxim.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までに6件報告されている。今回28件と増加したが、調査が進んだためと考えられる。二次メッシュによる分布では今回までの総計で7区画から記録されている。都市計画区域外に分布している。販売目的の採取および動物による食害で減少している。

【県内分布状況】 低山帯～山地帯に分布する。

【県内生育状況】 落葉広葉樹林の林床に生育する。

【特記事項】

1410 (シソ科)

〔和名〕 **オウギカズラ**〔学名〕 *Ajuga japonica* Miq.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までに7件報告されている。今回5件の報告がある。二次メッシュによる分布では今回までの総計で5区画から記録されている。都市計画区域外に分布し、採取や動物による食害の危険性は低い。

【県内分布状況】 低山帯～山地帯に分布する。

【県内生育状況】 落葉広葉樹林の林床に生育する。

【特記事項】



1411 (シソ科)

〔和名〕 ツルカコソウ

〔学名〕 *Ajuga shikotanensis* Miyabe et Tatew.

埼玉カテゴリー 絶滅(EX)

全国カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

【評価所見】 旧版植物誌には秩父・北足立郡市に記録がある。その後、嵐山町で採集記録があるが、1998年版植物誌以後では生育が確認されない。絶滅したものと思われる。

【県内分布状況】 丘陵北（嵐山町）に分布した。

【県内生育状況】 日当たりの良い草地や林縁に生育していた。

【特記事項】 標本は嵐山町 1984 年（安田／他）がある。文献は狭山丘陵の植物 1977 年がある。

1412 (シソ科)

〔和名〕 ツクバキンモンソウ

〔学名〕 *Ajuga yesoensis* Maxim. ex Franch. et Sav. var. *tsukubana* Nakai

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 II 類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は 10000 未満。2005 年までの調査では 4 件の報告がある。今回は 1 件の報告であるが、これは調査不足と考えられる。二次メッシュによる分布では総計で 4 区画が記録されている。土地開発や森林伐採による減少が考えられる。

【県内分布状況】 丘陵帯～低山帯に分布する。

【県内生育状況】 スギの植林地や二次林の明るい林床に生育する。

【特記事項】 ニシキゴロモの変種とされ、花冠上唇が短く 1mm 位で半円形となる。国内では関東以西の太平洋側に分布する。

1413 (シソ科)

〔和名〕 タカクマヒキオコシ

〔学名〕 *Isodon shikokianus* (Makino) H. Hara var. *intermedius* (Kudô) Murata

埼玉カテゴリー 情報不足(DD)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 旧版植物誌には生育記録がない。1986 年に旧神川町で生育が報告されたが、その後の調査では生育が確認できない。関東以西の太平洋側の本州・四国・九州に分布する。

【県内分布状況】 旧神川町

【県内生育状況】 森林内の樹陰に生育する。

【特記事項】 標本は神川町 1986 年（小島三郎）がある。ミヤマヒキオコシの変種で葉が細く、広披針形～長卵形。花冠は大きく 8～11 mm になる。

1414 (シソ科)

〔和名〕 キセワタ

〔学名〕 *Leonurus macranthus* Maxim.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリー 絶滅危惧 II 類(VU)

【評価所見】 確認個体数は 1000 を超えない。2005 年までに 4 件報告されている。今回新たな報告はない。二次メッシュによる分布では今回までの総計で 3 区画から記録されている。シカなど動物による食害が見られ個体数は減っている。

【県内分布状況】 丘陵帯～山地帯にかけて分布する。

【県内生育状況】 日当たりの良い草地に生育する。

【特記事項】

1415 (シソ科)

〔和名〕 マネキグサ

〔学名〕 *Loxocalyx ambiguus* (Makino) Makino

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 確認個体数は 10000 を超えない。2005 年までに 8 件報告されている。今回 22 件と増加したが、調査が進んだためと考えられる。二次メッシュによる分布では今回までの総計で 4 区画から記録されている。シカなど動物による食害が見られ個体数は減っている。

【県内分布状況】 低山帯～亜高山帯にかけて分布する。

【県内生育状況】 落葉広葉樹林の林縁や草地に生育する。

【特記事項】

1416 (シソ科)

〔和名〕 ヒメハッカ

〔学名〕 *Mentha japonica* (Miq.) Makino

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年までに5件報告されている。今回新たな報告はない。二次メッシュによる分布では今回までの総計で4区画から記録されている。線引き都市計画区域に分布している。湿地の開発や農薬の使用により急激に減少していると考えられる。

【県内分布状況】 加須・中川低地～台地に分布する。

【県内生育状況】 谷津田や休耕田などの湿地に生育する。

【特記事項】

1417 (シソ科)

〔和名〕 シラゲヒメジソ

〔学名〕 *Mosla hirta* (H. Hara) H. Hara

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は100未満。2005年までの調査では1件の報告がある。今回は報告がないが調査不足と考えられる。二次メッシュによる分布では1区画が記録されている。土地の造成や森林伐採による減少が考えられる。

【県内分布状況】 丘陵帯～低山帯に分布する。

【県内生育状況】 落葉広葉樹林の半日陰地に生育する。

【特記事項】

1418 (シソ科)

〔和名〕 ヤマジソ

〔学名〕 *Mosla japonica* (Benth. ex Oliv.) Maxim.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年までに7件報告されている。今回2件の報告と減ったが、これは調査不足と思われる。二次メッシュによる分布では今回までの総計で6区画から記録されている。非線引き都市計画区域に分布している。自然遷移の進行により生育環境が悪化し減少している。

【県内分布状況】 台地～山地帯にかけて広く分布する。

【県内生育状況】 日当たりの良い裸地や草地に生育する。

【特記事項】

1419 (シソ科)

〔和名〕 ミズネコノオ

〔学名〕 *Pogostemon stellatus* (Lour.) Kuntze

埼玉カテゴリ 絶滅(EX)

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 旧版植物誌には生育記録がなく、1998年版植物誌の調査でも報告がなかった。その後、川越市握津で1994年まで生育していた記録が報告されたが、その生育場所は残土置き場となり絶滅したと思われる。

【県内分布状況】 県内各地に分布した。

【県内生育状況】 池沼わきの湿地や水田に生育した。

【特記事項】 文献は武蔵野の植物1965年(桧山)があるが、県内の生育は特定できない。また、奥山野外植物図譜3(1984年)に用いられた標本は越谷市産とされている。

1420 (シソ科)

〔和名〕 ミズトラノオ (ムラサキミズトラノオ)

〔学名〕 *Pogostemon yatabeanus* (Makino) Press

埼玉カテゴリ 絶滅(EX)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

【評価所見】 旧版植物誌には4郡市に記録があり、東部の低地に広く分布していたようである。その後、さいたま市見沼区深作沼に生育の記録がある。1998年版植物誌以後の調査では、生育の記録がなく、絶滅したと思われる。

【県内分布状況】 県内各地の低地帯に分布した。

【県内生育状況】 池沼わきの湿地や水田に生育した。

【特記事項】 文献は深作沼動植物調査報告1980年(大宮市教育委員会)がある。また、与野植物誌1978年にすでに市内で見られなくなったとの報告がある。寺崎日本植物図譜1977年(奥山編)に用いられた標本は戸田ヶ原1931年産である。

1421 (シソ科)

〔和名〕 ミゾコウジュ

〔学名〕 *Salvia plebeia* R. Br.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 確認個体数は10000を超える。2005年までに85件報告されている。今回34件の報告がある。二次メッシュによる分布では今回までの総計で33区画から記録されている。線引き都市計画区域に分布している。かく乱に強いが自然遷移の進行により減少する傾向にある。

【県内分布状況】 加須・中川低地～低山帯にかけて広く分布する。

【県内生育状況】 湿った草地や裸地などでかく乱された所に生育する。

【特記事項】

1422 (シソ科)

〔和名〕 オカタツナミソウ

〔学名〕 *Scutellaria brachyspica* Nakai et H. Hara

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を超える。2005年までに16件報告されている。今回14件の報告がある。二次メッシュによる分布では今回までの総計で12区画から記録されている。低山帯や山地帯ではシカなど動物の食害や踏みつけが見られる。

【県内分布状況】 丘陵帯～山地帯にかけて広く分布する。

【県内生育状況】 樹林内の林床に生育する。

【特記事項】

1423 (シソ科)

〔和名〕 ヒメナミキ

〔学名〕 *Scutellaria dependens* Maxim.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年までに7件報告されている。今回2件の報告がある。二次メッシュによる分布では今回までの総計で6区画から記録されている。線引き都市計画区域に分布している。湿地開発や自然遷移の進行により減少している。

【県内分布状況】 加須・中川低地～丘陵帯に分布する。

【県内生育状況】 池沼わきや谷津田など自然湿地に生育する。

【特記事項】

1424 (シソ科)

〔和名〕 コナミキ

〔学名〕 *Scutellaria guilielmii* A. Gray

埼玉カテゴリ 情報不足(DD)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II 類(VU)

【評価所見】 旧版植物誌には生育記録がない。1998年版植物誌に坂戸市で生育が記録された。しかし、その後の調査では生育が確認できない。

【県内分布状況】 丘陵南(坂戸市)

【県内生育状況】 休耕田で湿地となっている所に自生していた。

【特記事項】 本種は環境省レッドVUにランクされており、近隣の千葉県ではEXとされている。

1425 (シソ科)

〔和名〕 トウゴクシソバツナミ

〔学名〕 *Scutellaria laeteviolacea* Koidz. var. *abbreviata* (H. Hara) H. Hara

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を超える。2005年までに特に報告はない。今回22件の報告があり、二次メッシュによる分布では今回までの総計で9区画から記録されている。都市計画区域外に分布している。シカなどの動物の食害や林床の乾燥化により減少している。

【県内分布状況】 低山帯～亜高山帯にかけて分布する。

【県内生育状況】 落葉広葉樹林の林床に生育する。

【特記事項】 ホナガツナミソウの変種とされ分類が難しく混同して扱われている。本種は山地帯を中心に分布するものと思われる。

1426 (シソ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕 **ホナガタツナミソウ** (ホナガタツナミ)〔学名〕 *Scutellaria laeteviolacea* Koidz. var. *maekawae* (H. Hara) H. Hara

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までに5件報告されている。今回1件の報告がある。二次メッシュによる分布では今回までの総計で3区画から記録されている。線引き都市計画区域に分布している。

【県内分布状況】 丘陵帯に分布する。

【県内生育状況】 二次林の林床に生育する。

【特記事項】 シソバタツナミソウと混同されていたと思われる。本種は丘陵帯を中心に分布する。

1427 (ナス科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

〔和名〕 **アオホオズキ**〔学名〕 *Physalistrum japonicum* (Franch. et Sav.) Honda

全国カテゴリ 絶滅危惧 II 類(VU)

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。今回の調査では2件の報告がある。国内の分布は関東地方南部から紀伊半島太平洋側、四国、九州とされており、埼玉県はその東限と考えられる。

【県内分布状況】 秩父地方の山地帯に分布する。

【県内生育状況】 ブナ帯の谷筋でやや湿りけのある林内に見られる。

【特記事項】 山地の溪流沿いに生育するため、採集される心配はないが、シカなどによる食害で個体数の減少が危惧される。

1428 (ゴマノハグサ科)

埼玉カテゴリ 絶滅(EX)

〔和名〕 **マルバノサウトウガラシ**〔学名〕 *Deinostema adenocaulum* (Maxim.) T. Yamaz.

全国カテゴリ 絶滅危惧 II 類(VU)

【評価所見】 旧版植物誌には4郡市に記録があり、かなり広い範囲に生育していたと思われる。その後、伊奈町丸山で1994年に生育記録があるが、1998年版植物誌以後の調査では発見されず、絶滅したものと思われる。

【県内分布状況】 低地帯～丘陵帯にかけての水田地帯に分布した。

【県内生育状況】 水田や休耕田などの湿地に生育した。

【特記事項】 文献は東松山市植物誌1972年がある。サウトウガラシと共存するが、本種は葉は卵円形で丸みを帯びる。また本種の花冠は約4mmと小形である点などで区別できる。

1429 (ゴマノハグサ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

〔和名〕 **サウトウガラシ**〔学名〕 *Deinostema violaceum* (Maxim.) T. Yamaz.

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 旧版植物誌には6郡市に記録があり、広い範囲に生育していたと思われる。2005年調査では生育の報告がなかったが、今回の調査では1件の報告があり、生育個体も100未満と少ない。マルバノサウトウガラシと混生していたといわれ、生育環境は同じと考えられる。いずれは絶滅が心配される。

【県内分布状況】 低地帯～丘陵帯にかけての水田に分布する。

【県内生育状況】 水田や休耕田などの湿地に生育する。

【特記事項】 前種に比べて本種は葉の先はとがり、脈が1本であることなどで区別できる。

1430 (ゴマノハグサ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕 **アブノメ**〔学名〕 *Dopatrium junceum* (Roxb.) Buch.-Ham. ex Benth.

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年調査では北埼玉郡を除き全県的に確認されているが、今回の調査では8件の報告がある。生育環境が水田わきなどに多く、除草剤などの使用が減少の要因と考えられる。

【県内分布状況】 低地帯～丘陵帯にかけての水田などに分布する。

【県内生育状況】 水田や休耕田などの湿地に生育する。

【特記事項】 オオアブノメに比べ生育地も多く、個体数もかなり見られるが、最近急激に減少している。

1431 (ゴマノハグサ科)

〔和名〕 タチコゴメグサ

〔学名〕 *Euphrasia maximowiczii* Wettst.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 県内では限られた地域に生育する。個体数も 1000 未満と少ない。生育場所はシカなどの食害が多く見られるが、本種は小型のため踏みつけによる影響がより大きい。

【県内分布状況】 秩父地方の山地帯～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 登山道脇の林縁などに見られる。

【特記事項】

1432 (ゴマノハグサ科)

〔和名〕 オオアブノメ

〔学名〕 *Gratiola japonica* Miq.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II 類(VU)

【評価所見】 2005 年調査では秩父・北埼玉郡を除き全県的に確認されているが、今回の調査では 4 件の報告がある。個体数も 1000 未満となっている。生育環境が水田わきなどに多く、水田の整地や除草剤などの使用が減少の要因と考えられる。

【県内分布状況】 低地帯～丘陵帯にかけての水田などに分布する。

【県内生育状況】 水田や休耕田などに生育する。

【特記事項】 アブノメに似るが、本種は大型で茎はやや太く、花冠は白色などで区別できる。

1433 (ゴマノハグサ科)

〔和名〕 ヤマウツボ

〔学名〕 *Lathraea japonica* Miq.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II 類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005 年調査では 3 件の報告があったが、今回の調査では 8 件の報告がある。個体数は 1000 未満となっている。国内の分布は関東地方以西の本州、四国、九州となっている。

【県内分布状況】 低山帯～山地帯の林縁に分布する。

【県内生育状況】 湿り気のある落葉樹林内に生育する。石灰岩地帯に見られることが多い。

【特記事項】 葉緑体を欠く寄生植物。ブナ科やカバノキ科、ヤナギ科などの樹木の根に寄生する。全体白色で夏期は 5～6 月頃で、花穂が矢を入れる鞆（うづば）に似ていることから名付けられた。

1434 (ゴマノハグサ科)

〔和名〕 シソクサ

〔学名〕 *Limnophila chinensis* (Osbeck) Merr. subsp. *aromatica* (Lam.) T. Yamaz.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 旧版植物誌には全都市に記録があり、広い範囲に生育していたと思われる。2005 年調査では 3 件の報告になり、今回の調査でも 6 件の報告がある。個体数も 1000 未満と少ない。国内の分布は関東地方以西の本州、四国、九州となっている。

【県内分布状況】 低地帯～丘陵帯にかけて分布する。

【県内生育状況】 休耕田や谷津田などの湿地に生育する。

【特記事項】 葉肉内に油点があり、シソのにおいがするのでこの名がある。

1435 (ゴマノハグサ科)

〔和名〕 キクモ

〔学名〕 *Limnophila sessiliflora* (Vahl) Blume

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 旧版植物誌には全都市に記録があり、広い範囲に生育していたと思われる。今回の調査でも 24 件の報告があり、水田などにかなり広く生育している。しかし、近年水田の減少や農薬使用により急激に減少している。

【県内分布状況】 低地帯～丘陵帯の湿地や水田などに分布する。

【県内生育状況】 東部低地では除草剤の使用していない水田や休耕田などに生育する。

【特記事項】 水田雑草の中では農薬耐性が強いようで、その使用がなくなるといち早く見られるようになる。

1436 (ゴマノハグサ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

〔和名〕 **キタミソウ**

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

〔学名〕 *Limosella aquatica* L.

【評価所見】 旧版植物誌では越谷市やさいたま市岩槻区の元荒川河川敷内に生育が記録されている。その後、低地の各河川敷に分布を広げており、今回の調査でも 24 件の報告がある。国内の分布は北海道、関東、熊本と著しい隔離分布が見られる。

【県内分布状況】 低地帯の河川敷内に分布する。

【県内生育状況】 河川敷内で夏季は冠水し、冬季は泥湿地になるような環境に生育する。

【特記事項】 県希少野生動物植物種保護条例指定種。県内各地で保護活動が行われているが、一部河川改修等により減少している場所もある。

1437 (ゴマノハグサ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

〔和名〕 **スズメノトウガラシ**

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Lindernia antipoda* (L.) Alston

【評価所見】 旧版植物誌では全都市に記録され広く分布していた。2005 年調査では 3 件の記録がある。

【県内分布状況】 台地～丘陵帯の田畑縁に分布する。

【県内生育状況】 やや湿り気のある水田あぜや畑縁に生育する。

【特記事項】 田畑への除草剤の散布が減少の一因と考えられる。小さな植物で目立たないこともあり、今後の調査では記録が期待される。

1438 (ゴマノハグサ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

〔和名〕 **タカネママコナ**

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

〔学名〕 *Melampyrum laxum* Miq. var. *arcuatum* (Nakai) Soó

【評価所見】 個体数は 10000 未満、生育環境は亜高山帯の岩上に限られている。近年シカなどの食害が見られ減少している。国内の分布は秩父山地、八ヶ岳、甲斐駒ヶ岳、鳳凰山などに限られている。

【県内分布状況】 秩父地方の山地帯～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 稜線上の岩上に生育する。

【特記事項】 ミヤマママコナの変種とされ、全体やや小型で、花は黄白色で区別される。

1439 (ゴマノハグサ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕 **ミヤマママコナ**

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Melampyrum laxum* Miq. var. *nikkoense* Beauverd

【評価所見】 個体数は 10000 未満。生育環境は山地帯が主で、上記タカネママコナより低山に生育する。一部で近年シカなどの食害が見られやや減少している。

【県内分布状況】 秩父地方の山地帯に分布する。

【県内生育状況】 乾いた林縁や林内に生育する。

【特記事項】 タカネママコナと異なり、本種は花冠は紅紫色、花喉の両側に黄色の斑紋がある。

1440 (ゴマノハグサ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕 **ママコナ**

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Melampyrum roseum* Maxim. var. *japonicum* Franch. et Sav.

【評価所見】 旧版植物誌では 7 郡市に記録があり、台地や丘陵地にも生育していたようである。現在個体数は 10000 未満となっている。報告された記録は山地帯から低山帯が主で、台地丘陵地ではほとんど見られなくなった。

【県内分布状況】 低山帯～丘陵帯に広く分布する。

【県内生育状況】 中間温帯のやや乾いた林下や林縁に生育する。

【特記事項】 花は紅紫色で花喉の両側に白色の斑紋がある。一説ではこれを米粒に見立ててこの名が付けられた。

1441 (ゴマノハグサ科)

〔和名〕 スズメハコベ

〔学名〕 *Microcarpaea minima* (J. König ex Retz.) Merr.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリー 絶滅危惧 II類(VU)

【評価所見】 2005年調査では1件の記録があるが、今回の調査では記録されていない。国内の分布は関東地方以西の本州、四国、九州である。

【県内分布状況】 低地帯の水田などに分布する。

【県内生育状況】 水田や休耕田などの湿地に生育する。

【特記事項】 田や畔への除草剤の散布が減少の一因と考えられる。小さな植物で目立たないこともあり、今後の調査では記録が期待される。

1442 (ゴマノハグサ科)

〔和名〕 クチナシグサ

〔学名〕 *Monochasma sheareri* (S. Moore) Maxim.

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 旧版植物誌では7郡市に記録がある。今回の調査でも22件の報告があり、確認された個体数は10000以上とやや多い。国内の分布は関東地方以西の本州、四国、九州でやや雨量の少ない地域に分布する。

【県内分布状況】 台地～丘陵帯の落葉樹林に分布する。

【県内生育状況】 やや乾いた林内や林縁に生育する。

【特記事項】 里山のような人手の入った環境に生育するため、管理放棄により急激に個体数の減少が見られる。

1443 (ゴマノハグサ科)

〔和名〕 ハンカイシオガマ

〔学名〕 *Pedicularis gloriosa* Bisset et S. Moore

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 2005年調査では8件の記録があるが、今回の調査では2件の報告となっている。個体数は1000未満となっている。近年シカなどの食害が見られ減少している。国内の分布は東海や関東地方山地と限定的である。

【県内分布状況】 山地帯～亜高山帯の冷温帯に分布する。

【県内生育状況】 深山の林縁に生育する。

【特記事項】

1444 (ゴマノハグサ科)

〔和名〕 シオガマガク

〔学名〕 *Pedicularis resupinata* L. subsp. *oppositifolia* (Miq.) T. Yamaz.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 II類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 2005年調査では9件の記録があるが、今回の調査では11件の報告となっている。個体数は10000未満となっている。しかし、近年シカなどの食害がひどく成熟個体が著しく減少している。

【県内分布状況】 秩父地方の低山帯～山地帯に分布する。

【県内生育状況】 林道脇の日当たりの良い草地に生育する。

【特記事項】 生育地の多くは石灰岩地であり、園芸採取による減少も危惧される。

1445 (ゴマノハグサ科)

〔和名〕 ヒメトラノオ

〔学名〕 *Pseudolysimachion rotundum* (Nakai) Holub var. *petiolatum* (Nakai) T. Yamaz.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は100を超えない。2005年までに2件の報告があるが、その後報告がないので減少傾向にある可能性がある。二次メッシュによる分布では今回までの総計で2区画から記録されている。近年シカなどの食害が見られ減少している。国内の分布は中部や関東地方の山地と限定的である。

【県内分布状況】 亜高山帯で秩父市中津川三国尾根に分布する。

【県内生育状況】 林道脇の林縁や草地に生育する。

【特記事項】

1446 (ゴマノハグサ科)

〔和名〕 **ゴマノハグサ**〔学名〕 *Scrophularia buergeriana* Miq.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

【評価所見】 2005年調査では1件の記録があるが、今回の調査では確実な生育記録は報告されていない。個体数は100未満となっている。

【県内分布状況】 低地帯～台地に分布する。

【県内生育状況】 低湿地の草地に生育する。

【特記事項】 県内の確実な標本は1998年版埼玉県植物誌の調査で、さいたま市岩槻区から採集された1点だけである。

1447 (ゴマノハグサ科)

〔和名〕 **サツキヒナノウスツボ**〔学名〕 *Scrophularia musashiensis* Bonati

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年調査では23件の記録があるが、今回の調査では11件報告されている。個体数は10000以上だが、シカなどの食害が見られ減少していると思われる。国内の分布は関東地方秩父・奥多摩山地、中央アルプス、伊吹山と著しい隔離が見られる。

【県内分布状況】 低山帯～山地帯の樹林内に分布する。

【県内生育状況】 やや湿った樹林内に生育する。

【特記事項】 ヒナノウスツボに似るが、本種は葉腋から花序を出し、ふつう5月頃に開花する。

1448 (ゴマノハグサ科)

〔和名〕 **ヒキヨモギ**〔学名〕 *Siphonostegia chinensis* Benth. ex Hook. et Arn.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 旧版植物誌では全都市に記録されている。2005年調査では10件の記録があるが、今回の調査では5件の報告となっている。個体数は比較的多いが、10000を超えることはない。生育環境とされる日当たりの良い草原が管理放棄のため遷移が進行し、減少していると思われる。

【県内分布状況】 丘陵帯～低山帯に広く分布する。

【県内生育状況】 日当たりの良い草地に生育する。

【特記事項】 オオヒキヨモギに似るが、本種は葉や茎に開出した腺毛がない。

1449 (ゴマノハグサ科)

〔和名〕 **オオヒキヨモギ**〔学名〕 *Siphonostegia laeta* S. Moore

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

【評価所見】 2005年調査では12件の記録があり、今回の調査では6件報告されている。個体数は1000未満となっている。国内の分布は関東地方以西の本州、四国である。

【県内分布状況】 丘陵帯～台地帯のやや乾いた草地に分布する。

【県内生育状況】 山麓や尾根沿いのやや乾いた草地に生育する。

【特記事項】 林道の整備や遷移の進行が減少の要因と考えられる。

1450 (ゴマノハグサ科)

〔和名〕 **イヌノフグリ**〔学名〕 *Veronica polita* Fr. subsp. *lilacina* (T. Yamaz.) T. Yamaz.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

【評価所見】 旧版植物誌では全都市に記録がある。2005年調査では27件の報告があり、今回の調査では11件と減少している。確認された個体数は10000以上とやや多い。

【県内分布状況】 低地帯～丘陵帯の比較的人里に近い場所に分布する。

【県内生育状況】 草刈りなどが頻繁に行われる、地肌が露出したような場所に生育する。

【特記事項】 人里付近の畑地や路傍に見られるため、減少の要因は除草剤の使用や管理放棄による遷移の進行などが考えられる。



1451 (ゴマノハグサ科)

〔和名〕 **カワヂシャ**〔学名〕 *Veronica undulata* Wall.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 旧版植物誌では全都市に記録がある。2005年調査でも68件の報告があるが、今回の調査では18件と減少している。確認された個体数は10000以上とやや多い。

【県内分布状況】 低地帯～丘陵帯にかけて湿った場所に分布する。

【県内生育状況】 田の畔や川岸、側溝のふちなど湿ったところに生育する。

【特記事項】 水田の改良工事や河川改修の影響が減少の原因と考えられる。また、最近同じ環境にオオカワヂシャが侵入し、帰化競合による減少も危惧される。

1452 (ゴマノハグサ科)

〔和名〕 **クガイソウ**〔学名〕 *Veronicastrum japonicum* (Nakai) T. Yamaz.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 旧版植物誌では秩父・比企・入間の3都市に記録がある。2005年調査では6件の報告があるが、今回の調査では2件と減少している。確認された個体数は1000未満となっている。最近シカなどの食害が目立ち、開花個体が見られない。国内の分布は本州の山地に広く分布する。

【県内分布状況】 亜高山帯の秩父市中津川三国尾根に分布する。

【県内生育状況】 林道脇の草地や林縁に生育する。

【特記事項】

1453 (キツネノマゴ科)

〔和名〕 **ハグロソウ**〔学名〕 *Peristrophe japonica* (Thunb.) Bremek. var. *subrotunda* (Matsuda) Murata et Terao

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 旧版植物誌では全都市に記録がある。2005年調査でも33件の報告があり、今回の調査では36件となっている。確認された個体数は10000以上と多い。国内の分布は関東地方以西の本州、四国、九州である。

【県内分布状況】 低地帯～山地帯にかけて広く分布する。

【県内生育状況】 林縁や溪谷のやや日陰に生育する。

【特記事項】

1454 (ハマウツボ科)

〔和名〕 **ナンバンギセル**〔学名〕 *Aeginetia indica* L.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 旧版植物誌では全都市に記録がある。2005年調査でも5件の報告があり、今回の調査では8件となっている。確認された個体数は10000以上とやや多い。

【県内分布状況】 低地帯～丘陵帯のススキやオギ群落が見られる所に分布する。

【県内生育状況】 ススキやオギの群落内に生育する。

【特記事項】 葉緑体を欠く寄生植物で、主にススキやオギ、ミョウガなど単子葉植物の根に寄生する。近年ススキやオギの群落の減少とともに、見られなくなった。

1455 (ハマウツボ科)

〔和名〕 **オオナンバンギセル**〔学名〕 *Aeginetia sinensis* G. Beck

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は100を超えない。2005年及び今回の調査では報告がないので、減少傾向にあると思われる。二次メッシュによる分布では今回までの総計で1区画である。採取価値は低く採取の危険性は少ないと考えられる。

【県内分布状況】 秩父地方の山地帯に分布する。

【県内生育状況】 山地帯のヒメノガリヤスなどのイネ科群落内に生育する。

【特記事項】 葉緑体を欠く寄生植物でノガリヤスやシバスケなど単子葉植物の根に寄生する。ナンバンギセルに似るが、本種は全体に大型で、花冠裂片は同形で広く開く。

1456 (ハマウツボ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

〔和名〕 キヨスミウツボ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Phacellanthus tubiflorus* Siebold et Zucc.

【評価所見】 確認個体数は100を超えない。2005年調査では報告がなかったが、今回の調査で新たに4件の報告が得られた。二次メッシュによる分布は総計で1区画である。採取価値は低く採取の危険性は少ないと考えられる。

【県内分布状況】 秩父地方の山地帯に分布する。

【県内生育状況】 山地のやや湿った林内に生育する。

【特記事項】 カシ類やアジサイ類の根に寄生する多年生の寄生植物、休眠芽は地中にできる。森林の伐採などによる減少が考えられる。

1457 (タヌキモ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

〔和名〕 ムシトリスミレ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Pinguicula vulgaris* L. var. *macroceras* (Pall. ex Link) Herder

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年調査では2件の報告があり、今回の調査でも4件の報告が得られたが、いずれも同じ生育場所である。二次メッシュによる分布は総計で1区画である。県内では石灰岩の特殊な場所に生育する。

【県内分布状況】 秩父地方の山地帯で石灰岩地に分布する。

【県内生育状況】 湿り気のある石灰岩地に生育する。

【特記事項】 秩父市武甲山の生育地は石灰岩の採掘により確認できなくなった。

1458 (タヌキモ科)

埼玉カテゴリ 絶滅(EX)

〔和名〕 ノタヌキモ

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

〔学名〕 *Utricularia aurea* Lour.

【評価所見】 旧版植物誌には3郡市に記録がある。その後も、いくつかの生育記録がある。1998年版植物誌以後の調査では発見されず、絶滅したものと思われる。

【県内分布状況】 低地帯～丘陵帯の池沼に分布した。

【県内生育状況】 池沼や側溝の止水域に浮遊して生育する。

【特記事項】 標本は東京大学の収蔵標本にMitagaya(羽生市)1950年(N.Maruyama)がある。文献は羽生市のムジナモ1963年(小野田勝次)がある。

1459 (タヌキモ科)

埼玉カテゴリ 絶滅(EX)

〔和名〕 ミミカキグサ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Utricularia bifida* L.

【評価所見】 旧版植物誌には3郡市に記録がある。その後は県内での生育記録は報告されていない。1998年版植物誌以後の調査でも発見されず、絶滅したものと思われる。

【県内分布状況】 丘陵帯(寄居町三ヶ山)に分布した。

【県内生育状況】 谷津田の遊水池でモウセンゴケなどとともに生育していた。

【特記事項】 文献は寄居町史(植物)1986年がある。

1460 (タヌキモ科)

埼玉カテゴリ 絶滅(EX)

〔和名〕 ホザキノミミカキグサ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Utricularia caerulea* L.

【評価所見】 旧版植物誌には記録がない。1998年版植物誌の調査で寄居町三ヶ山で記録された。その後、生育場所は埋め立てられ絶滅した。

【県内分布状況】 丘陵帯(寄居町三ヶ山)に分布した。

【県内生育状況】 谷津田の遊水池脇でモウセンゴケなどとともに生育していた。

【特記事項】 標本は寄居町1988年(落合)がある。文献は寄居町史(植物)1986年がある。

1461 (タヌキモ科)

〔和名〕 **コタヌキモ**〔学名〕 *Utricularia intermedia* Heyne

埼玉カテゴリー 絶滅(EX)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 旧版植物誌には入間・北埼玉郡市に記録がある。その後も、さいたま市見沼区で生育記録がある。1998年版植物誌以後の調査では発見されず、絶滅したものと思われる。

【県内分布状況】 低地帯～丘陵帯の池沼に分布した。

【県内生育状況】 水田や浅い池沼の泥土に生育した。

【特記事項】 文献は深作沼の動植物調査報告1980年(大宮市教育委員会)がある。タヌキモと異なり水中葉には捕虫のうをつけない。

1462 (タヌキモ科)

〔和名〕 **ムラサキミミカキグサ**〔学名〕 *Utricularia uliginosa* Vahl

埼玉カテゴリー 絶滅(EX)

全国カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 旧版植物誌には3郡市に記録がある。1998年版植物誌の調査で岩槻市(現さいたま市岩槻区)で記録された。その後、生育場所は自然遷移が進み絶滅した。

【県内分布状況】 低地帯～丘陵帯の湿地に分布した。

【県内生育状況】 谷津田や台地斜面の湧水湿地に生育した。

【特記事項】 文献は寄居町史(植物)1986年、採集と飼育16(10)1954年加須市浮野(橋本庸)などがある。日高市女影仙女ヶ池で生育の記録があるが、ため池改修により絶滅した。

1463 (タヌキモ科)

〔和名〕 **タヌキモ**〔学名〕 *Utricularia vulgaris* L. var. *japonica* (Makino) Tamura

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 旧版植物誌では全郡市に記録がある。2005年調査では3件の報告があり、今回の調査では4件(1地点)となっている。確認された個体数は1000を超えない。

【県内分布状況】 低地帯～丘陵帯の池沼に分布する。

【県内生育状況】 池沼や側溝の止水域に浮遊して生育する。

【特記事項】 池沼や溝内に生育するため、池沼開発や埋め立て、水質の汚濁や近年の農薬使用による汚染により、激減したものと思われる。現在生育が確認されている羽生市宝蔵寺沼では保護されている。

1464 (スイカズラ科)

〔和名〕 **イボタヒョウタンボク**〔学名〕 *Lonicera demissa* Rehder var. *demissa*

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 2005年調査では3件の報告があり、今回の調査では1件に減少している。確認された個体数は100未満となっている。最近シカなどの食害が目立ち、高さ1.5m以下の枝はほとんど食害を受けている。国内の分布は本州の山梨、長野、静岡各県の山地帯に分布する。

【県内分布状況】 亜高山帯の秩父市中津川三国尾根に分布する。

【県内生育状況】 登山道脇の林縁に生育する。

【特記事項】 フォッサマグナ要素の植物とされ、特異な分布をする。埼玉県内でも秩父地方の亜高山帯に限られている。

1465 (スイカズラ科)

〔和名〕 **ニッコウヒョウタンボク**〔学名〕 *Lonicera mochidzukiana* Makino

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 II 類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 2005年調査では4件の報告があり、今回の調査では6件となっている。確認された個体数は1000未満となっている。県内で確認されている生育地は石灰岩の岩場である。国内の分布は関東地方から近畿地方北部の山地に限られている。

【県内分布状況】 秩父地方の山地帯に分布する

【県内生育状況】 石灰岩の岩場に生育する。

【特記事項】

1466 (スイカズラ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

〔和名〕 **ハヤザキヒョウタンボク**

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Lonicera praeflorens* Batalin var. *japonica* H. Hara

【評価所見】 旧版植物誌には秩父郡市に記録がある。2005年調査では報告がなかったが、今回の調査では1件確認されている。個体数は聞き取りでは数株とされたが、確認調査では1株となり絶滅が心配される。国内の分布は宮城、群馬、埼玉、山梨、長野各県の山地に限られている。

【県内分布状況】 秩父地方の低山帯～山地帯に分布する。

【県内生育状況】 コナラの二次林内に生育する。

【特記事項】 今回報告された生育地は、伐採の危険もありゴルフ場にも近いため消失する危険が高い。群馬県に接する長野県側に多く生育するとされており、詳細な調査で新たな生育地が発見される可能性はある。

1467 (スイカズラ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

〔和名〕 **アラゲヒョウタンボク (オオバヒョウタンボク)**

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Lonicera strophiphora* Franch.

【評価所見】 旧版植物誌には秩父郡市に記録がある。2005年調査では2件の報告がある。個体数は1000未満とされており、類似種と混同されて報告されている可能性がある。国内の分布は北海道南西部、本州背稜山脈の山地帯に生育する。

【県内分布状況】 秩父地方の山地帯に分布する。

【県内生育状況】 石灰岩地に生育することが多い。

【特記事項】 別名オオバヒョウタンボクといわれる。他種には見られない大きな葉状の苞が、類似種との区別点となる。

1468 (スイカズラ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕 **ゴマギ**

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Viburnum sieboldii* Miq.

【評価所見】 旧版植物誌では4郡市に記録がある。2005年調査では1件、今回の調査で6件と少ないが、1998年版植物誌を見ると、さいたま市秋が瀬公園内をはじめ荒川水系の下流域や入間川水系の河川敷内に点々と生育している。個体数は10000以上と多い。国内の分布は関東地方以西の本州太平洋側、四国、九州、沖縄県である。

【県内分布状況】 台地帯～丘陵帯にかけての低湿地に分布する。

【県内生育状況】 河川敷内のやや湿り気のある環境に生育する。

【特記事項】 主な生育地が河川敷内で、河川改修や河川敷の運動公園化などにより近年減少している。

1469 (スイカズラ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

〔和名〕 **キバナウツギ**

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Weigela maximowiczii* (S. Moore) Rehder

【評価所見】 旧版植物誌には秩父郡市に記録がある。2005年調査では19件の報告があり、今回の調査では4件となっている。個体数は1000未満となっている。低木のためシカの食害が多く目につく。国内の分布は本州中部以北、秋田県から山梨県の山地帯に生育する。

【県内分布状況】 秩父地方の山地帯～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 山地の林縁や林道脇に生育する。

【特記事項】 シカの食害が目につき、シカが届かない岩場などに残っている。

1470 (スイカズラ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

〔和名〕 **イワツクバネウツギ**

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

〔学名〕 *Zabelia integrifolia* (Koidz.) Makino ex Ikuse et S. Kuros.

【評価所見】 旧版植物誌には秩父郡市に記録がある。2005年調査では4件の報告があり、今回の調査では3件となっている。個体数は1000未満となっている。国内の分布は関東地方以西の本州、四国、九州の石灰岩地、希に蛇紋岩地に生育する。

【県内分布状況】 秩父地方の山地帯に分布する。

【県内生育状況】 主として石灰岩地に生育する。

【特記事項】 石灰岩地に生育するため、武甲山では石灰岩の採掘により激減している。

1471 (オミナエシ科)

〔和名〕 オミナエシ

〔学名〕 *Patrinia scabiosifolia* Fisch. ex Trevir.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 旧版植物誌では全都市に記録がある。2005年調査では17件の報告があり、今回の調査では3件となっている。確認された個体数は10000を超えない。生育環境である日当たりの良い草地在急激に減少しており、個体数も減っている。

【県内分布状況】 低地帯～山地帯にまで広く分布する。

【県内生育状況】 日当たりの良い草地や管理された里山に生育する。

【特記事項】 低山帯の採草地や台地の里山など人の管理がなくなり自然遷移が進行したため、急激に生育環境が減っていると考えられる。

1472 (オミナエシ科)

〔和名〕 キンレイカ

〔学名〕 *Patrinia triloba* (Miq.) Miq. var. *palmata* (Maxim.) H. Hara

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 旧版植物誌では秩父郡市に記録がある。2005年調査では20件の報告があり、今回の調査では43件となっている。確認された個体数は10000以上と比較的多い。近年シカなど食害が目立っている。国内の分布は関東地方以西の太平洋側、九州である。

【県内分布状況】 秩父地方の山地帯～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 山地の尾根沿いや岩場に生育する。

【特記事項】 県境の尾根沿いや両神山の尾根沿いには、かなり多くの個体が見られる。しかし、近年シカによる食害が目立ち始め、シカが届かない岩場を除き開花個体が急激に減少している。

1473 (オミナエシ科)

〔和名〕 ツルカノコソウ

〔学名〕 *Valeriana flaccidissima* Maxim.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 旧版植物誌では3郡市に記録がある。2005年調査では43件の報告があり、今回の調査では14件となっている。確認された個体数は10000以上と多いが、生育環境の山地林縁でやや湿り気のある場所が減少し、個体数も減っている。

【県内分布状況】 低地帯～山地帯にまで広く分布する。

【県内生育状況】 やや湿った林内や林縁に生育する。

【特記事項】 管理された樹林や林縁が減少し、遷移が進行している。また、乾燥化が進み適度な湿り気のある環境が減少したためと考えられる。

1474 (マツムシソウ科)

〔和名〕 ナベナ

〔学名〕 *Dipsacus japonicus* Miq.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II 類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年調査では10件の報告があったが、今回の調査で3件の報告があった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で7区画から記録されている。確認個体数、群落総面積も以前に比べて激減している。

【県内分布状況】 低山西～山地帯に分布

【県内生育状況】 山地の落葉広葉樹林の溪谷沿いや、日当たりの良い草原に生育する。またシカによる食害で個体数を著しく減少させている。

【特記事項】

1475 (マツムシソウ科)

〔和名〕 マツムシソウ

〔学名〕 *Scabiosa japonica* Miq.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年調査では8件の報告があるが、今回の調査では僅か1件の報告である。二次メッシュによる分布では今回までの総計で3区画から記録されている。確認個体数は1000未満。群落総面積も以前に比べて激減している。

【県内分布状況】 山地帯～亜高山帯に分布

【県内生育状況】 日当たりの良い山地草原に希に見られる。以前の個体数の減少は園芸採取によるものであったが、現在はシカやカモシカによる食害により個体数や集団数は著しく減少し、絶滅の危機に瀕している。

【特記事項】

1476 (キキョウ科)

〔和名〕 フクシマシャジン

〔学名〕 *Adenophora divaricata* Franch. et Sav.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年調査では16件の報告があるが、今回の調査で9件の報告である。二次メッシュによる分布では今回までの総計で8区画から記録されている。確認個体数も10000以上ある。集団数はあまり増減していない。

【県内分布状況】 山地帯～亜高山帯に分布

【県内生育状況】 石灰岩地の岩場の草地に生育している。シカの食害により平坦な場所は食い尽くされ、成熟個体は見あたらない。正常に生育する個体は岩場の絶壁しかない。

【特記事項】

1477 (キキョウ科)

〔和名〕 ヒメシャジン

〔学名〕 *Adenophora nikoensis* Franch. et Sav.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年調査では10件の報告があるが、今回の調査で2件の報告があった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で5区画から記録されている。群落総面積も減少しており、確認個体数も500未満である。

【県内分布状況】 山地帯～亜高山帯に分布

【県内生育状況】 岩礫地に生育。シカの食害や踏みつけにより平坦な場所は、まともに花を咲かせる個体は見あたらない。このままの状態が続くと絶滅の危険性が高い。

【特記事項】

1478 (キキョウ科)

〔和名〕 ミヤマシャジン

〔学名〕 *Adenophora nikoensis* Franch. et Sav. f. *nipponica* (Kitam.) H. Hara

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠA類(CR)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年調査では報告がなかったが、今回の調査で1件の報告があった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で2区画から記録されている。群落総面積も僅かしかなく、確認個体数も50未満である。

【県内分布状況】 亜高山帯に分布

【県内生育状況】 石灰岩の岩礫地に生育。以前は園芸採取による個体数の減少であった。現在、カモシカやシカの食害により平坦な場所には生育している個体は見あたらない。成熟個体は岩場の絶壁しか見あたらない。

【特記事項】 ヒメシャジンとの形態的区別が難しい。

1479 (キキョウ科)

〔和名〕 ミヨウギシャジン

〔学名〕 *Adenophora nikoensis* Franch. et Sav. var. *petrophila* (H. Hara) H. Hara

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年調査では3件の報告があったが、今回の調査で17件の報告があった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で6区画から記録されている。確認個体数、群落総面積も前回の調査と比べてあまり変化がない。

【県内分布状況】 山地帯～亜高山帯に分布

【県内生育状況】 石灰岩の岩場に生育。以前は園芸採取による個体数の減少であったが、シカにより岩壁以外のところではすべて採食され成熟個体は見あたらない。石灰岩地の絶壁に生育している個体はシカやカモシカによる食害を免れている。

【特記事項】 ミヤマシャジンの変種。

1480 (キキョウ科)

〔和名〕 ツルギキョウ

〔学名〕 *Campanumoea javanica* Blume var. *japonica* Makino

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠA類(CR)

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【評価所見】 2005年調査では1件の報告があったが、今回の調査では7件の報告があった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で2区画から記録されている。線引き都市計画区域に分布する。群落総面積、確認個体数も僅かである。

【県内分布状況】 丘陵南帯と加須・中川低地に分布

【県内生育状況】 つる性で自然林の林縁に生育しているため、採取の危険がある。線引き都市計画区域に分布するため、森林伐採・土地造成により自生地が失われている。また、自然遷移も加わり絶滅のおそれがある。

【特記事項】

1481 (キキョウ科)

〔和名〕 **バアソブ**〔学名〕 *Codonopsis ussuriensis* (Rupr. et Maxim.) Hemsl.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリー 絶滅危惧 II 類(VU)

【評価所見】 2005年調査では3件の報告があるが、今回は2件の報告があった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で4区画から記録されている。群落総面積、確認個体数も僅かである。

【県内分布状況】 大宮台地と低山東に分布

【県内生育状況】 本種はつる性で自然林の林縁や原野に生育している。紫色で鐘形の大きな花を付けるため園芸採取の危険性も高い。線引き都市計画区域に分布するため、絶滅の危険性が大きい。

【特記事項】 葉の毛の有無でツルニンジンと区別するがツルニンジンにも毛がある場合がある。ツルニンジンの種子は片側に翼があるが、本種の種子には翼がない。

1482 (キキョウ科)

〔和名〕 **サワギキョウ**〔学名〕 *Lobelia sessilifolia* Lamb.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 2005年調査では3件の報告があるが、今回は2件の報告があった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で3区画から記録されている。線引き都市計画区域に分布し、群落総面積、確認個体数も僅かである。

【県内分布状況】 丘陵南に分布

【県内生育状況】 丘陵の谷地の湿った草地や湿原に生育する。以前は園芸採取による減少だけであった。現在は湿地開発や自然遷移による日照不足により自生地の生育環境は悪化しており、このままでは絶滅の危険性が高い。

【特記事項】

1483 (キキョウ科)

〔和名〕 **キキョウ**〔学名〕 *Platycodon grandiflorus* (Jacq.) A. DC.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリー 絶滅危惧 II 類(VU)

【評価所見】 2005年調査では10件の報告があった。二次メッシュによる分布では今までの総計で7区画から記録されている。線引き都市計画区域に分布するが、今回の調査では群落、個体数の確認の報告はない。

【県内分布状況】 丘陵帯～低地帯に分布

【県内生育状況】 本種は日当たりの良い草原に生育する。花が大きく美しいため園芸採取や宅地開発による採草地の減少により自生地や個体数が激減した。今回の調査で確認がされなかったことで、本県において絶滅のおそれがあると考えられる。

【特記事項】

1484 (キク科)

〔和名〕 **ヤマノコギリソウ**〔学名〕 *Achillea alpina* L. var. *discoidea* (Regel) Kitam.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 2005年調査では1件の報告があるが、今回は1件の報告があった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で2区画から記録されている。確認個体数は200前後、群落総面積は100㎡未満である。

【県内分布状況】 亜高山帯に分布

【県内生育状況】 亜高山の日当たりの良い草地に生育。シカによる食害は甚大で個体数や集団数も著しく減少し、絶滅の危機に瀕している。現存する個体群もシカ防護ネットの中だけである。

【特記事項】

1485 (キク科)

〔和名〕 **カワラハハコ**〔学名〕 *Anaphalis margaritacea* (L.) Benth. et Hook.f. subsp. *yedoensis* (Franch. et Sav.) Kitam.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 II 類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 2005年調査では9件の報告があるが、今回は2件の報告があった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で6区画から記録されている。確認個体数、群落総面積も前回の調査に比べてかなり減少している。

【県内分布状況】 荒川西台地、加須・中川低地に分布

【県内生育状況】 本種は日当たりの良い河川敷に分布。自然遷移によりヨシ原野になると日照不足により生育不足になる。ヨシ原野の野焼きにより良好な生育環境を維持することが必要である。

【特記事項】

1486 (キク科)

〔和名〕 ヤハズハハコ

〔学名〕 *Anaphalis sinica* Hance

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年調査では8件の報告があるが、今回は2件の報告があった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で4区画から記録されている。確認個体数、群落総面積もかなり減少している。

【県内分布状況】 山地帯～亜高山帯に分布

【県内生育状況】 日当たりの良い岩礫地に生育。シカによる食害は大きく大部分が食べ尽くされ、成熟個体はシカが寄りつけない岩場だけに生育するのみである。

【特記事項】 ヤマハハコと間違えやすい。

1487 (キク科)

〔和名〕 トダイハハコ

〔学名〕 *Anaphalis sinica* Hance var. *pernivea* T. Shimizu

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類 (CR)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)

【評価所見】 2005年調査では報告がないが、今回は1件の報告があった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で1区画から記録されている。確認個体数は100未満、群落総面積は僅かである。

【県内分布状況】 亜高山帯に分布

【県内生育状況】 日当たりの良い石灰岩地の岩場や岩礫地に生育。シカによる食害が深刻で、成熟個体は少なく生育地も減少した。このままでは絶滅の危険性が高い。

【特記事項】 ヤハズハハコの変種である。長野、山梨、埼玉県の石灰岩地に生育する。

1488 (キク科)

〔和名〕 クリヤマハハコ

〔学名〕 *Anaphalis sinica* Hance var. *viscosissima* (Honda) Kitam.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)

【評価所見】 2005年調査では8件の報告があるが、今回は33件と多かった。これは岩場の限られた場所での報告が多いためである。二次メッシュによる分布では今回までの総計で9区画から記録されている。確認個体数、群落総面積も減少傾向にある。

【県内分布状況】 山地帯～亜高山帯に分布

【県内生育状況】 主に石灰岩地に分布する。以前は日当たりの良い草原にも生育していたが、シカの食害により成熟個体は絶壁の岩場にしか見られなくなった。

【特記事項】 葉を揉んでみると黒砂糖のような香りがする。

1489 (キク科)

〔和名〕 カワラヨモギ

〔学名〕 *Artemisia capillaris* Thunb.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年調査では32件の報告があるが、今回は10件の報告があった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で18区画から記録されている。確認個体数、群落総面積もかなりの減少傾向にある。

【県内分布状況】 加須・中川低地と低山帯～山地帯に分布

【県内生育状況】 日当たりの良い河原砂礫地に生育。河川改修や道路の新設、拡幅により生育地がかなり減少している。また、シカの食害による個体数の減少が見られる。

1490 (キク科)

〔和名〕 ヒメシオン

〔学名〕 *Aster fastigiatus* Fisch.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年調査では5件の報告があるが、今回は僅かに1件の報告であった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で6区画から記録されている。確認個体数、群落総面積も急激に減少している。

【県内分布状況】 加須・中川低地に分布

【県内生育状況】 遊水池などの湿った草地や河川敷内の湿地に生育。河川敷開発、埋め立て・盛土による生育地の消失や管理放棄でヨシ原野になると日照不足になることにより個体数は減少している。

【特記事項】



1491 (キク科)

〔和名〕 **サワシロギク**〔学名〕 *Aster rugulosus* Maxim.

埼玉カテゴリ 情報不足(DD)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 旧版植物誌には比企・入間郡市に記録がある。その後は熊谷市で生育記録がある。1998年版植物誌以後の調査では生育の確認はない。

【県内分布状況】 丘陵北（熊谷市）

【県内生育状況】 低地帯～丘陵帯の湿地に生育する。生育に必要な湿地が開発により激減しているため、絶滅が心配される。

【特記事項】 文献は熊谷南部産植物目録1976年（堀江）がある。

1492 (キク科)

〔和名〕 **ミヤマヨメナ**〔学名〕 *Aster savatieri* Makino

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年調査では僅か1件の報告があるが、今回は報告がなかった。個体数、群落総面積も不明である。

【県内分布状況】 山地帯に分布

【県内生育状況】 山地の日陰に生育。花が美しく以前から園芸採取されているため、絶滅の危険性が高い。

【特記事項】 舌状花や筒状花にも冠毛が全く無いのが特徴

1493 (キク科)

〔和名〕 **ハコネギク** (ミヤマコンギク)〔学名〕 *Aster viscidulus* (Makino) Makino

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年調査では12件の報告があるが、今回は16件の報告があった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で10区画から記録されている。確認個体数、群落総面積は減少している。

【県内分布状況】 山地帯～亜高山帯に分布

【県内生育状況】 日当たりの良い岩場・草地に生育。シカによる食害が深刻で、個体数も減少している。

【特記事項】 フォッサマグナ要素の植物とされ、関東地方と中部地方に分布する。

1494 (キク科)

〔和名〕 **タウコギ**〔学名〕 *Bidens tripartita* L.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年調査では31件の報告があるが、今回は僅か6件の報告であった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で17区画から記録されている。確認個体数、群落総面積も大幅に減少している。

【県内分布状況】 加須・中川低地～大宮台地に分布

【県内生育状況】 休耕田や水田のあぜ道や湿地に生える。近年は帰化植物のアメリカセンダングサ等の侵入により個体数がかなり減少している。また湿地開発や土地造成により生育地が減少している。

【特記事項】

1495 (キク科)

〔和名〕 **オオガクビソウ**〔学名〕 *Carpesium macrocephalum* Franch. et Sav.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年調査では17件の報告があるが、今回は5件の報告であった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で10区画から記録されている。確認個体数、群落総面積も大幅に減少している。

【県内分布状況】 山地帯～丘陵帯に分布

【県内生育状況】 山地の湿った林内や道路脇の斜面に生育。シカの食害により生育地、個体数共に減少し、成熟個体は絶壁の岩場にしか見られなくなった。

【特記事項】

1496 (キク科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

〔和名〕 **イワインチン**

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Chrysanthemum rupestre* Matsum. et Koidz.

【評価所見】 2005年調査では僅か1件の報告があるが、今回も1件の報告だけであった。確認個体数、群落総面積も減少している。

【県内分布状況】 亜高山帯（雁坂峠）に分布

【県内生育状況】 亜高山帯～高山帯の日当たりの良い岩場の草地に生育。踏み付けや自然遷移による減少よりも、シカの食害により個体数が激減している。このままでは絶滅の危険性がある。

【特記事項】

1497 (キク科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕 **キクタニギク（アワコガネギク）**

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔学名〕 *Chrysanthemum seticospe* (Maxim.) Hand.-Mazz. f. *boreale* (Makino) H. Ohashi et Yonek.

【評価所見】 2005年調査では41件の報告があるが、今回は17件の報告であった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で21区画から記録されている。確認個体数、群落総面積は減少している。

【県内分布状況】 山地帯～低山西に多く分布

【県内生育状況】 山地のやや乾いた崖や谷間、道路の切り通し等の日当たりの良い場所に生育。道路新設・拡幅により生育地が減少傾向である。生育環境が急峻なため、シカによる食害は少ない。

【特記事項】

1498 (キク科)

埼玉カテゴリ 絶滅(EX)

〔和名〕 **クサノオウバノギク**

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

〔学名〕 *Crepidiastrum chelidoniifolium* (Makino) J. H. Pak et Kawano

【評価所見】 旧版植物誌には記録がない。その後、秩父市や小鹿野町で生育が確認された。1998年版植物誌以後の調査では発見できず、絶滅したものと思われる。

【県内分布状況】 秩父市・小鹿野町（旧両神村）に分布した。

【県内生育状況】 山地帯の開けた樹林内に生育した。近年シカによる食害や林床の乾燥化が進み、見られなくなった。

【特記事項】 標本は秩父市熊倉山1974年(岩田)、小鹿野町両神山1972年(岩田)、秩父市白泰山1970年(岩田)など6点ある。文献は荒川村史1983年がある。

1499 (キク科)

埼玉カテゴリ 絶滅(EX)

〔和名〕 **アズマギク**

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Erigeron thunbergii* A. Gray subsp. *thunbergii*

【評価所見】 旧版植物誌には秩父・比企郡市に記録がある。1998年版植物誌以後の調査では発見されず、絶滅したと考えられる。

【県内分布状況】 低山帯～山地帯に分布した。

【県内生育状況】 乾いた草原に生育した。絶滅の原因としては採草地として利用されていた草地在放棄されたり、スギ植林により減少した。

【特記事項】 標本は東京大学の収蔵標本に秩父郡見鈴山1952年(原寛)、科学博物館の収蔵標本に武州横瀬(現横瀬町)1885年(杉山)などがある。文献は西武蔵自然公園地区内の植物相の概要1971年(江森)がある。

1500 (キク科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕 **フジバカマ**

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔学名〕 *Eupatorium japonicum* Thunb.

【評価所見】 旧版植物誌には7郡市に記録があり、県内に広く分布する。1998年版植物誌でも広く生育が見られる。

【県内分布状況】 加須・中川低地帯～大宮台地帯に分布

【県内生育状況】 大きな河川の氾濫原や土手などに生育する。園芸品の野生化したものがあり、注意が必要である。

【特記事項】 以前は中国原産種の逸出したものと考えられていたが、近年では大河川の氾濫原に土着したものとしてされている。園芸品のフジバカマは葉がやや厚く光沢があり、茎上部の葉は三出複葉となり、花の色が濃い点などで本種から区別できる。

1501 (キク科)

〔和名〕 **アキノハハコグサ**〔学名〕 *Gnaphalium hypoleucum* DC.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリー 絶滅危惧 II類(VU)

【評価所見】 2005年調査では1件の報告があるが、今回も僅かに1件の報告だけであった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で2区画から記録されている。確認個体数は著しく少ない。

【県内分布状況】 山地帯の裸地に分布する。

【県内生育状況】 日当たりの良いやや乾いた裸地や道路造成ののり面に生育。森林伐採・宅地開発・シカによる食害により激減している。

【特記事項】 ハハコグサとの違いは、本種の葉の先端は尖り、葉の表面は緑色、裏面は緑白色であることから区別が出来る。

1502 (キク科)

〔和名〕 **ヤナギタンポポ**〔学名〕 *Hieracium umbellatum* L.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 2005年調査では1件の報告があるが、今回は報告がない。二次メッシュによる分布では今回までの総計で1区画から記録されている。確認個体数、群落総面積は不明である。

【県内分布状況】 亜高山帯に分布

【県内生育状況】 山地の湿った草地に生育。シカによる食害は甚大で、群落面積、個体数は激減している。前回の調査では僅かな個体数を確認したが、今回の調査では確認は出来なかった。

【特記事項】

1503 (キク科)

〔和名〕 **オグルマ**〔学名〕 *Inula britannica* L. subsp. *japonica* (Thunb.) Kitam.

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 2005年調査では29件の報告があるが、今回は10件の報告だけであった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で22区画から記録されている。確認個体数、群落総面積も減少している。

【県内分布状況】 丘陵帯～加須・中川低地帯に分布

【県内生育状況】 日当たりの良い湿地や水田の畦・休耕地に生育。確認個体数は10000を超えない。線引き都市計画区域に分布するため、湿地開発、残土埋め立て、農薬汚染により生育地が減少している。

【特記事項】

1504 (キク科)

〔和名〕 **ミズギク**〔学名〕 *Inula ciliaris* (Miq.) Maxim.

埼玉カテゴリー 絶滅(EX)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 旧版植物誌には3郡市に記録がある。その後は飯能市で生育記録がある。1998年版植物誌以後の調査では発見できず、絶滅したものと思われる。

【県内分布状況】 飯能市に分布した。

【県内生育状況】 低山帯～山地帯の湿地に生育した。

【特記事項】 標本は国立科学博物館に収蔵されているがデータの詳細は不明である。文献は飯能市史1977年がある。

1505 (キク科)

〔和名〕 **ホソバオグルマ**〔学名〕 *Inula linariifolia* Turcz.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリー 絶滅危惧 II類(VU)

【評価所見】 2005年調査では7件の報告があるが、今回も7件の報告だけであった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で9区画から記録されている。確認個体数は1000を超えない。

【県内分布状況】 荒川西台地～加須・中川低地帯に分布

【県内生育状況】 日当たりの良い湿地や水田の脇に生育。線引き都市計画区域に分布するため、河川敷開発、残土埋め立て、農薬汚染により生育地が減少している。

【特記事項】

1506 (キク科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕カセンソウ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕*Inula salicina* L. var. *asiatica* Kitam.

【評価所見】 2005年調査では27件の報告があるが、今回は7件の報告だけであった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で20区画から記録されている。確認個体数は10000以上ある。

【県内分布状況】 低山西～大宮台地に分布

【県内生育状況】 日当たりの良い低山、台地の草原に生育。線引き都市計画区域に分布するため、宅地造成、残土埋め立てにより生育地が減少している。

【特記事項】

1507 (キク科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕タカネニガナ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕*Ixeridium alpicola* (Takeda) J. H. Pak et Kawano

【評価所見】 2005年調査では2件の報告があるが、今回は6件の報告あった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で3区画から記録されている。確認個体数、群落総面積も減少傾向である。

【県内分布状況】 亜高山帯に分布

【県内生育状況】 日当たりの良い岩場に生育。シカによる食害が多く、成熟個体はシカが近寄れない急峻な場所にしかない。

【特記事項】

1508 (キク科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠA類(CR)

〔和名〕タカサゴソウ

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔学名〕*Ixeris chinensis* (Thunb.) Nakai subsp. *strigosa* (H. Lév. et Vaniot) Kitam.

【評価所見】 2005年調査では3件の報告があるが、今回は報告がなかった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で2区画から記録されている。確認個体数、群落総面積も不明である。

【県内分布状況】 丘陵北・荒川西台地に分布

【県内生育状況】 日当たりの良い乾いた草原に生育。線引き都市計画区域に分布するため、採草地の消失、宅地造成、残土埋め立てにより絶滅の可能性がある。

【特記事項】

1509 (キク科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕ノニガナ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕*Ixeris polycephala* Cass.

【評価所見】 2005年調査では41件の報告があるが、今回は僅かに3件の報告のみであった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で21区画から記録されている。確認個体数、群落総面積も急激に減少している。

【県内分布状況】 低山帯～加須・中川低地に分布

【県内生育状況】 日当たりの良い湿った河川敷や田んぼの畦に生育。線引き都市計画区域に分布するため、湿地開発、残土埋め立てにより生育地が減少している。

【特記事項】

1510 (キク科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕カワラニガナ

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔学名〕*Ixeris tamagawaensis* (Makino) Kitam.

【評価所見】 2005年調査では14件の報告があるが、今回は僅かに2件の報告だけであった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で10区画から記録されている。確認個体数は10000未満である。

【県内分布状況】 低山帯～加須・中川低地に分布

【県内生育状況】 日当たりの良い河原砂礫地に生育。線引き都市計画区域に分布するため、河川敷開発による生育地の減少、ヨシ原の繁茂による日照不足により個体数の減少が見られる。

【特記事項】

1511 (キク科)

〔和名〕 ミヤマアキノノゲシ

〔学名〕 *Lactuca triangulata* Maxim.

埼玉カテゴリー 情報不足(DD)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 旧版植物誌には記録がない。1998年秩父市中津川奥秩父林道で生育が確認された。しかし、その後の調査では確認できない。

【県内分布状況】 秩父市・小鹿野町

【県内生育状況】 山地帯の開けた樹林内に生育する。近年シカによる食害や林床の乾燥化が進み、見られなくなった。

【特記事項】 標本は秩父市中津川1998年(岩田・平)がある。文献は埼玉県立自然史博物館研究報告第20・21号2003年(愛川)、野草22(11)小鹿野町八丁峠1956年(牧野晩成)、埼玉県植物誌続編1962年に秩父市大滝突出峠に観察記録がある。

1512 (キク科)

〔和名〕 ウスユキソウ

〔学名〕 *Leontopodium japonicum* Miq.

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 2005年調査では18件の報告があるが、今回は26件の報告があった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で9区画から記録されている。確認個体数、群落総面積も減少傾向である。

【県内分布状況】 低山帯～亜高山帯に分布

【県内生育状況】 山地の乾いた岩礫地に生育。シカの食害により、個体数、生育地は急激に減少している。

【特記事項】

1513 (キク科)

〔和名〕 マルバダケブキ

〔学名〕 *Ligularia dentata* (A. Gray) H. Hara

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 2005年調査では7件の報告があるが、今回は13件の報告があった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で9区画から記録されている。確認個体数、群落総面積は減少傾向にある。

【県内分布状況】 山地帯～亜高山帯に分布

【県内生育状況】 やや湿りある草地や林下に生育。シカの食害により個体数・生育地が急激に減少した。

【特記事項】

1514 (キク科)

〔和名〕 カイタカラコウ

〔学名〕 *Ligularia kaialpina* Kitam.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 2005年調査では2件の報告があるが、今回は報告がなかった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で2区画から記録されている。確認個体数、群落総面積も不明である。

【県内分布状況】 亜高山帯に分布

【県内生育状況】 亜高山帯～高山帯の湿った溪間や湿地に生育。ときには群生も見られる。もとから個体数・生育地は僅かであったが、シカの食害により絶滅の危険性がある。

【特記事項】 頭花の舌状花が4～6個

1515 (キク科)

〔和名〕 メタカラコウ

〔学名〕 *Ligularia stenocephala* (Maxim.) Matsum. et Koidz.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 2005年調査では13件の報告があるが、今回は9件の報告があった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で8区画から記録されている。確認個体数、群落総面積は減少傾向である。

【県内分布状況】 山地帯～亜高山帯に分布

【県内生育状況】 山地帯から亜高山帯の針葉樹林下の湿地に生育。ときには群生も見られる。個体数・生育地は多くはないが、シカの食害により絶滅の危険性がある。

【特記事項】 メタカラコウは頭花の舌状花が1～3個、オタカラコウは5～9個

1516 (キク科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 オオモミジガサ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Miricacalia makinoana* (Yatabe) Kitam.

【評価所見】 2005年調査では8件の報告があるが、今回は3件の報告があった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で6区画から記録されている。確認個体数、群落総面積は急激に減少している。

【県内分布状況】 低山帯～亜高山帯に分布

【県内生育状況】 深山の湿った林縁などに生育。今までの調査でも個体数は多くはないが、シカによる食害で生育地が激減し、絶滅の危険性がある。

【特記事項】

1517 (キク科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠA類(CR) 全国カテゴリ ランクなし

〔和名〕 オクヤマコウモリ

〔学名〕 *Parasenecio maximowiczianus* (Nakai et F. Maek. ex H. Hara) H. Koyama var. *alatus* (F. Maek.) H. Koyama

【評価所見】 2005年調査では1件の報告があるが、今回は報告がなかった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で1区画から記録されている。確認個体数、群落総面積も不明である。

【県内分布状況】 亜高山帯に分布

【県内生育状況】 深山の湿った林下などに生育。太平洋側の中部地方だけに分布し埼玉県は北限である。今までの調査でも個体数・生育地は僅かだが、シカによる食害により絶滅の危険性がある。

【特記事項】 葉柄に翼があり茎を抱くことが特徴

1518 (キク科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕 テバコモミジガサ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Parasenecio tebakaensis* (Makino) H. Koyama

【評価所見】 2005年調査では26件の報告があるが、今回は33件の報告があった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で13区画から記録されている。確認個体数、群落総面積は減少傾向である。

【県内分布状況】 低山帯～山地帯に広く分布

【県内生育状況】 山地のやや湿った林下に生育。本州の太平洋側に分布し関東が北限である。個体数・生育地は比較的多いが、シカによる食害により減少傾向である。

【特記事項】

1519 (キク科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠA類(CR)

〔和名〕 アカイシコウゾリナ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Picris hieracioides* L. subsp. *japonica* (Thunb.) Krylov var. *akaishiensis* Kitam.

【評価所見】 2005年調査では3件の報告があるが、今回は1件の報告があった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で3区画から記録されている。確認個体数、群落総面積も僅かである。

【県内分布状況】 山地帯に分布

【県内生育状況】 山地の川原や崩壊地の林縁に生育。河川開発による生育地の減少より、シカによる食害が絶滅の危険性を高めている。

【特記事項】 南アルプスに生育し埼玉県は隔離分布である。

1520 (キク科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠA類(CR)

〔和名〕 オオニガナ

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔学名〕 *Prenanthes tanakae* (Franch. et Sav. ex Y. Tanaka et Ono) Koidz.

【評価所見】 2005年調査では3件の報告があるが、今回は報告がなかった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で3区画から記録されている。確認個体数、群落総面積も僅かである。

【県内分布状況】 丘陵北に分布

【県内生育状況】 谷戸湿地や池沼に希に生育。線引き都市計画区域に分布するため、森林伐採・宅地開発・埋め立てなどにより、生育地は激減しており絶滅の危険性が高い。

【特記事項】

1521 (キク科)

〔和名〕 コウシュウヒゴタイ

〔学名〕 *Saussurea amabilis* Kitam.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年調査では4件の報告があるが、今回は11件の報告があった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で4区画から記録されている。確認個体数は1000未満、群落総面積は減少している。

【県内分布状況】 山地帯に分布

【県内生育状況】 山地の石灰岩の岩場に生育。関東西部から山梨県と四国に隔離分布する。シカの食害は大きく生育地が大きく減少している。成熟個体は急峻な岩場にしか見られない。

【特記事項】

1522 (キク科)

〔和名〕 ミヤコアザミ

〔学名〕 *Saussurea maximowiczii* Herder

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年調査では12件の報告があるが、今回は1件のみの報告があった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で4区画から記録されている。確認個体数、群落総面積は激減している。

【県内分布状況】 丘陵帯～低山帯に分布

【県内生育状況】 日当たりの良い湿った草地や林縁に生育。非線引き都市計画区域のため湿地開発、森林伐採等により個体数、生育地も激減した。シカによる食害がそれに追い打ちをかけている。

【特記事項】 報告書作成後に鳩山町で生育が確認された。

1523 (キク科)

〔和名〕 アサマヒゴタイ

〔学名〕 *Saussurea nipponica* Miq. subsp. *savatieri* (Franch.) Kitam.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年調査では14件の報告があるが、今回は7件の報告があった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で9区画から記録されている。確認個体数は10000未満である。

【県内分布状況】 低山西～山地帯に分布

【県内生育状況】 山地の林下や林縁に生育。非線引き都市計画区域のため森林伐採や宅地造成により個体数、生育地も減少した。シカによる食害は深刻で成熟個体をほとんど見ることが出来ない状態である。

【特記事項】

1524 (キク科)

〔和名〕 タカオヒゴタイ

〔学名〕 *Saussurea sinuatoides* Nakai

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年調査では7件の報告があるが、今回は1件のみ報告があった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で6区画から記録されている。確認個体数は1000未満である。

【県内分布状況】 低山帯から山地帯に分布

【県内生育状況】 山地の林下に生育。非線引き都市計画区域のため森林伐採や土地造成により個体数、生育地も激減した。シカによる食害は深刻で成熟個体をほとんど見ることが出来ない。

【特記事項】 東京都・神奈川県・山梨県にも分布する。

1525 (キク科)

〔和名〕 セイタカトウヒレン

〔学名〕 *Saussurea tanakae* Franch. et Sav. ex Maxim.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年調査では7件の報告があるが、今回は報告がなかった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で3区画から記録されている。確認個体数は減少している。

【県内分布状況】 山地帯～亜高山帯に分布

【県内生育状況】 山地の草地や林縁に生育。シカによる食害は深刻で成熟個体をほとんど見ることが出来ない。このままの状態が続けば絶滅の危険性がある。

【特記事項】

1526 (キク科)

〔和名〕 **タカネヒゴタイ** (キンプレヒゴタイ)〔学名〕 *Saussurea triptera* Maxim.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年調査では1件の報告があるが、今回は2件の報告があった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で1区画からのみ記録されている。確認個体数は1000未満で減少している。

【県内分布状況】 亜高山帯(甲武信岳)に分布する。

【県内生育状況】 カモシカやシカによる踏み付けや食害は深刻で、岩場以外は食いつくされ成熟個体をほとんど見ることが出来ない。このままでは絶滅の可能性がある。

【特記事項】 高山帯の裸地に生育。南アルプス・八ヶ岳にも分布する。

1527 (キク科)

〔和名〕 **キクアザミ**〔学名〕 *Saussurea ussuriensis* Maxim.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年調査では3件の報告があるが、今回は報告がなかった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で3区画から記録されている。確認個体数は不明である。

【県内分布状況】 低山西～山地帯に分布

【県内生育状況】 日当たりの良い山地の草地に生育。非線引き都市計画区域のため草地開発や土地造成により個体数、生育地も激減した。今回の調査でも生育地は確認出来なかった。シカによる食害は深刻で絶滅の可能性がある。

【特記事項】

1528 (キク科)

〔和名〕 **キオン** (ヒゴオミナエシ)〔学名〕 *Senecio nemorensis* L.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年調査では23件の報告があるが、今回は7件の報告があった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で11区画から記録されている。近年、確認個体数は減少している。

【県内分布状況】 低山西～亜高山帯に分布

【県内生育状況】 日当たりの良い草地や林縁に生育。シカによる食害で個体数・生育地が急激に減少している。

【特記事項】

1529 (キク科)

〔和名〕 **ハバヤマボクチ**〔学名〕 *Synurus excelsus* (Makino) Kitam.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年調査では2件の報告があるが、今回は報告がなかった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で2区画から記録されている。確認個体数は不明である。

【県内分布状況】 丘陵帯～低山帯に分布

【県内生育状況】 日当たりの良い丘陵や山地のやや乾燥した草原に生育。非線引き都市計画区域のため草地開発や土地造成により個体数、生育地も激減した。今回の調査でも生育地は確認出来なかった。シカによる食害も深刻である。

【特記事項】

1530 (キク科)

〔和名〕 **コウリンカ**〔学名〕 *Tephrosia flammea* (Turcz. ex DC.) Holub subsp. *glabrifolia* (Cufod.) B. Nord.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

【評価所見】 2005年調査では2件の報告があるが、今回は1件の報告があった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で2区画から記録されている。確認個体数は1000未満、群落総面積は減少している。

【県内分布状況】 亜高山帯に分布

【県内生育状況】 日当たりの良い草原に生育。以前は園芸採取もあったが今はシカによる食害が深刻である。成熟個体はほとんど見ることが出来ず個体数、生育地も激減した。

【特記事項】



1531 (キク科)

〔和名〕 **キバナコウリンカ**〔学名〕 *Tephrosieris furusei* (Kitam.) B. Nord.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

【評価所見】 2005年調査では4件の報告があるが、今回は9件の報告があった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で3区画から記録されている。確認個体数は1000未満、群落総面積は減少傾向である。

【県内分布状況】 山地帯に分布

【県内生育状況】 山地の石灰岩地に生育し好石灰岩植物である。踏み付けや園芸採取による個体数の減少もあるが、シカによる食害が深刻である。成熟個体は少なく生育地も減少した。

【特記事項】 亜高山帯に生育していたものは、タカネコウリンカとされた。県希少野生動植物種保護条例指定種

1532 (キク科)

〔和名〕 **オカオグルマ**〔学名〕 *Tephrosieris integrifolia* (L.) Holub subsp. *kirilowii* (Turcz. ex DC.) B. Nord.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 2005年調査では3件の報告があるが、今回も3件の報告があった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で3区画から記録されている。確認個体数は10000未満で激減している。

【県内分布状況】 荒川西～丘陵北に分布

【県内生育状況】 日当たりの良いやや乾いた草地や田んぼの土手、畦に生育。線引き都市計画区域のため採草地の消失や土地造成により、生育地も激減した。

【特記事項】

1533 (キク科)

〔和名〕 **サワオグルマ**〔学名〕 *Tephrosieris pierotii* (Miq.) Holub

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 2005年調査では1件の報告があるが、今回は報告がなかった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で1区画から記録されている。確認個体数は不明である。

【県内分布状況】 低山西に分布

【県内生育状況】 日当たりの良い山間のやや湿った草地に生育。森林伐採・土地開発による湿地の埋め立てにより個体数や生育地が激減した。今回の調査でも生育地での個体の確認は出来なかった。絶滅の可能性がある。

【特記事項】

1534 (キク科)

〔和名〕 **タカネコウリンカ**〔学名〕 *Tephrosieris takedana* (Kitam.) Holub

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 2005年調査では1件の報告があるが、今回は4件(1地点)の報告があった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で1区画から記録されている。確認個体数、群落総面積は減少している。

【県内分布状況】 亜高山帯に分布

【県内生育状況】 埼玉県には石灰岩地に隔離分布している。シカによる食害が深刻で、成熟個体は少なく個体数も減少した。

【特記事項】 埼玉生物第42号にて報告されている。中部地方の亜高山帯から高山帯の草地や礫地に生育。

1535 (キク科)

〔和名〕 **オナモミ**〔学名〕 *Xanthium strumarium* L.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 II類(VU)

全国カテゴリー 絶滅危惧 II類(VU)

【評価所見】 2005年調査では36件の報告があるが、今回は3件の報告があった。二次メッシュによる分布では今回までの総計で20区画から記録されている。確認個体数は不明である。

【県内分布状況】 加須・中川低地帯～低山帯に分布

【県内生育状況】 史前帰化植物で以前は道端や空地に普通に見られたが、今はオオオナモミやイガオナモミに生育地を奪われてしまい、ほとんど見ることが出来ない。

【特記事項】 記録されているオナモミは、再同定の結果ほとんどがオオオナモミである。

1536 (オモダカ科)

〔和名〕ヘラオモダカ

〔学名〕*Alisma canaliculatum* A. Braun et C. D. Bouché

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000以上。休耕田などに生育する。2005年以降14件の報告がある。今回の調査では7件となっている。二次メッシュによる分布では13区画。都市部に分布し、個人的な栽培がある。水質汚染、農薬汚染、自然遷移、乾燥化などが主な減少の危険要因である。

【県内分布状況】 中部・西部・南部の水田地帯に広く分布している。

【県内生育状況】 休耕田を中心に生育している。

【特記事項】

1537 (オモダカ科)

〔和名〕サジオモダカ

〔学名〕*Alisma plantago-aquatica* L. var. *orientale* Sam.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は1000以上10000未満。休耕田などに生育する。2005年以降4件の報告があるが、今回の調査では3件のみで減少傾向にある可能性がある。二次メッシュによる分布では5区画。都市部に分布しているために開発で生育地が奪われる危険性がある。自然遷移による生育環境の悪化が主な減少の危険要因である。

【県内分布状況】 中北部の水田地帯に分布する。

【県内生育状況】 谷津などの自然湿地に生育する。

【特記事項】

1538 (オモダカ科)

〔和名〕マルバオモダカ

〔学名〕*Caldesia parnassiifolia* (Bassi. ex L.) Parl.

埼玉カテゴリ 絶滅(EX)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

【評価所見】 旧版植物誌以後2件の報告がある。1998年版植物誌以後の生育記録はなく、絶滅したものである。

【県内分布状況】 低地帯～丘陵帯に分布した。

【県内生育状況】 谷津田や水田付近などの湿地や水辺に生育した。

【特記事項】 文献は日高町史(植物とくらし)1991年、西武蔵自然公園地区内の植物相の概要1971年がある。

1539 (オモダカ科)

〔和名〕アギナシ

〔学名〕*Sagittaria aginashi* Makino

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 旧版植物誌には5郡市に記録がある。1998年版植物誌で確かな記録は3件となり、急激に減少していると思われる。今回の調査で確実な記録は1件である。

【県内分布状況】 低地帯～丘陵帯に分布する。

【県内生育状況】 湿地や水田に生育する。2005年では全郡市に記録されている。今回標本を再同定をすると、その多くがオモダカであった。

【特記事項】 標本は東松山市1990年(安田)、ときがわ町玉川1982年(安田/他)、さいたま市岩槻区1954年(新井)。文献記録は多数あるが、標本や詳細な記載がなくオモダカと誤認の可能性がある。

1540 (オモダカ科)

〔和名〕ウリカワ

〔学名〕*Sagittaria pygmaea* Miq.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を超える。2005年以前には48件の報告があり、2005年以降には4件の報告しかない。都市部に分布しているために開発で生育地が奪われる危険性がある。土地改良、農薬汚染が個体数を減少させる主要因であると考えられる。

【県内分布状況】 低地～低山帯にかけて分布する。

【県内生育状況】 休耕田や水田に生育する。

【特記事項】

1541 (トチカガミ科)

〔和名〕 スブタ

〔学名〕 *Blyxa echinosperma* (C. B. Clarke) Hook. f.

埼玉カテゴリー 絶滅(EX)

全国カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【評価所見】 埼玉県植物誌続編 1962年では北埼玉郡市で記録されている。その後、文献では多くの報告がなされている。1998年植物誌以後の報告はなく、絶滅したものと考えられる。

【県内分布状況】 低地帯～丘陵帯の水中に分布した。

【県内生育状況】 水田や溝にやや普通に見られる水生植物であるが、最近の調査ではまったく見られなくなった。

【特記事項】 文献は入間市の植物総目録 1973年、東松山市植物誌 1972年などがあり、古くは羽生市宝蔵寺沼からの生育報告もある。この仲間は水草として売買されており逸出には注意が必要である。

1542 (トチカガミ科)

〔和名〕 ヤナギスブタ

〔学名〕 *Blyxa japonica* (Miq.) Maxim.

埼玉カテゴリー 絶滅(EX)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 1989-1992年の調査では、さいたま市岩槻区で生育が確認されたが、その後、自然遷移のため見られなくなった。1998年版植物誌以後の調査では、生育の記録はなく絶滅したものと考えられる。

【県内分布状況】 低地帯～丘陵帯の水中に普通に分布した。

【県内生育状況】 池沼や水田に生育した。

【特記事項】 標本は東京大学の収蔵標本に入間市仏子 1949年(原寛)、戸田市戸田ヶ原 1900年(S.Matsuda) 2点がある。文献は中川水系流域の植物と動物 1993年、増修戸田市の植物 1982年などがある。

1543 (トチカガミ科)

〔和名〕 クロモ

〔学名〕 *Hydrilla verticillata* (L. f.) Royle

埼玉カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 個体数は100を超えない。2005年以前17件の報告がある。2005年以降の報告では1集団以下であったが、今年度の調査で1か所自生地が見つかった。しかし、報告は少なく減少傾向にあると予想される。都市部に分布しているため開発で生育地が奪われる危険性がある。

【県内分布状況】 低地帯～丘陵帯の水中に分布する。

【県内生育状況】 平野部の池沼や水路に生育する。

【特記事項】

1544 (トチカガミ科)

〔和名〕 トチカガミ

〔学名〕 *Hydrocharis dubia* (Blume) Backer

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 個体数は10000以上生育している。2005年以前に5件の調査報告がある。2005年以降も6件の報告があるものの、調査地では水質の悪化、スーパー堤防の建設などにより、減少する可能性がある。都市部に分布しているために開発で生育地が奪われる危険性がある。土地改良、水質汚染、農業汚染、自然遷移などが減少の主要因としてあげられる。

【県内分布状況】 水田地帯に広く分布する。

【県内生育状況】 平野部の池沼や水路に生育する。

【特記事項】

1545 (トチカガミ科)

〔和名〕 ミズオオバコ

〔学名〕 *Ottelia alismoides* (L.) Pers.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【評価所見】 確認個体数は10000以上、2005年以前の調査報告には16件の報告があるが、2005年以降には6件である。水質の悪化や河川の改修、水田整備などにより個体数は減少傾向にある。都市部に分布しているために開発で生育地が奪われる危険性がある。河川敷開発、水質汚染も減少の主要因である。

【県内分布状況】 低地帯～丘陵帯に広く分布している。

【県内生育状況】 平野部の湿地・谷津田・水路・河川に生育している。

【特記事項】

1546 (トチカガミ科)

〔和名〕 コウガイモ

〔学名〕 *Vallisneria denseserrulata* (Makino) Makino

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000以上、2005年以前の調査では5件の報告があり、2005年以降9件の報告がある。水質汚染・農薬汚染や自然遷移により個体数は減少傾向にある。都市部に分布しているために開発で生育地が奪われる危険性がある。水質汚染、農薬汚染が主な減少の要因である。

【県内分布状況】 水田地帯に分布している。

【県内生育状況】 平野部の水路や池沼に生育している。

【特記事項】

1547 (トチカガミ科)

〔和名〕 セキショウモ

〔学名〕 *Vallisneria natans* (Lour.) H. Hara

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000以上、2005年以前には6件の報告があるが2005年以降7件の報告がある。河川の改修、水質汚染等により個体数は減少傾向にある。都市部に分布しているために開発で生育地が奪われる危険性がある。河川改修、水質汚染、農薬汚染、管理放棄などが減少の主要因である。

【県内分布状況】 低地帯に分布する。

【県内生育状況】 平野部の水のきれいな水路や池沼に生育する。

【特記事項】

1548 (ヒルムシロ科)

〔和名〕 イトモ

〔学名〕 *Potamogeton berchtoldii* Fieber

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 確認個体数は10000以上。2005年以前に12件の報告があり、2005年以降6件の報告がある。河川の改修、水質汚染・農薬汚染などにより個体数は減少傾向にある。都市部に分布しているために開発で生育地が奪われる危険性がある。

【県内分布状況】 低地帯～丘陵帯に分布している。

【県内生育状況】 平野部の水路や池沼に生育している。

【特記事項】

1549 (ヒルムシロ科)

〔和名〕 エビモ

〔学名〕 *Potamogeton crispus* L.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000以上、2005年以前に35件の報告があり、2005年以降23件の報告がある。河川敷開発や水質汚染・農薬汚染などにより個体数は減少傾向にある。都市部に分布しているために開発で生育地が奪われる危険性がある。

【県内分布状況】 水田地帯に広く分布する。

【県内生育状況】 平野部の水路や池沼に生育する。

【特記事項】

1550 (ヒルムシロ科)

〔和名〕 ヒルムシロ

〔学名〕 *Potamogeton distinctus* A. Benn.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000以上。2005年までの調査では14件の報告があるが、2005年以降1件の報告例しかない。河川改修、水質汚染・農薬汚染などにより、個体数は著しく減少傾向にある。都市部に分布しているために開発で生育地が奪われる危険性がある。

【県内分布状況】 低地帯～丘陵帯にかけて分布している。

【県内生育状況】 平野部の水路や池沼に生育している。

【特記事項】

1551 (ヒルムシロ科)

〔和名〕 フトヒルムシロ

〔学名〕 *Potamogeton fryeri* A. Benn.

埼玉カテゴリー 情報不足(DD)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は100以下である。2005年以前には1件のみの報告であったが、2005年以降には3件の報告がある。都市部に分布しているために開発で生育地が奪われる危険性がある。自然遷移が個体数を減少させる要因とも考えられる。旧版植物誌や1998年版植物誌には記録されなかった。2005年に川越市で発見報告されたが、その後の調査では生育が確認できない。

【県内分布状況】 荒川西台地に分布していた。

【県内生育状況】 低地の池沼に分布する。

【特記事項】 標本は川越市2005年(愛川)がある。文献はさいたま植物通信26号2005年がある。水草として売買されており逸出に注意する必要がある。

1552 (ヒルムシロ科)

〔和名〕 センニンモ

〔学名〕 *Potamogeton maackianus* A. Benn.

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10を超えない。2005年以前に3件の報告があるが、2005年以降の報告は1件のみであり、減少傾向にある。河川改修や水質汚染・農薬汚染により個体数は減少傾向にある。都市部に分布しているために開発で生育地が奪われる危険性がある。採取価値は低くその危険は少ないと考えられる。

【県内分布状況】 低地帯～丘陵帯に分布している。

【県内生育状況】 平野部の水路や池沼に生育している。

【特記事項】

1553 (ヒルムシロ科)

〔和名〕 ヤナギモ

〔学名〕 *Potamogeton oxyphyllus* Miq.

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000以上。2005年以前に8件の報告があり、2005年以降7件の報告がある。河川改修や水質汚染・農薬汚染により個体数は減少傾向にあると考えられる。都市部に分布しているために開発で生育地が奪われる危険性がある。

【県内分布状況】 低地帯～丘陵帯にかけて分布する。

【県内生育状況】 平野部の水路に広く生育する。

【特記事項】

1554 (ヒルムシロ科)

〔和名〕 ササバモ (サジバモ)

〔学名〕 *Potamogeton wrightii* Morong

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000以上。2005年までの調査で10件の報告があり、2005年以降も10件の報告がある。河川改修や水質汚染・農薬汚染により個体数は減少傾向にあると考えられる。都市部に分布しているために開発で生育地が奪われる危険性がある。

【県内分布状況】 低地帯～丘陵帯に分布している。

【県内生育状況】 平野部の水路に広く生育している。

【特記事項】

1555 (イバラモ科)

〔和名〕 イトリゲモ

〔学名〕 *Najas gracillima* (A. Braun ex Engelm.) Magn.

埼玉カテゴリー 情報不足(DD)

全国カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 旧版植物誌や1998年版植物誌には記録されなかった。2009年に熊谷市でシャジクモとともに発見された。植物体が小さく、種の同定も困難でさらに詳細な調査が必要である。

【県内分布状況】 低地帯(熊谷市)に分布している。

【県内生育状況】 低地の池や水田に生育している。

【特記事項】 標本は長瀨町2009年(植田)がある。

1556 (イバラモ科)

埼玉カテゴリ 情報不足(DD)

〔和名〕 **ホッスモ**

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Najas graminea* Delile

【評価所見】 旧版植物誌では4郡市に記録がある。1998年植物誌でも10点の標本が見られるが、以後の調査では報告されていない。

【県内分布状況】 低地帯～丘陵帯に分布する。

【県内生育状況】 池沼や水田にやや普通に生育する。

【特記事項】 標本は本庄市1994年(寺尾)、寄居町1993年(愛川)、さいたま市岩槻区1993年(大河内)などがある。水中に生育する小型の植物のため、今後詳細な調査により発見される可能性がある。

1557 (イバラモ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

〔和名〕 **トリゲモ**

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

〔学名〕 *Najas minor* All.

【評価所見】 確認個体数は500以下、2005年以降2件の報告がある。報告数が少ないので、減少傾向にある可能性がある。都市部に分布しているために開発で生育地が奪われる危険性がある。自然遷移が減少の主要因である。

【県内分布状況】 低地帯に分布する。

【県内生育状況】 平野部の池沼に生育する。

【特記事項】

1558 (ユリ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕 **ノギラン**

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Aletris luteoviridis* (Maxim.) Franch.

【評価所見】 確認個体数は100以下、2005年以前に4件の報告があるが、2005年以降の報告個体はなく、減少傾向にある可能性がある。特に園芸採取はないが、シカの食害の激しい地域に分布し、絶滅の危機に瀕している。

【県内分布状況】 丘陵帯～亜高山帯にかけて分布する。

【県内生育状況】 今回の調査では亜高山地帯の湿原・草地に生育する。

【特記事項】

1559 (ユリ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕 **ヒメニラ** (ヒメビル)

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Allium monanthum* Maxim.

【評価所見】 確認個体数は10000以上。2005年以前に13件の報告があり、2005年以降17の報告がある。森林の伐採・整地、道路の新設・拡幅、シカの食害、自然遷移などのために減少傾向にある可能性がある。採取価値は低く、その危険性はないと考えられる。

【県内分布状況】 丘陵地帯～山地帯にかけて分布する。

【県内生育状況】 秩父や県西部の丘陵地帯の自然林の林床や林縁、畑の周りなどに生育する。

【特記事項】

1560 (ユリ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

〔和名〕 **ミヤマラッキョウ**

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Allium splendens* Willd. ex Roem. et Schult.

【評価所見】 確認個体数は50以下、2005年以降1件の報告しかなく、減少傾向にある可能性がある。二次メッシュによる分布は1区画のみである。踏みつけや動物による食害が危険性の要因としてあげられる。採取により危険性は少ないと考えられる。

【県内分布状況】 亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 石灰岩の岩場の岩上に生育する。

【特記事項】

1561 (ユリ科)

〔和名〕 ヤマラッキョウ

〔学名〕 *Allium thunbergii* G. Don

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 2005年以降確認された個体数は10以下。報告例も1件のみであるので、減少傾向にあると思われる。管理放棄による自然遷移が主な危険性の要因である。採取価値は低くその危険性は少ないと考えられる。

【県内分布状況】 低地帯～低山帯にかけて分布する。

【県内生育状況】 草地や山地草原に生育する。

【特記事項】

1562 (ユリ科)

〔和名〕 ギョウジャニンニク

〔学名〕 *Allium victorialis* L. subsp. *platyphyllum* Hultén

埼玉カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体は1000を超えない。2005年以前に1件の報告はあるが、2005年以降はなく、減少傾向にある。シカによる食害や自然遷移が危険性の要因として考えられる。

【県内分布状況】 亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 自然林の林床や林縁に生育する。

【特記事項】

1563 (ユリ科)

〔和名〕 アマナ

〔学名〕 *Amana edulis* (Miq.) Honda

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を超える。2005年以前に17件の報告がある。2005年以降は44件の報告がある。園芸採取があり、個体数減少の一因になっている。他に、森林伐採・整地、自然遷移が個体数減少の主な危険要因である。

【県内分布状況】 低地帯～低山帯にかけて分布する。

【県内生育状況】 二次林の林縁や草原・河川敷の草原に生育する。

【特記事項】

1564 (ユリ科)

〔和名〕 ヒロハノアマナ (ヒロハアマナ)

〔学名〕 *Amana latifolia* (Makino) Honda

埼玉カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年以前に4件の報告があったが、2005年以降は15件(2地点)の報告がある。都市部に分布しているために開発で生育地が奪われる危険性がある。販売目的の採取があり、個体数減少の大きな要因となっている。また、管理放棄や自然遷移も個体数減少の主要因として考えられる。

【県内分布状況】 低地帯～丘陵帯にかけて分布する。

【県内生育状況】 二次林の林縁や畑・草原などに生育する。

【特記事項】

1565 (ユリ科)

〔和名〕 キジカクシ

〔学名〕 *Asparagus schoberioides* Kunth

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000未満である。2005年以前に16件の報告があるが、2005年以降は9件の報告がある。森林伐採・整地、シカによる食害が減少の主要因である。

【県内分布状況】 丘陵帯～山地帯にかけて分布する。

【県内生育状況】 山地の自然林の林床や林縁に生育する。

【特記事項】

1566 (ユリ科)

〔和名〕ステゴビル

〔学名〕*Caloscordum inutile* (Makino) Okuyama et Kitag.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年以前に3件の報告があり、2005年以降は9件と増えてはいるものの、土地改修などのために減少傾向にあるものと思われる。個人的な栽培がある。

【県内分布状況】 県内では丘陵帯～低山帯にかけて分布する。

【県内生育状況】 自然林や二次林の林縁・林床に生育する。

【特記事項】

1567 (ユリ科)

〔和名〕アズマシライトソウ

〔学名〕*Chionographis hisauchiana* (Okuyama) N. Tanaka

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

【評価所見】 確認個体は10000を超えない。2005年調査では報告はなかったが、今回は5件の報告がある。今回は文献データなどを参考に新たな生育地が見つかったものの個体数は少ない。個人的な栽培がある。森林伐採・整地、園芸採取、自然遷移が減少の主要因である。

【県内分布状況】 県西部の低山帯・丘陵地に分布する。

【県内生育状況】 自然林・二次林・スギ林などの林床や林縁に生育する。

【特記事項】

1568 (ユリ科)

〔和名〕ツバメオモト

〔学名〕*Clintonia udensis* Trautv. et C. A. Mey.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は1000以下である。2005年までの調査では4件の報告があり、2005年以降は3件の報告がある。園芸採取はないが、シカの食害の激しい地域に分布し、絶滅の危機に瀕している。

【県内分布状況】 秩父地方の亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 自然林の林床に生育する。

【特記事項】

1569 (ユリ科)

〔和名〕スズラン

〔学名〕*Convallaria majalis* L. var. *manshurica* Kom.

埼玉カテゴリ 絶滅(EX)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 旧版植物誌では栽培品として扱われていた。寄居町では昭和20年代には売り出すほど見られたとしており、自生していたと考えられる。しかし、1998版植物誌は写真のみで標本がなく、生育は確認できなかった。その後も生育確認はなく、絶滅したものと思われる。

【県内分布状況】 丘陵北(寄居町)に分布した。

【県内生育状況】 丘陵帯～山地帯の明るい草原に生育した。

【特記事項】 文献は寄居地方の植物2000年(落合)、寄居町史(植物)1986年がある。近隣の県でも低山帯にスズランの自生が報告されており、埼玉県にも分布していた。

1570 (ユリ科)

〔和名〕カタクリ

〔学名〕*Erythronium japonicum* Decne.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000以上。2005年までの調査では38件の報告数であったが、今回は124件の報告があった。販売目的の採取がある。また、シカの食害の激しい地域に分布し、環境悪化が著しく、絶滅の危機に瀕している。

【県内分布状況】 県内の低地帯～山地帯にかけて分布している。

【県内生育状況】 自然林・二次林・植林地の林床に生育している。

【特記事項】



1571 (ユリ科)

〔和名〕 ヒメアマナ

〔学名〕 *Gagea japonica* Pascher

埼玉カテゴリ 絶滅(EX)

全国カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

- 【評価所見】 旧版植物誌や1998年版植物誌には記録されなかった。しかし、古い記録を見ると県内の荒川河川敷ではサクラソウなどとともに多くの記録が残されている。1998年版植物誌以後の調査では生育が確認できず、絶滅したものと思われる。
- 【県内分布状況】 大宮台地（戸田市・さいたま市桜区）に分布していた。
- 【県内生育状況】 低地帯の湿った河川敷内草地に生育した。
- 【特記事項】 文献は大井町史（植物）1986年、武蔵野の植物1965年（桧山）がある。寺崎日本植物図譜1977年（奥山編）に用いられた標本は戸田ヶ原1940年産のものである。

1572 (ユリ科)

〔和名〕 キバナノアマナ

〔学名〕 *Gagea lutea* (L.) Ker Gawl.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

- 【評価所見】 確認個体数は10000以上。2005年までの調査では9件であったが、2005年以降の調査では29件の報告があった。これは早春植物の調査を優先的に行ったため、園芸採取や、シカの食害などのために絶滅の危機に瀕している地域も多い。また、河川敷に生育している個体群もあり河川敷開発も大きな減少の主要因である。
- 【県内分布状況】 県内では丘陵帯～山地帯にかけて分布する。
- 【県内生育状況】 秩父の自然林・二次林の林床や林縁に、県西部・南部の河川の河川敷などに生育する。
- 【特記事項】

1573 (ユリ科)

〔和名〕 ニッコウキスゲ（ゼンテイカ）

〔学名〕 *Hemerocallis dumortieri* C. Morren var. *esculenta* (Koidz.) Kitam. ex M. Matsuoka et M. Hotta

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II 類(VU) 全国カテゴリ ランクなし

- 【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年以前に6件の報告があり、2005年以降は14件の報告がある。販売目的の採取があり、個体数の減少の大きな危険因子となっている。自然遷移・自然乾燥化が園芸採取以外の個体数減少の主要因である。
- 【県内分布状況】 県内では丘陵帯～山地帯までに分布する。
- 【県内生育状況】 県内では石灰岩の岩場や蛇紋岩地域・丘陵地の二次林の林床などに生育する。
- 【特記事項】

1574 (ユリ科)

〔和名〕 コオニユリ

〔学名〕 *Lilium leichtlinii* Hook. f. f. *pseudotigrinum* (Carrière) H. Hara et Kitam.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

- 【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までは7件の報告があり、2005年以降も7件の報告がある。園芸採取があり、個体数が減る一つの原因になっている。石灰岩の採掘、自然遷移が園芸採取以外の個体数減少の主要因である。
- 【県内分布状況】 県内では丘陵帯～亜高山帯まで広く分布している。
- 【県内生育状況】 草地や山地草原に生育している。
- 【特記事項】

1575 (ユリ科)

〔和名〕 ミヤマスカシユリ

〔学名〕 *Lilium maculatum* Thunb. var. *bukosanense* (Honda) H. Hara

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

- 【評価所見】 確認個体数は100を超えない。2005年までも1件のみの報告があったのみで、2005年以降は報告がない。武甲山の石灰岩の岩場に生育するのみで、石灰岩の採掘により絶滅の危機に瀕している。また、販売目的の採取も見られる。
- 【県内分布状況】 低山帯に分布している。
- 【県内生育状況】 武甲山の石灰岩の岩場に生育している。
- 【特記事項】 県希少野生動植物種保護条例指定種

1576 (ユリ科)

〔和名〕 **クルマユリ**〔学名〕 *Lilium medeoloides* A. Gray

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年以前に5件の報告があり、2005年以降は4件の報告のみである。園芸採取があり、個体数が減る一つの原因になっている。また、シカやカモシカによる食害も個体数減少の要因と考えられる。

【県内分布状況】 県内では山地帯～亜高山帯にかけて分布する。

【県内生育状況】 山地草原や石灰岩の岩場の岩上に生育する。

【特記事項】

1577 (ユリ科)

〔和名〕 **ホソバノアマナ (ホソバアマナ)**〔学名〕 *Lloydia triflora* (Ledeb.) Baker

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までの調査では5件の報告があるのみである。2005年以降も4件の報告がある。森林伐採やシカによる食害が減少の主要因としてあげられる。

【県内分布状況】 県内では低山帯～山地帯にかけて分布している。

【県内生育状況】 自然林や二次林・植林の林床に生育している。

【特記事項】

1578 (ユリ科)

〔和名〕 **ヒメマイヅルソウ**〔学名〕 *Maianthemum bifolium* (L.) F. W. Schmidt

埼玉カテゴリ 情報不足(DD)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 旧版植物誌や1998年版植物誌には記録されなかった。2004年に秩父市中津川三国尾根で発見されたが、その後の調査では生育が確認できない。

【県内分布状況】 亜高山帯(三国尾根)に分布する。

【県内生育状況】 本州中部以北の針葉樹林下に生育する。

【特記事項】 標本は秩父市中津川(矢島)がある。マイヅルソウに似るが茎の上部や葉の裏面に突起毛がある点で区別できる。

1579 (ユリ科)

〔和名〕 **クルマバツクバネソウ**〔学名〕 *Paris verticillata* M. Bieb.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年以前には7件の報告がある。2005年以降は4件の報告がある。シカの食害による環境悪化により、絶滅の危機に瀕している。森林伐採も個体数を減少させる要因として考えられる。

【県内分布状況】 県内では山地帯～亜高山帯にかけて分布する。

【県内生育状況】 自然林の林床・林内に生育する。

【特記事項】

1580 (ユリ科)

〔和名〕 **ワニグチソウ**〔学名〕 *Polygonatum involucreatum* (Franch. et Sav.) Maxim.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までの報告は22件あったが、2005年以降は11件の報告となった。森林伐採、園芸採取、シカによる食害が主な個体数減少の危険要因である。

【県内分布状況】 県内では丘陵帯～山地帯にかけて分布する。

【県内生育状況】 自然林や二次林下に生育する。

【特記事項】

1581 (ユリ科)

〔和名〕 ヒメタケシマラン

〔学名〕 *Streptopus streptopoides* (Ledeb.) Frye et Rigg subsp. *streptopoides*

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は1000以下。2005年以前に2件の報告があるが、2005年以降は1件のみの報告数である。森林伐採や整地が個体数減少の危険要因である。

【県内分布状況】 県内では山地帯～亜高山帯にかけて分布する。

【県内生育状況】 自然林の林床や林縁に生育する。

【特記事項】

1582 (ユリ科)

〔和名〕 チャボゼキショウ

〔学名〕 *Tofieldia coccinea* Richards. var. *kondoii* (Miyabe et Kudô) H. Hara

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を超える。2005年までの報告は3件のみであったが、2005年以降は14件の報告がある。石灰岩の採掘、園芸採取が個体数減少の主要因と考えられる。

【県内分布状況】 県内では低山帯～山地帯にかけて分布している。

【県内生育状況】 秩父の石灰岩の岩場に生育している。

【特記事項】

1583 (ユリ科)

〔和名〕 ホトトギス

〔学名〕 *Tricyrtis hirta* (Thunb.) Hook.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年以前には1件の報告があるのみであったが、2005年以降は8件の報告がある。森林伐採、園芸採取、シカによる食害とそれによる環境悪化などが主な減少の要因として考えられる。

【県内分布状況】 丘陵帯～山地帯に分布する。

【県内生育状況】 落葉広葉樹林の林縁に生育する。特に県内では石灰岩地帯の岩壁に多い。

【特記事項】

1584 (ユリ科)

〔和名〕 タマガワホトトギス

〔学名〕 *Tricyrtis latifolia* Maxim.

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までは25件の報告があった。2005年以降は32件の報告がある。園芸採取があり、個体数減少の一因になっている。森林伐採や整地、シカによる食害などによる環境悪化が減少の主要因である。

【県内分布状況】 低山帯～亜高山帯にかけて分布する。

【県内生育状況】 自然林の溪谷や湿った岩場に生育する。

【特記事項】

1585 (ユリ科)

〔和名〕 ヤマホトトギス

〔学名〕 *Tricyrtis macropoda* Miq.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は100以下である。2005年までの報告はないが、2005年以降は1件の報告がある。都市部に分布しているために開発で生育地が奪われる危険性がある。

【県内分布状況】 県内では県南西部地域の丘陵に分布するのみである。

【県内生育状況】 二次林の林床や林縁に生育する。

【特記事項】

1586 (ユリ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕 エンレイソウ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Trillium apetalon* Makino

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年以前に9件の報告があるが、2005年以降の報告は3件のみである。シカによる食害及びそのための環境悪化が減少の主要因である。

【県内分布状況】 丘陵帯～山地帯にかけて分布する。

【県内生育状況】 自然林や二次林の林床に生育する。

【特記事項】

1587 (ユリ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕 シロバナエンレイソウ (ミヤマエンレイソウ)

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Trillium tschonoskii* Maxim. var. *atrorubens* Miyabe et Tatew.

【評価所見】 確認個体数は10000を超える。2005年以前に34件の報告がある。2005年以降も63件の報告がある。今回の調査では早春植物を中心に調査が進んだために、報告数が増えたものと思われる。森林伐採・整地、園芸採取、シカによる食害が減少の主要因である。

【県内分布状況】 丘陵帯～亜高山帯まで広く分布する。

【県内生育状況】 自然林や二次林の林床に生育する。

【特記事項】

1588 (ヒガンバナ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕 キツネノカミソリ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Lycoris sanguinea* Maxim.

【評価所見】 確認個体数は10000を超える。2005年以前に39件報告があったが、2005年以降に34件の報告があった。園芸採取があり、個体数減少の一因になっている。森林伐採・整地、土地造成、自然遷移が個体数減少の主な危険要因である。

【県内分布状況】 低地帯～山地帯にかけて分布する。

【県内生育状況】 二次林の林内や林縁等に生育する。

【特記事項】

1589 (ミズアオイ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

〔和名〕 ミズアオイ

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔学名〕 *Monochoria korsakowii* Regel et Maack

【評価所見】 確認個体数は100を超えない。2005年までは2件の報告があったが、2005年以降は1件の報告があるのみで、減少傾向にある可能性がある。都市部に分布しているために開発で生育地が奪われる危険性がある。販売目的の採取もあり、個体数減少の一因となっている。他に自然遷移が個体数を減少させる要因としてあげられる。

【県内分布状況】 低地帯～台地帯にかけて分布する。

【県内生育状況】 休耕田や池沼に分布する。

【特記事項】

1590 (アヤメ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

〔和名〕 ノハナショウブ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Iris ensata* Thunb. var. *spontanea* (Makino) Nakai ex Makino et Nemoto

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年以前には8件の報告があったが、2005年以降は1件の報告があるのみで、減少の可能性がある。園芸採取があり、個体数減少の一因になっている。また、湿地開発も減少の要因として考えられる。

【県内分布状況】 丘陵帯～山地帯に分布する。

【県内生育状況】 草地や山地草原に生育する。

【特記事項】

1591 (アヤメ科)

〔和名〕 ヒメシャガ

〔学名〕 *Iris gracilipes* A. Gray

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年以前には1件の報告があったが、2005年以降は3件と全県的に報告が少ない。販売目的の採取もあり、個体数減少の一因となっている。また、森林伐採・整地、乾燥化も減少の主要因として考えられる。

【県内分布状況】 県内では山地帯に分布する。

【県内生育状況】 自然林の林縁に生育する。

【特記事項】

1592 (アヤメ科)

〔和名〕 カキツバタ

〔学名〕 *Iris laevigata* Fisch.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年までは2件の報告があったが、2005年以降は1件のみの報告であり、減少傾向にあると考えられる。都市部に分布しているために開発で生育地が奪われる危険性がある。販売目的の採取もあり、個体数減少の一因となっている。他に自然遷移が個体数を減少させる危険要因として考えられる。

【県内分布状況】 県内では低地帯～丘陵帯に分布する。

【県内生育状況】 自然湿地に生育する。

【特記事項】

1593 (アヤメ科)

〔和名〕 アヤメ

〔学名〕 *Iris sanguinea* Hornem.

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000以上。2005年以前に18件の報告があるが、2005年以降は3件の報告があるのみである。急激な個体数の減少の可能性がある。販売目的の採取もあり、個体数減少の一因となっている。土地造成、草地開発、動物の食害などが個体数を減少させる主な要因と考えられる。

【県内分布状況】 県内では低地帯～亜高山帯まで分布する。

【県内生育状況】 草地や山地草原に生育する。

【特記事項】

1594 (イグサ科)

〔和名〕 イトイ

〔学名〕 *Juncus maximowiczii* Buchenau

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 確認個体数は10000を超えない。2005年までは9件の報告があるが、2005年以降は4件の報告があるのみである。減少傾向にあると思われる。森林伐採・整地、乾燥化が主な個体数減少の危険要因である。

【県内分布状況】 県内では山地帯～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 石灰岩地以外の岩場に生育する。

【特記事項】

1595 (ホシクサ科)

〔和名〕 ヒロハイヌノヒゲ

〔学名〕 *Eriocaulon alpestre* Hook. f. et Thomson ex Koern. var. *robustius* Maxim.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 II 類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 本県内のホシクサ科の中では本種が最も多く見かける種となる。数千株の個体が自生していると思われる。二次メッシュによる分布では今回の調査までを総計し、10区画から記録された。自生地ほとんどが線引き都市計画区域にあり、埋め立て等による減少を警戒しなければならない。

【県内分布状況】 丘陵北、丘陵南、大宮台地、加須・中川低地に分布する。

【県内生育状況】 休耕田の畦や浅い沼の縁に自生する。

【特記事項】 総苞片は鈍頭で頭花より短く、葉幅は5mm以上ある。頭花は淡褐色で、葯は黒。埼玉RDB2005では17件の記録があり、今回の調査で4件の記録が追加された。

1596 (ホシクサ科)

〔和名〕 クロイヌノヒゲ

〔学名〕 *Eriocaulon atrum* Nakai

埼玉カテゴリ 絶滅(EX)

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 埼玉県 RDB2005 は DD であったが、今回の調査でも発見されず、今後の発見される見通しも極めて低いと考えられる。

【県内分布状況】 旧版の埼玉県植物誌には北足立郡市に記録があった。

【県内生育状況】 湿地に生育するが、県内は埋め立て等でその適地が減少している。

【特記事項】 総苞片は鈍頭で頭花より短く、葉幅は 1~4mm、頭花の先端部は黒を帯び、葯も黒であれば本種と同定できる。

1597 (ホシクサ科)

〔和名〕 ホシクサ

〔学名〕 *Eriocaulon cinereum* R. Br.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 個体数は少なく 1000 以下。少ないまま現状を維持していると考えられる。二次メッシュによる分布は今までの記録をまとめると全県で 5 区画の記録となる。園芸採取が考えられる。埼玉 RDB2005 では 1 件の記録であったが、今回の調査では 6 件の記録が追加された。

【県内分布状況】 丘陵南、大宮台地、加須・中川低地に分布する。

【県内生育状況】 休耕田の畦や浅い沼の縁に自生する。

【特記事項】 総苞片は鈍頭で頭花より短く、葉幅は 1~4mm、頭花の先端部は淡褐色で、葯は白

1598 (ホシクサ科)

〔和名〕 イトイヌノヒゲ

〔学名〕 *Eriocaulon decemflorum* Maxim.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 数百程度の個体数であると推定される。二次メッシュによる分布は 2 区画から記録されており、自生地は極めてわずかである。とりえず現状は維持されている。採取の危険は大きくないと思われる。

【県内分布状況】 丘陵北に分布する。埼玉 RDB2005 では 1 件の記録のみであったが、今回の調査で 2 件の記録が追加された。

【県内生育状況】 休耕田の畦や浅い沼の縁に自生する。

【特記事項】 花茎は 4 稜があつてねじれる。他の県内産ホシクサ科の花茎はあまりねじれない。

1599 (ホシクサ科)

〔和名〕 コシガヤホシクサ

〔学名〕 *Eriocaulon heleocharioides* Satake

埼玉カテゴリ 絶滅(EX)

全国カテゴリ 野生絶滅(EW)

【評価所見】 埼玉 RDB2005 において絶滅であったが、今回も変わらない。

【県内分布状況】 越谷市に分布した。

【県内生育状況】 水縁に自生していた。

【特記事項】 ホシクサに酷似し、総苞片は鈍頭で頭花より短く、葉幅は 1~4mm、頭花の先端部は淡褐色で、葯は白。ホシクサに比べ本種の葉は長く 7~15cm であり、5~7 脈あることで区別される。現在、越谷市の自生地は消滅し、地元中学校において他県産のコシガヤホシクサが栽培されている。

1600 (ホシクサ科)

〔和名〕 イヌノヒゲ

〔学名〕 *Eriocaulon miquelianum* Koern.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 個体数は非常に少なく数百であろうと思われる。二次メッシュによる分布では 4 区画から記録されている。やや減少傾向にあると考えられる。

【県内分布状況】 低山西、丘陵北、荒川西台地に分布する。

【県内生育状況】 休耕田の畦や浅い沼の縁に自生する。

【特記事項】 ニッポンイヌノヒゲと同じく、総苞片は鋭尖頭で頭花より長く、葯は黒。相違点は本種の葉幅が 1~3mm、苞の先端部にはこん棒状の毛がはえること。

1601 (ホシクサ科)

〔和名〕 **ニッポンイヌノヒゲ**〔学名〕 *Eriocaulon taquetii* Lecomte

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 個体数は今回の調査では記録がなかったが、全体として数百であろうと推測する。埼玉 RDB2005 では二次メッシュによる分布は3区画、VUであったが、報告がほとんどないことから今回の見直しで EN とする。

【県内分布状況】 低山東、丘陵北、丘陵南に分布する。

【県内生育状況】 休耕田の畦や狭い水路・浅い沼の縁に自生する。

【特記事項】 総苞片は鋭尖頭で頭花より長く、葉幅は 3mm 以上。苞の先端部に毛はない。葯は黒。

1602 (イネ科)

〔和名〕 **ミヤマヌカボ**〔学名〕 *Agrostis flaccida* Hack.

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 個体数は 1000 前後のレベルであろう。二次メッシュによる分布では4区画から記録されている。自生地は都市計画区域外にあり、園芸採取対象の植物であるとは考えられず、当分現状を維持するものと思われる。今回の見直しでは、ランクを下げて準絶滅危惧種 NT とする。

【県内分布状況】 亜高山帯を中心に山地までの範囲に分布する。

【県内生育状況】 山地の斜面、岩石地などに自生する。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 では6件の記録がある。

1603 (イネ科)

〔和名〕 **コミヤマヌカボ**〔学名〕 *Agrostis mertensii* Trin.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 個体数は 100 のレベルであって、数は相当に少ないと思われる。二次メッシュによる分布では今回までの総計で3区画からの記録がある。自生地は線引き都市計画区域外にあり、減少の危険も考えられない。

【県内分布状況】 亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 高山性の草地に自生する。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 では2件の記録があり、今回の調査で3件のデータが追加された。

1604 (イネ科)

〔和名〕 **エゾヌカボ**〔学名〕 *Agrostis scabra* Willd.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 生育個体数は少ない。亜高山帯で希に見かける。二次メッシュによる分布は正式に記録がなく、調査不十分である。

【県内分布状況】 亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 天目山への林道沿いで確認されている。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 では記録がなく、今回の調査でも記録がないが、目視確認と未整理標本がある。

1605 (イネ科)

〔和名〕 **ヒメコヌカグサ**〔学名〕 *Agrostis valvata* Steud.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 II 類(VU)

全国カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 個体数は 1000 未満のレベルであって、あまり見かけない。二次メッシュによる分布では3区画に記録がある。自生地は都市計画区域外にあり、開発や園芸採取の危険も低く、しばらくは現状維持するものとする。

【県内分布状況】 亜高山帯、低山西、丘陵北など、台地・低地以外の広い地域に点在する。

【県内生育状況】 山中自然林の林床に生える。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 では3件の報告がある。

1606 (イネ科)

〔和名〕 セトガヤ

〔学名〕 *Alopecurus japonicus* Steud.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 個体数はまだ多いといえる。湿地に群落をつくる傾向があり、水湿地の減少と本種の減少はリンクする。二次メッシュによる分布で埼玉 RDB2005 のデータも合わせて 13 区画となる。線引き都市計画区域にあり、埋め立て等の開発行為により減少傾向にある。園芸採取の危険はないが、今後注目していく必要がある。今回の見直しで新たに準絶滅危惧種 NT に位置づけた。

【県内分布状況】 加須・中川低地を中心に、山地帯、丘陵北、荒川西台地、大宮台地に分布する。

【県内生育状況】 平地の湿地に群落をつくる。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 では 18 件の記録があり、今回の調査で 2 件の記録が加わった。

1607 (イネ科)

〔和名〕 タカネコウボウ

〔学名〕 *Anthoxanthum horsfieldii* (Kunth ex Benn.) Mez var. *japonicum* (Maxim.) Veldkamp

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 あまり見かけない。個体数は 1000 未満であろう。二次メッシュによる分布では今回の調査も含め 3 区画の記録がある。生育地は都市計画区域外にあり、また園芸採取の価値は低いと考えられ、現状が維持されるものと推測する。

【県内分布状況】 亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 亜高山帯の草地に生える。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 では 3 件の記録があり、今回の調査で 1 件のデータが追加された。

1608 (イネ科)

〔和名〕 コウヤザサ

〔学名〕 *Brachyelytrum japonicum* (Hack.) Hack. ex Honda

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 生育個体数は 1000 前後のレベルであると推定する。二次メッシュによる分布では 4 区画から記録されている。主たる生育地は都市計画区域外にあり、園芸採取の危険性もなく、現状まま推移するものと考えられる。

【県内分布状況】 山地帯を中心に亜高山帯、荒川西台地に分布する。

【県内生育状況】 自然林内の林床草本として生育している。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 の記録は 6 件である。

1609 (イネ科)

〔和名〕 ヒメアブラススキ

〔学名〕 *Capillipedium parviflorum* (R. Br.) Stapf

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 個体数は 10000 未満であろう。二次メッシュによる分布では 2 区画から記録されている。園芸採取の危険は全くなく、現状が維持されるものと考えられる。

【県内分布状況】 大宮台地、加須・中川低地に分布する。

【県内生育状況】 二次林の林縁に生育する。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 では 3 件の記録がある。

1610 (イネ科)

〔和名〕 フサガヤ

〔学名〕 *Cinna latifolia* (Trevir.) Griseb.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 個体数は多くない。1000 のレベルであろう。二次メッシュによる分布では 4 区画から記録されている。生育範囲は都市計画区域外にあり、また園芸採取の危険も全くない。森林が開発されない限り現状がそのまま維持されるだろう。

【県内分布状況】 亜高山帯を中心に山地帯までの範囲に分布する。

【県内生育状況】 亜高山帯の山中に単発的に見られる。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 では 6 件の記録がある。



1611 (イネ科)

〔和名〕 **カリマタガヤ**〔学名〕 *Dimeria ornithopoda* Trin.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 平地林に希に見られる。個体数は1000程度であろう。二次メッシュによる分布では5区画からの記録となる。園芸採取の心配はないが、生育地が線引き都市計画区域にあり、開発の危険にさらされている。

【県内分布状況】 丘陵北を中心に丘陵南、大宮台地に分布する。

【県内生育状況】 二次林の林床に生育する。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 では7件の記録がある。

1612 (イネ科)

〔和名〕 **ミズタカモジ**〔学名〕 *Elymus humidus* (Ohwi et Sakam.) A. Löve

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【評価所見】 個体数は1000を超えない。二次メッシュによる分布では今回までの総計で6区画から記録されている。線引き都市計画区域に分布する状況にあるが、採取価値は低くその危険性は少ないと考えられる。やや減少傾向にあると考えられる。

【県内分布状況】 丘陵北、荒川西台地、大宮台地、加須・中川低地の水田地帯に広く分布する。

【県内生育状況】 水田の畔や溝にはうように広がっている。

【特記事項】 2005年までに8件の報告がある。

1613 (イネ科)

〔和名〕 **エゾカモジグサ**〔学名〕 *Elymus nipponicus* Jaaska

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 極めて希。個体数は100を超えない。二次メッシュによる分布では1区画の記録しかない。自生地は都市計画区域外にあり、園芸採取の心配もないことから現状を維持するものと考えられる。

【県内分布状況】 亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 亜高山帯の草地に群落をつくることなく生育する。

【特記事項】 このデータは埼玉 RDB2005 による。

1614 (イネ科)

〔和名〕 **エゾムギ (ホソテンキ)**〔学名〕 *Elymus sibiricus* L.

埼玉カテゴリ 情報不足(DD)

全国カテゴリ 絶滅危惧ⅠA類(CR)

【評価所見】 生育個体が確認できない状況にあるが、おそらく自生地は秩父の山中、都市計画区域外と推定されるが現在は不明のままである。今回の見直しではDDとする。

【県内分布状況】 分布は未確認状態にある。

【県内生育状況】 生育しているとすれば自然林の林床にあると思われる。

【特記事項】 環境省ランクがCRであることも踏まえ、さらに精査する必要がある。

1615 (イネ科)

〔和名〕 **タカネウシノケグサ**〔学名〕 *Festuca ovina* L. var. *tateyamensis* Ohwi

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 個体数はごくわずかで、100のレベルであると推定する。二次メッシュによる分布では1区画から記録されている。それは三国尾根である。園芸採取の危険はなく現状が維持されるものと考えられる。今回の見直しでランクは変わらない。

【県内分布状況】 亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 石灰地ではない亜高山帯の岩場で見かける。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 では1件の記録がある。

1616 (イネ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕 ムツオレグサ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Glyceria acutiflora* Torr. subsp. *japonica* T. Koyama et Kawano

【評価所見】 個体数はまだあると推定する。二次メッシュによる分布では16区域の生育が確認されている。線引き都市計画区域にあり、埋め立て等の開発により減少傾向にある。採取されることはないと考えられるが注目する必要がある。今回の見直しで新たにNTに位置づけた。

【県内分布状況】 丘陵北、丘陵南、荒川西台地、大宮台地、加須・中川低地に分布する。

【県内生育状況】 休耕田や湿地、浅い池沼の縁に生育する。

【特記事項】 埼玉RDB2005では26件の記録があり、今回の調査では丘陵南1件の記録が追加された。

1617 (イネ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 ヒメウキガヤ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Glyceria depauperata* Ohwi var. *depauperata*

【評価所見】 個体数は1000のレベルであろう。二次メッシュによる分布では1区画から記録されている。河川敷の水たまりなどで見かけるが、調査不十分の感がある。今後ヒメウキガヤにウキガヤを含めないこととする。

【県内分布状況】 加須・中川低地に分布する。

【県内生育状況】 葉は水に浮く。

【特記事項】 ウキガヤとの相違点は、本種の護穎(ごえい)が3mm前後であるのに対して、ウキガヤの護穎は5mm前後となる。埼玉RDB2005では1件の記録がある。

1618 (イネ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 ウキガヤ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Glyceria depauperata* Ohwi var. *infirmata* (Ohwi) Ohwi

【評価所見】 本種はヒメウキガヤよりも少ないと思われる。二次メッシュによる分布では2区画に記録がある。調査の精度を上げる必要がある。線引き都市計画区域にあるが、採取の危険は全くない。埼玉RDB2005ではヒメウキガヤに含めていたが本種を独立させる。ランクは新たにVUとする。

【県内分布状況】 大宮台地に分布する。埼玉RDB2005では2件の記録がある。

【県内生育状況】 葉は水に浮く。

【特記事項】 ヒメウキガヤとの相違点は、本種の護穎が5mm前後であるのに対して、ヒメウキガヤの護穎は3mm前後となる。

1619 (イネ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類(EN)

〔和名〕 ミサヤマチャヒキ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Helictotrichon hideoi* (Honda) Ohwi

【評価所見】 個体数は極めて少なく100以下であろう。二次メッシュによる分布は1区画のみである。生育地は都市計画区域外、国立公園内にある。

【県内分布状況】 亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 亜高山帯の草地に生育する。

【特記事項】 埼玉RDB2005では2件の記録がある。

1620 (イネ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕 アズマガヤ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Hystrix duthiei* (Stapf) Bor subsp. *longearistata* (Hack.) Baden, Fred. et Seberg

【評価所見】 生育個体数は多く、10000を超えると推定される。二次メッシュによる分布では今回までの総計で14区画から記録されている。主に都市計画区域外に分布する状況にあり、園芸採取の可能性もなく、当面現状維持されるものと考ええる。

【県内分布状況】 亜高山帯、山地帯、低山西、低山東、丘陵北、丘陵南に分布する。台地・低地には分布しない。

【県内生育状況】 自然林の林床に生育する。沢沿いにも多い。

【特記事項】 埼玉RDB2005では31件の記録があり、今回の調査で10件のデータが追加された。

1621 (イネ科)

〔和名〕 ハイチゴザサ

〔学名〕 *Isachne nipponensis* Ohwi

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 丘陵帯に自生するが、個体数は少なく100未満であろう。ただし1平方メートルくらいの群落をつくる場合はこの限りではない。二次メッシュによる分布は1区画のみである。自生地は線引き都市計画区域にあり、道路の整備や拡幅があると一気に絶滅する危険がある。

【県内分布状況】 丘陵南に分布する。

【県内生育状況】 二次林の林内、または山道の端に生育する。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 では記録がなかったが、今回の調査で3件の記録が追加された。

1622 (イネ科)

〔和名〕 カリヤスモドキ

〔学名〕 *Miscanthus oligostachyus* Stapf

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 個体数は少なく、100未満と考えられる。二次メッシュによる分布では今回の調査を含めても1区画である。生育地は都市計画区域外にあり、採取の危険も考えられない。

【県内分布状況】 亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 石灰岩地ではない岩場の隙間に自生する。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 では1件の記録があり、今回の調査で1件のデータが追加された。

1623 (イネ科)

〔和名〕 ヌマガヤ

〔学名〕 *Moliniopsis japonica* (Hack.) Hayata

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 個体数は少なく、100前後と考えられる。二次メッシュによる分布は今回の調査で2区画が確認された。生育地は線引き都市計画区域にあり、採取の危険も考えられる。

【県内分布状況】 丘陵南に分布する。

【県内生育状況】 平地の二次林内の池沼に自生する。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 では記録がなく、今回の調査では2件の記録が追加された。

1624 (イネ科)

〔和名〕 キダチノネズミガヤ

〔学名〕 *Muhlenbergia ramosa* (Hack.) Makino

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 個体数は数千と考えられる。二次メッシュによる分布では6区画で確認されている。生育地は都市計画区域外にあり、採取の危険も全くない。

【県内分布状況】 山地帯及び低山西に分布する。加須・中川低地にもある。

【県内生育状況】 二次林の林床や林道沿いに自生する。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 では15件の記録がある。

1625 (イネ科)

〔和名〕 セイタカヨシ (セイコノヨシ)

〔学名〕 *Phragmites vallatoria* (L.) Veldkamp

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II 類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 水辺に群落がいくつか確認される。二次メッシュによる分布では今回までの合計で4区画に記録がある。群落の生育地は線引き都市計画区域である。河川改修、土手のり面の整備により刈り取られてしまう危険がある。今回の確認により生育地が増えたことから、ランクはVUに下げた。

【県内分布状況】 大宮台地、加須・中川低地に分布する。

【県内生育状況】 河川または池沼の水縁に自生する。群落をつくる。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 では2件の記録があり、今回の調査で12件のデータが追加された。

1626 (イネ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

〔和名〕 タカネタチイチゴツナギ

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

〔学名〕 *Poa glauca* Vahl

【評価所見】 個体数は少なく、100未満と考えられる。二次メッシュによる分布では今回の調査を含めても1区画である。生育地は都市計画区域外にあり、採取の危険も考えられない。

【県内分布状況】 亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 亜高山帯の草地、尾根上に生育する。

【特記事項】 護穎(ごえい)は赤紫を帯びる。埼玉 RDB2005 では1件の記録がある。

1627 (イネ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

〔和名〕 イトイチゴツナギ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Poa matsumurae* Hack.

【評価所見】 個体数は極めて少なく100未満。二次メッシュによる分布では2区画で記録されている。自生地は都市計画区域外にあり、園芸採取の心配はない。当面、現状維持で推移するものと考えられる。ランクは変わらない。

【県内分布状況】 亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 亜高山帯の草地、尾根上に生育する。

【特記事項】 葉鞘(ようしょう)に短毛を密生する。埼玉 RDB2005 では4件の記録がある。

1628 (イネ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

〔和名〕 ムカゴツヅリ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Poa tuberifera* Faurie ex Hack.

【評価所見】 個体数は極めて少なく100未満と考えられる。二次メッシュによる分布では今回の調査を含めても1区画である。生育地は都市計画区域外にあり、採取の危険も考えられない。

【県内分布状況】 低山西に分布する。

【県内生育状況】 二次林の林床に生えている。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 では2件の記録がある。

1629 (イネ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

〔和名〕 ウキシバ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Pseudoraphis ukishiba* Ohwi

【評価所見】 個体数は1000のレベルであろう。二次メッシュによる分布では5区画で記録されている。自生地は線引き都市計画区域にあり、水面に浮くイネ科植物として注目されるが、園芸採取の対象にはならない。

【県内分布状況】 荒川西台地、加須・中川低地に分布する。

【県内生育状況】 河川の水たまりや池沼の水辺で葉が水面に浮く状態で広がる。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 では5件の記録がある。

1630 (イネ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕 ウシクサ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Schizachyrium brevifolium* (Sw.) Nees ex Büse

【評価所見】 個体数は少なく1000未満のレベル。二次メッシュによる分布では今回までの合計で6区画の記録がある。園芸採取の価値はないが、平地に自生するため開発の影響を受け減少の危険がある。

【県内分布状況】 丘陵北、丘陵南、大宮台地に分布する。

【県内生育状況】 平地の草地に混じる。時に大群落となる。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 では6件の記録があり、今回の調査で1件のデータが追加された。

1631 (イネ科)

〔和名〕ヒゲシバ

〔学名〕*Sporobolus japonicus* (Steud.) Maxim. ex Rendle

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 個体数は1000未満であろう。二次メッシュによる分布では3区画で確認されている。自生地は都市計画区域外にあり、希にしか見られないという価値はあるが園芸採取の対象にはならず、現状維持で推移するものと考えられる。

【県内分布状況】 低山西、低山東、丘陵北に分布する。

【県内生育状況】 草地や田畑に自生する。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 では5件の記録がある。

1632 (イネ科)

〔和名〕ヒロハノハネガヤ

〔学名〕*Stipa coreana* Honda var. *japonica* (Hack.) Y. N. Lee

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 個体数はあまり多くはなく、1000を超えない。二次メッシュによる分布では今回までの合計で4区画から記録されている。線引き都市計画区域に自生地があり、開発の危険はあるが、園芸採取の対象とはならない。

【県内分布状況】 山地帯、低山西に分布する。

【県内生育状況】 山地帯、低山西に分布する。

【特記事項】 二次林内の草地に単発的に生じる。

埼玉 RDB2005 では7件の記録があり、今回の調査で5件のデータが追加された。

1633 (イネ科)

〔和名〕ハネガヤ

〔学名〕*Stipa pekinensis* Hance

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 個体数は多く10000前後はあると考える。二次メッシュによる分布では13区画で生育が確認されている。自生地は都市計画区域外にあたり、区域内にあたりするが、いずれにしても開発による減少が懸念される。園芸採取されることはあり得ない。今後注目する必要があり、今回の見直しで新たに準絶滅危惧種 NT に位置づけた。

【県内分布状況】 山地帯、低山西、低山東、丘陵北、丘陵南、荒川西台地に分布する。

【県内生育状況】 山中の草地に生える。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 では14件の記録があり、今回の調査では3件の記録が追加された。

1634 (サトイモ科)

〔和名〕マイヅルテンナンショウ

〔学名〕*Arisaema heterophyllum* Blume

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類 (CR)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)

【評価所見】 確認個体数は100を超えない。2005年以前には上尾市で確認されていたが、絶滅したのと考えられていた。2005年以降新たに2件の報告がある。都市部に分布しているために開発で生育地が奪われる危険性がある。河川敷開発、湿地開発が減少の主要因である。

【県内分布状況】 低地帯に分布している。

【県内生育状況】 県東部の自然湿地に生育する。

【特記事項】

1635 (サトイモ科)

〔和名〕ヒロハテンナンショウ

〔学名〕*Arisaema ovale* Nakai var. *sadoense* (Nakai) J. Murata

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年までは4件の報告があるが、2005年以降は報告されていない。

【県内分布状況】 低山帯～山地帯に分布する。

【県内生育状況】 自然林の林床に生育する。

【特記事項】

1636 (サトイモ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)

〔和名〕 ウラシマソウ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Arisaema thunbergii* Blume subsp. *urashima* (H. Hara) H. Ohashi et J. Murata

【評価所見】 確認個体数は10000以上。2005年以前には41件の報告があったが、2005年以降は8件の報告があるのみである。園芸採取があり、個体数減少の一因になっている。森林伐採・整地が減少の主要因として考えられる。

【県内分布状況】 県内の低地帯～山地帯にかけて分布する。

【県内生育状況】 各地の林縁に生育する。

【特記事項】

1637 (サトイモ科)

埼玉カテゴリ 情報不足 (DD)

〔和名〕 オオハンゲ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Pinellia tripartita* (Blume) Schott

【評価所見】 旧版植物誌には記録がなく、1998年版植物誌で初めて記録された。確認個体数は100を超えない。2005年以前には1件の報告があるのみで、2005年以降は報告がない。園芸採取があり、個体数減少の一因になっている。

【県内分布状況】 県西部の丘陵地帯に分布する。

【県内生育状況】 本州中部以西の照葉樹林下に生育する。特に石灰岩地を好むとされる。

【特記事項】 標本は日高市1989年(高野)がある。文献は日高町史(植物とくらし)1991年がある。

1638 (サトイモ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN)

〔和名〕 ザゼンソウ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Symplocarpus foetidus* Salisb. ex W. P. C. Barton var. *latissimus* H. Hara

【評価所見】 確認個体数は100を超えない。2005年以前には4件の報告があり、2005年以降に6件の報告がある。販売目的の採取もあり、個体数減少の一因となっている。湿地開発、管理放棄、自然乾燥化などが、減少の要因として考えられる。

【県内分布状況】 県西部の低山帯に分布する。

【県内生育状況】 湿田や谷津田に生育する。

【特記事項】

1639 (サトイモ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN)

〔和名〕 ヒメザゼンソウ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Symplocarpus nipponicus* Makino

【評価所見】 確認個体数は100以下。2005年以前には2件の報告があるが、2005年以降は7件の報告がある。湿地開発、埋め立て・盛り土、水質汚染などが減少の要因である。園芸採取があり、個体数減少の一因になっている。

【県内分布状況】 県西部の丘陵帯に生育する。

【県内生育状況】 丘陵の池沼やその周辺に生育する。

【特記事項】

1640 (ウキクサ科)

埼玉カテゴリ 絶滅 (EX)

〔和名〕 ヒンジモ

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)

〔学名〕 *Lemna trisulca* L.

【評価所見】 旧版植物誌には大里・比企郡市に記録がある。1998年版植物誌以後の調査で生育の報告がなく、絶滅したものと思われる。

【県内分布状況】 台地帯～丘陵帯の湧水池などに分布した。

【県内生育状況】 植物体は小型の葉状体で水中に浮遊する。水温の一定した湧水地に生育することが多い。

【特記事項】 文献は県内と特定できないが、武蔵野の植物1965年(桧山)がある。

1641 (ミクリ科)

〔和名〕 **ミクリ**〔学名〕 *Sparganium erectum* L.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年以前には7件の報告があるが、2005年以降は13件の報告がある。水質汚染、河川敷開発などが減少の主要因として考えられる。

【県内分布状況】 県内では低地～丘陵帯にかけて分布する。

【県内生育状況】 平地の用水路や河川に生育する。

【特記事項】

1642 (ミクリ科)

〔和名〕 **ヤマトミクリ**〔学名〕 *Sparganium fallax* Graebn.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 確認個体数は100を超えない。2005年以前には3件の報告があり、2005年以降も3件の報告がある。池沼開発、自然遷移が減少の主要因として考えられる。

【県内分布状況】 県内の丘陵帯に分布する。

【県内生育状況】 池沼に生育する。

【特記事項】

1643 (ミクリ科)

〔和名〕 **ナガエミクリ (コミクリ)**〔学名〕 *Sparganium japonicum* Rothert

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II 類(VU)

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 確認個体数は1000を超えない。2005年以前は3件、2005年以降は4件の報告がある。河川敷開発、水質汚染が個体数を減少させる危険性の主要因であると考えられる。

【県内分布状況】 県内では丘陵～低山にかけて分布する。

【県内生育状況】 用水路や河川に生育する。

【特記事項】

1644 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 **ハタガヤ**〔学名〕 *Bulbostylis barbata* (Rottb.) Kunth

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 個体数は100未満、極めて希。群落をなすことはない。二次メッシュによる分布も1区画のみ。線引き都市計画区域に生育しており、開発による減少は大いにあり得る。園芸採取の価値はほとんどない。今回の見直しで絶滅危惧種に位置づけ EN とする。

【県内分布状況】 加須・中川低地に分布する。

【県内生育状況】 休耕田や湿地に生育する。

【特記事項】 果実頂部に小さな突起があることはハタガヤ属の特徴。埼玉 RDB2005 では1件の記録がある。

1645 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 **イトテンツキ (クロハタガヤ)**〔学名〕 *Bulbostylis densa* (Wall.) Hand.-Mazz. var. *capitata* (Miq.) Ohwi

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II 類(VU)

【評価所見】 自生地が特定できないくらい極めて希。個体数は100未満であろう。二次メッシュによる分布では2区画の記録がある。自生確認地は都市計画区域外にあり、採取価値は低い。

【県内分布状況】 低山西、丘陵北に分布する。

【県内生育状況】 平地の田畑に生育する。

【特記事項】 果実頂部に小さな突起があることはハタガヤ属の特徴。埼玉 RDB2005 では3件の記録がある。

1646 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 トダスゲ (アワスゲ)

〔学名〕 *Carex aequalta* Kük.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

【評価所見】 個体数は少なく、100未満。自生地が開発計画にかかり一部移植もしている。自生の株はますます減少している。二次メッシュによる分布では今回までの合計で3区画の記録がある。自生地は線引き都市計画区域にある。

【県内分布状況】 丘陵北、荒川西台地、大宮台地に分布する。

【県内生育状況】 旧河川敷など、やや湿性の強い草地に自生する。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 では3件の記録があり、今回の調査で2件の記録が追加された。  
県希少野生動植物種保護条例指定種

1647 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 クロカワズスゲ

〔学名〕 *Carex arenicola* F. Schmidt

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 個体数はごくわずかで100未満。二次メッシュによる分布では2区画で記録がある。園芸の価値は低く採取の危険性はないと考える。

【県内分布状況】 丘陵北、加須・中川低地に分布する。

【県内生育状況】 河川敷にある砂質土壌の裸地に自生する。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 では2件の記録がある。

1648 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 ヒラギシスゲ

〔学名〕 *Carex augustinowiczii* Meinsh. ex Korsh.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 個体数は少なく、100未満と考えられる。二次メッシュによる分布では今回の調査を含めても全く記録がない。生育地は都市計画区域外にあり、採取の危険も考えられない。

【県内分布状況】 県内での分布は正式報告ないが、山地帯での確認情報がある。

【県内生育状況】 山地帯の溪谷内砂地に単生する。

【特記事項】

1649 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 ツクバスゲ (ナガミショウジョウスゲ)

〔学名〕 *Carex blepharicarpa* Franch. var. *stenocarpa* Ohwi

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 個体数は少なく1000のレベルであろう。二次メッシュによる分布では4区画の記録がある。自生地は都市計画区域外にあり、園芸採取の対象にはならない。今回の調査で記録件数が大幅に増えた。

【県内分布状況】 垂高山帯を中心に、山地帯、低山西に分布する。

【県内生育状況】 垂高山帯の岩場に生じる。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 では記録がなく、今回の調査で11件の記録があった。

1650 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 アワボスゲ

〔学名〕 *Carex brownii* Tuck.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 見かけることも少なく個体数は1000未満。二次メッシュによる分布では今回までの合計で2区画の記録がある。

【県内分布状況】 低山西、丘陵南に分布する。

【県内生育状況】 山中の湿り気のある草地に生じる。大きな群落をつくらない。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 では2件の記録があり、今回の調査では1件のデータが追加された。



1651 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 **ジョウロウスゲ**〔学名〕 *Carex capricornis* Meinsh. ex Maxim.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

【評価所見】 減少の傾向にあり、自生地が減り個体数も100のレベルとなった。保護された群落地では増加傾向が確認されているが、埋め立て等の開発の危険は免れない。二次メッシュによる分布では今回までの合計で3区画の記録がある。自生地は線引き都市計画区域にある。

【県内分布状況】 大宮台地を中心に加須・中川低地にも分布する。

【県内生育状況】 平地の池沼・湿地に大群落をつくる。

【特記事項】 埼玉RDB2005では8件の記録があり、今回の調査で17件のデータが追加された。

1652 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 **ヌマアゼスゲ**〔学名〕 *Carex cinerascens* Kük.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

【評価所見】 生育環境が水湿地であるため、遊水地や池沼の減少とともに個体数を減らしていく。個体数は少なく、湿地で小さな群落を見かける。二次メッシュによる分布では今回の調査を含め2区画の記録がある。自生地は線引き都市計画区域にあり、池沼の埋め立て等の開発によってますます減少するだろう。

【県内分布状況】 荒川西台地、大宮台地、加須・中川低地に分布する。

【県内生育状況】 浅い池沼に生育する。一般に根茎は常に水中にあり群落をつくる。

【特記事項】 埼玉RDB2005では1件の記録があり、今回の調査で2件の記録が追加された。

1653 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 **コタヌキラン**〔学名〕 *Carex doenitzii* Boeck.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 単一群落をなしている。群落内の個体数は数百となる。確実に確認されている群落は1か所である。当該地は都市計画区域外にあり、亜高山帯と山地帯の境界に位置する。県内では貴重な群落であると評価し、新たにVUとする。

【県内分布状況】 山地帯、丘陵南に分布する。

【県内生育状況】 石灰岩ではない岩場に付き垂れ下がる形態が普通。

【特記事項】 埼玉RDB2005では2件の記録があり、今回の調査で3件の記録が追加された。

1654 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 **サナギスゲ**〔学名〕 *Carex grallatoria* Maxim. var. *heteroclita* (Franch.) Kük. ex Matsum.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 個体数は100未満と推定する。二次メッシュでは2区画に分布する。類似のヒナスゲは山地で普通に見かけるが、本種はほとんど見かけない。分布地は都市計画区域外。採取の危険も食害の危険もなく現状維持と見られるので、ランクは変えない。

【県内分布状況】 亜高山帯、低山東に分布する。

【県内生育状況】 山中の岩場または尾根上、登山道の縁に生育する。

【特記事項】 埼玉RDB2005では2件の記録があり、今回の調査で1件の記録が追加された。

1655 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 **ヤマアゼスゲ**〔学名〕 *Carex heterolepis* Bunge

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 個体数は10000未満のレベルで現状を維持していると推定する。二次メッシュによる分布は10区画の記録があり分布範囲は広い。自生地は線引き都市計画区域にある。

【県内分布状況】 亜高山帯、山地帯、低山西、低山東、丘陵北、丘陵南

【県内生育状況】 山中の溪谷、河川敷の砂質土壌に生育する。

【特記事項】 埼玉RDB2005では15件の記録がある。今回の調査では記録がなかったが、この原因は調査不足であると考えられる。

1656 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 **ウマスゲ**〔学名〕 *Carex idzuroei* Franch. et Sav.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 個体数は10000未満のレベル。二次メッシュによる分布では今回の調査も含め15区画の記録がある。自生地は線引き都市計画区域にあるが、広く分布するので減少の危険性は小さい。

【県内分布状況】 低山西、丘陵北、丘陵南、荒川西台地、大宮台地、加須・中川低地に分布する。

【県内生育状況】 平地の田畑の溝、林縁の湿性地上にはえる。

【特記事項】 埼玉RDB2005では24件の記録があり、今回の調査で3件の記録が追加された。

1657 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 **アズマスゲ**〔学名〕 *Carex lasiolepis* Franch.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 個体数は10000未満と推定される。二次メッシュによる分布では今回の調査を含め11区画の記録があり広く分布する。自生地は都市計画区域外にあり、あまり注目もされておらず、現状を維持するものと考えられる。

【県内分布状況】 低山西を中心に、山地帯、低山東に分布する。

【県内生育状況】 山中の草地、登山道の縁に沿って生育する。

【特記事項】 埼玉RDB2005では17件の記録があり、今回の調査では25件の記録が追加された。

1658 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 **ヒエスゲ**〔学名〕 *Carex longirostrata* C. A. Mey.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 個体数は数十程度と思われる。二次メッシュによる分布では今回の調査までで2区画となる。自生地は都市計画区域外。自生地が石灰岩地に限られることから、石灰岩地の開発によって減少することが明らかである。今回本種を新たに絶滅危惧種に位置づけ、生育環境が類似する他の絶滅危惧種と比較しENとする。

【県内分布状況】 垂高山帯を中心に山地帯にまで分布する。

【県内生育状況】 石灰岩の岩場に自生する。

【特記事項】 埼玉RDB2005では4件の記録があり、今回の調査で4件の記録が追加された。

1659 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 **タチスゲ**〔学名〕 *Carex maculata* Boott

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 個体数は1000未満のレベル。二次メッシュによる分布は今回の調査を含め4区画の記録がある。大きな群落をつくることはあまりない。園芸採取の可能性も少なく、現状を維持するものとする。

【県内分布状況】 低山西、丘陵北、丘陵南に分布する。

【県内生育状況】 林縁の湿性地上に生育する。

【特記事項】 埼玉RDB2005では4件の記録があり、今回の調査で2件の記録が追加された。

1660 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 **ヌカスゲ**〔学名〕 *Carex mitrata* Franch.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II 類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 個体数は1000未満のレベルと考えられる。二次メッシュによる分布は1区画から記録されている。都市計画区域外にあり、目立つものでもないため、採集価値はないが、今後注目していく必要がある。そのため新たに絶滅危惧種に位置づけVUとする。

【県内分布状況】 低山東に分布する。

【県内生育状況】 採取された標本は標高500mほどの林道端にあった。

【特記事項】 埼玉RDB2005では記録がなく、今回の調査で1件の記録がある。

1661 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 ヒメシラスゲ

〔学名〕 *Carex mollicula* Boott

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 個体数は1000程度のレベルであろう。二次メッシュによる分布は1区画のみである。採集価値は低いが、林道拡幅・補修などの開発による減少が考えられる。今後注目する必要がある。今回新たに絶滅危惧種に位置づけ VU とする。

【県内分布状況】 丘陵北に分布する。

【県内生育状況】 山地の樹林下に生育する。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 では1件の記録があり、今回の調査では記録が追加されなかった。

1662 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 ヤチカワズスゲ

〔学名〕 *Carex omiana* Franch. et Sav. var. *omiana*

埼玉カテゴリ 絶滅(EX)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 県立自然の博物館に標本があるのみである。当該標本の産地を数度にわたり探索を続けてきたが発見できなかった。埼玉 RDB2005 及び今回の調査でも確認ができなかったため、EX とする。

【県内分布状況】 丘陵北に1件の記録がある。

【県内生育状況】 谷津、林縁の湿性地、池沼の縁に生育するというが発見できない。

【特記事項】 標本は寄居町1995年(落合)、嵐山町1985年(安田/他)がある。文献は寄居町史(植物)1986年、立正大学熊谷校地付近産植物目録1982年などがある。環境が同じと思われる丘陵南の谷津でも再三調査を繰り返したが発見できていない。

1663 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 ヒメゴウソ (アオゴウソ)

〔学名〕 *Carex phacota* Spreng.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 個体数は10000未満のレベルにあると推測する。二次メッシュによる分布では今回の調査も含めて10区画の記録があり分布範囲は広い。自生地は都市計画区域外から区域内まで広がっている。

【県内分布状況】 山地帯、低山西、低山東、丘陵北、丘陵南、荒川西台地、大宮台地、加須・中川低地の広範囲に分布する。

【県内生育状況】 田畑の畔、湿り気の強い休耕田に多い。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 では9件の記録があり、今回の調査で2件の記録が追加された。

1664 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 タカネマスクサ

〔学名〕 *Carex planata* Franch. et Sav.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 個体数は少なく、1000未満ほどであろう。二次メッシュによる分布では今回の調査も含めて9区画の記録がある。自生地は「タカネ」の名と異なり、都市計画区域外から区域内に広く分布する。

【県内分布状況】 山地帯、低山西、低山東、丘陵北、丘陵南、荒川西台地に分布する。

【県内生育状況】 山中の溪谷・湿地、池沼の縁の泥質土壌に小さな群落をつくる。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 では10件の記録があり、今回の調査で7件の記録が追加された。

1665 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 チチブシラスゲ

〔学名〕 *Carex planiculmis* Kom. var. *urasawae* Ohwi

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠA類(CR)

全国カテゴリ 絶滅危惧ⅠA類(CR)

【評価所見】 シカによる食害が続き絶滅の状況になったと推測する。個体数は生育していたとしても100未満。自生地は亜高山帯にあり、都市開計画区域外となる。二次メッシュによる分布はとりあえず1区画の記録となる。次回改定のときにも発見できない状況になると絶滅を考えなければならない。

【県内分布状況】 亜高山帯、山地帯に各1件の記録がある。

【県内生育状況】 亜高山帯原生林の溪流に沿って自生する。

【特記事項】 自生地であった場所の位置は明白なので10年近くにわたり探索を続けているが発見できない。

1666 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 タヌキラン

〔学名〕 *Carex podogyne* Franch. et Sav.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 大群落をつくる。しかし、大群落の自生地は極めて希である。個体数は多いとは言えず 1000 未満としておく。二次メッシュによる分布では今回の調査も含め、3 区画の記録となる。自生地はとりあえず崖地が多いので開発の心配はないと考える。場合により、園芸目的の採取はあるかもしれない。

【県内分布状況】 低山西、丘陵北に分布する。

【県内生育状況】 河岸段丘などの崖地に群落をつくり、垂れ下がる。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 では 9 件の記録があり、今回の調査で 2 件の記録が追加された。

1667 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 オニナルコスゲ

〔学名〕 *Carex vesicaria* L.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 あまり見かけない種であるが、生育地では広い範囲で群落を形成する。個体数はとりあえず 1000 未満としておく。二次メッシュによる分布では今回の調査分も加えて 4 区画の記録となる。自生地は線引き都市計画区域にあり、湿地の埋め立てが最も危惧される。

【県内分布状況】 大宮台地、加須・中川低地に分布する。

【県内生育状況】 平地の水湿地に大群落つくることが多い。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 では 2 件の記録があり、今回の調査でさらに 2 件の記録が追加された。

1668 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 カンエンガヤツリ

〔学名〕 *Cyperus exaltatus* Retz. var. *iwasakii* (Makino) T. Koyama

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【評価所見】 個体数は少なく 1000 未満。二次メッシュによる分布では今回の調査分も含めて 10 区画の記録がある。分布域は広いといえる。自生地は線引き都市計画区域にあり、河川改修などの開発行為で本種の減少が危惧される。

【県内分布状況】 加須・中川低地を中心に、荒川西台地、大宮台地に分布する。

【県内生育状況】 狭い河川敷の砂質地または泥質地に生育する。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 では 11 件の記録があり、今回の調査で 3 件の記録が追加された。

1669 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 シロガヤツリ

〔学名〕 *Cyperus pacificus* (Ohwi) Ohwi

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 本種はほとんど目立たず、個体数は 1000 未満。二次メッシュによる分布では今回の調査を含めて 2 区画の記録がある。自生地は線引き都市計画区域にあり、休耕田の再利用などの開発行為が危惧される。

【県内分布状況】 荒川西台地、大宮台地、加須・中川低地に分布する。

【県内生育状況】 湿性の休耕田に群落をつくる。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 では 2 件の記録があり、今回の調査後 2 件の記録が追加された。

1670 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 ミズハナビ (ヒメガヤツリ)

〔学名〕 *Cyperus tenuispica* Steud.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 本種はあまり見かけない。個体数は少なく 1000 未満。二次メッシュによる分布では 5 区画の記録がある。自生地はいずれも線引き都市計画区域にあり、園芸採取の心配はないものの、休耕田の再利用などがあると減少する可能性がある。

【県内分布状況】 丘陵北、荒川西台地、大宮台地に分布する。

【県内生育状況】 湿性の休耕田、水田に生育する。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 では 5 件の記録がある。

1671 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 **スジヌマハリイ**〔学名〕 *Eleocharis equisetiformis* (Meinsh.) B. Fedtsch.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 個体数は極めて少なく 100 未満。二次メッシュによる分布では 1 区画のみである。自生地は線引き都市計画区域にあり、湿地の減少に連動して本種も減少する可能性がある。

【県内分布状況】 荒川西台地に分布する。

【県内生育状況】 遊水池などの湿地に生育する。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 では 1 件の記録がある。

1672 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 **ヌマハリイ**〔学名〕 *Eleocharis mamillata* H. Lindb. var. *cyclocarpa* Kitag.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 ごく希に生育が確認される種で、個体数は 100 未満。二次メッシュによる分布では 2 区画での確認がある。自生地は線引き都市計画区域にあり、園芸採取の心配はないものの、開発による減少は大いに危惧される。

【県内分布状況】 丘陵北、加須・中川低地に分布する。

【県内生育状況】 遊水池などの湿地に生育する。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 では 2 件の記録がある。

1673 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 **コツブヌマハリイ**〔学名〕 *Eleocharis parvinux* Ohwi

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II 類(VU)

【評価所見】 極めて希に見られる種で個体数は 100 未満。二次メッシュによる分布では今回の調査を含めて 4 区画の記録がある。自生地は線引き都市計画区域にあり、開発による湿地の減少と連動して本種も減少する可能性が濃厚である。

【県内分布状況】 丘陵北、荒川西台地、大宮台地、加須・中川低地に分布する。

【県内生育状況】 遊水池などの湿地に生育する。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 では 5 件の記録があり、今回の調査で 2 件の記録が追加された。

1674 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 **コアゼテンツキ**〔学名〕 *Fimbristylis aestivalis* (Retz.) Vahl

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 個体数は多いとは言えない 10000 未満。二次メッシュによる分布では今回の調査も含めて 12 区画の記録があり広く分布する。自生地のほとんどは線引き都市計画区域にあり、園芸採取の心配はないが、開発行為による減少を懸念する。

【県内分布状況】 低山西、丘陵北、荒川西台地、大宮台地、加須・中川大地に分布する。

【県内生育状況】 休耕田など日当たりの良い湿地に生育する。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 では 15 件の記録があり、今回の調査で 2 件の記録が追加された。

1675 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 **ノテンツキ (ヒラテンツキ)**〔学名〕 *Fimbristylis complanata* (Retz.) Link f. *exaltata* T. Koyama

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 希に見られる種で、個体数は 100 未満。二次メッシュによる分布では 1 区画のみである。湿地が埋め立てられていく状況の中で、本種の減少が危惧される。

【県内分布状況】 丘陵北に分布する。

【県内生育状況】 山裾の湿地、谷津田に生育する。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 では 2 件の記録がある。

1676 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 **アゼテンツキ**〔学名〕 *Fimbristylis squarrosa* Vahl

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 個体数はあまり多くない。二次メッシュによる分布では今回の調査を含めて15区画の記録がある。自生地のほとんどは線引き都市計画区域にあり、湿地埋め立て、道路拡幅、休耕田の再利用などが懸念される。

【県内分布状況】 大宮台地、加須・中川低地を中心に、低山西、丘陵北、丘陵南に分布する。

【県内生育状況】 休耕田など日当たりの良い湿地に生育する。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 では26件の記録があり、今回の調査で3件の記録が追加された。

1677 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 **ハタケテンツキ**〔学名〕 *Fimbristylis stauntonii* Debeaux et Franch.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

【評価所見】 個体数は数千であろう。二次メッシュによる分布では今回の調査で1区画が明らかになった。現地は土地造成の行われていない古い田畑である。線引き都市計画区域にあり、土地造成によって急激に減少する可能性がある。今回新たに絶滅危惧種に位置づけ CR とする。

【県内分布状況】 荒川西台地、大宮台地に分布する。

【県内生育状況】 休耕田等の湿り気のある畔に沿って自生する。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 では記録がなかったが、今回の調査で5件の記録が追加された。

1678 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 **イトイヌノハナヒゲ**〔学名〕 *Rhynchospora faberi* C. B. Clarke

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 個体数は極めて少なく100未満であろう。二次メッシュによる分布では1区画の記録がある。自生地は線引き都市計画区域にあるため、開発による影響が危惧される。

【県内分布状況】 大宮台地、加須・中川低地に分布する。

【県内生育状況】 水田、休耕田の湿地に生育する。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 では3件の記録がある。

1679 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 **オオイヌノハナヒゲ**〔学名〕 *Rhynchospora fauriei* Franch.

埼玉カテゴリ 情報不足(DD)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 生育地が確認できない状況が続いている。二次メッシュによる分布も0区画のままである。自生地が不明のため探索しづらい。平地や丘陵地の湿性を精査する必要がある。

【県内分布状況】 不明

【県内生育状況】 山中の湿地に生える。

【特記事項】 標本は都幾川村1981年(安田/他)がある。文献は都幾川村の植物1982年がある。埼玉 RDB2005 に記録はなく、今回の調査でも発見できなかった。

1680 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 **コイヌノハナヒゲ**〔学名〕 *Rhynchospora fujiana* Makino

埼玉カテゴリ 情報不足(DD)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 生育地が確認できない状況が続いている。生育が確認できたとしても個体数は極めて少なく100未満のレベルであると推定する。二次メッシュによる分布は埼玉 RDB2005 において1区画の記録があるが、その後絶滅の可能性も考えられる。自生地の情報が乏しい。

【県内分布状況】 丘陵北に分布する。

【県内生育状況】 平地や丘陵地の湿地に生える。

【特記事項】 標本は寄居町1987年、1988年、1992年(落合)がある。文献は寄居地方の植物2000年(落合)、狭山丘陵の植物1977年、埼玉生物1975年がある。埼玉 RDB2005 では3件の記録がある。

1681 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 ヒメホタルイ

〔学名〕 *Schoenoplectus lineolatus* (Franch. et Sav.) T. Koyama

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 個体数は少なく1000未満。本種は湿地に自生する種であって、湿地が減少すると本種も減少する関係になっている。二次メッシュによる分布は8区画での確認があり、分布域は広いといえる。自生地は線引き都市計画区域にあり、開発の影響が心配される。

【県内分布状況】 荒川西台地、大宮台地、加須・中川低地に分布する。

【県内生育状況】 平地の池沼の縁に生える。

【特記事項】 埼玉RDB2005では9件の記録がある。

1682 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 タタラカンガレイ

〔学名〕 *Schoenoplectus mucronatus* (L.) Palla var. *tataranus* (Honda) K. Kohno, Iokawa et Daigobo

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠA類(CR)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 極めて希で個体数は100未満と推定する。二次メッシュによる分布では今回の調査を含め1区画の記録がある。自生地は線引き都市計画区域にあるが園芸採取の対象にはならない。現状が維持されるであろう。

【県内分布状況】 加須・中川低地に分布する。

【県内生育状況】 平地の池沼の縁に生える。

【特記事項】 埼玉RDB2005では2件の記録があり、その後、1件の記録が追加された。

1683 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 タイワンヤマイ

〔学名〕 *Schoenoplectus wallichii* (Nees) T. Koyama

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 個体数は少なく100未満。自生地はますます減少している。二次メッシュによる分布では1区画での確認がある。自生地は線引き都市計画区域にあるため開発行為による減少は避けられない。

【県内分布状況】 大宮台地に分布する。

【県内生育状況】 平地の湿性の強い草地や水湿地に生える。

【特記事項】 埼玉RDB2005では3件の記録がある。

1684 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 ノグサ

〔学名〕 *Schoenus apogon* Roem. et Schult.

埼玉カテゴリ 情報不足(DD)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 現在のところ生育状況が確認できていない。前回の埼玉RDB2005でも今回の調査でも確認ができず、二次メッシュによる分布は0区画のみである。考えられる自生地は線引き都市計画区域にあり、開発による絶滅が考えられる。

【県内分布状況】 不明

【県内生育状況】 平地や丘陵地の湿地に生える。

【特記事項】 文献は新座市史(植物)1984年、入間市史植物編1984年がある。埼玉RDB2005では記録がなく、今回の調査でも発見できなかった。

1685 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 コマツカサススキ

〔学名〕 *Scirpus fuirenoides* Maxim.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 マツカサススキはよく見かけるが、本種の個体数は極めて少なく100未満と考えられる。二次メッシュによる分布では5区画での確認がある。自生地は線引き都市計画区域にあり、開発の危険にさらされている。

【県内分布状況】 丘陵北、丘陵南、大宮台地、加須・中川低地に分布する。

【県内生育状況】 谷津田や山裾の湿地に生える。

【特記事項】 本種はマツカサススキにくらべ、小穂の鱗片の幅が広く、球状の小花序は数個で大型の円錐花序とならない。埼玉RDB2005では7件の記録がある。

1686 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 マツカサススキ

〔学名〕 *Scirpus mitsukurianus* Makino

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 県内にはまだかなり多くの個体が生育している。二次メッシュによる分布では今回までの総計で22区画から記録されている。主要自生地が線引き都市計画区域に分布しており、湿地に生育する特性があることから湿地の減少とともに本種も減少すると考えられる。今後見守る必要があり、今回新たに準絶滅危惧種NTに位置づける。

【県内分布状況】 低山西、丘陵北、丘陵南、荒川西台地、大宮台地、加須・中川低地、低地から丘陵帯に分布する。

【県内生育状況】 浅い池沼、湿性に群落をつくる。

【特記事項】 埼玉RDB2005では35件の記録があり、今回の調査で12件の記録が追加された。

1687 (カヤツリグサ科)

〔和名〕 コシンジュガヤ

〔学名〕 *Scleria parvula* Steud.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 個体数は極めて少なく100未満。二次メッシュによる分布は2区画での確認がある。自生地は線引き都市計画区域にあり、開発の危険がある。

【県内分布状況】 大宮台地、加須・中川低地に分布する。

【県内生育状況】 平地の湿地に生える。

【特記事項】 埼玉RDB2005では2件の記録がある。

1688 (ラン科)

〔和名〕 ミスズラン

〔学名〕 *Androcorys japonensis* F. Maek.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

【評価所見】 本県では2003年に初めて発見されたが、その後の調査では確認できていない。生育可能な環境は存在するので、詳しく調査すれば再確認される可能性はある。

【県内分布状況】 秩父山地の亜高山帯にごく希に分布する。

【県内生育状況】 亜高山帯の針葉樹林下でコケ類に混じって生育する。

【特記事項】 本州の針葉樹林下に分布する小型のランでごく希に発見される。

1689 (ラン科)

〔和名〕 シラン

〔学名〕 *Bletilla striata* (Thunb.) Rchb. f.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 県内の分布は限られているものの、二次メッシュでは8区画から記録されている。自生地によっては個体数の多い場所もあるが、鮮やかで目に付く花を咲かせるため園芸用に採取されており、減少傾向にある。

【県内分布状況】 低地～低山帯に分布する。

【県内生育状況】 山地の日当たりの良い斜面や川原の岩上に生育する。

【特記事項】

1690 (ラン科)

〔和名〕 ムギラン

〔学名〕 *Bulbophyllum inconspicuum* Maxim.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 二次メッシュでは1区画でのみ記録されており、生育環境が変化すれば絶滅しかねない。

【県内分布状況】 県北部の低山帯岩上にごく希に見られる。

【県内生育状況】 山地の岩上に着生する。

【特記事項】 県希少野生動植物種保護条例指定種



1691 (ラン科)

〔和名〕 **エビネ**〔学名〕 *Calanthe discolor* Lindl.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 今回までの調査では二次メッシュで13区画から記録されている。かつては県内に広く分布し多くの個体が見られたが、エビネブームの影響で園芸用に採取され、個体数は大きく減少した。

【県内分布状況】 台地・丘陵帯～低山帯にかけて広く分布するが、個体数は多くない。

【県内生育状況】 山野の落葉樹林内に生育する。

【特記事項】

1692 (ラン科)

〔和名〕 **キンセイラン**〔学名〕 *Calanthe nipponica* Makino

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリー 絶滅危惧 II類(VU)

【評価所見】 確認個体数は数十である。二次メッシュでは2区画から記録されているが、個体数は減少傾向にあり、自生地の環境変化や園芸採取等による絶滅が心配される。

【県内分布状況】 秩父山地の深山の林内に希に見られる。

【県内生育状況】 山地帯の落葉樹林の林床に生育する。

【特記事項】

1693 (ラン科)

〔和名〕 **サルメンエビネ**〔学名〕 *Calanthe tricarinata* Lindl.

埼玉カテゴリー 絶滅(EX)

全国カテゴリー 絶滅危惧 II類(VU)

【評価所見】 旧版植物誌(1962年)以後の記録としては、1969年に秩父市白泰尾根で採集された標本がある。その後の調査では発見されず、絶滅したものと思われる。

【県内分布状況】 秩父市三峰や大滝地区に分布していた。白泰尾根(1,425m)での記録がある。

【県内生育状況】 ブナ帯の落葉樹林内に生育していた。

【特記事項】 標本は東京大学の収蔵標本に秩父市白泰尾根(T.Tuyama,1969年)がある。他にも、三峰山での観察記録が報告されている。

1694 (ラン科)

〔和名〕 **ホテイラン**〔学名〕 *Calypso bulbosa* (L.) Oakes var. *speciosa* (Schltr.) Makino

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

【評価所見】 二次メッシュでは2区画で記録されているのみで、個体数も数十である。森林の伐採や自生地の乾燥化等による環境変化、シカなどによる踏みつけや食害に加え、ランの愛好家による園芸採取により、絶滅の心配がある。

【県内分布状況】 秩父山地の亜高山帯に希に見られる。

【県内生育状況】 亜高山帯の針葉樹林内にコケ等に混じって生育する。

【特記事項】 県希少野生動植物種保護条例指定種

1695 (ラン科)

〔和名〕 **ギンラン**〔学名〕 *Cephalanthera erecta* (Thunb.) Blume

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 II類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 今回までの調査では二次メッシュで17区画から記録されており、県内に比較的広く分布している。しかし、里山の雑木林等が放置され林床の環境が変化したことや、園芸採取等により個体数は減少傾向にある。

【県内分布状況】 県内の低地～山地帯に広く分布する。

【県内生育状況】 落葉樹林の林床に生育する。

【特記事項】

1696 (ラン科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

〔和名〕 ヨウシュンラン

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

〔学名〕 *Cephalanthera erecta* (Thunb.) Blume var. *subaphylla* (Miyabe et Kudô) Ohwi

【評価所見】 県内の分布は限られており、二次メッシュの3区画で記録されているのみで、個体数も100前後である。現在確認されている自生地のうち、2か所は登山道が近くを通っており、採取される危険性がある。本種は1998年に初めて生育が確認された種であり、今後自生地が新たに確認される可能性はある。

【県内分布状況】 山地帯に希に見られる。

【県内生育状況】 落葉樹林の腐植土の多い斜面に生育する。

【特記事項】 ギンランの変種

1697 (ラン科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

〔和名〕 キンラン

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

〔学名〕 *Cephalanthera falcata* (Thunb.) Blume

【評価所見】 今回までの調査では二次メッシュで20区画において確認されており、県内に比較的広く分布している。しかし、ギンランと同様に里山の雑木林等が放置され、林床の環境が変化したことや、園芸採取等により個体数は減少傾向にある。

【県内分布状況】 低地～山地帯に広く分布する。

【県内生育状況】 落葉樹林の林床に生育する。

【特記事項】

1698 (ラン科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕 ササバギンラン

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Cephalanthera longibracteata* Blume

【評価所見】 ギンランやキンランと同様に県内に広く分布し、二次メッシュでは23区画で記録されているが、自生地の環境変化や園芸採取により個体数は減少傾向にある。

【県内分布状況】 台地・丘陵帯～山地帯に広く分布する。

【県内生育状況】 落葉樹林の林床に生育する。

【特記事項】

1699 (ラン科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

〔和名〕 ムカデラン

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

〔学名〕 *Cleisostoma scolopendrifolium* (Makino) Garay

【評価所見】 二次メッシュでは2か所から記録されており、個体数も数百である。自生地が限られているうえ、周辺の樹木が生長して日陰になり、自生環境が悪化している。また、着生している母岩が剥がれ落ち個体数が減少している。自生地の保全が必要と思われる。

【県内分布状況】 秩父山地の低山帯岩上に希に見られる。

【県内生育状況】 日当たりの良い温暖な斜面の岩上に着生する。

【特記事項】 秩父市吉田の自生地は県の天然記念物に指定されている。県希少野生動植物種保護条例指定種

1700 (ラン科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

〔和名〕 アオチドリ (ネムロチドリ)

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Coeloglossum viride* (L.) Hartm. var. *bracteatum* (Muhl. ex Willd.) Richter ex Miyabe et T.Miyake

【評価所見】 二次メッシュの確認区画が2か所であり、個体数も多くない。今後シカをはじめとする動物の食害や踏みつけ等の影響により、個体数の減少が危惧される。

【県内分布状況】 秩父山地の山地帯～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 深山の樹林下に生育する。

【特記事項】

1701 (ラン科)

〔和名〕サイハイラン

〔学名〕*Cremastra appendiculata* (D. Don) Makino var. *variabilis* (Blume) I. D. Lund

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 今回までの調査では二次メッシュの 15 区画から記録されており、県内に比較的広く分布している。個体数も少なくないが、自生地が比較的開発されやすい場所なので、今後は減少が心配される。

【県内分布状況】 丘陵帯～低山帯に広く分布する。

【県内生育状況】 落葉樹林の林床に生育する。

【特記事項】

1702 (ラン科)

〔和名〕シュンラン

〔学名〕*Cymbidium goeringii* (Rchb. f.) Rchb. f.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 県内の低地から山地帯まで広く分布する。確認できた二次メッシュ数も 31 区画と多いが、ラン愛好家には人気があり、園芸採取による減少が心配される。

【県内分布状況】 低地～山地帯まで広く分布する。

【県内生育状況】 乾燥した落葉樹林内に生育する。

【特記事項】

1703 (ラン科)

〔和名〕マヤラン

〔学名〕*Cymbidium macrorhizon* Lindl.

埼玉カテゴリ 情報不足 (DD)

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【評価所見】 今回の調査では 1 か所のみで報告されている。腐生ランのため、毎年必ず発生するか分からない。2011 年 7 月、所沢市内で開花中の数株を確認した。

【県内分布状況】 低地帯～丘陵帯に分布する。

【県内生育状況】 常緑広葉樹林内に散発的に生育する。

【特記事項】 標本は川口市（ト沢, 1991 年）がある。文献としては増修戸田の植物（1982 年）、中川水系流域の植物と動物（1993 年）、伊奈の植物（1996 年）がある。

1704 (ラン科)

〔和名〕サガミランモドキ

〔学名〕*Cymbidium macrorhizon* Lindl. f. *aberrans* (Schltr.) Hid. Takah. et Ohba

埼玉カテゴリ 情報不足 (DD)

全国カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類 (EN)

【評価所見】 腐生ランで、確実な記録はない。マヤランに混じって発見される可能性がある。

【県内分布状況】 県南部の低地や丘陵地に分布する。

【県内生育状況】 常緑広葉樹林内に散発的に生育する。

【特記事項】 環境省 RDB ではマヤランの変種として扱われ、独立して EN にランクされている。マヤランよりは小型で、花も小さく帯緑色である点などで区別される。

1705 (ラン科)

〔和名〕コアツモリソウ

〔学名〕*Cypripedium debile* Rchb. f.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠA類 (CR)

全国カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)

【評価所見】 現在、確実に生育が確認できるのは 1 か所で、個体数も 100 未満である。自生地が分りにくい場所にあるため、園芸用に採取される危険性は比較的低いが、自生地である森林の乾燥化、シカの踏みつけや食害により絶滅する可能性がある。

【県内分布状況】 秩父山地の山地帯にごく希に分布する。

【県内生育状況】 山地帯の樹林内に生育する。

【特記事項】

1706 (ラン科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

〔和名〕 **クマガイソウ** (クマガエソウ)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

〔学名〕 *Cypripedium japonicum* Thunb.

【評価所見】 今回までの調査では二次メッシュの3区画から記録されている。県南部の自生地は保護されているものの、個体数は1000未満であり、自生地植生の遷移による日照不足や園芸採取等による減少の心配がある。

【県内分布状況】 台地～山地の樹林内にごく希に見られる。

【県内生育状況】 落葉樹林や竹林の林床に生育する。

【特記事項】

1707 (ラン科)

埼玉カテゴリ 野生絶滅(EW)

〔和名〕 **アツモリソウ**

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

〔学名〕 *Cypripedium macranthos* Sw. var. *speciosum* (Rolfe) Koidz.

【評価所見】 旧版植物誌では3郡市に記録されている。1998年版植物誌では生育が確認されなかったが、2004年に秩父市十文字小屋付近で生育していた個体が移植され、保護されているのが発見された。

【県内分布状況】 秩父市中津川十文字峠

【県内生育状況】 丘陵帯～亜高山帯にかけての草原や森林にかなり広く分布していたが、園芸採取や自然遷移の影響で見られなくなった。

【特記事項】 標本は横瀬町(四分一,1961年)がある。文献としては旧版の埼玉県植物誌続編(埼玉県教育委員会,1962年)に県内各地の観察記録があり、武甲山の植物(守屋,1987年)等にも記録がある。

1708 (ラン科)

埼玉カテゴリ 情報不足(DD)

〔和名〕 **ツチアケビ**

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Cyrtosia septentrionalis* (Rchb. f.) Garay

【評価所見】 旧版植物誌には秩父郡市に生育の記録がある。以後、皆野町などで生育の記録があるが、1998年版植物誌以後の報告はない。腐生ランで生育の特定ができない。

【県内分布状況】 丘陵帯～山地帯にかけての樹林下に分布する。

【県内生育状況】 山野の落葉樹林下に見られる大型の腐生ラン

【特記事項】 果実が大形肉質でさく葉標本としては残しにくい植物である。文献は皆野町史(1984年)がある。

1709 (ラン科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

〔和名〕 **イチヨウラン**

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Dactylosteinia ringens* Rchb. f.

【評価所見】 亜高山帯に点々と分布しており、今回の調査では二次メッシュの2区画から記録された。個体数も大変少ない。今後詳しい調査が行われれば、新たな自生地が確認されるかもしれない。

【県内分布状況】 秩父山地の亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 亜高山帯の針葉樹林下に生育する。

【特記事項】

1710 (ラン科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

〔和名〕 **セッコク**

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Dendrobium moniliforme* (L.) Sw.

【評価所見】 今回までの調査では二次メッシュの3区画から記録されただけであり、個体数も1000未満である。一部の自生地では保護されているものの、園芸採取や自然遷移等により個体数減少が危惧される。

【県内分布状況】 丘陵帯～低山帯に分布する。

【県内生育状況】 湿った岩や樹木に着生して生育する。

【特記事項】

1711 (ラン科)

〔和名〕 **ハコネラン**〔学名〕 *Ehippianthus sawadanus* (F. Maek.) Ohwi ex Masam. et Satomi

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリー 絶滅危惧 II類(VU)

【評価所見】 自生地が限られており、確認された個体数も10前後と大変少ない。自生地の近くを登山道が通り、採取される危険性がある。また、シカの踏みつけや環境変化による絶滅も心配される。

【県内分布状況】 秩父山地の山地帯にごく希に見られる。

【県内生育状況】 山地帯の落葉樹林内に生育する。

【特記事項】 以前の亜高山帯の記録はコイチヨウランの誤認の可能性が高い。

1712 (ラン科)

〔和名〕 **コイチヨウラン**〔学名〕 *Ehippianthus schmidtii* Rchb. f.

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 亜高山帯の針葉樹林下の苔むした林床には比較的多く見られ、すぐに絶滅する心配はないと思われる。しかし、森林伐採、シカ・カモシカの踏みつけ、乾燥等の環境変化には弱く、自生地の環境が悪化すれば大きなダメージを受ける可能性がある。

【県内分布状況】 秩父山地の亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 針葉樹林下のコケに混じって生育する。

【特記事項】

1713 (ラン科)

〔和名〕 **エゾスズラン (アオスズラン)**〔学名〕 *Epipactis papillosa* Franch. et Sav.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 II類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 今回までの調査では二次メッシュの5区画から記録されている。花が目立たないので採取される危険性はあまり高くはないと思われるが、シカ・カモシカの踏みつけや食害があり、個体数の減少が心配される。

【県内分布状況】 秩父山地の主に山地帯～亜高山帯にかけて分布する。

【県内生育状況】 落葉樹林の林床や針葉樹林の林縁等に生育する。

【特記事項】

1714 (ラン科)

〔和名〕 **カキラン**〔学名〕 *Epipactis thunbergii* A. Gray

埼玉カテゴリー 絶滅(EX)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 旧版植物誌では4郡市に生育が記録されている。1998年版植物誌では寄居町三ヶ山で生育が確認されたが、湿地の開発で生育地は消滅した。以後、県内に生育の報告がなく絶滅したものと思われる。

【県内分布状況】 県内の数か所に分布した。

【県内生育状況】 山地の湿地等に生育していた。

【特記事項】 文献としては日高町史植物とくらし(1991年)、寄居町史植物(1986年)、入間市史植物編(1984年)、立正大学熊谷校地付近産植物目録(1982年)などがある。

1715 (ラン科)

〔和名〕 **トラキチラン**〔学名〕 *Epipogium aphyllum* Sw.

埼玉カテゴリー 情報不足(DD)

全国カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

【評価所見】 旧版植物誌には秩父郡市に記録がある。1998年版植物誌以後、県内での生育は確認されていない。

【県内分布状況】 秩父市三峰山

【県内生育状況】 山地帯～亜高山帯の針葉樹林内に生育する腐生ラン

【特記事項】 近年県境の長野県側では生育が確認されており、埼玉県側でも再発見される可能性はある。文献としては三峯山彙の植物(守屋,1974年)がある。

1716 (ラン科)

〔和名〕 タシロラン

〔学名〕 *Epipogium roseum* (D. Don) Lindl.

埼玉カテゴリ 情報不足(DD)

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 さいたま市内で2001年に初めて発見された。腐生ランのため同じ場所に生育するとは限らないが、同様の環境で生育が再確認される可能性がある。2011年7月、所沢市内で大群落が確認された。

【県内分布状況】 県南部の台地樹林内に分布する。

【県内生育状況】 シイ・タブ等の常緑広葉樹林下に生育する。

【特記事項】 標本はさいたま市(門倉,2001年)がある。文献はさいたま植物通信10号(2001年)に報告がある。

1717 (ラン科)

〔和名〕 カモメラン

〔学名〕 *Galearis cyclochila* (Franch. et Sav.) Soó

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 今回までの調査では二次メッシュで3区画から記録されているのみで、個体数も百~数百程度である。自生地の環境は前回調査と大きく変化していないが、近年、シカ・カモシカによる踏みつけ被害が大きく、今後生育状況を注視する必要がある。

【県内分布状況】 秩父山地の山地帯~亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 湿気の多い樹林内や林縁に生育する。

【特記事項】

1718 (ラン科)

〔和名〕 オニノヤガラ

〔学名〕 *Gastrodia elata* Blume

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II 類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 二次メッシュでは4区画で記録されているが、発生個体数は少ない。腐生ランで毎年同じ場所に発生するとは限らないため、発生地や発生個体の確認が十分でない可能性がある。

【県内分布状況】 低地帯~低山帯に分布するが、生育地は限られている。

【県内生育状況】 山地等の樹林内に散発的に生育が見られる。

【特記事項】

1719 (ラン科)

〔和名〕 シロテンマ

〔学名〕 *Gastrodia elata* Blume f. *pallens* (Kitag.) Tuyama

埼玉カテゴリ 情報不足(DD)

全国カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

【評価所見】 本県では2000年に初めて生育が確認されたが、その後の調査では確認されていない。オニノヤガラの品種で、腐生ランのため毎年同じ場所で生育が確認できるとは限らない。

【県内分布状況】 秩父山地の山地帯

【県内生育状況】 山地帯の落葉樹林下に生育するがごく希である。

【特記事項】

1720 (ラン科)

〔和名〕 アキザキヤツシロラン

〔学名〕 *Gastrodia verrucosa* Blume

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 葉緑体を欠く腐生植物である。生育地は比較的安定するが100を超えない。主な生育地は竹林であるが、生育に適する竹林は減少傾向にあるので、今後発見される可能性は少ない。二次メッシュによる分布は総計で1区画のみの記録である。暖地性のランとされ、埼玉県は分布の北限に近いと思われるが、分布は徐々に広がっている可能性もある。

【県内分布状況】 加須・中川低地

【県内生育状況】 低地帯の常緑樹林内や、やや明るいモウソウ竹林内に生育している例が多い。

【特記事項】 文献はさいたま植物通信40号2009年(清水・愛川)がある。過去には戸田市や久喜市(旧鷲宮町)に生育の記録がある。

1721 (ラン科)

〔和名〕ベニシュスラン

〔学名〕*Goodyera biflora* (Lindl.) Hook. f.

埼玉カテゴリー 情報不足(DD)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 本県では2008年に初めて発見された。県内で確認された生育地は1か所のみで、個体数も少ない。森林伐採や園芸採取などで絶滅が心配される。

【県内分布状況】 坂戸市

【県内生育状況】 丘陵帯の常緑樹林内に生育する。

【特記事項】 東北地方以西の林内に分布する。

1722 (ラン科)

〔和名〕アケボノシュスラン

〔学名〕*Goodyera foliosa* (Lindl.) Benth. ex C. B. Clarke var. *laevis* Finet

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 2001年の調査で発見され、現在2か所の生育が確認されている。いずれの群落も個体数が少なく、園芸採取などの危険性がある。

【県内分布状況】 丘陵帯～低山帯に分布する。

【県内生育状況】 やや湿り気のある植林地に僅かに残存する。

【特記事項】 文献は1998年版埼玉県植物誌補遺(愛川,2003年)がある。

1723 (ラン科)

〔和名〕ヒメミヤマウズラ

〔学名〕*Goodyera repens* (L.) R. Br.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 II 類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 亜高山帯の苔むした林床に生育し、個体数も少ない。森林の伐採や乾燥等により環境が悪化すれば絶滅する可能性がある。

【県内分布状況】 秩父山地の亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 針葉樹林下の苔むした林床に生育する。

【特記事項】

1724 (ラン科)

〔和名〕ミヤマウズラ

〔学名〕*Goodyera schlechtendaliana* Rchb. f.

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 今回までの調査では二次メッシュで9区画から記録されている。自生地の多くは森林伐採等の影響を受けやすく、今後減少が心配される。

【県内分布状況】 丘陵帯～山地帯に分布する。

【県内生育状況】 山地の樹林下に茎が横にはうようにして生育する。

【特記事項】

1725 (ラン科)

〔和名〕シュスラン

〔学名〕*Goodyera velutina* Maxim.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 本県では2007年に初めて発見された。県内で確認された生育地は1か所のみで、個体数も少ない。

【県内分布状況】 丘陵南(飯能市)

【県内生育状況】 丘陵帯の常緑樹林内に生育する。

【特記事項】 関東地方南部以西の常緑樹林内に分布する。

1726 (ラン科)

埼玉カテゴリ 絶滅(EX)

〔和名〕 **テガタチドリ** (チドリソウ)

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Gymnadenia conopsea* (L.) R. Br.

【評価所見】 旧版植物誌以前は県境沿いの亜高山帯草原に多くの生育記録がある。1998年版植物誌では雁坂峠だけの記録となり、さらにシカの食害や自然遷移が進み近年はまったく見られない。絶滅したものと思われる。

【県内分布状況】 亜高山帯の草原に分布した。

【県内生育状況】 過去の記録は将監峠(牛王院平)、雁峠、古礼山、雁坂峠の草原で県境の亜高山帯に生育した。

【特記事項】 旧版植物誌以後の標本は雁坂峠(岩田,1967年)、雁坂峠(三上,1993年)などがある。文献は埼玉生物13号(1973年)や埼玉生物16号(1976年)などがある。

1727 (ラン科)

埼玉カテゴリ 情報不足(DD)

〔和名〕 **ムヨウラン**

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Lecanorchis japonica* Blume

【評価所見】 旧版植物誌には比企郡市に記録がある。1998年版植物誌では伊奈町と春日部市の2か所の記録があるが、腐生のランで生育場所の特定が困難である。

【県内分布状況】 丘陵地帯～台地にかけて分布する。

【県内生育状況】 低地～丘陵地の暖温帯の常緑樹林下に生育する。

【特記事項】 標本は伊奈町(小峰,1993年)、春日部市(竹田,1993年)、越生町(太田,1999年)がある。

1728 (ラン科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠA類(CR)

〔和名〕 **フガクスズムシソウ**

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔学名〕 *Liparis fujisanensis* F. Maek. ex F. Konta et S. Matsumoto

【評価所見】 本県では2007年に初めて生育が確認された。今回の調査でも生育状況が報告されているが、個体数は少ない。

【県内分布状況】 秩父山地の亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 一般にはブナの樹上に着生するとされるが、本県では岩上の着生コケの中に生育する。

【特記事項】 絶滅したと思われるスズムシソウは丘陵帯～低山帯に分布するが、本種は山地帯～亜高山帯に分布するものと思われる。

1729 (ラン科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕 **ジガバチソウ**

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Liparis krameri* Franch. et Sav.

【評価所見】 今回までの調査では二次メッシュの6区画から記録されている。個体数も前回と大きな変化はないものと思われる。

【県内分布状況】 低山帯～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 主に落葉樹林の林床に生育する。

【特記事項】

1730 (ラン科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕 **クモキリソウ**

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Liparis kumokiri* F. Maek.

【評価所見】 今回までの調査では二次メッシュで22区画から記録されている。個体数は比較的多いが、自生地が森林伐採や開発を受けやすい場所であり、記録数は前回調査より減少している。

【県内分布状況】 丘陵帯～亜高山帯まで広く分布する。

【県内生育状況】 山地の樹林下や林縁に生育する。

【特記事項】



1731 (ラン科)

〔和名〕 スズムシソウ

〔学名〕 *Liparis makinoana* Schltr.

埼玉カテゴリー 絶滅(EX)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 旧版植物誌には秩父・比企郡市に記録がある。その後、皆野町に生育の記録があるが、1998年版植物誌以後の報告はなく、絶滅したものと思われる。

【県内分布状況】 丘陵帯～山地帯にかけて分布した。

【県内生育状況】 丘陵帯～山地帯にかけての樹林に生育していた。

【特記事項】 文献記録は皆野町史(1984年)、武甲山の植物(守屋,1987年)等がある。

1732 (ラン科)

〔和名〕 コクラン

〔学名〕 *Liparis nervosa* (Thunb.) Lindl.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 前回の調査では確認できなかったが、今回の調査では二次メッシュの6区画で記録された。ここ数年間で新たな自生地が発見されている。

【県内分布状況】 丘陵帯の林内に分布する。

【県内生育状況】 常緑樹林の林床に生育する。

【特記事項】 県希少野生動物種保護条例指定種

1733 (ラン科)

〔和名〕 コフタバラン (フタバラン)

〔学名〕 *Listera cordata* (L.) R. Br. var. *japonica* H. Hara

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 II 類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 二次メッシュの2区画で記録されているだけであるが、個体数は比較的多い。周辺環境が変化しなければ、今後も個体数は維持されると思われる。

【県内分布状況】 秩父山地の亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 亜高山帯の針葉樹林下に生育する。

【特記事項】

1734 (ラン科)

〔和名〕 ヒメフタバラン

〔学名〕 *Listera japonica* Blume

埼玉カテゴリー 情報不足(DD)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 2010年の調査で発見された。今のところ、それ以外の生育地は確認されていない。個体数も少なく、さらに調査が必要である。

【県内分布状況】 県西部の低山に分布する。

【県内生育状況】 山地の林内に生育する。

【特記事項】 暖地生のランで、東北南部～沖縄に分布する。近隣の神奈川県や茨城県ではすでに絶滅したとされている。

1735 (ラン科)

〔和名〕 ミヤマフタバラン

〔学名〕 *Listera nipponica* Makino

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 II 類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 二次メッシュの3区画で記録されているが、2005年以後の調査では確認できていない。標高の高いところに生育し、園芸用に採取される危険性もあまり高くはないと考えられるので、現在も生育しているものと思われる。今後詳細な調査が必要である。

【県内分布状況】 秩父山地の亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 亜高山帯の針葉樹林下に生育する。

【特記事項】

1736 (ラン科)

〔和名〕 タカネフタバラン

〔学名〕 *Listera puberula* Maxim.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 今回の調査では二次メッシュの2区画で記録された。前回調査と比べ個体数の大きな減少はみられないが、一部の自生地ではシカの踏みつけや食害が観察された。

【県内分布状況】 秩父山地の亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 亜高山帯の針葉樹林下に生育する。

【特記事項】

1737 (ラン科)

〔和名〕 ホザキイチヨウラン

〔学名〕 *Malaxis monophyllos* (L.) Sw.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 二次メッシュによる分布では今回までに3区画から記録されている。2005年までに6件の報告があるが、その後の報告は2件と減少しており、個体数の減少が心配される。

【県内分布状況】 秩父山地の山地帯～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 落葉樹林下や針葉樹林の林縁等に生育する。

【特記事項】

1738 (ラン科)

〔和名〕 アリドオシラン

〔学名〕 *Myrmechis japonica* (Rchb. f.) Rolfe

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 今回までの調査では二次メッシュで2区画から記録されたのみで、自生地が限られており、個体数も100ほどである。樹木の伐採等で環境が乾燥化に向かえば絶滅する可能性がある。

【県内分布状況】 秩父山地の山地帯～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 落葉樹林や針葉樹林下のコケに混じて生育する。

【特記事項】

1739 (ラン科)

〔和名〕 ヒメムヨウラン

〔学名〕 *Neottia acuminata* Schltr.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠA類(CR)

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【評価所見】 腐生ランの一種で個体数が少なく、今回までの調査では二次メッシュの1区画から記録されているに過ぎない。1か所に発生する数は多くの場合1株～数株ほどで、埼玉県内の個体数は数十程度と思われる。

【県内分布状況】 秩父山地の亜高山帯に希に見られる。

【県内生育状況】 亜高山帯の針葉樹林下に生育する。

【特記事項】

1740 (ラン科)

〔和名〕 サカネラン

〔学名〕 *Neottia nidus-avis* (L.) Rich. var. *mandshurica* Kom.

埼玉カテゴリ 絶滅(EX)

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【評価所見】 旧版植物誌には秩父郡市に記録がある。その後、武甲山に生育の記録がある。1998年版植物誌以後の報告はなく、絶滅したものと思われる。

【県内分布状況】 武甲山に分布した。

【県内生育状況】 山地帯の落葉樹林下に生育した。

【特記事項】 標本は東京大学の収蔵標本に武甲山(川崎,1949年)がある。文献記録は武甲山植物誌(守屋,1970年)等がある。

1741 (ラン科)

〔和名〕 ミヤマモジズリ

〔学名〕 *Neottianthe cucullata* (L.) Schltr.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 今回まで調査では二次メッシュの5区画から記録されており、個体数も少なくない。ただ、主要な生育地である石灰岩地は採掘の危険性があり、今後注意が必要である。

【県内分布状況】 秩父山地の山地帯～亜高山帯に分布する。特に石灰岩地に多い。

【県内生育状況】 石灰岩や他の岩石上、または明るい樹林内や草地に生育する。

【特記事項】

1742 (ラン科)

〔和名〕 ヨウラクラン

〔学名〕 *Oberonia japonica* (Maxim.) Makino

埼玉カテゴリ 絶滅(EX)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 旧版植物誌には北埼玉郡市に記録がある。その後、秩父市浦山で記録された。1998年版植物誌以後の報告はなく、絶滅したものと思われる。

【県内分布状況】 低地～山地帯に広く分布していた。

【県内生育状況】 低地～山地の岩上や樹幹に着生していた。

【特記事項】 標本は秩父市浦山(岩田,1973年)、秩父市大輪(伊藤洋)がある。文献は狭山丘陵の植物(1977年)がある。

1743 (ラン科)

〔和名〕 コケイラン

〔学名〕 *Oreorchis patens* (Lindl.) Lindl.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 今回までの調査では二次メッシュで1区画から記録されたが、個体数は大変少ない。2005年以後の調査では生育確認できなかったため、詳細な調査が必要である。

【県内分布状況】 秩父山地の山地帯にごく希に分布する。

【県内生育状況】 落葉樹林のやや湿った林床に生育する。

【特記事項】

1744 (ラン科)

〔和名〕 ジンバイソウ

〔学名〕 *Platanthera florentii* Franch. et Sav.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類(EN)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 今回までの調査では二次メッシュで1か所の記録しかない。2005年以後の調査では確認できなかったが、秩父山地を中心に詳細な調査を行えば、新たに自生地が確認される可能性はある。

【県内分布状況】 秩父山地の山地帯に希に見られる。

【県内生育状況】 落葉樹林の林床に生育する。

【特記事項】

1745 (ラン科)

〔和名〕 ミズチドリ (ジャコウチドリ)

〔学名〕 *Platanthera hologlottis* Maxim.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧ⅠA類(CR)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 旧版植物誌では秩父郡市と北足立郡市に記録がある。その後も多くの報告があるが、1998年版植物誌では記録されなかった。しかし、2002年に旧岩槻市で生育が報告された。

【県内分布状況】 低地帯～山地帯にかけて希に見られる。

【県内生育状況】 低地帯～山地帯の湿地草原に生育する。

【特記事項】 標本は国立科学博物館の収蔵標本に越谷市(大井,1951年)がある。文献は旧版植物誌以後では、狭山丘陵の植物(1977年)、桶川市史(1987年)など4箇所の報告があり、最近のものではさいたま植物通信14号(ト沢,2002年)がある。

1746 (ラン科)

埼玉カテゴリ 絶滅(EX)

〔和名〕 オオバナオオヤマサギソウ

全国カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

〔学名〕 *Platanthera hondoensis* (Ohwi) K. Inoue

【評価所見】 旧版植物誌には秩父郡市に記録がある。その後、三峰山での記録があるが、1998年版植物誌以後の調査では確認されていない。

【県内分布状況】 秩父市三峰山に分布した。

【県内生育状況】 山地帯の樹林下に生育した。

【特記事項】 三峰山と富士山に分布し、オオヤマサギソウに比べ花の各部が大きいとされている。文献は三峯山藁の植物(守屋,1974年)がある。

1747 (ラン科)

埼玉カテゴリ 絶滅(EX)

〔和名〕 イイヌマムカゴ

全国カテゴリ 絶滅危惧 I B類(EN)

〔学名〕 *Platanthera iinumae* (Makino) Makino

【評価所見】 旧版植物誌には秩父郡市に記録されている。1998年版植物誌以後の報告はなく、絶滅したものであると思われる。

【県内分布状況】 毛呂山町・武甲山に分布した。

【県内生育状況】 山地の樹林下に生育していた。

【特記事項】 標本は雲取山(伊藤洋)があるが、埼玉県側か東京都側か不明。文献記録は植物研究雑誌(奥山,1947年)、埼玉生物3号(卜沢,1963年)、武甲山の植物(守屋,1987年)等がある。

1748 (ラン科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

〔和名〕 ツレサギソウ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Platanthera japonica* (Thunb.) Lindl.

【評価所見】 今回までの調査では二次メッシュで3か所から記録されている。最近、生育の確認が減っており、今後の個体数変化に注目する必要がある。

【県内分布状況】 丘陵帯～山地帯にかけて点々と分布する。

【県内生育状況】 日当たりの良い草地や明るい林内に生育する。

【特記事項】

1749 (ラン科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕 キソチドリ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Platanthera mandarinorum* Rchb. f. subsp. *ophrydioides* (F. Schmidt) K. Inoue

【評価所見】 二次メッシュでは7区画で記録されており、個体数の大きな変動もないようである。園芸的価値もあまりないので、環境の変化や動物の食害等がなければ、個体群の維持は可能と思われる。

【県内分布状況】 秩父山地の亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 亜高山帯の針葉樹林下に生育する。

【特記事項】

1750 (ラン科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕 ノヤマトンボ(オオバノトンボソウ)

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Platanthera minor* (Miq.) Rchb. f.

【評価所見】 二次メッシュによる分布では、今回までに12区画から記録されている。2005年以後の調査では確認件数が増加しており、個体数も比較的多い。主な自生地が開発を受ける可能性のある地域なので、今後の増減に注意したい。

【県内分布状況】 台地～山地帯まで広く分布する。

【県内生育状況】 主に丘陵地の疎林内に生育する。

【特記事項】

1751 (ラン科)

〔和名〕 オオヤマサギソウ

〔学名〕 *Platanthera sachalinensis* F. Schmidt

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 二次メッシュによる分布では、今回までに4区画から記録されている。生育地周辺はシカの食害で多くの植物が影響を受けており、今後本種についても影響が及ぶ可能性がある。

【県内分布状況】 秩父地方の山地帯～亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 山地の樹林下に生育する。

【特記事項】

1752 (ラン科)

〔和名〕 ミヤマチドリ (ニッコウチドリ)

〔学名〕 *Platanthera takedae* Makino

埼玉カテゴリー 絶滅危惧ⅠA類(CR)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 今回の調査では生育が確認できなかった。最近では亜高山帯でもシカの食害や踏みつけの被害が顕著になっており、個体数の少ない種にとって大きな脅威になっている。本種に対しても、今後食害の影響を含む詳細な調査が必要である。

【県内分布状況】 秩父山地の亜高山帯に希に見られる。

【県内生育状況】 亜高山帯の針葉樹林下や林縁に生育する。

【特記事項】

1753 (ラン科)

〔和名〕 ホソバノキソチドリ

〔学名〕 *Platanthera tipuloides* (L. f.) Lindl. subsp. *tipuloides* var. *sororia* (Schltr.) Soó

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 二次メッシュでは3か所で記録されているが、最近確認数が減っており、個体数が減少している可能性がある。周辺の環境に大きな変化はないと考えられるが、シカの食害の影響等があるかもしれない。

【県内分布状況】 秩父山地の亜高山帯に分布する。

【県内生育状況】 亜高山帯の明るい林縁や草地に生育する。

【特記事項】

1754 (ラン科)

〔和名〕 トンボソウ

〔学名〕 *Platanthera ussuriensis* (Regel et Maack) Maxim.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧ⅠA類(CR)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 旧版植物誌には5郡市に広く生育が記録されている。その後、湿地開発や自然遷移が進み急激に減少した。今回の調査で2か所の生育が確認されたが、いずれも谷津田の湿地で個体数も少ない。

【県内分布状況】 低地～丘陵地にかけての湿地帯に分布する。

【県内生育状況】 丘陵地の湿り気のある疎林内に生育する。

【特記事項】 ノヤマトンボに似るが湿地に群生する傾向があるので区別できる。

1755 (ラン科)

〔和名〕 トキソウ

〔学名〕 *Pogonia japonica* Rchb. f.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧ⅠA類(CR)

全国カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 現在生育が確認されているのは、加須市の浮野1か所だけである。狭い面積に数百生育する。この生育地が失われれば本種は埼玉県から消滅する。自生地は県の天然記念物として保護されているが盗掘があり、厳重に管理する必要がある。

【県内分布状況】 加須市浮野に見られる。

【県内生育状況】 浮野の明るい湿地に生育する。

【特記事項】 県希少野生動植物種保護条例指定種

1756 (ラン科)

〔和名〕 ヤマトキソウ

〔学名〕 *Pogonia minor* (Makino) Makino

埼玉カテゴリ 絶滅(EX)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 旧版植物誌には4郡市に記録されている。1998年版植物誌では寄居町三ヶ山の記録があるが、生育場所の湿地は開発され絶滅した。以後、生育の報告はなく絶滅したものと思われる。

【県内分布状況】 丘陵帯～山地帯にかけて広く分布した。

【県内生育状況】 丘陵～山地のやや湿った草原に生育した。県内では丘陵の谷津田で湧水のある草地に見られた。

【特記事項】 標本は寄居町（落合,1996年）がある。文献は立正大学熊谷校地付近産植物目録（1982年）、寄居町史（1986年）、桶川市史（1987年）ほか多くの報告がある。

1757 (ラン科)

〔和名〕 ウチョウラン

〔学名〕 *Ponerorchis graminifolia* Rchb. f.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II類(VU)

【評価所見】 かつては秩父山地を中心に外秩父の山々にも広く分布していたが、ラン愛好家によって多くの個体が採取され、手の届かない場所にしか見られないようになってしまった。

【県内分布状況】 主に秩父山地の低山帯や山地帯に分布する。

【県内生育状況】 山地の湿った岸壁に生育する。

【特記事項】

1758 (ラン科)

〔和名〕 ニョホウチドリ

〔学名〕 *Ponerorchis joo-iokiana* (Makino) Nakai

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 今回の調査では二次メッシュの1区画で記録された。個体数が数十と、もともと少ないうえにシカの食害により数が減少している。このままの状態が続けば、絶滅する可能性がある。

【県内分布状況】 秩父山地の亜高山帯草原に希に見られる。

【県内生育状況】 亜高山帯の明るい草原に生育する。

【特記事項】

1759 (ラン科)

〔和名〕 クモラン

〔学名〕 *Taeniophyllum glandulosum* Blume

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I A類(CR)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 今回の調査では生育の確認ができなかった。生育可能な環境はあるものの、樹木に着生する小型種なので発見しづらい。今後の調査で確認されることを期待したい。

【県内分布状況】 県西部の低山帯に分布する。

【県内生育状況】 日当たりの良い場所の樹木等に着生する。

【特記事項】

1760 (ラン科)

〔和名〕 カヤラン

〔学名〕 *Thrixspermum japonicum* (Miq.) Rchb. f.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 2005年までには1件の報告があったただけだが、その後の調査では16件と増加している。樹幹等を詳細に調査すれば今後さらに確認数が増加するかも知れない。

【県内分布状況】 丘陵帯～山地帯に分布する。

【県内生育状況】 主に湿度のやや高い樹林内の樹幹等に着生する。

【特記事項】

1761 (ラン科)

〔和名〕 ヒトツボクロ

〔学名〕 *Tipularia japonica* Matsum.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 今回の調査では二次メッシュの2区画で記録されている。個体数は数株～数十株程度と思われる。あまり目立たない植物なので、今後詳しく調査すれば確認個体数が増える可能性はある。

【県内分布状況】 山地帯に希に見られる。

【県内生育状況】 山地帯の落葉樹林下に生育する。

【特記事項】

1762 (ラン科)

〔和名〕 ハクウンラン

〔学名〕 *Vexillabium nakaianum* F. Maek.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 埼玉県 RDB2005 では絶滅種とされたが、2007年に10～50程度が発見された。二次メッシュによる分布は総計で2区画である。もともと個体数が少ないか、小型で開花期以外は目立たないためか報告例が少ない。今後の調査で新たな生育場所が発見されることが期待される。

【県内分布状況】 丘陵帯～山地帯に分布する。

【県内生育状況】 丘陵帯の谷津田の奥のコナラ林にスギが植林された所など、やや暗い林内に生育する。

【特記事項】 過去の生育記録は狭山丘陵と寄居町である。寄居町は開発のため、同種を生育地付近に移植保存している。

1763 (ラン科)

〔和名〕 キバナノショウキラン

〔学名〕 *Yuania amagiensis* Nakai et F. Maek.

埼玉カテゴリー 情報不足(DD)

全国カテゴリー 絶滅危惧 I B類(EN)

【評価所見】 旧版植物誌には秩父郡市に記録がある。今回の調査では秩父郡市以外も含め、3か所の生育が確認されている。腐生ランで毎年同じ場所で確認できるとは限らない。

【県内分布状況】 山地帯～亜高山帯にかけて分布する。

【県内生育状況】 冷温帯の落葉樹林下やササの林床に生育する。

【特記事項】 標本は両神山(岩田,1985年)、秩父市三峰(三上,1993年)、(中谷,1995年)がある。文献は西武蔵自然公園地区内の植物相の概要(1971年)、武甲山の植物(守屋,1987年)、さいたま植物通信27号(2005年)等がある。

1764 (ラン科)

〔和名〕 ショウキラン

〔学名〕 *Yuania japonica* Maxim.

埼玉カテゴリー 情報不足(DD)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 旧版植物誌には秩父郡市に記録がある。1998年版植物誌以後の生育記録はない。腐生ランで同じ場所で生育が確認できるとは限らない。

【県内分布状況】 秩父山地の山地帯に分布する。

【県内生育状況】 主に冷温帯の樹林下やササの林床に生育する。

【特記事項】 標本は武甲山(岩田,1967年)がある。文献は埼玉生物8号(能見,1968年)、武甲山の植物(守屋,1987年)等がある。